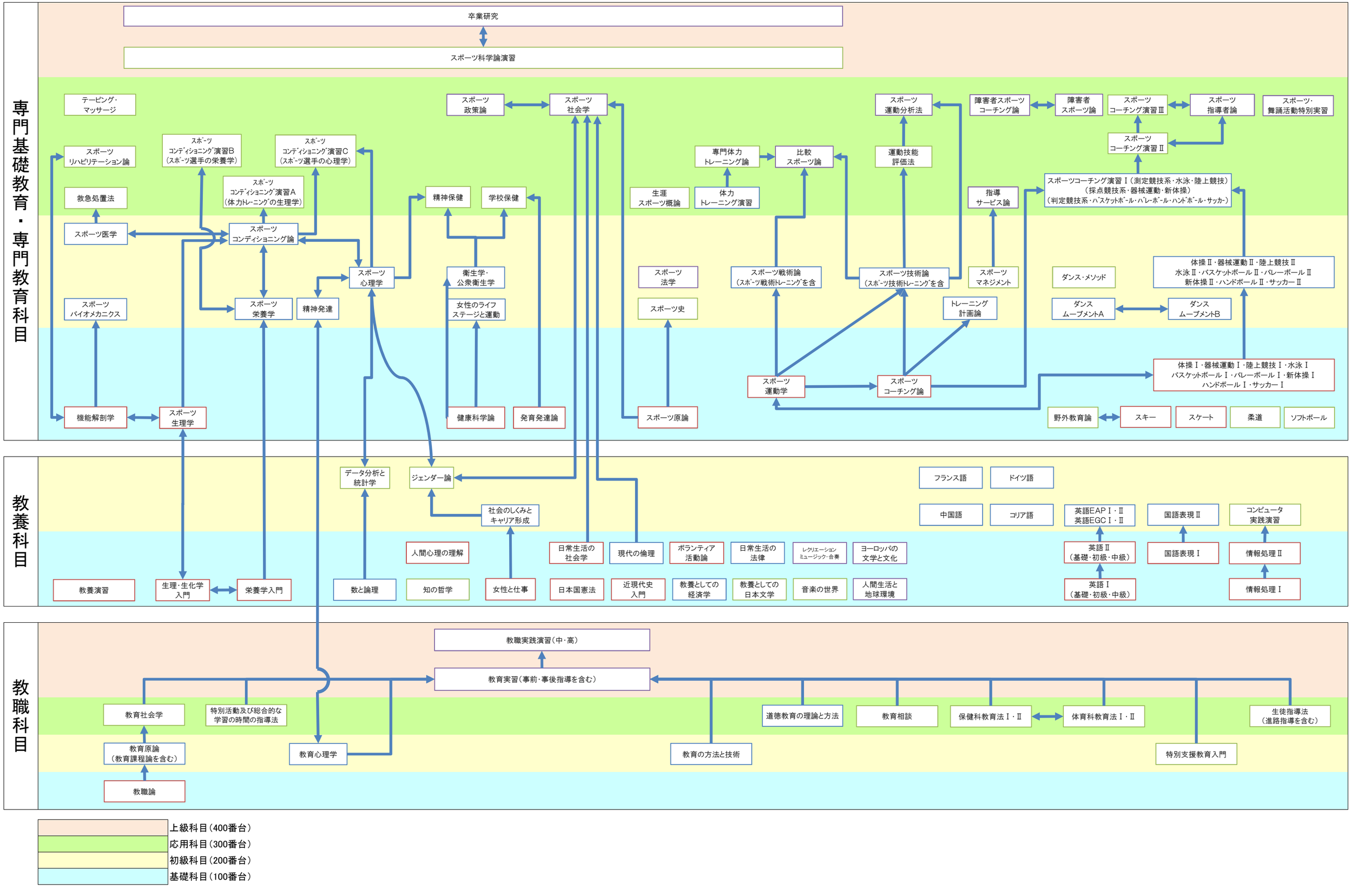
日本女子体育大学 | 2020年度 | シラバス

Japan Women's College of Physical Education

スポーツ科学科　カリキュラムマップ



科目名	日本国憲法			担当者	中　村　安　菜	
英文名	Constitutional Law					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SLR101・DLR101・HLR101・CLR101		

【目的とねらい】

日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定ともに出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　なぜ憲法を学ぶのか？
【　到達目標　】
(1)体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)

第２回　憲法とはどのような法か？
【　到達目標　】
(1)憲法は権力濫用の防止を目的とする法であることを理解する。
(2)憲法は国内の最高法規であることを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)

第３回　基本的人権総論
【　到達目標　】
(1)基本的人権が保障されることの意味を理解する。
(2)基本的人権は誰に、どの範囲で保障されるのかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)

第４回　法の下の平等
【　到達目標　】
(1)法の下の平等とはどのようなことであるかを理解する。
(2)具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第12章を熟読する。(4.0hr)

第５回　精神的自由権①
【　到達目標　】
(1)思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第4章を熟読する。(4.0hr)

第６回　精神的自由権②
【　到達目標　】
(1)学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)

第７回　経済的自由権
【　到達目標　】
(1)職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)財産権とはどのようなものであるかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第6章を熟読する。(4.0hr)

第８回　人身の自由
【　到達目標　】
(1)人身の自由が保障されている意味を理解する。
(2)人身の自由の内容と刑事手続の流れを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第5章を熟読する。(4.0hr)

第９回　社会権
【　到達目標　】
(1)社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。
(2)生存権等の社会権の具体的内容を理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)

第10回　天皇と国民
【　到達目標　】
(1)憲法上の天皇に関する規定について理解する。
(2)天皇の存在と国民主権主義の関係について理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)

第11回　平和主義
【　到達目標　】
(1)日本国憲法が規定している平和主義について理解する。
(2)平和主義の意義と問題点について理解する。

【授業時間外学習】
教科書第15章を熟読する。(4.0hr)

第12回　国会の役割
【　到達目標　】
(1)国会の地位と構成・役割について理解する。
(2)国会と国民主権主義の関係について理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)

第13回　内閣の役割
【　到達目標　】
(1)内閣の地位と構成・役割について理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)

第14回　裁判所の役割
【　到達目標　】
(1)裁判所の地位と構成・役割について理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)

第15回　憲法の役割と現実
【　到達目標　】
(1)この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。

【授業時間外学習】
この授業を通して自分が関心をもった事柄について簡単にまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみること。なお、授業内容の詳細は随時指示する。

【教科書・参考書など】

「【合格水準】教職のための憲法」志田陽子　編著、法律文化社、2017

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。
試験は試験期間中に別途実施。

科目名	女性と仕事			担当者	山下敬緯子	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SLR102・DLR102・HLR102・CLR102		

【目的とねらい】

本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。その方法として「問い」を重視する。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら「問い」を立て思考することによって、4年間の学生生活に取り組む姿勢を確認する。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
本講義の目的と狙いを理解し､現時点の自己を把握するために自らの振り返りと未来の予測を､具体的に書きまとめてみる。

【授業時間外学習】
テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。(4.0hr)

第２回　「問い」の力を知る
【　到達目標　】
本授業の目的を達成するために自ら「問い」を立てることを目指す。
その「問い」の持つ力について知り、考える。

【授業時間外学習】
「問い」に関する練習問題を行う。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第３回　社会を知る(1)　講演①
【　到達目標　】
卒業生から「働くこと」「仕事をすること」について多方面からの視点を学び、考え、自分なりに「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第４回　社会を知る(2)　講演②
【　到達目標　】
業界や業種について知る。ニチジョの卒業生が就職をしている業界について、資料を通じて具体的に知る。業界や業種に関して、自分なりの問いを立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第５回　社会を知る(3)　講演③
【　到達目標　】
キャリアセンターと連携し、上級生のインターンシップ体験報告を視聴し、雇用とキャリア形成に関して自分なりの「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第６回　社会を知る(4)　雇用とキャリア形成
【　到達目標　】
現代の若者や女性の就業環境と雇用形態の現実を学び、自分の働く姿勢や仕事の価値観についての考えをまとめる。

【授業時間外学習】
キャリアセンターを訪問する。センターの実施講座について知る。(4.0hr)

第７回　社会を知る(5)　講演④
【　到達目標　】
企業に勤務する卒業生による講演を通して、いろいろな仕事や生き方を学び、自分なりの問いを立てる。

【授業時間外学習】
キャリアセンターHPのOG図鑑を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる(4.0hr)

第８回　社会を知る(6)　キャリアデザイン
【　到達目標　】
キャリアデザインについて学び、自ら「問い」を立てる。グループワークを通して、視野を広げ、さらに自らの「問い」を掘り下げていく。

【授業時間外学習】
関連HPや書籍を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる。(4.0hr)

第９回　社会を知る(7)　講演⑤
【　到達目標　】
現代の社会問題について専門家から話を聴き、ブラック企業の実情を理解し、当事者としての対処法を学ぶ。また、自分なりの問いを立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第10回　自分を知る(1)　社会人基礎力
【　到達目標　】
社会人入門として「社会人基礎力」を学び、社会人に必要な力について、自分なりの「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第11回　自分を知る(2) 2年次「社会の仕組みとキャリア形成」への導き
【　到達目標　】
人生100年時代の働き方と自分の可能性について考え、自分なりの「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
関連書籍を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる(4.0hr)

第12回　自分を知る(3)「教員」と言う仕事について
【　到達目標　】
「教員」として身に付けておくべき力は、全業界、全業種にも求められる力であることに気づき、自分なりの「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
冬休みを利用して、プレゼンテーションのための準備をする。(4.0hr)

第13回　自分らしく生きるために
【　到達目標　】
自分のキャリアデザインやアクションプランを作成し、プレゼンテーションの準備を通して大学生活と将来についての考えをまとめる。

【授業時間外学習】
プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)

第14回　プレゼンテーション(1)
【　到達目標　】
「キャリアデザインに関する私の問いと答え」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションをする。仲間のプレゼンテーションにコメントを寄せ、他者理解を深める。

【授業時間外学習】
プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)

第15回　プレゼンテーション(2)
【　到達目標　】
「キャリアデザインに関する私の問いと答え」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションをする。仲間のプレゼンテーションにコメントを寄せ、他者理解を深める。

【授業時間外学習】
プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

「質問づくり」という手法を用いて、講義を聴講するだけでなくキャリアデザインを自分自身の問題として捉えるアクティブラーニング的手法で授業を行う。また、ゲストセッションを通して、書籍や資料だけでは得難い体験に基づいた講話やオンタイムの情報を得る機会を学生諸君に提供する。この授業をきっかけに視野を広げ、自ら「問い」を立て探求する姿勢を身に着けてほしい。各自の理解度や気づきの程度の確認のため、小レポートの提出を課し、授業の課題達成度を確認する。

【教科書・参考書など】

キャリアデザインテキスト（担当教員が製作）を授業内で販売する。

【成績評価方法】

授業における課題達成度（50%）、プレゼンテーション並びにプレゼンテーションの要旨レポート（50%）で評価する。

科 目 名	教養演習			担当者		
英 文 名	Preparations for Academic Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR103・DLR103・HLR103・CLR103		

【目的とねらい】

この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の４点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　アイスブレイク
【　到達目標　】
クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。

【授業時間外学習】
学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)

第２回　私の学生生活
【　到達目標　】
これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。

【授業時間外学習】授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)

第３回　日本女子体育大学を知る（１）
【　到達目標　】
日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。

【授業時間外学習】創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)

第４回　日本女子体育大学を知る（２）
【　到達目標　】
日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。

【授業時間外学習】本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)

第５回　話し合いの技術
【　到達目標　】
集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。

【授業時間外学習】
学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第６回　ノートテイクの技術
【　到達目標　】
大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。

【授業時間外学習】
ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第７回　データを読む技術
【　到達目標　】
量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。

【授業時間外学習】
データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第８回　データをまとめる技術
【　到達目標　】
質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「ＫＪ法」を習得する。

【授業時間外学習】
授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)

第９回　レポート・論文作成の技術（１）
【　到達目標　】
レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。

【授業時間外学習】
今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)

第10回　レポート・論文作成の技術（２）
【　到達目標　】
レポート・論文作成における各種の不正行為を防ぐ方法、および研究倫理を具体例を通して学習する。また参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。

【授業時間外学習】
今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーションの技術
【　到達目標　】
プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。

【授業時間外学習】
学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)

第12回　専門への架け橋
【　到達目標　】
「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。

【授業時間外学習】
学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)

第13回　レポート・プレゼンテーション①
【　到達目標　】
担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。

【授業時間外学習】
各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)

第14回　レポート・プレゼンテーション②
【　到達目標　】
前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。

【授業時間外学習】
各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)

第15回　レポート・プレゼンテーション③
【　到達目標　】
担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。

【授業時間外学習】
受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。

【教科書・参考書など】

『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。

【成績評価方法】

スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。

科目名	情報処理Ⅰ			担当者	鈴木　信夫・牧　　琢弥 水野　有希・阿南　　大	
英文名	Information Literacy Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR104・DLR104・HLR104・CLR104		

【目的とねらい】

ICT（Information & Communication Technology）の基礎を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法を学ぶ。さらに、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　インターネットについての理解と利用１

【　到達目標　】

(1)LANについての基礎知識を理解する。

(2)メーラー設定・パスワード変更・ネット検索について習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第２回　文書作成法の理解

【　到達目標　】

(1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。

(2)テキストデータ作成と編集について理解する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第３回　文書作成の方法

【　到達目標　】

(1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。

(2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第４回　ビジュアル表現法の理解

【　到達目標　】

(1)文書上のオブジェクトについて理解する。

(2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第５回　ビジュアル表現の方法１

【　到達目標　】

(1)文書上の罫線・表の作成・編集について習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第６回　ビジュアル表現の方法２

【　到達目標　】

(1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。

(2)文書の印刷方法について理解し、習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第７回　数値分析・データ加工法の理解

【　到達目標　】

(1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。

(2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第８回　数値分析・データ加工の方法

【　到達目標　】

(1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。

(2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第９回　インターネットについての理解と利用２

【　到達目標　】

(1)ネット上のマナーと著作権およびコンピュータウィルスの知識を得る。

(2)メールによるファイル添付、ネット上の図等の利用について習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第10回　周辺機器とメディアについての理解と利用

【　到達目標　】

(1)PC周辺機器についての知識を得る。

(2)プリンタ等の実用的な利用方法を学ぶ。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーション法の理解

【　到達目標　】

(1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。

(2)PowerPointによるスライド作成を習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第12回　プレゼンテーションの方法１

【　到達目標　】

(1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第13回　プレゼンテーションの方法２

【　到達目標　】

(1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第14回　OSとアプリケーションとファイルについての理解

【　到達目標　】

(1)OSとアプリケーションについての知識を得る。

(2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第15回　ファイルについての知識および管理の方法

【　到達目標　】

(1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。

(2)様々な保存形式について理解する。

(3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。

【教科書・参考書など】

別途、授業時に指示する。

【成績評価方法】

毎回の提出課題を１００％として評価する。

科目名	情報処理Ⅱ			担当者	鈴木　信夫・水野　有希 阿南　　大・竹内由利子	
英文名	Information Literacy Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR105・DLR105・HLR105・CLR105		

【目的とねらい】

「情報処理Ⅰ」よりワンランク上の内容を学ぶ。Wordでは、より高度な文書作成（データの差し込み等）を学ぶ。Power Pointでは、相手に伝わるプレゼンテーションを作るための工夫を学び、実際にプレゼンテーションをおこなう。また、インターネットやメーラーの活用法を学び、コンピュータウイルスに対する対策についても理解する。Excelのデータの並べ替えや抽出等を活用できるようにする。画像や映像ファイルの編集方法を学び、実際に撮影や録画したデータから作品を作り、発表する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　情報ツールとネットワークPC
【　到達目標　】
(1)ネットワークコンピュータやネットワークシステムを理解する。
(2)情報ツール、Wifi、について理解する。
(3)パソコンの設定について理解する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第２回　文書作成の方法（応用）
【　到達目標　】
(1)ファイルについての知識と管理方法を理解する。
(2)文書上のオブジェクトの編集方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第３回　ビジュアル表現の方法（応用）１
【　到達目標　】
(1)複雑な図形表現の方法を習得する。
(2)作成されたオブジェクトの利用方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第４回　ビジュアル表現の方法（応用）２
【　到達目標　】
(1)文書上のオブジェクトについて理解する。
(2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第５回　データベースのデータの活用
【　到達目標　】
(1)データベースについて理解する。
(2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第６回　数値データの分析１
【　到達目標　】
(1)EXCELの式と関数によるデータ処理を理解する。
(2)絶対参照の利用方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第７回　数値データの分析２
【　到達目標　】
(1)統計に必要な関数の利用方法を習得する。
(2)データに条件をつけて分析・表示させる方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第８回　数値データのビジュアル化
【　到達目標　】
(1)分析に適したグラフを理解する。
(2)分析結果をグラフで表現する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第９回　マルチメディアデータの取込と編集
【　到達目標　】
(1)知的財産権について理解する。
(2)マルチメディアのファイルについて理解する。
(3)マルチメディアをPCで取込む方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第10回　マルチメディアの簡単な編集と利用
【　到達目標　】
(1)マルチメディア編集ソフトによる編集と利用方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第11回　スライドを使ったプレゼンテーション１
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーション内容に適したスライド作成を理解する。
(2)グループワークによりプレゼンテーション用スライドを作成する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第12回　スライドを使ったプレゼンテーション２
【　到達目標　】
(1)分担を決めてスライドの作成を行う。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第13回　スライドを使ったプレゼンテーション３
【　到達目標　】
(1) スライドの作成を完了する。
(2) スライドを使ってプレゼンテーションを行う（1回目）。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第14回　スライドを使ったプレゼンテーション４
【　到達目標　】
(1)スライドを使ってプレゼンテーションを行う（2回目）。
(2)他のグループによる評価を行い。プレゼンテーションしたグループにフィードバックする。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第15回　ファイル管理とPCの設定
【　到達目標　】
(1)高度なファイル操作・管理・設定を習得する。
(1)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。

【教科書・参考書など】

別途、授業時に指示する。

【成績評価方法】

毎回の提出課題を１００％として評価する。

科目名	国語表現Ⅰ			担当者	高橋　良久・石元みさと 並木真理子	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106		

【目的とねらい】

・言語力やコミュニケーション能力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。
・新聞や本の読み方を学ぶ中で、自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に活きて働く基本的なリテラシーを養う。
・読書に親しむとともに、書評を取り扱い、書評を分析したり実際に書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）
【　到達目標　】
この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。
【授業時間外学習】
データベースを活用して、テーマに基づいた新聞記事を探す。(4.0hr)

第２回　新聞に親しむ①
【　到達目標　】
・新聞の読み方を知り、新聞に親しむ。
・全国紙と地方紙、一般紙と専門紙の違いを知る。
・紙面構成と記事構成を学ぶ。
【授業時間外学習】
興味・関心のある新聞記事を探し、要約する。(4.0hr)

第３回　新聞に親しむ②
【　到達目標　】
・新聞をもとに、意見を交流する。
・新聞をもとに、自分の意見を組み立てる。
・批判的なものの見方・考え方について理解する。
【授業時間外学習】
新聞記事を参考にして意見文を書く。(4.0hr)

第４回　手紙①
【　到達目標　】
手紙のマナーや書き方について理解を深める。
【授業時間外学習】
模擬の手紙を書く。(4.0hr)

第５回　手紙②
【　到達目標　】
手紙の書き方について一層の理解を深める。
【授業時間外学習】
模擬の手紙を書く。(4.0hr)

第６回　メール
【　到達目標　】
PCのeメールとケータイメールの使い分けについて理解するとともに、eメールのマナーと書き方の知識を深める。
【授業時間外学習】
模擬のeメールを書く。(4.0hr)

第７回　読書生活①
【　到達目標　】
・本の選び方と読み方を知る。
・書評を読み、本の批評方法について学ぶ。
・書誌情報について理解する。
【授業時間外学習】
教科書として指定された文庫を読む。(4.0hr)

第８回　読書生活②
【　到達目標　】
・書評の批評の特徴について考える。
・ネット書店の書評などの他の書評と教科書として読む文庫に取り挙げられた書評を比較する。
・批判的思考力を身に付ける。
【授業時間外学習】
教科書として指定された文庫を読む。(4.0hr)

第９回　読書生活③
【　到達目標　】
・教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。
・書評を分析する。
【授業時間外学習】
教科書として指定された文庫の書評を分析する。(4.0hr)

第10回　読書生活④
【　到達目標　】
・教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。
・教科書として指定された文庫の書評を分析する。
【授業時間外学習】
教科書として指定された文庫の書評を分析する。(4.0hr)

第11回　ビブリオバトル①
【　到達目標　】
・本の時内容を把握するとともに、内容の魅力の伝え方を構想し、ビブリオバトルの準備を行う。
【授業時間外学習】
ビブリオバトルを意識して、本を読む。(4.0hr)

第12回　ビブリオバトル②
【　到達目標　】
・グループごとにビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。
【授業時間外学習】
ビブリオバトルを踏まえて、本の情報を加筆したり修正したりする。(4.0hr)

第13回　ビブリオバトル③
【　到達目標　】
・全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。
【授業時間外学習】
ビブリオバトルの記録を完成させる。(4.0hr)

第14回　ビブリオバトル④
【　到達目標　】
・全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。
・チャンプ本を選ぶ。
・ビブリオバトルを参考にして、書評の構想を練る。
【授業時間外学習】
書評の構想を基にして、書評の執筆をする。(4.0hr)

第15回　目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題
【　到達目標　】
自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。
【授業時間外学習】
授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・毎授業の始めに、日本語検定試験の問題を使って解説の時間を設けるとともに、適宜、確認テストを行う。
・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。
・新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。
・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。

【教科書・参考書など】

教科書　：『10代のうちに本当に読んでほしい「この一冊」』、河出書房新社編集部編、河出文庫(河出書房新社)　税込713円
　　『高校生・大学生のための読書の教科書』(仮称/学事出版)　税込1,600円程度

【成績評価方法】

毎回の提出物40%・レポート課題30%・発表(ビブリオバトル等)20%・日本語検定確認テスト10%

科目名	英語Ⅰ（基礎）			担当者	加賀　岳彦・大和久吏恵 中村　大輔	
英文名	English Ⅰ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR107・DLR107・HLR107・CLR107		

【目的とねらい】

この授業では、英語の基礎を確認・再学習する。要点は、１）基本語彙を覚える、２）文法・発音の基礎を習得する、３）平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の３点である。また受講生の必要に応じて、英語の学習法や英語になじむための活動も取り入れる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学習】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　英語学習上のポイント等の説明・英語基礎総合演習①
【　到達目標　】
プレイスメントテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第３回　英語基礎総合演習②
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第４回　英語基礎総合演習③
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第５回　英語基礎総合演習④
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第６回　英語基礎総合演習⑤
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第７回　英語基礎総合演習⑥
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第８回　英語基礎総合演習⑦
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第９回　英語基礎総合演習⑧
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第10回　英語基礎総合演習⑨
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第11回　英語基礎総合演習⑩
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第12回　英語基礎総合演習⑪
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第13回　英語基礎総合演習⑫
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第14回　英語基礎総合演習⑬
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第15回　英語基礎総合演習⑭
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅰ（初級）			担当者	大和久吏恵・中村　大輔 篠原　結城	
英文名	English Ⅰ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108		

【目的とねらい】

この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を行えるよう学習指導にも言及する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学習】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得①
【　到達目標　】
授業時間外学習の方法を把握する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得②
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅰ（中級）			担当者	加賀　岳彦・大和久吏恵 中村　大輔	
英文名	English Ⅰ (Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR109・DLR109・HLR109・CLR109		

【目的とねらい】

この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学習】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　Introduction　英語総合演習①
【　到達目標　】
受講にあたっての留意点・学習の進め方を理解する。
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語総合演習②
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語総合演習③
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語総合演習④
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語総合演習⑤
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語総合演習⑥
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語総合演習⑦
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語総合演習⑧
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語総合演習⑨
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語総合演習⑩
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語総合演習⑪
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語総合演習⑫
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語総合演習⑬
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語総合演習⑭
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、試験の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀　岳彦・大和久吏恵 中村　大輔	
英文名	English Ⅱ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR110・DLR110・HLR110・CLR110		

【目的とねらい】

この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、コミュニケーション力の向上を図る。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業説明および英語総合演習①

【　到達目標　】

授業の目標・内容・計画を確認する。
受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第２回　英語総合演習②

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第３回　英語総合演習③

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第４回　英語総合演習④

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第５回　英語総合演習⑤

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第６回　英語総合演習⑥

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第７回　英語総合演習⑦

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第８回　英語総合演習⑧

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第９回　英語総合演習⑨

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第10回　英語総合演習⑩

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第11回　英語総合演習⑪

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第12回　英語総合演習⑫

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第13回　英語総合演習⑬

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第14回　英語総合演習⑭

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第15回　英語総合演習⑮

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項の復習を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	大和久吏恵・中村　大輔 篠原　結城	
英文名	English Ⅱ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111		

【目的とねらい】

この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を継続できるよう、引き続き学習指導にも言及する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　イントロダクション・英語運用能力の習得、読解力の向上①
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。
授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　英語運用能力の習得、読解力の向上②
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語運用能力の習得、読解力の向上③
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語運用能力の習得、読解力の向上④
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑤
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑥
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑦
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑧
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑨
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑩
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑪
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑫
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑬
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑭
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑮
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅱ（中級）			担当者	加賀　岳彦・大和久吏恵 中村　大輔	
英文名	English Ⅱ (Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR112・DLR112・HLR112・CLR112		

【目的とねらい】

この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。

【授業内容・到達目標など】

第１回　Introduction 英語演習①
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　英語演習②
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語演習③
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語演習④
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語演習⑤
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語演習⑥
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語演習⑦
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語演習⑧
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語演習⑨
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語演習⑩
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語演習⑪
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語演習⑫
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語演習⑬
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語演習⑭
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語演習⑮
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科 目 名	国語表現Ⅱ			担当者	高橋　良久・石元みさと 並木真理子	
英 文 名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		

【目的とねらい】

国語表現Ⅰで培った言語力やコミュニケーション能力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。

新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。さらには、新書を読む読書力を養い、質的研究法で用いられるインタビューなど、自身が体験したことの言語化に取り組む。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）
【　到達目標　】
国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。

【授業時間外学習】
興味や関心のある新聞記事を探す。(4.0hr)

第２回　新聞を活用した意見の構築①
【　到達目標　】
新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。

【授業時間外学習】
記事を要約する。(4.0hr)

第３回　新聞を活用した意見の構築②
【　到達目標　】
新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。

【授業時間外学習】
討議の内容を整理し、要約する。(4.0hr)

第４回　新聞を活用した意見の構築③
【　到達目標　】
新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。

【授業時間外学習】
記事をもとにして、意見文を書く。(4.0hr)

第５回　アカデミック・ライティングの基礎①
【　到達目標　】
文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

【授業時間外学習】
意見文を書く。(4.0hr)

第６回　アカデミック・ライティングの基礎②
【　到達目標　】
文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

【授業時間外学習】
意見文を書く。(4.0hr)

第７回　アカデミック・ライティングの基礎③
【　到達目標　】
文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

【授業時間外学習】
本を読み、要約などをする。(4.0hr)

第８回　本から学ぶ①
【　到達目標　】
・新書の読み方を知る。
・本の選び方と読み方を知る。
・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。
【授業時間外学習】
教科書として指定された新書を読む。(4.0hr)

第９回　本から学ぶ②
【　到達目標　】
・書誌情報を知る。
・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。

【授業時間外学習】
教科書として指定された新書を読む。(4.0hr)

第10回　本から学ぶ③
【　到達目標　】
新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。

【授業時間外学習】
本を読み、要約などをまとめる。(4.0hr)

第11回　本から学ぶ④
【　到達目標　】
新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。

【授業時間外学習】
本を読み、要約などをまとめる。(4.0hr)

第12回　インタビューを書く①
【　到達目標　】
インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。

【授業時間外学習】
インタビューのまとめ方の構想を練る。(4.0hr)

第13回　インタビューを書く②
【　到達目標　】
インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。

【授業時間外学習】
インタビューを完成させる。(4.0hr)

第14回　インタビューを読み合う
【　到達目標　】
完成したインタビューを読み合い、入念に推敲した上で、より適切な文章に修正する。

【授業時間外学習】
推敲して修正したインタビューの文章を見直す。(4.0hr)

第15回　目標達成度確認・今後の言語生活に向けて
【　到達目標　】
自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見通しを持つ。

【授業時間外学習】
授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。
・新聞や新書等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。
・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。

【教科書・参考書など】

教科書　：初回の授業で指定する
参考書1　：『日本語検定公式練習問題集改訂版 3級』日本語検定委員会編(東京書籍)
参考書2　：『聞く力』阿川佐和子著(文春新書)

【成績評価方法】

毎回の提出物40%・発表20%・課題40%

科目名	栄養学入門			担当者	古泉　佳代・大村　恵利	
英文名	Primary Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE101・DLE101・HLE101・CLE101		

【目的とねらい】

食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。

本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス・食生活と社会環境

【　到達目標　】

(1)自分の食生活を振り返り、食べることについて考えることができる。

(2)食生活は色々な環境が関係していることに気付く。

【授業時間外学習】

毎日の食事から食生活を振り返り、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　食を取り巻く環境の変化

【　到達目標　】

(1)フードシステムの複雑化にともなって生じている食生活の課題を認識する。

【授業時間外学習】

食に関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　食料の供給と課題

【　到達目標　】

(1)食料自給率の低下とその背景を理解する。

(2)農業再生に向けた取組みの現状を把握する。

【授業時間外学習】

フードロスに関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　食品の安全性①食中毒・リスク分析

【　到達目標　】

(1)食品由来の危害要因と健康へのリスクについて理解する。

(2)食中毒とその危害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。

(3)リスク分析の考え方と3つの構成要素について理解する。

【授業時間外学習】

食中毒予防を実践し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度

【　到達目標　】

(1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。

(2)食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　食生活と健康①食物と栄養（栄養バランス）

【　到達目標　】

(1)栄養バランスの評価方法を理解し、栄養バランスの良い食事を考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　食生活と健康②炭水化物

【　到達目標　】

(1)炭水化物の代謝を理解することができる。

(2)炭水化物の種類を理解することができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　食生活と健康③食物と栄養（脂質）

【　到達目標　】

(1)脂質の種類、体内での働き及び代謝を理解する。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　食生活と健康⑧食生活と健康

【　到達目標　】

(1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。

(2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　食生活と健康⑥たんぱく質

【　到達目標　】

(1)たんぱく質の消化吸収を理解できる。

(2)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　食生活と健康⑦ビタミン・ミネラル・水

【　到達目標　】

(1)ビタミン・ミネラルについて理解する。

(2)体内の水の出納を理解する。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　食生活と健康⑨食の情報を読み解くリテラシー・飲み物の糖度

【　到達目標　】(1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。

(2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。

(3)飲み物の糖度について理解できる。

(4)糖質の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学習】

健康によい根拠は何かを考え、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　食生活と文化①食物のおいしさ

【　到達目標　】

(1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。

(2)おいしさの要因を理解することができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　食生活と文化②日本の食文化・共食の現代的課題

【　到達目標　】

(1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたかを理解できる。

(2)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　食育とフード・リテラシー

【　到達目標　】

(1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解できる。

(2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、フード・リテラシーを生かした食生活を実践する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。講義内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。

【教科書・参考書など】

教科書　編著者　金子佳代子・松島悦子「白熱教室　食生活を考える」　(アイ・ケイコーポレーション出版)

参考資料は、適宜配布する。

【成績評価方法】

期末テスト達成度（80%）、レポート（20%）。なお、試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	生理・生化学入門			担当者	大　澤　拓　也	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE102・DLE102・HLE102・CLE102		

【目的とねらい】

健康科学およびスポーツ科学を学ぶために最低限必要と思われる生理学・生化学的な基礎知識を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション・概論
【　到達目標　】
授業の進め方、生理学・生化学の学問領域を理解する。
日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答について考え、その機能を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第２回　筋 (1)
【　到達目標　】
筋の種類・微細構造、筋収縮様式を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第３回　筋 (2)
【　到達目標　】
骨格筋の損傷・疲労・トレーニングによる変化を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第４回　神経
【　到達目標　】
運動による中枢・末梢神経系の応答、反射について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第５回　呼吸 (1)
【　到達目標　】
呼吸器系の構造・機能、酸素輸送について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第６回　呼吸 (2)
【　到達目標　】
最大酸素摂取量の意味・有用性・測定法について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第７回　循環 (1)
【　到達目標　】
心臓・血管系の構造と機能を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第８回　循環 (2)
【　到達目標　】
自律神経系による循環機能の調節を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第９回　エネルギー代謝
【　到達目標　】
3つのエネルギー産生機構について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第10回　ホルモン
【　到達目標　】
運動に伴うホルモン応答とその作用について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第11回　血液
【　到達目標　】
血液の成分・役割・運動による変化について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第12回　骨
【　到達目標　】
骨の構造・代謝・測定法について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第13回　脂肪
【　到達目標　】
脂肪の種類・代謝・測定法について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第14回　環境生理
【　到達目標　】
暑熱・低酸素・無重力環境に対する身体の適応を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第15回　運動時における生理応答
【　到達目標　】
実際の運動時に生じる様々な生理学・生化学的変化の相互作用を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義の理解のためには、講義内容を各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべることが大切である。講義終了時にレポート作成、および翌回講義開始時に小テストを行う。その後の講義内において、これらのフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」「生化学」「解剖学」に関する書籍を参考にすることは講義の理解を深める。

【成績評価方法】

授業内での発言、小テスト、レポートを20%、筆記試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。

科目名	近現代史入門			担当者	山　本　唯　人	
英文名	Introductory Course to the Modern Japanese History					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE103・DLE103・HLE103・CLE103		

【目的とねらい】

東京から見る日本近現代史/みなさんにとって「いま」とはいつからのことですか？なぜ、そう思うのですか？歴史を学ぶとはこの質問への自分なりの答えを、いま、見ることのできる資料に照らして確かめていくことです。答えはひとによって違います。この講義を受講されるみなさんは、年表を覚えることが歴史だという発想を、まず捨ててください。以上の問いを共有しつつ、明治、大正、昭和、平成にいたる日本の近現代史を、身近な街・東京を題材に初歩から学んでいきます。上の質問について、考えてきてください。

【授業内容・到達目標など】

第１回　イントロダクション
【　到達目標　】
幕末開国から現在まで。歴史がどう流れてきたかを概観し、この講義でどこを、どのように学んでいくかを説明します。評価方法などについても説明するので受講を希望する方は必ず出席してください。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第２回　東京の誕生
【　到達目標　】
そもそも「東京」とはいつごろ、どのように成立したのか。これまでの研究から確認していきます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第３回　開国と文化変容（1）　横浜居留地
【　到達目標　】
幕末開港は日本社会に大きな影響を与えます。その影響を外国に開かれた「窓」、居留地の風景から探ります。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第４回　開国と文化変容（2）　築地居留地
【　到達目標　】
第3回の続編として、東京に開かれた築地居留地について見ていきます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第５回　街頭空間の成立（1）　パリの都市計画
【　到達目標　】
東京が成立した時代、世界の都市で大きな街づくりが進められていました。東京のまちづくりを見る前に、その参考の一つになった19世紀パリの都市計画を見ます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第６回　街頭空間の成立（2）　商店街の形成、市区改正
【　到達目標　】
多くのひとが「都会らしさ」を感じる場所とは、不特定多数のひとが入り乱れる「街頭」である場合が多いです。こうした「街頭」空間の多くは「東京」になって初めて生まれたものです。その一つとして商店街の形成を扱います。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第７回　街頭空間の成立（3）　新宿御苑
【　到達目標　】
特殊な街頭空間のひとつに公園やオープンスペースがあります。戦前までは皇室の所有であり戦後になって一般市民に開放された新宿御苑の成り立ちをたどります。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第８回　街頭空間の成立（4）　自由民権、帝国議会、東京市役所
【　到達目標　】
街頭空間は単なる交通や商業の場所ではなく、政治の舞台でもありました。日本に「議会」を成立させる原動力になった自由民権運動を都市の「街頭」を舞台にした言論活動という視点から見ます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第９回　街頭の民主主義（1）　日露戦争、日比谷焼き打ち事件
【　到達目標　】
明治の後期から大正時代にかけては、都市の街頭に多くのひとびとが繰り出して自らの主張を訴える様々な行動が行われた時代でした。そうしたひとびとの行動を「街頭の民主主義」という視点から見つめ直します。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第10回　街頭の民主主義（2）　第一次世界大戦、米騒動、普通選挙
【　到達目標　】
第9回の続編です。街頭におけるひとびとの行動が、「普通選挙」の仕組みを生み出すというかたちで、現代にその遺産をもたらしていることを見ていきます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第11回　関東大震災と「大東京」の時代
【　到達目標　】
関東大震災と東京大空襲というふたつの災害を通じて、それまでの東京のまちなみは大きく変わっていきます。第11回は関東大震災とその復興のなかであらわれた「大東京」のまちなみを見ます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第12回　東京大空襲と東京の復興
【　到達目標　】
第11回の続編として、東京大空襲と戦後の復興を扱います。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第13回　バブル期の都市政治（1）
【　到達目標　】
「バブルの時代」は現代に続く東京の再開発がはじまった時代でもありました。
「バブルの時代」とは何だったのか？東京の再開発を軸に探っていきます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第14回　バブル期の再開発（2）
【　到達目標　】
第13回の続編です。バブルの崩壊から現在までを展望します。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第15回　おわりに―オリンピック前／後のはざまに
【　到達目標　】
最後に「いま」の時代をふりかえります。ここまで歴史を学んだみなさんには「いま」をより確かに把握することができることでしょう。いまの東京を、つまり「わたしたち」の未来を考えて、講義全体をまとめます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

聞く、考える、書くをもう一つのテーマとして授業をすすめます。毎回の授業で提供されるテーマについて、その場で集中的に聞き、考え、その結果を書き、表現するトレーニングを重ねます。授業のはじめに前回の話題をフィードバックし、ふりかえりの時間を持つので、その時間にこれまでの学習をふりかえってください。入門の講義なので予備知識はいりません。「歴史」「東京」などのテーマに関心のあるみなさんの参加を歓迎します。

【教科書・参考書など】

教科書は特にありません。毎回資料を配ります。参考書は随時教えます。

【成績評価方法】

2回のミニレポートと期末レポートで評価します。ミニレポート40%（1回20%）、期末レポート60%で評価します。

科目名	人間心理の理解			担当者	三　好　昭　子	
英文名	Personality Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE104・DLE104・HLE104・CLE104		

【目的とねらい】

本講義は、人間の心と行動について多面的にとらえ、理解することができるようになることを目的とする。まずは人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかを理解する。それぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心をどのようにとらえているのだろうか。それについて考えることを可能にするため、パーソナリティや知能といった漠然とした目に見えないものの見方を幅広く修得する。対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深めることを目的としている。

【授業内容・到達目標など】

第１回　感覚・知覚
【　到達目標　】
(1)人間が外界をどのように知覚するかを理解する。
(2)同じものを見ても見え方が異なることを理解する。
(3)心理的世界と物理的世界との関連を理解する。
【授業時間外学習】
人間の知覚についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第２回　感情・情動
【　到達目標　】
(1)どのようにして感情を感じるのかを理解する。
(2)表情の読み取りについて理解する。
【授業時間外学習】
感情の起源と表情の読み取りに関する課題を行う。(4.0hr)

第３回　対人認知・印象形成
【　到達目標　】
(1)対人認知について理解する。
(2)印象形成について理解する。
【授業時間外学習】
対人認知と印象形成の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第４回　態度変容
【　到達目標　】
(1)態度変容に影響を与える要因について理解する。
(2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について理解する。
【授業時間外学習】
態度変容に関する課題を行う。(4.0hr)

第５回　恋愛
【　到達目標　】
(1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解する。
(2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析する。
【授業時間外学習】
恋愛の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第６回　グループダイナミクス（集団力学）
【　到達目標　】
(1)向社会的行動（思いやり）について理解する。
(2)他者への同調・服従について理解する。
(3)他者への同調・服従がまねく危険性について考える。
【授業時間外学習】
向社会的行動や同調・服従の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　パーソナリティ①類型論
【　到達目標　】
(1)クレッチマーの類型論について理解する。
(2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析する。
【授業時間外学習】
類型論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第８回　パーソナリティ②特性論
【　到達目標　】
(1)共通特性について理解する。
(2)ギルフォードの特性論について理解する。
(3)Big Fiveについて理解する。
【授業時間外学習】
特性論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第９回　パーソナリティ③構造論
【　到達目標　】
(1)フロイトの構造論について理解する。
(2)レヴィンの構造論について理解する。
【授業時間外学習】
構造論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第10回　防衛機制に基づく個人差と無意識による自己理解
【　到達目標　】
(1)防衛機制に基づく個人差について理解する。
(2)投影法を実施し、自己分析する。
【授業時間外学習】
防衛機制に基づく個人差と投影法の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第11回　知能とは何か
【　到達目標　】
(1)知能の定義について理解する。
(2)知能テストについて理解する。
【授業時間外学習】
知能と知能テストの理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第12回　知能の発達
【　到達目標　】
(1)行動遺伝学について理解する。
(2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解する。
【授業時間外学習】
知能の発達に関する課題を行う。(4.0hr)

第13回　発達の可塑性
【　到達目標　】
(1)初期経験の重要性について理解する。
(2)社会的に剥奪された環境からの社会復帰について考える。
【授業時間外学習】
発達の可塑性についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第14回　健康なパーソナリティ
【　到達目標　】
(1)健康なパーソナリティについて理解する。
(2)ストレスへの対処について理解する。
【授業時間外学習】
健康なパーソナリティの理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第15回　自己実現
【　到達目標　】
(1)パーソナリティの変容について理解する。
(2)なりたい自分について考える。
【授業時間外学習】
自己実現の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。授業の中で、心理テストを行ったり、グループでロールプレイやディスカッションを行うことがある。自己理解に役立てるためにも積極的に取り組むことが望まれる。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、分かったこと、分からなかったことを明確にし、知識を整理することが必要である。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書：『心理学 こころと行動のメカニズムを探る』越智啓太・著（樹村房　2012）

【成績評価方法】

課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。

科目名	ボランティア活動論			担当者	山田亜沙妃	
英文名	Citizenship Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE105・DLE105・HLE105・CLE105		

【目的とねらい】

2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズ2021関西を控え、大会の成否に影響を与えると言われるボランティアの存在に注目が集まっている。本講義では、各分野で活動している実践者からの現場の生の声を通して、実際にボランティア活動を体験しながら、現代社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）
【　到達目標　】
(1)「ボランティア活動論」の全体の流れを把握する。
(2)自分の学習目標を決める。

【授業時間外学習】
自分の学習目標を決める。（4.0hr）

第２回　ボランティア活動の役割と背景
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。
(2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第３回　ボランティア活動事例の紹介（１）（講話）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。
(2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第４回　スポーツボランティア活動の基礎知識
【　到達目標　】
(1)スポーツボランティアの定義と分類、具体的なスポーツボランティア活動を知る。
(2)スポーツボランティアの現状と課題を理解する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第５回　スポーツイベントやプログラム
【　到達目標　】
(1)スポーツイベントの分類、効果について理解を深める。
(2)今後のスポーツイベントのあり方を探り、各イベントにおけるボランティア規模を知る。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第６回　スポーツイベントボランティア
【　到達目標　】
(1)大規模スポーツイベントにおけるボランティアの活動を理解する。
(2)スポーツイベントボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第７回 ボランティア活動事例の紹介（２）（講話）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。
(2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第８回　海外のスポーツボランティア
【　到達目標　】
(1)海外のスポーツボランティアの取り組みについて理解する。
(2)海外の事例をもとに、日本のスポーツボランティアのあり方を考える。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第９回　ボランティア活動の歴史
【　到達目標　】
(1)世界におけるボランティア活動の歴史を理解する。
(2)ボランティア思想の発展史を理解する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第10回　ボランティア活動事例の紹介（３）（講話）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。
(2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第11回　大学の地域貢献
【　到達目標　】
(1)大学で学ぶ専門性を地域のために活かす方策を考える。
(2)自らの市民参加や社会貢献に結び付けて考察する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第12回　ボランティア活動体験と報告（１）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動を実際に体験する。
(2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。

【授業時間外学習】
ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)

第13回　ボランティア活動体験と報告（２）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動を実際に体験する。
(2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。

【授業時間外学習】
ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)

第14回　ボランティア活動体験と報告（３）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動を実際に体験する。
(2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。

【授業時間外学習】
ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)

第15回　ボランティア活動レポートの作成・提出
【　到達目標　】
(1)授業内容とボランティア活動体験をふまえ、ボランティア活動レポートを作成する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動レポートを作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験、プレゼンテーション、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。

【教科書・参考書など】

資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。

【成績評価方法】

各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。

科目名	日常生活の社会学			担当者	田　北　康　成	
英文名	Introductory Sociology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE106・DLE106・HLE106・CLE106		

【目的とねらい】

私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみる。社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的なアイテムとして有効なことを実感していただければと思う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
(1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。
(2)領域を超えて横断的に物事を捉える習慣、そこで何が語られないかと考える習慣を身につける。
【授業時間外学習】
予習課題：「日本」という国の好きなところ、きらいなところを考えておく。(4.0hr)

第２回　社会学はどのような考え方をするのか(1)
【　到達目標　】
(1)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。
(2)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)

第３回　社会学はどのような考え方をするのか(2)
【　到達目標　】
(1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。
(2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。
【授業時間外学習】
予習課題：次に食べに行きたい「おいしい店」を探しておく。(4.0hr)

第４回　人が持っているバイアスを考える（1）エスニシティ
【　到達目標　】
(1)「日本」という国に住んでいることのバイアスを考えてみる。
(2)「想像の共同体」という概念を覚え、自国中心の観点について客観的に考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：行ってみたい、住んでみたい国をその理由とともに考えておく。(4.0hr)

第５回　人が持っているバイアスを考える（２）ジェンダー
【　到達目標　】
(1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。
(2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固着化していく心理を読み解けるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)

第６回　家族の役割について考える（１）
【　到達目標　】
(1)「家族」に対する理論的な分析枠組みを知ると共に、その機能を学ぶ。
(2)「家族」の制度がかかえる問題や課題を知り、将来、当事者として考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：「夫婦別姓」についてどう思うか、その理由を考えておく。(4.0hr)

第７回　家族の役割について考える（２）
【　到達目標　】
(1)「家制度」の変化と現状、課題を知る。
(2)ライフステージの変化を捉え、家族の絆がどのような場面で必要かを考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：自分の「お墓」について考えておく。(4.0hr)

第８回　人や地域コミュニティのネットワークをどう形成するか
【　到達目標　】
(1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。
(2)コミュニティの繋がり、協力態勢について、主体的な居住者として考えられるようにする。
【授業時間外学習】予習課題：自分が住んでいる地区のゴミ集積所、避難場所、掲示板、広報誌を調べておく。(4.0hr)

第９回　多文化共生時代の「地域」の変革を探る
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)人口減少社会における「労働力」「移民」について主体的に考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：「絆」「助け合い」という言葉から連想することを考えておく。(4.0hr)

第10回　これからのライフステージを考える
【　到達目標　】
(1)ライフステージに伴う生活の変化を捉える。
(2)働き方に縛られない生活を把握し、将来、当事者として考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：将来、どこに住みたいか、その理由とともに考えておく。(4.0hr)

第11回　働くことの意味を考える
【　到達目標　】
(1)「疎外された労働」、搾取、格差社会について理解する。
(2)労働条件の持つ意味を把握するとともに、「シャドウワーク」に支えられている労働がいかに身近にあるか考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：家事労働は「いくら」もらえば満足するかを考えてみる。(4.0hr)

第12回　セーフティネットの持つ意味
【　到達目標　】
(1)「階級」「階層」「社会移動」について理解し、「格差」社会に起きていることを知る。
(2)「自己責任」論が跋扈し、セーフティネットが機能しにくい問題について考える。
【授業時間外学習】
予習課題：「生活保護」について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第13回　「健康」「美容」を考える
【　到達目標　】
(1)「健康」や「美容」を過度なまでに強制する社会の圧力について理解する。
(2)「病」がつくられている現状について、医療社会学などの知見を得て、考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：「ダイエット」や「サプリメント」について考えておく。(4.0hr)

第14回　中毒や依存症、医療について考える
【　到達目標　】
(1)タルコット・パーソンズの「病人役割」について把握する。
(2)グローバル化に伴う「リスク社会」に生きる中で、「病」と対策について考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：自分の住んでいる場所の休日・深夜の医療体制を調べておく。(4.0hr)

第15回　全体のまとめと補論
【　到達目標　】
(1)「自由」「権利」とは何か、なぜ「秩序」が作られ、「逸脱行動」が非難されるかを考える。
(2)法規制の厳罰化や社会的制裁の強化がもたらす影響について考えられるようにし、難しい判断を迫られるような状況にも主体的に取り組むことができるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：許せない他人の癖や行動、ネット上の炎上事件などを調べておく。(4.0hr)

【学習上の留意点】

この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。それに加えて社会調査入門も兼ねている。ほぼ毎回、授業開始時に課題が用意されており、授業を受けたことにより考えた内容を問いかけるので、好奇心を持って主体的な参加をしてほしい。授業は板書、パワーポイント、書画カメラ、映像資料を複合的に使用するので、履修者が整理しやすいノート作りを自ら工夫してほしい。レスポンスシートの記述／質問内容については、紹介することにより、履修生全体の学修効果が見られるものについて、次の授業時に紹介したり、回答したりすることがある。

【教科書・参考書など】

教科書は不使用。
参考書は随時指示するが、下記の文献を事後学習に役立ててほしい。
①篠原清夫・栗田真樹編著（2016）『大学生のための社会学入門』晃洋書房、②田中正人編著（2019）『社会学用語図鑑』プレジデント社

【成績評価方法】

予習課題に連動した毎回のレスポンスシート（10%）と、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテスト（90%）との総合点で評価する。
(試験は試験期間中に別途実施する)

科目名	数と論理			担当者	水　野　有　希	
英文名	Arithmetic and Logic					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE107・DLE107・HLE107・CLE107		

【目的とねらい】

これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎、いろいろな進法を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている流水算、旅人算、年齢算などの手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身につけ、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。

【授業内容・到達目標など】

第１回　計算の基礎1、整数の基礎
【　到達目標　】
(1)四則算、計算の順序について復習する。
(2)約数と倍数について学ぶ。

【授業時間外学習】
授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)

第２回　計算の基礎2、平方根
【　到達目標　】
(1)正負、小数点、分数の計算について復習する。
(2)平方根の計算について学ぶ。

【授業時間外学習】
実数および平方根の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第３回　方程式
【　到達目標　】
(1)1次方程式、連立方程式について復習する。
(2)2次方程式について復習する。
(3)不等式について学ぶ。
【授業時間外学習】
方程式の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第４回　関数１
【　到達目標　】
(1)比例と反比例について学ぶ。
(2)1次関数について学ぶ。

【授業時間外学習】
1次関数の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第５回　関数2
【　到達目標　】
(1)2次関数について学ぶ。
(2)平方完成について学ぶ。

【授業時間外学習】
2次関数の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第６回　関数3
【　到達目標　】
(1)関数の領域（不等式）について学ぶ。
(2)関数の応用について学ぶ。

【授業時間外学習】
関数の領域（不等式）の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第７回　三角比
【　到達目標　】
(1)三角比について理解する。
(2)三角比の応用問題について学ぶ。

【授業時間外学習】
返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第８回　数列
【　到達目標　】
(1)等差数列、等比数列について理解する。
(2)数列の応用問題について学ぶ。

【授業時間外学習】
数列の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第９回　比と割合
【　到達目標　】
(1)比について復習する。
(2)利益算について学ぶ。
(3)濃度算について学ぶ。
【授業時間外学習】
百分率や歩合の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第10回　速さ
【　到達目標　】
(1)速さ、時間について復習する。
(2)通貨算、流水算について学習する。

【授業時間外学習】
速さの公式や計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第11回　特殊算
【　到達目標　】
(1)鶴亀算について復習する。
(2)集合算について理解する。

【授業時間外学習】
返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第12回　場合の数と確率
【　到達目標　】
(1)順列と組み合わせについて学ぶ。
(2)確率について学ぶ。

【授業時間外学習】
順列と組み合わせの公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第13回　図形の基本
【　到達目標　】
(1)図形の性質について学ぶ。
(2)図形の体積と表面積について学ぶ。

【授業時間外学習】
図形の種類や計算式の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第14回　合同と相似
【　到達目標　】
(1)合同と相似について復習する。
(2)平行線と三角形を使った合同と相似の問題について学ぶ。

【授業時間外学習】
合同と相似の定義の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第15回　命題と推論
【　到達目標　】
(1)命題とは何かを理解する。
(2)命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
命題の対偶について予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

知識を固めるためには、実際に解いてみることが一番です。講義時間に15分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをするので、間違えた人は必ず復習をしてください。

【教科書・参考書など】

講義中に指示します。

【成績評価方法】

毎回行うミニ課題40%、期末試験60%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。ミニ課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(翌週に出すことや、研究室に持ってくること)は、いかなる理由であっても認めません。

科目名	現代の倫理			担当者	宇多村俊介	
英文名	Ethics in Modern Life					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE108・DLE108・HLE108・CLE108		

【目的とねらい】

倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいにしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理学的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：倫理的な問い

【　到達目標　】

倫理的な問いのもつ特質を理解するとともに、自分の現状での思想傾向を把握する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>に取り組む。(4.0hr)

第２回　「幸福」「善」とは何か

【　到達目標　】

倫理的な脈絡での「善・よい」を把握し、定義の構成を理解した上で善の定義を試み、それが開かれた(未決の)問であることを理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第３回　普遍化可能性１：社会契約

【　到達目標　】

道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を考察することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第４回　普遍化可能性２：自由意志

【　到達目標　】

自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第５回　普遍化可能性３：功利の原理(1)

【　到達目標　】

現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第６回　功利の原理(2)：自由主義的な行為原則

【　到達目標　】

功利の原理が下敷きにする自由主義のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第７回　正義：自由と平等

【　到達目標　】

自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、格差（是正）原理を通してそれらの両立可能性について考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第８回　自然と文明：道具的理性

【　到達目標　】

自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第９回　環境倫理：未来に対する責任

【　到達目標　】

現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第10回　情報化社会の倫理：情報時代と監視社会

【　到達目標　】

メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第11回　生命倫理１：人間の尊厳

【　到達目標　】

生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第12回　生命倫理２：生殖医療

【　到達目標　】

テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第13回　科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任

【　到達目標　】

科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第14回　倫理的相対主義

【　到達目標　】

倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第15回　規範なき時代とニヒリズム

【　到達目標　】

残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

【学習上の留意点】

暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に７～８回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問は翌週冒頭に取り上げ理解度を確認してもらいます。各回の主題に沿って原理的に考えることを要しますが、事例や具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには、知見を要する場合もあります。できるだけ歴史的・社会的背景の吸収・収集にも努めてください。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。

【成績評価方法】

課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	日常生活の法律			担当者	中　村　安　菜	
英文名	Law in Everyday Life					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE109・DLE109・HLE109・CLE109		

【目的とねらい】

私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに関係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法をも身につけたい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　私たちの日常生活に関わる様々なルールについて
【　到達目標　】
(1)私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。
(2)様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。

【授業時間外学習】
日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr)

第２回　アルバイトと法律①
【　到達目標　】
(1)契約について理解する。
(2)労働基準法の内容について理解する。

【授業時間外学習】
自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr)

第３回　アルバイトと法律②
【　到達目標　】
(1)労働に関連する法的問題について理解する。
(2)ブラックアルバイトについて理解する。

【授業時間外学習】
ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr)

第４回　恋愛関係と法律①
【　到達目標　】
(1)恋愛関係による法的問題の存在を理解する。
(2)ストーカー規制法について理解する。

【授業時間外学習】
恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr)

第５回　恋愛関係と法律②
【　到達目標　】
(1)DV防止法について理解する。
(2)リベンジポルノ防止法について理解する。

【授業時間外学習】
2つの法律に関連する具体的な事件を調べる。(4.0hr)

第６回　家族と法律①
【　到達目標　】
(1)婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。
(2)家庭生活及び婚姻の解消に関する法制度について理解する。

【授業時間外学習】
結婚するために必要な手続について調べる。(4.0hr)

第７回　家族と法律②
【　到達目標　】
(1)親子関係の発生及び親子間の権利義務に関する法制度について理解する。
(2)養子に関する法制度について理解する。

【授業時間外学習】
親子関係不存在確認訴訟（2014年7月17日）に関する新聞記事をコピーする。(4.0hr)

第８回　無戸籍問題
【　到達目標　】
(1)無戸籍問題を理解する。
(2)無戸籍であることによって生じる不利益について理解する。

【授業時間外学習】
無戸籍問題に関する新聞記事を調べる。(4.0hr)

第９回　表現物と法律①
【　到達目標　】
(1)知的財産の種類について理解する。
(2)特許制度について理解する。

【授業時間外学習】
特許をとっている製品を調べる。(4.0hr)

第10回　表現物と法律②
【　到達目標　】
(1)著作権法について理解する。
(2)著作権法において規定されている諸権利について理解する。

【授業時間外学習】
著作権が問題となった事例を調べる。(4.0hr)

第11回　ペットの飼育と法律①
【　到達目標　】
(1)法律におけるペットの定義について理解する。
(2)ペットに関する諸法律の存在について理解する。

【授業時間外学習】
遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr)

第12回　ペットの飼育と法律②
【　到達目標　】
(1)動物愛護管理法の内容について理解する。
(2)動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。

【授業時間外学習】
動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr)

第13回　犯罪の取り調べと裁判の進め方
【　到達目標　】
(1)警察による取り調べに関する規定について理解する。
(2)起訴から判決までの流れについて理解する。

【授業時間外学習】
日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr)

第14回　試験と法律
【　到達目標　】
(1)偽計業務妨害罪について理解する。
(2)私文書偽造罪について理解する。

【授業時間外学習】
不正行為を禁止される理由について考える。(4.0hr)

第15回　日々の暮らしと法律
【　到達目標　】
(1)この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。

【授業時間外学習】
全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみること。なお、授業内容の詳細は随時指示する。

【教科書・参考書など】

開講時に指示する。

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。
試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教養としての経済学			担当者	高　橋　信　勝	
英文名	Introductory Economics					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE110・DLE110・HLE110・CLE110		

【目的とねらい】

目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。
ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　経済学への誘い（１）
【　到達目標　】
市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。
経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。
経済学の学問的特質を理解する。
【授業時間外学習】
経済学の偉人について調べる（ケネー）。(4.0hr)

第２回　経済学への誘い（２）
【　到達目標　】
希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。
経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。
【授業時間外学習】
経済学の偉人について調べる（スミス）。(4.0hr)

第３回　企業と経済
【　到達目標　】
企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。
企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。
【授業時間外学習】
経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。(4.0hr)

第４回　GDPと三面等価の原則
【　到達目標　】
ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。
国民経済の数量的把握について理解する。
【授業時間外学習】
経済学の偉人について調べる（ケインズ）。(4.0hr)

第５回　中央銀行の機能と金融政策（１）
【　到達目標　】
貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。
中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。
金融政策の枠組みについて理解する。
【授業時間外学習】
経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。(4.0hr)

第６回　中央銀行の機能と金融政策（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学習】
経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。(4.0hr)

第７回　インフレとデフレ
【　到達目標　】
インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。
【授業時間外学習】
経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。(4.0hr)

第８回　有効需要論（１）
【　到達目標　】
有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。
経済のマクロ分析について理解する。
【授業時間外学習】
経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。(4.0hr)

第９回　有効需要論（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学習】
日本の財政について調べる（歳入）。(4.0hr)

第10回　IS-LM分析（１）
【　到達目標　】
財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。
IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。
市場経済への公的介入についての理解を深める。
【授業時間外学習】
日本の財政について調べる（歳出）。(4.0hr)

第11回　IS-LM分析（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学習】
日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。(4.0hr)

第12回　国際収支と為替レート（１）
【　到達目標　】
国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。
変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。
世界経済と日本経済とのかかわりを理解する。
【授業時間外学習】
貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。(4.0hr)

第13回　国際収支と為替レート（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学習】
貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。(4.0hr)

第14回　戦後の日本経済
【　到達目標　】
高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。
戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。
【授業時間外学習】
貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。(4.0hr)

第15回　授業の総復習と問題演習
【　到達目標　】
授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。
問題演習に取り組み、知識の定着を図る。
【授業時間外学習】経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

経済学は体系的な学問であるから、授業理解の第一のカギは継続的な出席である。テキストの予習箇所をあらかじめ指示するので、必ず目を通しておくこと。毎回、授業のポイントを明示したレジュメを配布する。授業ではキーワードを板書し、レジュメとテキストを参照しながら口頭で説明する。詳細な板書は行わないので、受講生各自がノートを整理し直すことが望ましい。また理解度を確認するため、問題演習を単元ごとに実施し、後続の授業でその解説を行う。

【教科書・参考書など】

教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。

【成績評価方法】

小テスト（30%）と試験（70%）により、評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	英語ＥＡＰＩ			担当者	中　村　大　輔	
英文名	English for Academic Purposes Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE201・DLE201・HLE201・CLE201		

【目的とねらい】

学術論文を理解するためには語彙･文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業ではcause-effect関係の把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。予習を前提としている授業なので、受講生は充分に準備した上で授業に臨むことになる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　Introduction
【　到達目標　】
この授業での学習の進め方・評価方法の説明・受講上の注意点を把握する。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 1: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第２回　Memory & New Technology
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 2: Finding the topic of a paragraphを予習する。(4.0hr)

第３回　Lying
【　到達目標　】
パラグラフのトピックを把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 3: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第４回　Fact or fiction: Science
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 4: Finding the main idea of a paragraphを予習する。(4.0hr)

第５回　Hoaxes
【　到達目標　】
パラグラフのメインアイデアを把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 5: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第６回　The psychiology of price
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 6: Finding the topic and main dea of a readingを予習する。(4.0hr)

第７回　Guerrilla marketing
【　到達目標　】
文章全体のトピックとメインアイデアを把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 7: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第８回　Taste and color
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 8: Finding supporting detailsを予習する。(4.0hr)

第９回　Why do some people hate broccoli?
【　到達目標　】
メインアイデアのサポート文を把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 9: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第10回　Ocean--An economic resource
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 10: Finding steps in a processを予習する。(4.0hr)

第11回　The health of our oceans
【　到達目標　】
プロセスを説明する文章の構造を把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 11: Noticing parts of wordsを予習する。(4.0hr)

第12回　Communication in natural disasters
【　到達目標　】
名詞の接辞を理解できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 12: Finding advantages and disadvantagesを予習する。(4.0hr)

第13回　How do social networks affect our daily lives?
【　到達目標　】
物事に潜む二面性を表現する際の文章の構造を把握できる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 13: Noticing parts of wordsを予習する。(4.0hr)

第14回　The history of currency
【　到達目標　】
動詞の接辞を理解できるようになる。
【授業時間外学習】
課題の総チェックと総点検を行う。(4.0hr)

第15回　総復習
【　到達目標　】
これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかり行った上で授業に臨むこと。期末試験に向けた課題も出す。
【授業時間外学習】
課題の総チェックと総点検を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。
・授業には辞書（あるいはsmartphone等辞書機能として使用できるもの）を携帯すること。
・履修者のレベルは英語１・２（初級・中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。

【教科書・参考書など】

Williams, J & Wiese, D. (2016). Making connections: Intro. New York: Cambridge University Press。その他、参考書等は授業内で指示する。
※上記テキストは現時点での予定であり、変更の可能性がある。詳しくは初回の授業で担当者の指示に従うこと。

【成績評価方法】

平常点（小テスト、課題、授業内での応答、自立的学習力）を50%、学期末試験を50%として成績を評価する。

科 目 名	英語ＥＧＣⅠ			担当者	Mensto Flameling	
英 文 名	English for General Communication Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE202・DLE202・HLE202・CLE202		

【目的とねらい】

This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.

【授業内容・到達目標など】

第１回　Introductions
【　到達目標　】
Previewing contents and goals of the course
【授業時間外学習】
Preview syllabus(4.0hr)

第２回　Asking / Answering Questions
【　到達目標　】
Practising question / answer format
【授業時間外学習】
Review question sentence grammar(4.0hr)

第３回　Likes and Dislikes
【　到達目標　】
Practising preference vocabulary/grammar
【授業時間外学習】
Preview preference vocabulary / grammar(4.0hr)

第４回　Presentations: Likes and Dislikes
【　到達目標　】
Discussing preferences
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第５回　Family
【　到達目標　】
Practising family vocabulary
【授業時間外学習】
Preview family vocabulary(4.0hr)

第６回　People
【　到達目標　】
Practising descriptive vocabulary
【授業時間外学習】
Preview descriptive vocabulary(4.0hr)

第７回　Preparations for Presentations: Family
【　到達目標　】
Gathering and organising information
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第８回　Presentations: Family
【　到達目標　】
Discussing family
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第９回　Regular and Current Activities
【　到達目標　】
Practising present tenses
【授業時間外学習】
Review present tense usage(4.0hr)

第10回　Presentations: Invitations
【　到達目標　】
Discussing schedules
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第11回　Part-time Work
【　到達目標　】
Previewing work-related vocabulary
【授業時間外学習】
Preview work-related vocabulary(4.0hr)

第12回　Duties and Working Conditions
【　到達目標　】
Previewing additional work-related vocabulary
【授業時間外学習】
Preview additional vocabulary(4.0hr)

第13回　Presentations: Part-time Work
【　到達目標　】
Discussing part-time work
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第14回　Preparations for Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Previewing the mid-term presentation
【授業時間外学習】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

第15回　Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Course Review
【授業時間外学習】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

【学習上の留意点】

Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!
I.e. This class will be conducted in English.

【教科書・参考書など】

Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press

【成績評価方法】

Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%

科目名	英語ＥＡＰⅡ			担当者	大和久吏恵	
英文名	English for Academic Purposes Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE203・DLE203・HLE203・CLE203		

【目的とねらい】

この授業では、英語による様々な分野の論理的な文章を正確に読み、多様性を受容する素地を作ります。またプレゼンテーションに関する作業（原稿作成・発表・相互評価）を通して、英語で意見を述べる技術の習得を目指します。受講生は担当箇所のみならず課題全体を予習・復習する必要があります。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション　英文読解演習（１）
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の進め方を理解する。
時間外学習の方法を把握する。
論理的な文章を正確に読むために必要なポイントを理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　英文読解演習（２）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
パラグラフの構造を確認する。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英文読解演習（３）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
パラグラフ間の関係を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英文読解演習（４）
【　到達目標　】
パラグラフ間の関係を理解する。
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英文読解演習（５）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの構造を理解する。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英文読解演習（６）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの内容を把握する。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英文読解演習（７）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英文読解演習（８）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの原稿を作成する。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英文読解演習（９）
【　到達目標　】
プレゼンテーションを行う。相互・自己評価も行う。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英文読解演習（１０）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの構造を理解する。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英文読解演習（１１）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの内容を把握する。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英文読解演習（１２）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英文読解演習（１３）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの原稿を作成する。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英文読解演習（１４）
【　到達目標　】
プレゼンテーションを行う。相互・自己評価も行う。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英文読解演習（１５）
【　到達目標　】
論説文・プレゼンテーションを含む授業全体のふり返りを行う。
今後の学習目標を設定する。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、今後も自律的学習を継続させる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

担当箇所のみならず、課題全体の予習・復習を行うこと。
復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。
論説文・プレゼンテーションの課題に関して意見を構築し、発表すること。

【教科書・参考書など】

プリントを配布します。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めません。

【成績評価方法】

原則として、平常点(課題・レポート等)40%、発表20%、試験４0%で評価します。

科 目 名	英語ＥＧＣⅡ			担当者	Mensto Flameling	
英 文 名	English for General Communication Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE204・DLE204・HLE204・CLE204		

【目的とねらい】

This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.

【授業内容・到達目標など】

第１回　Introductions
【　到達目標　】
Previewing the contents and goals of the course

【授業時間外学習】
Preview syllabus(4.0hr)

第２回　Questions about Past Experiences
【　到達目標　】
Practising past tense questions / answers

【授業時間外学習】
Review past tense(4.0hr)

第３回　A Holiday in Florida
【　到達目標　】
Listening in Context

【授業時間外学習】
Preview holiday vocabulary(4.0hr)

第４回　Presentations: Holidays
【　到達目標　】
Discussing a past experience

【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第５回　Countries and Their Kitchens
【　到達目標　】
Practising food-related vocabulary

【授業時間外学習】
Preview food-related vocabulary(4.0hr)

第６回　Locations
【　到達目標　】
Practising location vocabulary

【授業時間外学習】
Preview location vocabulary(4.0hr)

第７回　Presentations: A Country and its Kitchen
【　到達目標　】
Discussing Foreign Countries

【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第８回　The Home
【　到達目標　】
Practising home-related vocabulary

【授業時間外学習】
Preview home-related vocabulary(4.0hr)

第９回　The City
【　到達目標　】
Practising giving / receiving directions

【授業時間外学習】
Preview directions vocabulary(4.0hr)

第10回　Presentations: My Home
【　到達目標　】
Discussing living space

【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第11回　School
【　到達目標　】
Previewing school-related vocabulary

【授業時間外学習】
Preview school-related vocabulary(4.0hr)

第12回　Presentations: School
【　到達目標　】
Discussing School

【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第13回　Reading a Story
【　到達目標　】
Reading comprehension

【授業時間外学習】
Reading Preparation(4.0hr)

第14回　Preparations for Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Previewing the mid-term presentation

【授業時間外学習】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

第15回　Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Course Review

【授業時間外学習】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

【学習上の留意点】

Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!
I.e. This class will be conducted in English.

【教科書・参考書など】

Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press

【成績評価方法】

Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%

科目名	ドイツ語			担当者	藤　由　順　子	
英文名	German Language					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE205・DLE205・HLE205・CLE205		

【目的とねらい】

初級レベルの基礎知識を確実なものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベートの確認

【　到達目標　】

音声的基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。
あいさつやとっさの一言が言える。

【授業時間外学習】

アルファベートの確認をし、文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)

第２回　発音、基本表現、基礎的文法事項の確認

【　到達目標　】

日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。
初めて見る地名や人名を正確に発音できる。

【授業時間外学習】

語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)

第３回　ドイツ語の文構造／自己紹介（1）

【　到達目標　】

「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。
規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、自分について簡単な説明ができる。
例）私は～出身です／専攻しています。

【授業時間外学習】

基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)

第４回　ドイツ語の名詞と、主語となる代名詞を知る

【　到達目標　】

名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。
例）父が／友人に／ピアノを／それは／あなたは／彼は、などを表現できる。

【授業時間外学習】

格変化の表の見方に慣れる。／自分と関連する名詞を調べる。(4.0hr)

第５回　冠詞の役目：不定冠詞、定冠詞、所有冠詞

【　到達目標　】

英語のa, an, the, myと異なる、冠詞の役目を確認する。
「1つの～が」「その～を」「私の～に」等の表現を身につける。

【授業時間外学習】

自分で格変化表を作成してみる。自分の持ち物や身内を表現する。(4.0hr)

第６回　複数形／否定冠詞を使った否定表現

【　到達目標　】

sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを学ぶ。
自分のよく使いそうな単語の複数形を調べて、表現する。
例）私には二人の姉がいる。／靴は3足しかない。

【授業時間外学習】

単数形に戻す練習を重ねる。(4.0hr)

第７回　自己紹介（2）／数詞

【　到達目標　】

簡単な自己紹介ができる。友人や家族のことを表現する。

【授業時間外学習】

簡単な自己紹介文を作成する。(4.0hr)

第８回　人称代名詞

【　到達目標　】

主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。
「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。

【授業時間外学習】

自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)

第９回　前置詞の格支配

【　到達目標　】

状況を説明するフレーズを表現できる。
「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等を言える。

【授業時間外学習】

例文を覚える。(4.0hr)

第10回　助動詞

【　到達目標　】

話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。
例)私は～できる／～したい／～しなければならない。

【授業時間外学習】

自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)

第11回　過去表現　過去形と現在完了形

【　到達目標　】

動詞の三基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）を知る。
現在形と過去形の違いを理解する。
過去形と現在完了形との用法の違いを認識する。

【授業時間外学習】

三基本形の規則性を覚える。(4.0hr)

第12回　疑問文

【　到達目標　】

疑問、質問を相手に行うことができる。
疑問詞疑問文を作ったり、問い合わせをスムーズにするフレーズを使えたりする。

【授業時間外学習】

例文を覚えて、これをアレンジする。(4.0hr)

第13回　時の表現

【　到達目標　】

現在や過去、未来の表現を知る。（昨日、3日前、毎年、4月に、1週間、将来、等）
頻度や回数、継続、曜日を表現する。（頻繁に、5回、10年前からずっと、日曜日には、等）

【授業時間外学習】

自分の部活動や趣味などの活動状況をドイツ語で説明してみる。(4.0hr)

第14回　自己紹介（3）

【　到達目標　】

自分の家族や友人について、これまでより詳しく他者に表現できる。

【授業時間外学習】

家族や友人のことも表現してみる。(4.0hr)

第15回　理解度の確認と補足説明

【　到達目標　】

習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。

【授業時間外学習】

自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)

【学習上の留意点】

半期しかないので、日本で、あるいは外国において自分の言いたいことをドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。そして、発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。理解度確認小テストやレポート課題は返却されましたら、間違いの個所や、指摘されたより適切な表現をしっかり確認するようにして、ドイツ語表現の幅を広げてください。

【教科書・参考書など】

平山・小野・藤由　『お菓子で学ぶドイツ語』朝日出版社
独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。

【成績評価方法】

授業時の発表・課題提出、理解度確認のための小テスト25%、試験結果を75%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。

科目名	フランス語			担当者	山　下　利　枝	
英文名	French					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE206・DLE206・HLE206・CLE206		

【目的とねらい】

はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらう。そのため、フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、フランス語を使う人々の日常的な表現世界を理解し共有することを目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化
【　到達目標　】
(1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「サッカーは世界の共通語」を読む。(4.0hr)

第２回　フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力
【　到達目標　】
(1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。
【授業時間外学習】
プリント「ロワール河の北と南」を読む。(4.0hr)

第３回　日常の表現：挨拶（アルファベ、綴りと発音の関係の復習）
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。コミュニケーションの基礎としての挨拶を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「個性競うセーヌの橋」を読む。(4.0hr)

第４回　日常の表現：自分のことを言う
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。自分を説明できる。
【授業時間外学習】
プリント「魅力あふれる小国モナコ」を読む。(4.0hr)

第５回　日常の表現：相手・第三者のことを言う
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。相手・他人について説明できる。
【授業時間外学習】
プリント「カンヌ映画祭開幕」を読む。(4.0hr)

第６回　まとめと復習①
【　到達目標　】
(1)４・５回のまとめと復習を実施する。
【授業時間外学習】
プリント「日仏マンガ交流」を読む。(4.0hr)

第７回　日常の表現：数、時間、お金
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての数、時間、お金についての表現を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「ストライキ大国フランス」を読む。(4.0hr)

第８回　日常の表現：位置、方向（道を教える・聞く）
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての位置方向についての表現を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「フランスワインの内憂外患」を読む。(4.0hr)

第９回　日常の表現：好き、嫌い、意思、願望
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。好悪や意志や願望についての表現を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「エコ・ライフには自転車を」を読む。(4.0hr)

第10回　日常の表現：非人称構文、天候、時間、義務
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。天候や時間や義務についての表現を学び、日本語と違う非人称の表現を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「文化を生み出すカフェ」を読む。(4.0hr)

第11回　まとめと復習②
【　到達目標　】
(1)７～１０回のまとめと復習を実施する。
【授業時間外学習】
プリント「海洋環境復元にむけて（モン・サン・ミシェル）」を読む。(4.0hr)

第12回　日常の表現：過去形、未来形の基本
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。過去・未来について表現の規則を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「ツール・ド・フランスの勝者」を読む。(4.0hr)

第13回　フランスの映画鑑賞
【　到達目標　】
(1)映画鑑賞を通して、フランス語の世界を具体的に理解する。
【授業時間外学習】
プリント「7月14日は革命記念日」を読む。(4.0hr)

第14回　フランス語の世界を理解するための注目点
【　到達目標　】
(1)フランス語の世界を理解するために、特に注目すべき点を把握する。
【授業時間外学習】
プリント「ミシュランの三ツ星」を読む。(4.0hr)

第15回　総復習
【　到達目標　】
(1)総復習をして、フランス語の世界への理解を深める。
【授業時間外学習】
プリント「空飛ぶ作家サン＝テグジュペリ」を読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習は必要ありません。しっかり復習し、日常的にフランス語に触れること（映画・歌等）。

【実務経験のある教員による授業科目】

語学学校の専任教員としての実務経験を活かし、フランス語の基礎の習得とフランス語圏の歴史・社会・文化についても講義する。

【教科書・参考書など】

「だいじょうぶ！フランス語」（太田浩一・明石伸子著）（白水社）

【成績評価方法】

各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。（試験は試験期間中に別途実施する。）

科目名	中国語			担当者	道　上　峰　史	
英文名	Chinese					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE207・DLE207・HLE207・CLE207		

【目的とねらい】

本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語独特の発音や簡体字に慣れてもらうため、受講生には発音、発声の練習や、基礎的な作文を課します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：中国語について
【　到達目標　】
(1)言語としての中国語の特性を理解する。

【授業時間外学習】
身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。(4.0hr)

第２回　発音の基礎：発音記号と四声
【　到達目標　】
(1)言語としての中国語の音声（発音・リズム）を習得する。

【授業時間外学習】
授業で習った発音を、繰り返し発声する。(4.0hr)

第３回　文字について：中国の簡体字と日本の漢字
【　到達目標　】
(1)中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。

【授業時間外学習】
実際に簡体字を自分で書いてみる。(4.0hr)

第４回　基礎構文（I）：是の構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)是を使った構文を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第５回　基礎構文（I）：是の構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第６回　基礎構文（II）：目的語がある構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)目的語がある構文を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第７回　基礎構文（II）：目的語がある構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第８回　基礎構文（III）：形容詞がある構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)形容詞がある構文を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第９回　基礎構文（III）：形容詞がある構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第10回　基礎構文（IV）：過去形
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)過去形がある構文を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第11回　基礎構文（IV）：過去形の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)過去形がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第12回　作文：自己紹介
【　到達目標　】
(1)自分について紹介する文章を作る。

【授業時間外学習】
自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。(4.0hr)

第13回　作文：日常の表現
【　到達目標　】
(1)日常表現をするための語彙を増やす。

【授業時間外学習】
普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。(4.0hr)

第14回　中国の文化（I）：中国文化と中国語I
【　到達目標　】
(1)中国語の成り立ちと中国文化を理解する。
(2)中国語の語彙を増やす。

【授業時間外学習】
授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)

第15回　中国の文化（II）：中国文化と中国語II
【　到達目標　】
(1)中国文化の中で成長した中国語について理解する。
(2)中国語の語彙を増やす。

【授業時間外学習】
授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義期間中に1度課題を出します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。中国語を用いた会話などを行うことで、中国語を身につけていけるように指導します。それだけでなく、普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。

【教科書・参考書など】

講義用の参考書(講義担当者作成)を準備します。初回のオリエンテーションにて詳細をお伝えします。

【成績評価方法】

授業時の課題が30%、学期末の筆記試験（試験は試験期間中に別途実施）が70%となります。

科目名	コリア語			担当者	李　　貞旼	
英文名	Korean language					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE208・DLE208・HLE208・CLE208		

【目的とねらい】

韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。生活や文化の正確な理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か 【　到達目標　】 (1)言語としての韓国語の特性を理解する。 (2)文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3)ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)	**第９回　日常生活の表現：疑問表現** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時間外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)
第２回　ハングルの発音：基本母音字 【　到達目標　】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)基本母音を習得する。 【授業時間外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)	**第10回　日常生活の表現：否定表現** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)
第３回　ハングルの発音：子音字（１） 【　到達目標　】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)子音（平音・激音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)	**第11回　日常生活の表現：用言の表現（１）** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎の用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その１：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)
第４回　ハングルの発音：子音字（２） 【　到達目標　】 (1)ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)	**第12回　日常生活の表現：用言の表現（２）** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎の用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その２：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)
第５回　ハングルの発音：合成母音字 【　到達目標　】 (1)合成母音を習得する。 【授業時間外学習】子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)	**第13回　日常生活の表現と韓国文化：過去形** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時間外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)
第６回　ハングルの発音：パッチム、挨拶 【　到達目標　】 (1)文字としてのパッチムを習得する。 【授業時間内学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)	**第14回　日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（１）** 【　到達目標　】 (1)韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)
第７回　日本語のハングルの表記 【　到達目標　】 (1)日本語のハングル表記を習得する。 (2)辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時間外学習】日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。(4.0hr)	**第15回　日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（２）** 【　到達目標　】 (1)韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)
第８回　日常生活の表現：肯定表現 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れる（ドラマ・映画・歌、等）ようにすることが語学の上達の上で重要である。ほぼ毎回、各課ごとの応用練習帳の作成及び提出の課題が出される。課題の結果、間違いやすい部分や注意すべき点などに関して、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また、1－2回ほど理解度の確認のため、小テストや中間テストを行う。テスト結果は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞旼）著（白水社）

【成績評価方法】

各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。

科目名	社会のしくみとキャリア形成			担当者	八　田　益　之	
英文名	Social System and Basic Career Development					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE209・DLE209・HLE209・CLE209		

【目的とねらい】

この講義では、主に「ビジネス」の視点から「社会のしくみ」を学ぶ。具体的には、ある課題を解決するプロジェクトを通じて、チームビルディング、情報収集、プランの検討、提案作成、最終成果の発表まで、一続きで実施する予定である。これらの実践を通じて、社会や会社の仕組みの、社会人としての基本スキル、あなた自身のキャリア形成の参考となる考え方などを理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス・「社会におけるスポーツの価値」について 【　到達目標　】 授業受講のためのガイダンスを行う。講義内容のほかに、参加型の講義の基本となる「チームビルディング」についての方針も理解する。 【授業時間外学習】 自分自身の受講目的を明確にする。(4.0hr)	**第９回　収益モデル:お金の回しかた?** 【　到達目標　】 会社経営におけるおカネの仕組みを学ぶ。 【授業時間外学習】 興味のある会社のおカネの仕組みについて調べてみる。(4.0hr)
第２回　「人」の視点からみたビジネス　～「組織」と「チームワーク」について 【　到達目標　】 スポーツにおける「チームワーク」と、ビジネス界における「チームワーク・会社組織」では、共通点は何か、違いは何か。スポーツの経験をどう活かせるのかを考えることができる。 【授業時間外学習】 チームビルディングについて調べてみる。(4.0hr)	**第10回　IT・AI** 【　到達目標　】 現代経済の主役IT、未来の主役AIについて理解する。 【授業時間外学習】 興味のある会社のITの仕組みについて調べてみる。(4.0hr)
第３回　「課題解決」の視点からみたビジネス 【　到達目標　】 ビジネスの基本である「課題解決」について、基本を理解する。 今回の課題解決プロジェクトについて具体的に理解する。 【授業時間外学習】 今回の課題について自ら調べる。(4.0hr)	**第11回　課題解決プロジェクト最終しあげ** 【　到達目標　】 提案内容をチームで最終確認する。 【授業時間外学習】 提案内容のチームでの最終確認をする。(4.0hr)
第４回　ターゲット:誰をHappyにするか? 【　到達目標　】 ビジネスの基本は「相手目線」。誰に対して、どのように役にたつのか? その基本的な考え方を学ぶ。 【授業時間外学習】 「相手目線」と「自分目線」の違いを考える。(4.0hr)	**第12回　最終発表** 【　到達目標　】 チームでの課題解決プロジェクトの、最終成果を発表する。 【授業時間外学習】 提案・発表のふりかえりをする。(4.0hr)
第５回　バリュー:どんな価値を提供できるか? 【　到達目標　】 相手にとって、自分（自社）はいくつものライバルの中の1選択肢でしかない。どのように、自分の価値を明確にすればよいのか？価値についての考え方を学ぶ。 【授業時間外学習】 自分の好きなものの「価値」について考える。(4.0hr)	**第13回　応用：気になる会社の調べ方** 【　到達目標　】 就職活動でも必要になる「企業研究」の基本を理解する。 【授業時間外学習】 興味のある会社の採用情報などを調べてみる。(4.0hr)
第６回　リソース・体制　～どのように価値を提供するか？ 【　到達目標　】 アイデアを決めたら、継続的に実行できるようにする仕組みが必要になる。 そのための会社組織の仕組み、パターンについて学ぶ。 【授業時間外学習】 興味のある会社の裏側の仕組みについて調べてみる。(4.0hr)	**第14回　体育大学で学んだことを社会で活かす** 【　到達目標　】 企業・社会で必要なこととスポーツの共通点と違いについて考えを深める。 【授業時間外学習】 体育大学で学んだことを活かす視点で、自らの強みを考える。(4.0hr)
第７回　説明・プレゼンテーションの基本 【　到達目標　】 物語の構造について理解する。 大人数の前で考えを説明するための基本を理解する。 【授業時間外学習】 チームでの課題解決プロジェクト発表準備をする。(4.0hr)	**第15回　課題解決プロジェクト　他チームの詳細分析** 【　到達目標　】 ライバルに学ぶ～上位入賞チームの提案内容を分析・解説する。 自チームの取り組みをふりかえる。 【授業時間外学習】 授業全体を通して学んだことを復習し、自身を内省する。(4.0hr)
第８回　中間発表 【　到達目標　】 チームでの課題解決プロジェクトの、ここまでの成果を発表する。 【授業時間外学習】 チームでの課題解決プロジェクトのふりかえりをする。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

ビジネス界では、知識は実行してはじめて価値がうまれる。そのリハーサルの意味をこめた参加型の「アクティブ・ラーニング」の形式をとる。実際の仕事のつもりで「友達とは限らない相手とのチーム」を組み、チームに「貢献」し、「成果物」を作り、社会の課題を解決する。これらチーム作業の内容は、講義の中で紹介・解説することで、随時フィードバックしていく。自分が社長になって会社経営するくらいの気持ちで本気で取り組んでほしい。

【教科書・参考書など】

特になし（各講義ごとに提示）。

【成績評価方法】

授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。

科目名	データ分析と統計学			担当者	水　野　有　希	
英文名	Data Analysis and Statistics					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE210・DLE210・HLE210・CLE210		

【目的とねらい】

情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方と統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。

【授業内容・到達目標など】

第１回　統計の心構え、度数分布表とヒストグラム
【　到達目標　】
(1)データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。(4.0hr)

第２回　データの種類・尺度水準
【　到達目標　】
(1)データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（尺度水準）の復習をする。(4.0hr)

第３回　データのばらつきを数値に表すには
【　到達目標　】
(1)ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。(4.0hr)

第４回　散布図と相関、相関係数
【　到達目標　】
(1)散布図を作成し、パターンを理解する。
(2)相関係数の求め方を学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（相関係数）の復習をする。(4.0hr)

第５回 回帰直線
【　到達目標　】
(1)回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（回帰直線）の復習をする。(4.0hr)

第６回　アンケート作成
【　到達目標　】
(1)アンケート作成の基本を学ぶ。

【授業時間外学習】
アンケート項目を考えアンケートを作成する。(4.0hr)

第７回　確率について
【　到達目標　】
(1)確率の意味を復習する。

【授業時間外学習】
提出課題の復習をする。(4.0hr)

第８回　正規分布とその他の分布
【　到達目標　】
(1)どのような分布があるかを学ぶ。
(2)一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
(3)標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。
【授業時間外学習】
提出課題（正規分布）の復習をする。(4.0hr)

第 9回　平均の推定と区間推定
【　到達目標　】
(1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。
(2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（平均の推定）の復習をする。(4.0hr)

第10回　分散の推定と区間推定
【　到達目標　】
(1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。
(2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（分散の推定）の復習をする。(4.0hr)

第11回　t検定（対応あり）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。

【授業時間外学習】
提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。(4.0hr)

第12回　t検定（対応なし）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。

【授業時間外学習】
提出課題（対応のないt検定）の復習をする。(4.0hr)

第13回　カイ二乗検定
【　到達目標　】
(1)仮説検定の考え方を理解する。
(2)カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。(4.0hr)

第14回　分散分析
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、分散分析を理解する。

【授業時間外学習】
提出課題（分散分析）の復習をする。(4.0hr)

第15回　実践課題
【　到達目標　】
(1)実際のデータを使って分析を行います。

【授業時間外学習】
分析方法と表やグラフについて復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解ができるように工夫します。
また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半10分から15分は課題を遂行する時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。

【教科書・参考書など】

講義中に指示します。

【成績評価方法】

ミニ課題（講義中に出すもの)40%、期末試験（試験は試験期間中に別途実施）60%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。

科目名	知の哲学			担当者	宇多村俊介	
英文名	Philosophy of Knowledge					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE111・DLE111・HLE111・CLE111		

【目的とねらい】

この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理知的に解読する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなしていて、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ

【　到達目標　】

哲学的な問いのもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。(4.0hr)

第２回　知の成立条件と定義：必要条件と充分条件

【　到達目標　】

知の古典的な定義を通して、定義の構成と充たすべき要件を理解し、みずからの問題を定義のかたちで明晰に述べることを試みる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第３回　意味と明晰さ：曖昧と漠然

【　到達目標　】

定義の種類と、目的に応じたタイプを弁別して理解し、タイプに応じた適切な定義の満たすべき要件に照らして任意の定義の適切さを批判的に吟味することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第４回　立論の批判的評価の諸段階１：推論の２類型

【　到達目標　】

立論(論証)の構造と、そこに含まれる推論の２つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第５回　立論の批判的評価の諸段階２：問と論駁

【　到達目標　】

対話的な枠組みのなかで立論の目的を理解し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別することができる。立論の目的に照らして、論理的思考の裏面をなす欺瞞的な思考の一形式を分析することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第６回　立論の批判的評価の諸段階３：歪んだ思考

【　到達目標　】

欺瞞的な立論（虚偽）の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第７回　　立論の解剖学：樹形図の方法

【　到達目標　】

複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第８回　知覚経験と認識：現象と実在

【　到達目標　】

知の四つの源泉を把握し、認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を理解して、知覚経験の限界と客観性の諸条件について考察することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第９回　感情：感情と認識

【　到達目標　】

感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を反省的に顧みることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第10回　思考と行為：プラグマティックな意味基準

【　到達目標　】

プラグマティックな意味基準を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第11回　コミュニケーションの哲学：社会的自我

【　到達目標　】

コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第12回　現代の知の諸相１：情報化時代の知

【　到達目標　】

現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と限界について考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第13回　現代の知の諸相２：科学的接近法

【　到達目標　】

問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第14回　現代の知の諸相３：俗悪なものの形而上学

【　到達目標　】

形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第15回　知の主体的責任と知的誠実性

【　到達目標　】

授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

【学習上の留意点】

暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に５～６回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や、解答例のある課題については翌週の解答・解説によって理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが、必ずしも馴染みのない、新しい事柄を学ぶ意欲をもって集中して理解し、実地に適用する心構えでいて下さい。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。

【成績評価方法】

授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	教養としての日本文学			担当者	高　橋　良　久	
英文名	Introduction to Japanese Literature					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE112・DLE112・HLE112・CLE112		

【目的とねらい】

本科目では、「令和」の元号の出典である「万葉集」を取り上げる。上代文学である「万葉集」は、現代の我々の知識や常識、また、感性では読み解けない部分もある。授業では、まず、古代社会の成立および実態を理解することから始まる。そして、その知識をもとに、テーマごとに作品の鑑賞・分析を行い、そのテーマにおける古代人と現代人の捉え方の相違点や共通点を確認する。そうすることで、テーマについて改めて、問題意識を持つとともに、自らのこととして、主体的に現代社会を問い直す視点を獲得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　この授業の目的・ねらい・進め方
【　到達目標　】
教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第２回　上代社会①
【　到達目標　】
上代社会の成立を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第３回　上代社会②
【　到達目標　】
上代社会の実態を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第４回　「万葉集」について
【　到達目標　】
「万葉集」の書誌的情報を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第５回　「呪術」「信仰」がテーマの作品
【　到達目標　】
作品を通して上代における「呪術」「信仰」を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第６回　「儀礼」「儀式」がテーマの作品
【　到達目標　】
作品を通して上代における「儀礼」「儀式」について理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第７回　「恋愛」がテーマの作品①
【　到達目標　】
作品を通して上代における「恋愛」の在り方、かたちを理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第８回　「恋愛」がテーマの作品②
【　到達目標　】
作品を通して上代における「恋愛」の在り方、かたちを理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第９回　「親子」がテーマの作品
【　到達目標　】
作品を通して上代における「親子」の在り方について理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第10回　「人生」がテーマの作品
【　到達目標　】
作品を通して上代における「人生」の捉え方を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第11回　「風土」がテーマの作品①
【　到達目標　】
「風土」が作品にどのように影響しているかを理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第12回　「風土」がテーマの作品②
【　到達目標　】
「風土」が作品にどのように影響しているかを理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第13回　「労働」がテーマの作品
【　到達目標　】
「万葉集」の中の「東歌（あずまうた）」を通して上代における「労働」について理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第14回　「短歌」から「和歌」へ
【　到達目標　】
「万葉集」における「短歌」が、次の時代の平安朝には「和歌」となる背景を理解する。
【授業時間外学習】
授業記録の内容を充実させるため、授業全体を振り返り、加筆や訂正を行う。(4.0hr)

第15回　上代社会と現代社会
【　到達目標　】
上代の社会が現代の我々に問いかけること、教えることなどを通して、これからの社会がどのようにあるべきかを考える。
【授業時間外学習】
授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・万葉集の歌を精読し、作品分析を行う。次回の授業で取り扱う作品を事前に読むのを前提に講義を進める。
・定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施する。定期試験では、持ち込みも認めないので、予め授業で取り上げた作品は全て読み直しておくこと。
・自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。
・「グループ学習」を取り入れる。また、「レスポンスカード」を使用し、理解の深化を図る。

【教科書・参考書など】

教科書　授業時に使用する資料は、こちらで用意する。
参考書　新編日本古典文学全集『源氏物語』（小学館）。他の書籍も授業時に適宜紹介する。

【成績評価方法】

・授業時の提出物(40%):授業の講義記録や作品を読んでの意見等を評価する。
・定期試験(60%):作品、及び授業内容への理解度を評価する。

科目名	音楽の世界			担当者	森　　立子	
英文名	The World of Music					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE113・DLE113・HLE113・CLE113		

【目的とねらい】

世界の様々な音楽を、その様式と文化的背景とを学ぶことにより、より深く理解することを目指す。また、音楽と舞踊の関係にも着目し、様々な時代、地域の例にふれつつ考察を進めていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　序説～人間と音楽

【　到達目標　】

人間は音楽をどのような場面で必要とし、またどのように音楽と関わってきたのか。いくつかの例を基に考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第２回　音階とは何か

【　到達目標　】

音階の概念について学び、（西洋芸術音楽の）調性と音階の関係について理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第３回　様々な音階

【　到達目標　】

様々な種類の音階について学び、それらの音階に基づく音楽を鑑賞して、響きの違いを理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第４回　楽器の分類とその響き（１）

【　到達目標　】

楽器の分類法について学ぶ。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第５回　楽器の分類とその響き（２）

【　到達目標　】

代表的な楽器の音色と、その楽器を使用した楽曲について理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第６回　音楽と「声」

【　到達目標　】

世界の様々な音楽において「声」がどのように活用されているのか、具体的な例を鑑賞しながら学ぶ。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第７回　合唱の諸相

【　到達目標　】

様々な合唱の形態について学び、さらに文化史的視点から合唱とは何かについて考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第８回 祈りの音楽

【　到達目標　】

「祈り」のための音楽にはどのようなものがあるのか､世界各地の例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第９回　童歌の諸相

【　到達目標　】

童歌（わらべうた）にはどのようなものがあるのか。世界各地の例を鑑賞しながら理解するとともに、童歌の社会的機能についても学ぶ。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第10回　祭りと音楽（１）

【　到達目標　】

「祭り」の中で音楽がどのような機能を付与されてきたのか。主に歴史的な視点から考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第11回　祭りと音楽（２）

【　到達目標　】

今日の「祭り」の中で音楽がどのような機能を付与されているのか。実例を観ながら理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第12回　舞曲とは何か

【　到達目標　】

舞曲の種類について学び、その実例を鑑賞しながら、舞曲における音楽と舞踊の関係について理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第13回 音楽と民族的アイデンティティ（１）

【　到達目標　】

民族的アイデンティティーの構築、強化に音楽がどのように用いられてきたのか、歴史的視点から考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第14回　音楽と民族的アイデンティティ（２）

【　到達目標　】

音楽の中に現れる民族性の問題について、具体的な例を鑑賞しながら考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第15回　日本における西洋音楽の受容

【　到達目標　】

日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

【学習上の留意点】

音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。

毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課す。課題に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。なお、ミニ・レポートの内容も成績評価の対象とする。

【教科書・参考書など】

授業の際に随時紹介する。

【成績評価方法】

ミニ・レポート50%、学期末レポート50%の割合で評価する。

科目名	ジェンダー論			担当者	藤　山　　新	
英文名	Gender Issues					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE211・DLE211・HLE211・CLE211		

【目的とねらい】

本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　イントロダクション
【　到達目標　】
(1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。
(2)ジェンダー・ギャップ指数（GGI）を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。
(3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。
【授業時間外学習】授業内容で指示するジェンダー・ギャップ指数のリポートを閲覧し、日本が特に経済と政治の分野で女性の参画が少ない状況を詳細に把握する。(4.0hr)

第２回　フェミニズムの歴史
【　到達目標　】
(1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。
(2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。
【授業時間外学習】授業内容のうち、特に現代のフェミニズムのありかたとその特徴について復習し、理解を定着させる。(4.0hr)

第３回　男女共同参画社会ってなんですか
【　到達目標　】
(1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。
(2)男女共同参画社会に対するバックラッシュの歴史を知る。
(3)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、男女共同参画社会を推進するために、国や自治体でどのような取り組みが行われているかを調べる。(4.0hr)

第４回　セクシュアル・マイノリティの基礎知識
【　到達目標　】
(1)人間の「性」の多様性と多層性について理解する。
(2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。
(3)「マジョリティ＝正常」「マイノリティ＝異常」ではないことを理解する。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように描かれているかを調べる。(4.0hr)

第５回　「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方
【　到達目標　】
(1)「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」の概念を理解する。
(2)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。
(3)性感染症及び性犯罪の実態について知る。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、厚生労働省のWebサイトに掲載されている性感染症に関する情報を閲覧し、正確な知識と情報を得る。(4.0hr)

第６回　実は身近なデートDV
【　到達目標　】
(1)デートDVの構造と実態を理解する。
(2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。
(3)「ピア・サポート」の概要と重要性を理解する。
【授業時間外学習】授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。(4.0hr)

第７回　スポーツ・ジェンダー学という世界
【　到達目標　】
(1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。
(2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。
(3)オリンピックへの女性の参加の歴史について知る。
【授業時間外学習】あらかじめ『よくわかるスポーツとジェンダー』の「Ｉ総論」を自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。(4.0hr)

第８回　女子ボクシングの昨日・今日・明日
【　到達目標　】
(1)日本における女子ボクシングの現状を知る。
(2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。
(3)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。(4.0hr)

第９回　近代スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)「近代スポーツ」の概念を理解する。
(2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。
(3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの歴史とその意義を把握する。
【授業時間外学習】授業内容のうち、「ブライトン宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。(4.0hr)

第10回　保健体育科教育とジェンダー
【　到達目標　】
(1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。
(2)保健体育科教員の男女比の偏りがもたらす問題について理解する。
(3)競技スポーツに偏っている体育のカリキュラムに対するオルタナティブを考える。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、保健体育科教育におけるジェンダー問題を理解し、解決するための方法を検討する。(4.0hr)

第11回　セクシュアル・マイノリティと学校
【　到達目標　】
(1)セクシュアル・マイノリティと学校をめぐる近年の社会的動向を把握する。
(2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。
【授業時間外学習】第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、教員やスポーツの指導者としてセクシュアル・マイノリティ当事者への配慮のありかたを考える。(4.0hr)

第12回　スポーツにおけるセクシュアル・マイノリティ
【　到達目標　】
(1)セクシュアル・マイノリティとスポーツをめぐる世界的な動向を把握する。
(2)スポーツにおけるホモフォビアの存在とその現状を理解する。
(3)MtFトランスジェンダー当事者やDSDs女性のスポーツ参加に伴う課題を知る。
【授業時間外学習】授業内容および『よくわかるスポーツとジェンダー』の「IX性的マイノリティとスポーツ」を参考に、スポーツにおける「公平」とは何かを考察する。(4.0hr)

第13回　メディアとスポーツとジェンダーと
【　到達目標　】
(1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。
(2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。
【授業時間外学習】『データでみるスポーツとジェンダー』の「第7章スポーツメディアとジェンダー」を読み、メディアにおけるジェンダー問題の具体例を理解する。(4.0hr)

第14回　スポーツと人権
【　到達目標　】
(1)スポーツ界特有のセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。
(2)スポーツ界でのハラスメントを防ぐために必要な取組について知る。
【授業時間外学習】授業内容のうち、スポーツ場面におけるセクシュアル・ハラスメントの特徴について復習し、理解を定着させる。(4.0hr)

第15回　日常生活世界に見るジェンダー
【　到達目標　】
(1)家族、就業、政治などの場面で現れるジェンダー問題について理解する。
(2)育児休業の期間や取得率の男女差、育休後の女性の復職率などの実態を知る。
【授業時間外学習】授業内で指示する男女共同参画白書令和2年版（Web版）の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

毎時間ハンドアウトを配布します。授業内容を理解するためには、単なるハンドアウトの穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。また、理解度を確認するためのリアクションペーパーを5回提出してもらいます。リアクションペーパーの内容については、次回の授業で一部を共有し、解説によるフィードバックを行います。

【教科書・参考書など】

教科書　特に指定しない。
参考書は、『よくわかるスポーツとジェンダー』飯田貴子・熊安貴美江・來田享子著（2018）ミネルヴァ書房、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著（2016）八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江著（2013）ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

リアクションペーパー30%、期末試験70%で評価する。
※試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	コンピュータ実践演習			担当者	水　野　有　希	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE212・DLE212・HLE212・CLE212		

【目的とねらい】

会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、データ分析やデータベース操作を身に付けます。

【授業内容・到達目標など】

第１回　情報技術について
【　到達目標　】
(1)情報技術とは何かを理解する。
(2)情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第２回　レポート作成と論文作成の基礎
【　到達目標　】
(1)レポート作成に必要なWordの技術を学ぶ。
(2)長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第３回　プレゼンテーション資料の作成
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションについての技法を学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第４回　クラウドについて
【　到達目標　】
(1)GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。

【授業時間外学習】
アンケート項目を考える。(4.0hr)

第５回　データ収集の実践
【　到達目標　】
(1)GoogleDriveを利用したアンケートの作成方法、集計技術を理解する。

【授業時間外学習】
アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)

第６回　インターネットの仕組みと現状、情報倫理について
【　到達目標　】
(1)インターネットの仕組みを理解する。
(2)インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。
(3)情報についてのマナー、セキュリティー、プライバシー、知的財産権について学ぶ。
【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第７回　Excelの初級
【　到達目標　】
(1)Excelの基本操作と基礎的関数について学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第８回　Excelの上級
【　到達目標　】
(1)Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。
(2)シートの操作について学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第９回　データベースについて
【　到達目標　】
(1)データベースとは何かについて学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第10回　データベースの基本操作
【　到達目標　】
(1)フィルタについて学ぶ。
(2)ピボットの操作について学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第11回　Excelの画面操作と印刷について
【　到達目標　】
(1)画面操作について学ぶ。
(2)印刷の方法について学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第12回　グラフの作成
【　到達目標　】
(1)基本的なグラフについて学ぶ。
(2)複合グラフについて学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第13回　Excelの総復習
【　到達目標　】
(1)第7回から第12回まで学習した内容を総合的に学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第14回　Excelを利用したデータ分析の基礎
【　到達目標　】
(1)Excelの分析ツールを利用して、基本的統計量やヒストグラムの作成を学ぶ。
(2)Excelの分析ツールを利用して、回帰分析を学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第15回　Excelを利用したデータ分析の応用
【　到達目標　】
(1)実際のデータを使いながら、第9回と第10回で学んだデータ分析方法を使い、
どのようなことがいえるのかを理解する。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

1年生に行った情報処理Ⅰ・Ⅱの知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。

【教科書・参考書など】

資料を配付します。

【成績評価方法】

毎回行われるミニ課題（講義中に出すもの)40%、演習課題（第5回,第13回）25%、総復習問題(第15回)35%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。

科目名	人間生活と地球環境			担当者	鈴　木　信　夫	
英文名	Human life and Earth Environment					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE114・DLE114・HLE114・CLE114		

【目的とねらい】

環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。

次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション

【　到達目標　】

「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。

【授業時間外学習】

事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)

第２回　原始地球の環境(1)

【　到達目標　】

原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。

【授業時間外学習】

事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第３回　原始地球の環境(2)

【　到達目標　】

今から６億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。

【授業時間外学習】

ネット等でカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)

第４回　恐竜の絶滅

【　到達目標　】

生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)

第５回　人為圧による野生生物の絶滅

【　到達目標　】

野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやリョウコウバトの絶滅を例に理解する。

【授業時間外学習】

ネット等でドードー・リョコウバト以外の絶滅動物について調べること。(4.0hr)

第６回　酸性雨

【　到達目標　】

酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。(4.0hr)

第７回　水問題

【　到達目標　】

人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)

第８回　温室効果ガス

【　到達目標　】

温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)

第９回　温室効果ガス

【　到達目標　】

中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。

【授業時間外学習】

ネット等で京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。(4.0hr)

第10回　崩れる生態系

【　到達目標　】

外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。

【授業時間外学習】

ネット等で外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。(4.0hr)

第11回　リサイクル法(1)

【　到達目標　】

環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。

【授業時間外学習】インターネットなどでドイツのゴミリサイクルに関する現状（問題点）を調べること。(4.0hr)

第12回　リサイクル法(2)

【　到達目標　】

環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。

【授業時間外学習】

ネット等で自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。(4.0hr)

第13回　リサイクル法(3)

【　到達目標　】

日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。

【授業時間外学習】

ネット等で日本におけるゴミリサイクルの現状（問題点）を調べること。(4.0hr)

第14回　環境監査(1)

【　到達目標　】

環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Manage-ment and Audit Scheme)の意義を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。(4.0hr)

第15回　環境監査(2)

【　到達目標　】

EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。定期的に授業内容に関する小レポートを作成し、授業の理解度を確認する。結果については、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に使用せず、プリントを配布する。

【成績評価方法】

小レポートの達成度を100%として評価する。

科目名	ヨーロッパの文学と文化			担当者	加　賀　岳　彦	
英文名	European Literature and Culture					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE115・DLE115・HLE115・CLE115		

【目的とねらい】

ヨーロッパの文学は、日本をも含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観

【　到達目標　】

授業内容を理解する。

ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第２回　ヨーロッパ文学の源流　ギリシャ神話

【　到達目標　】

ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第３回　ヨーロッパ文学の源流　古典ギリシャ文学①

【　到達目標　】

ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第４回　ヨーロッパ文学の源流　古典ギリシャ文学②

【　到達目標　】

『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第５回　ヨーロッパの古典思想　古典ギリシャ哲学

【　到達目標　】

その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第６回　ユダヤ＝キリスト教①　『旧約聖書』

【　到達目標　】

ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第７回　ユダヤ＝キリスト教②　『新約聖書』

【　到達目標　】

前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第８回　ヨーロッパ中世の文化

【　到達目標　】

ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第９回　ヨーロッパ中世の文学

【　到達目標　】

ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第10回　ルネサンスの文学①

【　到達目標　】

中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何なのかを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第11回　ルネサンスの文学②

【　到達目標　】

前回に続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第12回　宗教改革

【　到達目標　】

宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第13回　ヨーロッパ近代の文学①

【　到達目標　】

宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。主にディケンズの作品を扱う。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第14回　ヨーロッパ近代の文学②

【　到達目標　】

18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第15回　ヨーロッパの現代文学

【　到達目標　】

「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業時に配布するテキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。

【教科書・参考書など】

授業時に資料集を配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。

【成績評価方法】

授業時での課題50%、理解度確認のためのテスト50%で評価する。

科目名	レクリエーションミュージック・合奏			担当者	今　角　夏　織	
英文名	Recreation music (Ensemble)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE116・DLE116・HLE116・CLE116		

【目的とねらい】

高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。

【授業内容・到達目標など】

第１回　楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入
【　到達目標　】
基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。
【授業時間外学習】
楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)

第２回　音楽の形式①/声のアンサンブル
【　到達目標　】
校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。
【授業時間外学習】
校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)

第３回　楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル①
【　到達目標　】
プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。
【授業時間外学習】
楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)

第４回　身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入
【　到達目標　】
前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。
【授業時間外学習】
リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)

第５回　身近なものを使ったアンサンブル③（発表）/リコーダー運指①
【　到達目標　】
グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。
【授業時間外学習】
学習したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)

第６回　音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ①
【　到達目標　】
各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。
【授業時間外学習】
打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)

第７回　楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②（発表）
【　到達目標　】
カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。
【授業時間外学習】
第６回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)

第８回　ボディーパーカッション①/リコーダー運指②
【　到達目標　】
身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで１オクターブの音域を使って演奏する。
【授業時間外学習】
リコーダーの運指を復習する。(4.0hr)

第９回　ボディーパーカッション②
【　到達目標　】
グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。
【授業時間外学習】
第８回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)

第10回　ボディーパーカッション③（発表）/楽譜の基礎知識③
【　到達目標　】
第９回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。
【授業時間外学習】
第９回で取り組んだ内容の復習をする。(4.0hr)

第11回　リコーダー運指③/トーンチャイム導入
【　到達目標　】
リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。
【授業時間外学習】
これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。(4.0hr)

第12回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム①
【　到達目標　】
自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。
【授業時間外学習】
トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)

第13回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー①
【　到達目標　】
トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。
【授業時間外学習】
リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。(4.0hr)

第14回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー②
【　到達目標　】
トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。
【授業時間外学習】
担当するパートの復習をする。(4.0hr)

第15回　リコーダー＆トーンチャイム（発表）
【　到達目標　】
今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。
【授業時間外学習】
第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。
アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。
各回に提出された課題に対してコメントをする形で取り組みに対する評価を行う。

【教科書・参考書など】

適宜楽譜を配布する。

【成績評価方法】

授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。

科目名	スポーツ運動学			担当者	石　塚　　浩	
英文名	Sport Movement Theory					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・必修	専門基礎・選択	専門基礎・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR101		

【目的とねらい】

運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーゼ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　運動技能の構造
【　到達目標　】
運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第２回　技術や戦術と専門的体力の関係
【　到達目標　】
複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第３回　運動技能と発育発達との関係
【　到達目標　】
年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に変化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。

【授業時間外学習】
中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。(4.0hr)

第４回　宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術
【　到達目標　】
武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。

【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)

第５回　戦術に関する要因とその具体例（１）
【　到達目標　】
代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第６回　戦術に関する要因とその具体例（２）
【　到達目標　】
技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)

第７回　技術練習の方法
【　到達目標　】
技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)

第８回　戦術練習の方法
【　到達目標　】
戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)

第９回　運動技能の構造に関する諸要因とその関連性
【　到達目標　】
運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第10回　運動の構造（局面構造に着目して）（１）
【　到達目標　】
運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第11回　運動の構造（リズム構造に着目して）（２）
【　到達目標　】
運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第12回　運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層
【　到達目標　】
運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第13回　運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層
【　到達目標　】
運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第14回　運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層
【　到達目標　】
運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第15回　運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得
【　到達目標　】
運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

【学習上の留意点】

スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。数回のレスポンスカードによる確認を行なう。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。

【教科書・参考書など】

教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）
参考書：「マイネル　スポーツ運動学」K．マイネル著、金子明友訳（大修館書店）
「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）

【成績評価方法】

全体の２０％は数回配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの８０％はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に実施。

科目名	スポーツ原論			担当者	都　筑　　真	
英文名	Principle of Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・必修	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR102		

【目的とねらい】

本講義では、古代から現代に至るまでのスポーツや体育の展開を概観しながら、これまでのスポーツや体育の在り様や諸問題について理解を深めることを目的とする。これまでのスポーツや体育の在り様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育の在り方を考察することをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学習】
参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)

第２回　古代のスポーツ
【　到達目標　】
(1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第３回　中世のスポーツ
【　到達目標　】
(1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第４回　近代のスポーツ①
【　到達目標　】
(1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第５回　近代スポーツ②
【　到達目標　】
(1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第６回　近代オリンピックの創始
【　到達目標　】
(1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解する。
(2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第７回　近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題
【　到達目標　】
(1)戦争、テロ、ボイコットなど近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第８回　体育とスポーツの違いと体育の目的
【　到達目標　】
(1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解する。
(2)体育は何を目的として行われているのかを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第９回　体育の理念の変遷
【　到達目標　】
(1)体育の理念の変化と、体育において求められる人間像の変化について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第10回　社会変化と今後の体育
【　到達目標　】
(1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、今後の体育の在り方について考察する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第11回　スポーツのグローバリゼーションとナショナリズム
【　到達目標　】
(1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を踏まえ、この現象がもたらす長所や問題点について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第12回　スポーツと政治
【　到達目標　】
(1)スポーツ界が掲げる「政治のスポーツへの不介入」という理想と現実の乖離について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第13回　スポーツとドーピング
【　到達目標　】
(1)スポーツ界におけるドーピング問題とアンチ・ドーピングの取り組みを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第14回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)スポーツ界における男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解する。
(2)性の多様な在り方が引き起こす問題について考察する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第15回　「スポーツ・フォー・オール」運動
【　到達目標　】
(1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。

【成績評価方法】

講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	スポーツ生理学			担当者	星　川　佳　広	
英文名	Sport Physiology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR103		

【目的とねらい】

私たちの身体の諸機能のうち、スポーツ・ダンスなど身体運動と関係が深い神経系、筋系、呼吸系、循環系、内分泌系、体温調節などについて、その生理学的な仕組みの基礎を学ぶ。運動に対して身体がどのように応答するか、またそれを繰り返す（＝トレーニング）と身体はどのように変化するかについて、生理学的に理解する基礎を作る。

第１回　スポーツ生理学とは何か

【　到達目標　】

スポーツ生理学の概要と本講義における学習到達目標を理解する。

【授業時間外学習】配布資料､教科書に基づきスポーツ生理学の概要を復習する｡教科書第1章の予習をする。(4.0hr)

第２回　スポーツと骨格筋・神経①

【　到達目標　】

骨格筋・神経の解剖、生理について理解を深め、運動発現とその調節の仕組みについて理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。(4.0hr)

第３回　スポーツと骨格筋・神経②

【　到達目標　】

神経系からの指令を受けた筋が収縮し運動が発現する仕組みを理解する。特に筋線維組成について理解する。また、脳機能についても扱う。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。(4.0hr)

第４回　スポーツとエネルギー供給機構

【　到達目標　】

エネルギーを生み出す仕組みとその種類について理解し、トレーニングに応用できる。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第2章の予習をする。(4.0hr)

第５回　スポーツと呼吸①

【　到達目標　】

運動時の呼吸機能の変化と調節機構について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。(4.0hr)

第６回　スポーツと呼吸②

【　到達目標　】

最大酸素摂取量、最大酸素借について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。(4.0hr)

第７回　スポーツと循環①

【　到達目標　】

循環系の解剖、生理について理解を深め、運動時の変化について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。(4.0hr)

第８回　スポーツと循環②

【　到達目標　】

運動中の心臓応答、トレーニングに利用できる心拍数の変化について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。(4.0hr)

第９回　スポーツと代謝、栄養①

【　到達目標　】

異化と同化、運動中のエネルギー基質利用について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。(4.0hr)

第９回　スポーツと代謝、栄養②

【　到達目標　】

運動に関係する栄養成分の働きと特性の基礎を理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。(4.0hr)

第11回　スポーツと内分泌・ストレス

【　到達目標　】

運動時の呼吸、循環機能変化やエネルギー消費を調節する内分泌系について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第6章の予習をする。(4.0hr)

第12回　スポーツと体組成

【　到達目標　】

体組成の概念とトレーニング効果について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第10章の予習をする。(4.0hr)

第13回　スポーツと発育発達

【　到達目標　】

身体サイズの発育および諸機能の発達について概要を理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第11章の予習をする。(4.0hr)

第14回　スポーツと体温調節

【　到達目標　】

体温調節の仕組みとパフォーマンスへの影響について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第12章の予習をする。(4.0hr)

第15回　スポーツと身体不活動

【　到達目標　】

運動不足や身体不活動が及ぼす身体諸機能への影響を理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教科書と図表スライドを用いて講義内容の要点を示し、口頭および板書にて詳細を説明する。ほぼ毎時間、講義内容に関する提出物がある。適宜、理解度テストを行い、授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「スポーツ生理学」　冨樫健二編、化学同人

【成績評価方法】

定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)50%、理解度テスト20%、提出物30%で評価する。なお、良好な出席状況は、当然の前提である。

科目名	機能解剖学			担当者	永　野　康　治	
英文名	Functional Anatomy					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・必修	専門基礎・必修	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR104		

【目的とねらい】

本講義の目的は骨格と各関節の構造、特徴、運動、および筋の走行、機能を学び、身体の動きを関節運動と筋肉の働きから理解することである。本講義のねらいは、体育・スポーツに関わる者として、身体の構造や動きを骨格や筋機能の面から理解することで、自らのスポーツ活動におけるパフォーマンス向上や怪我の予防に生かし、さらには運動を指導する立場において効率的な評価、処方、指導ができるようになることである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　機能解剖学概論（機能解剖学の基礎）
【　到達目標　】
(1)機能解剖を学ぶうえで必要な基礎事項や用語の定義を説明できる。
(2)全身の骨格を概観し、全身の骨の名称とその位置を同定できる。
【授業時間外学習】
全身の骨の名称とその位置を覚える。(4.0hr)

第２回　上肢の骨格1：鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨
【　到達目標　】
(1)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の骨の形状を図示できる。
(2)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第３回　上肢の骨格2：尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨
【　到達目標　】
(1)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の骨の形状を図示できる。
(2)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第４回　下肢の骨格1：寛骨、大腿骨、膝蓋骨
【　到達目標　】
(1)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の骨の形状を図示できる。
(2)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
寛骨、大腿骨、膝蓋骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第５回　下肢の骨格2：脛骨、腓骨、足根骨
【　到達目標　】
(1)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の骨の形状を図示できる。
(2)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
脛骨、腓骨、足根骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第６回　体幹の骨格1：脊柱、頚椎
【　到達目標　】
(1)体幹(脊柱、頚椎)の骨の形状を図示できる。
(2)体幹(脊柱、頚椎)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)体幹(脊柱、頚椎)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
脊柱、頚椎の特徴を覚える。(4.0hr)

第７回　体幹の骨格2：胸椎、腰椎、仙骨、肋骨
【　到達目標　】
(1)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の骨の形状を図示できる。
(2)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】胸椎、腰椎、仙骨、肋骨の特徴を覚える。骨格についての復習課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　関節の構造と関節運動　概論
【　到達目標　】
(1)関節の大まかな構造と種類を説明できる。
(2)関節運動の定義と実際の運動を結びつける。
(3)肩甲上腕関節を例に、関節の構造と運動を説明できる。
【授業時間外学習】
各関節運動と実際の運動を一致させて覚える。(4.0hr)

第９回　関節の構造と関節運動　上肢1
【　到達目標　】
(1)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肩甲胸郭関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第10回　関節の構造と関節運動　上肢2
【　到達目標　】
(1)肘関節、前腕、手関節、指節間関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肘関節、前腕、手関節、指節間関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肘関節、前腕、手関節、指節間関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第11回　関節の構造と関節運動　下肢1
【　到達目標　】
(1)股関節、脛骨大腿関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肘関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肘関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第12回　関節の構造と関節運動　下肢2
【　到達目標　】
(1)膝蓋大腿関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第13回　関節の構造と関節運動　下肢3
【　到達目標　】
(1)足関節、足部を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)足関節、足部の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)足関節、足部の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第14回　関節の構造と関節運動　体幹1
【　到達目標　】
(1)脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)頚部、胸腰部の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)や構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第15回　関節の構造と関節運動　体幹2
【　到達目標　】
(1)胸郭(肋椎関節)を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)(呼吸)胸郭運動の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)胸郭の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業開始時にその日の内容に関するクイズを出題するので積極的に参加し、基礎知識を確認する。授業は配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。その際に使用したプレゼンテーション資料はWeb上に公開するので、復習に用いること。授業の中盤、および終了時に理解度確認テストを行い内容を整理する。また、復習用の課題を1、7、13回目にし、課題に取り組むことで知識の定着を図る。その際の回答、質問はWeb上から入力し、授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書：特に指定しない
参考書：筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)
　　骨・関節・筋肉の構造と動作のしくみ(ナツメ社)

【成績評価方法】

課題　20%
期末試験（試験は試験期間中に別途実施）80%

科目名	体操Ⅰ			担当者	佐藤麻衣子・中澤　歩	
英文名	Gymnastic Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBR105		

【目的とねらい】

中学校と高等学校の学習指導要領では７つの運動・スポーツ領域が提示されているが、その中で「体つくり運動」は、唯一、全ての学年で実施する最重要領域である。それは「体力を高める運動」と「体ほぐし運動」に大別されるが、本授業では「自己の体に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動」とされる後者の適正な実施法の習得を主目的とし、適宜、指導法についても解説する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　長なわとび　課題Ⅰ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
運動効果を理解することが出来る。また持ち手の技術、怪我に対する注意点を熟知する。更に用具の用途が理解出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第２回　長なわとび　課題Ⅱ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
1本のなわのバリエーション（向かえ縄・かぶり縄）の技術に加え連続で跳ぶ過程で体力を高める運動効果を理解出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第３回　長なわとび　課題Ⅲ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
2本のなわのバリエーション（2本のなわを複数で同時に跳ぶ）技術を習得する課程で巧緻性を身につけることが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第４回　長なわとび　課題Ⅳ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
3本のなわのバリエーションを連続で跳ぶ課程でその技術を習得し、更に巧緻性・体力を高める運動を理解することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第５回　長なわとび　課題Ⅴ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
これまでの課題及び、それらを指導することが出来る。更になわの持ち手に必要な技術を習得し、指導することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第６回　リズム体操　課題Ⅰ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
運動の効果を理解する。また、ダンスと体操の異なる点を理解することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第７回　リズム体操　課題Ⅱ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
スローテンポの課題曲に合わせ、緩やかでかつ正確な動きを創作・実施することで体をほぐす運動を理解することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第８回　リズム体操　課題Ⅲ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
課題曲に合わせ、緩やかでかつ正確な体操を、動きを止めず正確に説明することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第９回　リズム体操　課題Ⅳ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
課題曲に合わせた正確でかつ、緊張緩和を有する体操の模範及び「体ほぐし運動」を理解することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第10回　リズム体操　課題Ⅴ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
課題曲に合わせた正確でかつ、緊張緩和を有する体操の模範及び「体ほぐし運動」を指導することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第11回　隊形の変化　課題Ⅰ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
資料（図）から課題「隊形の変化」に関する運動効果を理解することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第12回　隊形の変化　課題Ⅱ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
課題「隊形の変化」を号令に合わせ、正確に実施することが出来る。更に仲間との協調性について理解することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第13回　隊形の変化　課題Ⅲ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
音楽に合わせた課題「隊形の変化」を、正しく実践することが出来る。
更に課題の目的である律動的という意味合いを理解することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第14回　隊形の変化　課題Ⅳ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
グループを編成し、選択した音楽に合わせた課題「隊形の変化」を実施し、更に上肢、下肢の動きを完成することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

第15回　隊形の変化　課題Ⅴ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
完成度の高い課題「隊形の変化」を発表することが出来る。更にそれを指導することが出来る。

【授業時間外学習】
15回分の授業について､内容とその効果をレポートして提出する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実技にふさわしい服装で受講すること。（肩に髪の毛がつく学生は結ぶこと）なわとびの課題の際にはインシューズを用意すること。

【教科書・参考書など】

プリント資料を配付する。

【成績評価方法】

リズム体操（実技試験）50%、隊形の変化（発表）20%、レポート30%で評価する。

科目名	器械運動Ⅰ			担当者	小海　隆樹・佐藤麻衣子 森井　大樹	
英文名	Apparatus Exercise Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBR106		

【目的とねらい】

達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　マット運動の基礎技能
【　到達目標　】
(1)器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。
(2)マット運動の基礎技能の習熟を図る。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第２回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）①
【　到達目標　】
(1)倒立の基礎知識・技能を習得する。
(2)前転、後転の基礎知識・技能を習得する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第３回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）②
【　到達目標　】
(1)倒立の静止技能および歩行技能を習得する。
(2)前転、後転の変形技を習得する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第４回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）③
【　到達目標　】
(1)倒立前転の技能を習得する。
(2)伸膝後転の技能を習得する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第５回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）④
【　到達目標　】
(1)倒立前転の技能テスト
(2)伸膝後転の技能テスト
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第６回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）①
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。
(2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第７回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）②
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転の技能を習得する。
(2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第８回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）③
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転の技能テスト
(2)ハンドスプリングの技能を習得する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第９回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）④
【　到達目標　】
(1)ハンドスプリングの技能テスト
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第10回　とび箱運動（反転系の技の基礎技能）
【　到達目標　】
(1)反転系の技の基礎知識・技能を習得する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第11回　とび箱運動（反転系の技・開脚とび）
【　到達目標　】
(1)開脚とびの技能を習得する。
(2)開脚とびの技能テスト
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第12回　とび箱運動（反転系の技・閉脚とび）
【　到達目標　】
(1)閉脚とびの技能を習得する。
(2)閉脚とびの技能テスト
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第13回　鉄棒運動（支持回転系の技）①
【　到達目標　】
(1)鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第14回　鉄棒運動（支持回転系の技）②
【　到達目標　】
(1)支持回転系の技の技能を習得する。
(2)支持回転系の技能テスト
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第15回　課題の達成度と身体知
【　到達目標　】
(1)技の習得に必要な身体知について理解する。
(2)達成できた動きの身体知について理解する。
【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

【学習上の留意点】

課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらためて動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。

【教科書・参考書など】

＜参考書＞
「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店）

【成績評価方法】

課題技の達成度　100%

科目名	陸上競技Ⅰ			担当者	石塚　浩・大橋　祐二 中野　美沙	
英文名	Track and Field Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBR107		

【目的とねらい】

陸上競技は走・跳・投運動による最大達成を競う種目である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験することと、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業内容の説明（採点表）

【　到達目標　】

100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第２回　100m走の走り方：中間疾走

【　到達目標　】

短距離走の走り方として、中間疾走を行う中で、まず支持局面を意識して実践してみる。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第３回　クラウチングスタートのしかた

【　到達目標　】

自分にあったクラウチングスタートの方法を身につける。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第４回　スタート～加速のしかた

【　到達目標　】

クラウチングスタートからトップスピードを作り出す加速局面で、問題点を把握してその改善を図る。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第５回　スタート、加速疾走、中間疾走

【　到達目標　】

100m走記録測定の準備として、100mという距離を走る体験をする。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第６回　100m走記録測定

【　到達目標　】

100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第７回　走り幅跳びの基本技術とルール

【　到達目標　】

走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術及びルールを身につける。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第８回　短助走跳躍

【　到達目標　】

短助走跳躍を実践する中で、自分にあった効果的な踏み切り技術を探り当てる。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第９回　全助走跳躍

【　到達目標　】

自分におおよその助走距離を見つけ、同時に踏み切り板に足が合う正確な距離を見つけ出す。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第10回　走り幅跳び記録測定１

【　到達目標　】

走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第11回　走り幅跳び記録測定２

【　到達目標　】

前回の達成距離を更新するために、改善点を見つけ出しより高いレベルにチャレンジする。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第12回　砲丸投げの基本技術とルール

【　到達目標　】

砲丸投げの基本技術であるつき出し動作のドリルを実習することによって、つき出しの動き方を確認する。同時に、砲丸投げのルールを理解する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第13回　メディシンボールによるつき出し

【　到達目標　】

メディシンボールによるつき出し、砲丸を用いてのつき出しを繰り返し行うことによって、合理的なつき出し動作を身につける。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第14回　ホップ、グライドからの投げ

【　到達目標　】

つき出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第15回　砲丸投げ記録測定

【　到達目標　】

砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み､これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

【学習上の留意点】

過去の運動経験を生かし、より高いレベルの記録を達成するようにして欲しい。そのためには、陸上競技の専門性を理解し、その中で自分の運動経験を生かすようにすることが必要である。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）

【成績評価方法】

各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。

科目名	水泳Ⅰ			担当者	北川　幸夫・山川　啓介 兵藤　洋樹	
英文名	Swimming Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBR108		

【目的とねらい】

水の特性に慣れることからはじめ、４種目泳法の各種技術練習を通して水泳の基本技能を修得すると共に、水泳運動の学習方法を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　水慣れ
【　到達目標　】
水に入る、浮く、沈む、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ等を通して、水の特性に慣れる。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第２回　けのび、グライダー姿勢、クロールの導入
【　到達目標　】
正しいけのびの型を理解し、修得する。グライダー姿勢を理解し、修得する。クロールのバタ足を修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第３回　クロールの泳法実習
【　到達目標　】
クロールのキックおよびストロークを修得する。
クロールの呼吸法を修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第４回　クロールの泳法実習と背泳ぎの導入
【　到達目標　】
クロールにおいて随時呼吸を行い、正しいフォームを修得する。
背泳ぎの導入としての背浮きを修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第５回　背泳ぎの泳法実習
【　到達目標　】
背泳ぎのキックおよびストロークを修得する。
背泳ぎの呼吸法を修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第６回　クロールと背泳ぎの完成
【　到達目標　】
クロールおよび背泳ぎについて、競技規則に則った正しいフォームを完璧に修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第７回　平泳ぎの導入と泳法実習
【　到達目標　】
平泳ぎのキックを修得する。
あおり足とかえる足の違いを理解する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第８回　平泳ぎの泳法実習とバタフライの導入
【　到達目標　】
平泳ぎのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。
バタフライのキックを修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第９回　バタフライの泳法実習
【　到達目標　】
バタフライの呼吸法を修得する。
バタフライのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第10回　平泳ぎとバタフライの完成
【　到達目標　】
平泳ぎおよびバタフライにおいて、競技規則に則った正しいフォームを完璧に修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第11回　周辺技術（スタートおよびターン）の修得①
【　到達目標　】
水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。
クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第12回　周辺技術（スタートおよびターン）の修得②
【　到達目標　】
水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。
クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第13回　４泳法のまとめとクロールのトレーニング
【　到達目標　】
４泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。
100mクロールに向けたトレーニングを行う。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第14回　４泳法のまとめと平泳ぎのトレーニング
【　到達目標　】
４泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。
100m平泳ぎに向けたトレーニングを行う。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

第15回　100mクロールおよび100m平泳ぎの確認
【　到達目標　】
100mクロールおよび100m平泳ぎを泳ぐ。

【授業時間外学習】
授業内容に関わる書籍に目を通し、更に理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリー系の着用は不可とする。
水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。そのため、実習への参加に際し、健康状態に配慮することが必要である。

【教科書・参考書など】

「水泳指導教本」　財団法人日本水泳連盟編、大修館書店
「基礎からの水泳」　柴田義晴著、ナツメ社

【成績評価方法】

１.泳法試験（70%）、２.クロールおよび平泳ぎの泳力試験（30%）とする。
評価は、上記に加えて授業における課題達成度を含め、総合的に判定する。

科目名	バスケットボールⅠ			担当者	佐々木直基・橋本　早予 茂泉　圭治	
英文名	Basketball Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBR109		

【目的とねらい】

バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。2年次履修のバスケットボールⅡ、スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・バスケットボール）では、本実習で習得したことが適用される。したがって、習得した個人技術、グループ・チーム戦術を応用できるための基礎作りが本実習のねらいとなる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のねらいと進め方
【　到達目標　】
(1)授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。
(2)導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第２回　基礎的な個人技術　コントロール
【　到達目標　】
(1)ボディコントロール（フットワークとハンドワークを含む）の技術を理解し、習得する。
(2)ボールコントロール（ボールハンドリング）の技術を理解し、習得する。
(3)ミニゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第３回　基礎的な個人技術　ワンハンドシュート①
【　到達目標　】
(1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。
(2)ミニゲームを実践する。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第４回　基礎的な個人技術　セットシュートとジャンプシュート
【　到達目標　】
(1)セットシュートとジャンプシュートの違いを理解する。
(2)セットシュートとジャンプシュートそれぞれの技術を習得する。
(3)ミニゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第５回　基礎的な個人技術　パスとキャッチ
【　到達目標　】
(1)ボールキャッチの技術を習得する。
(2)いろいろなパスの技術を習得する。
(3)ミニゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第６回　基礎的な個人技術　レイアップシュート①
【　到達目標　】
(1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。
(2)ミニゲームを実践する。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第７回　基礎的な個人技術　ドリブル
【　到達目標　】
(1)ドリブルのチェンジ･オブ･ディレクションの技術を習得する。
(2)ドリブルのチェンジ･オブ･ペースの技術を習得する。
(3)ミニゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第８回　基礎的な個人技術　リバウンド
【　到達目標　】
(1)オフェンスリバウンドの技術を習得する。
(2)ミニゲームを実践する。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第９回　基礎的な個人技術　フリースロー①
【　到達目標　】
(1)ゲームの中でフリースローが起こる状況について理解する。
(2)フリースローの技術を習得する。
(3)ゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第10回　グループ戦術　パス＆ラン
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としてのパス＆ランの原則を理解する。
(2)パス＆ランのグループ戦術を習得する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第11回　チーム戦術　ドライブ＆合わせ
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としての１対１（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解する。
(2)ドライブ＆合わせのグループ戦術を習得する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第12回　基礎的な個人技術　ワンハンドシュート②
【　到達目標　】(1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。
(2)いろいろなワンハンドシュート（フック系・フローター系）の技術を実践する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
(4)ルールを理解する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第13回　基礎的な個人技術　レイアップシュート②
【　到達目標　】(1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。
(2)いろいろなレイアップシュート(バックシュート系・ステップの変化)の技術を実践する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
(4)ルールを理解する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第14回　基礎的な個人技術　フリースロー②
【　到達目標　】(1)フリースローの技術を習得する。
(2)ゲームの状況下でのフリースローを実践する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
(4)ルールを理解する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第15回　スキルの総合的検証
【　到達目標　】
(1)本実習で習得した基礎的な個人技術ができる。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習の授業となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリー類は決して身につけない。また、ナンバリング（ゼッケン）を一人ずつ購入し、授業時には必ず着用する。本実習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。

【教科書・参考書など】

参考書
「バスケットボール指導教本改訂版　上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）

【成績評価方法】

平常授業での到達目標に対する到達度を70%、スキルテストを30%として評価する。

科目名	バレーボールⅠ			担当者	湯澤　芳貴・安田　　貢 ﾖｰｺ･ｶﾘﾝ･ｾﾞｯﾀｰﾗﾝﾄﾞ	
英文名	Volleyball Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBR110		

【目的とねらい】

バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営についても学ぶことも目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　バレーボールの歴史と発展 【　到達目標　】 (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)	**第９回　ゲームの進め方・ルール・審判法の理解** 【　到達目標　】 (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)
第２回　基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) 【　到達目標　】 (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)	**第10回　ゲーム実践Ⅰ** 【　到達目標　】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)
第３回　基礎技能の応用(各種レシーブ・トス) 【　到達目標　】 (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換していろいろな方向へコントロールできる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)	**第11回　ゲーム実践Ⅱ** 【　到達目標　】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)
第４回　基礎技能の習得Ⅱ(サーブ) 【　到達目標　】 (1)アンダーハンドサーブ、フローターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)	**第12回　個人技能の評価方法と技能修正方法** 【　到達目標　】 (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)
第５回　基礎技能の習得Ⅲ(スパイク) 【　到達目標　】 (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)	**第13回　バレーボールのポジションとその役割の理解** 【　到達目標　】 (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)
第６回　集団技能の理解と集団での技術・戦術 【　到達目標　】 (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)	**第14回　ゲーム実践Ⅲ** 【　到達目標　】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)
第７回　基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃) 【　到達目標　】 (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)	**第15回　ゲーム実践Ⅳ** 【　到達目標　】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)
第８回　基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション) 【　到達目標　】 (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)	

【学習上の留意点】

実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリー類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。

不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。

科目名	女性のライフステージと運動			担当者	沢　井　史　穂	
英文名	Life Stage and Physical Activity of Women					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・必修		専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR201		

【目的とねらい】

ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について考える。

また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深める。そして、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義や価値を考える。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション　女性と運動
【　到達目標　】
(1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動について考える。

【授業時間外学習】
メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどうとらえているかを調べる。(4.0hr)

第２回　女性のスポーツ参加の変遷
【　到達目標　】
(1)社会環境の変化にともなう女性のスポーツ参加の変遷を理解する。

【授業時間外学習】女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心を持ち、参加したり観戦したりする。(4.0hr)

第３回　女性のスポーツ参加の現状
【　到達目標　】
(1)成長期及び成人期女子の身体活動量、スポーツ参加率の現状を知り、改善策を考える。

【授業時間外学習】
スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。(4.0hr)

第４回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（幼児期）
【　到達目標　】
(1)幼児期の身体特性と運動との関わりについて理解する。
(2)現代の生活環境が幼児の健康に及ぼす影響について考える。

【授業時間外学習】
幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第５回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（発育発達期）
【　到達目標　】
(1)発育発達期における女子の身体特性と運動との関わりについて理解する。

【授業時間外学習】
発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第６回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（成人期）
【　到達目標　】
(1)現代の若い女性が抱える様々な健康問題と運動との関わりについて理解する。

【授業時間外学習】
若い女性の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第７回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（中高年期）
【　到達目標　】
(1)中高年女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について考える。
(2)肥満、メタボリックシンドローム、生活習慣病、うつの予防としての運動の効果について理解する。
【授業時間外学習】
中高年の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)

第８回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（老年期）
【　到達目標　】
(1)加齢にともなう身体機能の低下に応じた運動について理解する。
(2)高齢者の運動実施における留意点について理解する。

【授業時間外学習】
高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)

第９回　女性の性機能と運動の関わり（女性ホルモンの働きと性周期）
【　到達目標　】
(1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱った内容を整理し、復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第10回　女性の性機能と運動の関わり（月経と運動）
【　到達目標　】
(1)月経周期、月経前症候群（PMS）、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について考える。

【授業時間外学習】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第11回　女性の性機能と運動の関わり（妊娠・出産と運動）
【　到達目標　】
(1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解する。
(2)妊娠期および産褥期における運動への取り組み方について理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第12回　女性の性機能と運動の関わり（更年期障害と運動）
【　到達目標　】
(1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解する。
(2)更年期女性にとっての運動の効果について理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第13回　女性アスリートの健康問題
【　到達目標　】
(1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題（月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等）について理解を深める。

【授業時間外学習】
女性アスリートの健康問題に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第14回　体格・身体組成・体力・運動能力における性差
【　到達目標　】
(1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解する。

【授業時間外学習】
運動場面で見られる性差について整理し、復習する。(4.0hr)

第15回　女性スポーツの展望
【　到達目標　】
(1)これからの女性とスポーツとの関わりについて、競技力向上、健康体力づくり、生きがいづくり等、様々な視点から、その意義と価値について考える。

【授業時間外学習】
授業の内容を復習し、自分自身の運動とのかかわり方について考え、行動する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。図表を多く引用するので、その意味するところを読み取り、そこから何がわかるかを考えることに重点をおく。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら進めていくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。また、授業内で取り上げるテーマに応じて、適宜、視聴覚教材などを使用し、その内容に関する理解度と考察力を確認するためのレポートを作成する。その結果は、授業の中でフィードバックする。

【教科書・参考書など】

特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

授業内での課題達成度30%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)70%で評価する。

科目名	スポーツ栄養学			担当者	古　泉　佳　代	
英文名	Sports Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・必修			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR202		

【目的とねらい】

日常の食生活が体格や健康状態に影響を及ぼすこと、すなわちウェイトコントロール、骨密度の増加、貧血予防などには日常生活において食事をしっかり摂ることが重要であることに気付く。そして栄養摂取と代謝のメカニズムを理解する。またスポーツ選手の身体組成とその評価法、競技特性と食事計画、水分補給、試合に向けた食事調整法、サプリメントとエルゴジェニックエイドなどを理解し、自らの競技力向上に役立たせるとともに、指導者としての能力を養う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)「勝つための食事」について考えることができる。
(2)「食」とスポーツの関係を考えることができる。

【授業時間外学習】
一日の食事を見直す。(4.0hr)

第２回　栄養バランスの評価①
【　到達目標　】
(1)栄養バランスの評価方法を理解する。
(2)自分の一日の食事の栄養バランスを評価できる。

【授業時間外学習】
一日の食事の栄養バランスを見直す。(4.0hr)

第３回　栄養バランスの評価②
【　到達目標　】
(1)期分けによる食事の違いに気付く。
(2)様々な状況下での食事を考えることができる。

【授業時間外学習】
一日の食事の栄養バランスを見直す。(4.0hr)

第４回　活動と栄養
【　到達目標　】
(1)身体活動とエネルギーの関係について理解する。
(2)「基礎代謝量」について説明できる。
(3)「食事摂取基準」について説明できる。
【授業時間外学習】
教科書を見ながら様々な年代、性別の「基礎代謝量」を算出する。(4.0hr)

第５回　からだづくりとウェイトコントロール①炭水化物
【　到達目標　】
(1)糖質及び食物繊維の種類を理解する。
(2)「糖質エネルギー比」について説明できる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)

第６回　からだづくりとウェイトコントロール②炭水化物
【　到達目標　】
(1)炭水化物の種類と吸収の関係を理解できる。
(2)炭水化物の摂取方法について考えることができる。
(3)グリコーゲンローディングを説明できる。
【授業時間外学習】
教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)

第７回　からだづくりとウェイトコントロール③ビタミン
【　到達目標　】
(1)ビタミンの特徴を説明できる。
(2)食事におけるビタミンB群の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながらビタミンB群の摂取を意識した献立を考える。(4.0hr)

第８回　からだづくりとウェイトコントロール④脂質
【　到達目標　】
(1)脂質の代謝を理解する。
(2)「脂質エネルギー比」について説明できる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながら脂質の調理法を意識した献立を考える。(4.0hr)

第９回　からだづくりとウェイトコントロール⑤たんぱく質
【　到達目標　】
(1)アミノ酸価を算出し、たんぱく質の質を理解できる。
(2)たんぱく質の代謝を理解できる。
(3)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。
【授業時間外学習】
教科書を見ながらたんぱく質の質と量を意識した献立を考える。(4.0hr)

第10回　からだづくりとウェイトコントロール⑥ミネラル
【　到達目標　】
(1)ミネラルの種類、体内での働き及び代謝を理解する。
(2)貧血のアセスメントを理解し、予防方法を考えることができる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながら鉄の量を意識した献立を考える。(4.0hr)

第11回　エネルギー摂取と消費からダイエットを考える①
【　到達目標　】
(1)体重の増減とエネルギー消費と摂取の関係を理解できる。
(2)様々な身体組成の測定方法の長所と短所に気付く。

【授業時間外学習】
身体組成の測定をする。(4.0hr)

第12回　エネルギー摂取と消費からダイエットを考える②
【　到達目標　】
(1)エネルギー消費量を把握する方法を説明できる。
(2)運動強度と時間の関係を理解できる。
(3)一日のエネルギー消費量を算出できる。
【授業時間外学習】
運動強度を意識した生活を考える。(4.0hr)

第13回　エネルギー摂取と消費からダイエットを考える③
【　到達目標　】
(1)女性アスリートの三主徴の関係を説明できる。
(2)エネルギー有用性を理解できる。
(3)摂食障害について理解できる。
【授業時間外学習】
教科書を見ながら適切な量を意識した食事を考える。(4.0hr)

第14回　エネルギー摂取と消費からダイエットを考える④
【　到達目標　】
(1)運動時の水分補給について理解する。
(2)飲み物について多面的に考えることができる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながら適切な糖度を意識した水分補給を考える。(4.0hr)

第15回　エネルギー摂取と消費からダイエットを考える⑤
【　到達目標　】
(1)サプリメントとエルゴジェニックエイドの特徴を理解する。
(2)食事、食品の安全性に関する様々な視点を理解する。

【授業時間外学習】サプリメント、エルゴジェニックエイドについてインターネットを利用し調べる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。講義内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。

【教科書・参考書など】

・「ビジュアルワイド食品成分表　文部科学省科学技術・学術審議会　資源調査分科会　報告　五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍
・計算が苦手な受講者は電卓を用意しておくこと。
・参考図書に関しては授業内で適宜、紹介する。

【成績評価方法】

期末テスト達成度（80%）、レポート（20%）。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	スポーツ心理学			担当者	佐々木万丈	
英文名	Sport Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・必修			専門基礎・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR203		

【目的とねらい】

スポーツ心理学の研究領域で提出された知見と最新の研究成果に関わる基礎的事項を学修することが目的である。取り上げるトピックは、健康の保持増進を目的にスポーツや運動に取り組む人々やその指導者、また、幼児の運動あそびやその保育者にとって、活動の効果を高める上で有用な内容である。運動やスポーツあるいは運動あそびに取り組む人々や幼児の心理を理解し、指導実践に活用できる知識の習得とその応用力を高めることが本講義のねらいとなる。

第１回　スポーツ心理学概説
【　到達目標　】
(1)スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。
(2)スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。

【授業時間外学習】
復習課題（授業のまとめ）と予習課題（不安の役割を調べる）に取り組む。(4.0hr)

第２回　スポーツと不安
【　到達目標　】
(1)不安には２つの側面（状態不安と特性不安）が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。
(2)逆U字理論を理解し説明できる。
【授業時間外学習】
復習（授業のまとめ）と予習（ストレスの解説を読み自分の経験を整理）に取り組む。(4.0hr)

第３回　スポーツとストレス
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。

【授業時間外学習】
復習（授業まとめ）と予習（動機づけの解説を読みその定義を考える）に取り組む。(4.0hr)

第４回　スポーツと動機づけ（１）
【　到達目標　】
(1)動機づけとは何かを理解し、説明できる。
(2)自己決定理論を理解し、スポーツ行動がどのように起こるのか説明できる。

【授業時間外学習】
復習（授業まとめ）と予習（資料を読みやる気を高める方法を考える）に取り組む。(4.0hr)

第５回　スポーツと動機づけ（２）
【　到達目標　】
(1)期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。
(2)スポーツ場面のやる気の高め方を具体的に説明できる。
【授業時間外学習】
復習（授業まとめ）と予習（運動技能の分類について整理する）に取り組む。(4.0hr)

第６回　スポーツと運動学習
【　到達目標　】
(1)運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。
(2)効果的な運動学習の方法を理解し、説明できる。

【授業時間外学習】復習（授業まとめ）と予習（ガイダンス仮説､文脈干渉効果などを調べる）に取り組む。(4.0hr)

第７回　運動学習と認知
【　到達目標　】
(1)認知とスキーマについて理解し、説明することができる。
(2)高い運動スキルを支える認知的要因を説明できる。

【授業時間外学習】
復習(授業まとめ)と予習(自分の心理的競技能力のレベルを測定する)に取り組む。(4.0hr)

第８回　スポーツと心理的競技能力
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。
(2)DIPCAⅢにより自らの心理的競技能力を把握し、分析できる。

【授業時間外学習】
復習（授業まとめ）と予習（自らを振り返りケガの要因をまとめる）に取り組む。(4.0hr)

第９回　スポーツ傷害と選手の心理
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の傷害発生を心理学的に理解し、説明することができる。
(2)ストレス理論を用いたスポーツ傷害の予防及び対処について説明することができる。

【授業時間外学習】復習（授業まとめ）と予習（バーンアウト、学習性無力感について調べる）に取り組む。(4.0hr)

第10回　スポーツとバーンアウト
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手のバーンアウト発症機序を説明できる。
(3)バーンアウトや学習性無力感に対する対処法を説明できる。

【授業時間外学習】
復習（授業まとめ）と予習（配布資料を読んで自分の引退後を考える）に取り組む。(4.0hr)

第11回　スポーツとキャリアトランジション
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。

【授業時間外学習】復習（授業まとめ）と予習（ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する）に取り組む。(4.0hr)

第12回　スポーツとライフスキル
【　到達目標　】
(1)スポーツ活動の効果の一つである心理社会的スキルはどのような心理的過程を経て習得されるのかを説明することができる。
(2)心理社会的スキルがライフスキルに般化する過程を理解し、説明できる。
【授業時間外学習】
復習（授業まとめ）と予習（LGBTを告白したスポーツ選手を調べる）に取り組む。(4.0hr)

第13回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)スポーツ活動場面におけるジェンダーに関わる問題や課題を具体的に説明することができる。

【授業時間外学習】復習（授業まとめ）と予習（リッカート法、半構造化面接について調べる）に取り組む。(4.0hr)

第14回　スポーツ心理学研究法（１）調査方法について
【　到達目標　】
(1)質問紙法、面接法、事例研究法などを理解し、説明することができる。

【授業時間外学習】
復習（授業まとめ）と予習（平均が頻繁に使用される理由を考える）に取り組む。(4.0hr)

第15回　スポーツ心理学研究法（２）統計法について
【　到達目標　】
(1)度数分布、平均、分散、標準偏差について理解し、それぞれを実際に用いてデータを処理することができる。

【授業時間外学習】
本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業ではパワーポイントにより要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者はスライドのみをノートに書き写すだけでは、学習としては不十分であることを理解しておく必要がある。集中してメモを取り、スポーツ活動に役立つオリジナルのスポーツ心理学ノートを作り上げる努力をすることが肝要である。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。授業以外の時間を有効に使い、復習と予習に取り組むことで知識の定着を図るよう努力する必要がある。特に復習課題については、次時の冒頭で、簡単な整理上の要点を説明するので、授業後に各自が行う復習は必須である。

【教科書・参考書など】

教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」（著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房）を使用する。また、 適宜、参考資料を配付する。

【成績評価方法】

期末テストの結果（100％：試験は別途試験期間中に実施）に基づいて評価する。

科目名	ダンスムーブメントA			担当者	石　川　浩　子	
英文名	Dance Movement A					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・必修			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBR204		

【目的とねらい】

ダンスの要素である「踊る、創る、観る」力をバランス良く養う。
ダンスムーブメントA：主に現代的なリズムのダンスを扱う。現代的なリズムのダンスでは、音楽に合わせ、簡単なステップでリズムに乗る楽しさや、ダンスに必要な基礎的トレーニングを体得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　年間オリエンテーション　ウォームアップ　ダンス①-1
【　到達目標　】
ダンスに取り組んでいく上での必要事項を確認し、全員が積極的に参加することを確認する。
これから1年間の流れと、半期の流れを認識する。
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第２回　ウォームアップ　ダンス①-2
【　到達目標　】
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第３回　ウォームアップ　ダンス①-3
【　到達目標　】
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第４回　グループでダンス①作品創作・ミニ発表（実技テストとして評価対象とする）
【　到達目標　】
7～8人程度のグループで、ダンス①で習得した9パターンと、与えられた課題を入れながら簡単な作品創作をし発表、全員で合評する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第５回　ウォームアップ　ダンス②-1
【　到達目標　】
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第6回　ウォームアップ　ダンス②-2
【　到達目標　】
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第7回　ウォームアップ　ダンス②-3
【　到達目標　】
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第8回　グループでダンス②作品創作・ミニ発表（実技テストとして評価対象とする）
【　到達目標　】
前回と同じ7～8人程度のグループで、ダンス①で習得した9パターンと、与えられた課題を入れながら簡単な作品創作をし発表、全員で合評する。
（前回の作品創作での反省を踏まえる）
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第9回　ウォームアップ　ダンス③-1
【　到達目標　】
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第10回　ウォームアップ　ダンス③-2
【　到達目標　】
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第11回　ウォームアップ　ダンス③-3
【　到達目標　】
ダンスに必要な簡単ウォームアップと簡単なダンス3パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第12回　ダンスパターンの復習（全27パターン）
【　到達目標　】
今まで習得した27パターを思い出し、苦手なパターンを再度練習し、全パターンを習得する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第13回　グループでダンス作品創作
【　到達目標　】
ダンス①②③で習得した27パターンと与えられた課題を入れながら、作品創作をする。
（今までの作品創作の反省を踏まえ、最後のテストでは作品の中に、個人で踊るソロの部分を1人8カウント入れる）
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第14回　グループでダンス作品創作
【　到達目標　】
ダンス①②③で習得した27パターンと与えられた課題を入れながら、作品創作をする。
（今までの作品創作の反省を踏まえ、最後のテストでは作品の中に、個人で踊るソロの部分を1人8カウント入れる）
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

第15回　グループでダンス作品仕上げ・発表会（実技テストとして評価対象とする）
【　到達目標　】
グループのダンス作品創作を最終チェックし、発表する。
全員で各グループ作品の合評をし、自分達の作品についてのレポートを作成する。
【授業時間外学習】各自自分の課題を把握し、時間外にも練習をして臨む。（次の授業までに習得したダンスパターンを20分程度の復習する）（1.0hr）

【学習上の留意点】

積極的に取り組み、固定概念にとらわれない創造性が求められる。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

実技試験と授業への積極性を総合的に評価する。

科目名	ダンスムーブメントB			担当者	田母神晶子	
英文名	Dance Movement B					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・必修			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBR205		

【目的とねらい】

エアロビックダンスの基本ステップ、プログラム能力、指導力を身につける。フィットネスの概論とエアロビック基礎理論を理解し、基本構成・運動強度の考え方から始め、基本ステップを習得するとともに、コミュニケーション能力や指導技法も身につける。また音楽と融合したナチュラルで快い情緒的な動きやリズミカルな動きなど、ダンスムーブメントの基礎的な技能を習得し、ダンスの表現特性について理解するとともに、自己の表現力も高め、豊かな心身の育成を図る。

【授業内容・到達目標など】

第１回　エアロビックダンスの歴史及びフィットネス概論
【　到達目標　】
エアロビックダンスの歴史及び現代における背景を学び、運動特性を理解する。
エアロビックダンスの３０分プログラムを体験する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第２回　エアロビックダンスの基礎理論、基本構成、運動強度の考え方
【　到達目標　】
エアロビックダンスの基礎理論、プログラム構成、運動強度について理解する。
エアロビックダンスの３０分プログラムを体験する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第３回　基本ステップの習得（ローインパクト）
【　到達目標　】
ローインパクトの基本ステップを習得し､正しいムーブメントで３０分プログラムを体験する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第４回　基本ステップの習得（ハイインパクト）と指導法①（キューイング）
【　到達目標　】
ハイインパクトの基本ステップを習得すると同時に、的確なキューイングを理解する。
正しいムーブメントで規定の３２カウントコンビネーションを含んだ３０分プログラムを体験する。
【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第５回　指導法②（背面、対面指導）
【　到達目標　】
正しい基本ステップの復習と同時にダンス特有の表現方法を習得し、見本となる指導の演習をする。規定の３２カウントコンビネーションを含んだ３０分プログラムを体験する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第６回　規定３２カウントコンビネーションの発表
【　到達目標　】
グループに分け、規定の３２カウントコンビネーションを指導する。
指導内容に対してフィードバックを受ける。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第７回　指導法③（指導の循環）
【　到達目標　】
指導の循環を理解し、動きを学習させるための指導テクニックを習得する。
グループに分け、規定の３０分プログラムをもとに今まで習得してきた指導法を用いて指導発表する。各グループで指導内容に対しディスカッションする。
【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第８回　ウォーミングアップとクーリングダウンの目的と効果
【　到達目標　】
ウォーミングアップとクーリングダウンの目的と効果を理解する。
より複雑な４０分プログラムを体験する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第９回　メインエクササイズの目的と効果、３２カウントコンビネーションの作成
【　到達目標　】
メインエクササイズの目的と効果を理解する。
各自で３２カウントコンビネーションを作成する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第10回　筋コンディショニングの目的と効果、指導法③
【　到達目標　】
筋コンディショニングの目的、効果を理解する。
各自で作成した３２カウントコンビネーションをグループで指導演習する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第11回　動きの変化要素、プログラムの作成①
【　到達目標　】
動きの変化要素を理解する。
各自で作成した３２カウントコンビネーションをベースに、コリオグラフィーを展開する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第12回　プログラムの作成②（グループワーク）
【　到達目標　】
各自で作成したコリオグラフィーをつなげ、エアロビックダンスのプログラムをグループで作成する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第13回　プログラムの作成③（グループワーク）
【　到達目標　】
作成したプログラムがスムースに進行できるように演習する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第14回　実技発表（実技試験の評価対象とする）
【　到達目標　】
これまで取り組んだエアロビックダンスプログラムを発表する。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

第15回　理論理解の確認とダンスエクササイズの派生
【　到達目標　】
これまで学んだ理論を再確認すると同時に、エアロビックダンスから派生したダンスエクササイズを体験し楽しさを味わう。

【授業時間外学習】
本日学んだことを復習し、筋持久力、柔軟性を高めるよう努力する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

積極的に取り組み、練習を繰り返し身体で習得するように努める。講義内容などは講義ノートに記載し、定期的に回収、チェックをした後にフィードバックを行う。ミニテストを実施し理解度を確認。グループワークでコミュニケーション能力を高め、指導力の実技試験を行う。

【教科書・参考書など】

参考書「新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導　指導理論のAtoZ」公益社団法人日本フィットネス協会
「ADBI ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論」公益社団法人日本フィットネス協会

【成績評価方法】

授業中の発言内容、活動内容40%、実技試験20%、提出物20%、ミニテスト(理解度) 20%の割合で評価する。

科目名	健康科学論			担当者	沢　井　史　穂	
英文名	Introduction to Health Science					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE101		

【目的とねらい】

現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解する。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解すること、また、年齢、性機能、休養、ストレスと健康との関わりについて理解することを目的とする。これらの理解を通して、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけることがねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　健康とは何か。健康観の変遷。現代における健康観。

【　到達目標　】

(1)「健康」の定義を理解する。

(2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を考える。

【授業時間外学習】

各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心を持ち、視聴したり読んだりする。(4.0hr)

第２回　日本人の健康問題　人口構成の推移、疾病構造の変化

【　到達目標　】

(1)死因順位の大きな変化とその要因について理解する。

(2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解する。

【授業時間外学習】

授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。(4.0hr)

第３回　生活習慣病とは

【　到達目標　】

(1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解する。

(2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解する。

【授業時間外学習】

良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。(4.0hr)

第４回　循環系疾患とライフスタイル

【　到達目標　】

(1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解する。

【授業時間外学習】

循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。(4.0hr)

第５回　代謝異常・肥満とライフスタイル

【　到達目標　】

(1)脂質代謝異常、肥満症をもたらすライフスタイルを理解する。

(2)肥満の判定基準と日本の現状を知り、予防・改善策を考える。

【授業時間外学習】

肥満の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。(4.0hr)

第６回　メタボリックシンドロームの判定と予防

【　到達目標　】

(1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解する。

(2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を考える。

【授業時間外学習】

授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームの予防行動につなげる。(4.0hr)

第７回　骨の健康　骨粗鬆症の予防

【　到達目標　】

(1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を知り、丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための生活習慣を考える。

【授業時間外学習】

授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。(4.0hr)

第８回　ロコモティブシンドロームの概念と予防

【　到達目標　】

(1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、予防策を考える。

【授業時間外学習】授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。(4.0hr)

第９回　子どもの生活環境の変化と健康

【　到達目標　】

(1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解する。

(2)成長に伴う身体の構造と機能の変化を知り、成長期における健康問題について理解する。

【授業時間外学習】

子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第10回　女性の性機能の変化と健康

【　到達目標　】

(1)女性の一生を通じての性機能の変化と女性特有の健康問題について理解する。

【授業時間外学習】

女性の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第11回　妊娠と健康

【　到達目標　】

(1)妊娠期の身体の変化と生活の注意点について理解する。

(2)避妊・不妊・出生前診断など、生命倫理に関する問題について考える。

【授業時間外学習】

妊娠のまつわる文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第12回　高齢者の運動と健康

【　到達目標　】

(1)加齢に伴う身体の構造と機能の変化を知り、中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解する。

【授業時間外学習】

高齢者の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第13回　休養と健康

【　到達目標　】

(1)睡眠や休息と健康との関わりについて理解する。

【授業時間外学習】

授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。(4.0hr)

第14回　メンタルヘルス

【　到達目標　】

(1)現代社会におけるストレスと健康との関わり、心の健康に運動が果たす役割について理解する。

【授業時間外学習】

授業で扱った内容を復習し、自分のストレスマネジメントに積極的に取り組む。(4.0hr)

第15回　健康づくり施策　概念と歴史　日本における施策

【　到達目標　】

(1)健康づくり施策の概念と歴史を理解し、日本における健康施策とその課題について考える。

【授業時間外学習】

授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。また、授業内で取り上げるテーマに応じて、適宜、視聴覚教材などを使用し、その内容に関する理解度と考察力を確認するためのレポートを作成する。その結果は、授業の中でフィードバックする。

【教科書・参考書など】

とくに指定はない。必要な資料をその都度配布する。

【成績評価方法】

授業内での課題達成度30%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)70%で評価する。

科目名	発育発達論			担当者	井 筒 紫 乃	
英文名	Growth and Development					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE102		

【目的とねらい】

ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢においての発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、不活動とは区別されている座位行動と健康関連指標との関係を理解し、その抑制の重要性を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　発育発達とは、心理的特徴
【　到達目標　】
(1)発育発達の概念を理解する。
(2)身体計測の測定法を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、「発育発達論」では何を学びたいのか、意見をまとめてくること。(4.0hr)

第２回　発育発達期の身体的特徴（身長）1
【　到達目標　】
(1)身体計測値を用いて発育過程を図解できる。

【授業時間外学習】
受講前に、自身の小学校入学以降、現在までの身長を調べてくること。(4.0hr)

第３回　発育発達期の身体的特徴（身長）2，骨成熟の評価法
【　到達目標　】
(1)形態の発育の性差・個人差を理解する。
(2)生物学的成熟度について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、自身の身長、体重、および座高を計測してくること。(4.0hr)

第４回　発育発達期の身体的特徴（体重・身体組成）
【　到達目標　】
(1)肥満の弊害について理解する。
(2)やせの問題について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)

第５回　中高年齢者の身体的特徴（体重・身体組成）
【　到達目標　】
(1)身体組成の測定法について理解する。
(2)中高年齢者の形態の特徴について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)

第６回 運動をはじめとする身体活動と座位行動の定義，ライフステージ別の特徴
【　到達目標　】
(1)運動をはじめとする身体活動と座位行動の定義を理解する。
(2)身体活動量と座位行動のライフステージ別の特徴を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、身体活動と座位行動の計測方法を調べてくること。(4.0hr)

第７回　体力の定義，成長期における筋力の発達と老化の過程
【　到達目標　】
(1)体力の定義について理解する。
(2)スポーツ庁による体力・運動能力の測定法を理解する。
(3)筋力の発達と老化の過程を理解する。
【授業時間外学習】
受講前に、「何故、体力を高める必要があるのか」、意見をまとめてくること。(4.0hr)

第８回　成長期における基本的動作スキルの発達
【　到達目標　】
(1)成長期における基本的動作スキルの発達について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)

第９回　日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値
【　到達目標　】
(1)身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。
(2)日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に幼児期運動指針と健康づくりのための身体活動基準2013を調べてくること。(4.0hr)

第10回　成長期における全身持久力の発達と老化の過程
【　到達目標　】
(1)全身持久力の発達と老化の過程を理解する。

【授業時間外学習】
スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)

第11回　日本と世界の子どもの身体的特徴と生活習慣の現状
【　到達目標　】
(1)日本と世界の子どもの身体活特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。
(2)47都道府県の子どもの身体活特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、世界の子どもの肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)

第12回　発育発達期の運動プログラム
【　到達目標　】
(1)発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。
(2)発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。

【授業時間外学習】
子どもの運動プログラムを考える際､留意すべき点について意見をまとめてくること｡(4.0hr)

第13回　中高年齢者とスポーツ
【　到達目標　】
(1)中高年齢者の運動プログラムの留意点を理解する。
(2)中高年齢者の運動・スポーツの体力への効果を理解する。

【授業時間外学習】中高年者の運動プログラムを考える際、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)

第14回　女性とスポーツ
【　到達目標　】
(1)女性選手の三主徴について理解する。
(2)女性の痩せと低出生児について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に､女性アスリートの指導上､留意すべき点について意見をまとめてくること｡(4.0hr)

第15回　運動をはじめとする身体活動量促進と座位行動抑制
【　到達目標　】
(1)運動をはじめとする身体活動量促進と座位行動抑制の方法を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に､学校と家庭での身体活動量促進と座位行動抑制の方法をまとめてくること｡(4.0hr)

【学習上の留意点】

学習成果をあげるため、教科書・参考書、講義中に配布する資料などを用いて、授業時間外学習により予習・復習をそれぞれ講義時間相当量行うことが望まれる。

【教科書・参考書など】

教科書：2019年9月出版予定の書籍（杏林書院）を用いる予定である。参考書: 高石　昌弘（監修）樋口　満，佐竹　隆（編著）：からだの発達と加齢の科学. 大修館書店，2012，ISBN 9784469267402，　竹中晃二（編）:アクティブ・チャイルド 60 min ー子どもの身体活動ガイドラインー. （株）サンライフ企画，2010,ISBN 4904011244

【成績評価方法】

定期試験の成績90%、課題の提出10%で評価する。
なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	新体操Ⅰ			担当者	橋爪みすず	
英文名	Rhythmic Gymnastics Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE103		

【目的とねらい】

新体操は手具の操作をしながら、徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）を組み合わせることが必須とされている。本授業では、手具と徒手要素の基礎について学び、身体の動きと手具操作の調和を音楽と一緒に実践する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。
新体操の概要を理解する。

【授業時間外学習】
新体操に関する書籍を読み、理解を深める。(1.0hr)

第２回　新体操の特性
【　到達目標　】
新体操に必要な柔軟性・バランス・調整力・筋力などを高める。

【授業時間外学習】
新体操の体力トレーニングについて調べておく。(1.0hr)

第３回　新体操の基礎運動①
【　到達目標　】
正しい基本姿勢および柔軟な動き・バランスを実践し、基礎技術を身につける。

【授業時間外学習】
新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。(1.0hr)

第４回　新体操の基礎運動②
【　到達目標　】
正しい基本姿勢およびジャンプ・ローテーションを実践し、基礎技術を身につける。

【授業時間外学習】
新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。(1.0hr)

第５回　フープ：基本操作の実践
【　到達目標　】
回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。

【授業時間外学習】
フープの特性を調べておく。(1.0hr)

第６回　フープ：徒手要素と手具操作
【　到達目標　】
身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とフープの手具操作を組み合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
フープの基礎技術要素を調べておく。(1.0hr)

第７回　フープ：音楽との調和
【　到達目標　】
徒手要素とフープの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第８回　ボール：基本操作の実践
【　到達目標　】
突く、転がす、投げるなどの手具の基本操作から、ボールの特性を理解する。

【授業時間外学習】
ボールの特性を調べておく。(1.0hr)

第９回　ボール：徒手要素と手具操作
【　到達目標　】
身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とボールの手具操作を組み合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
ボールの基礎技術要素を調べておく。(1.0hr)

第10回　ボール：音楽との調和
【　到達目標　】
徒手要素とボールの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第11回　ボール：フレーズの組み立て
【　到達目標　】
曲調に合ったステップや動きを取り入れながら、フレーズを実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第12回　ボール：実技課題の実践①
【　到達目標　】
身につけたフレーズを音楽に合わせ、作品を実践できる。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第13回　ボール：実技課題の実践②　学習方法の理解
【　到達目標　】
手具操作と身体の動きが明確になり、技術を習得できる。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第14回　ボール：実技課題の実践③
【　到達目標　】
音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつなぎがスムーズになるよう、更に実践を重ねる。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第15回　ボール：作品の発表
【　到達目標　】
作品の発表を行う。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、修正すべき点を検討する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

アクセサリー類や時計は、相手や自らの怪我を引き起こす危険性や、手具により破損する可能性があるため、決して身につけない。服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は好ましくない。（パーカー・スウェットは着用しない）
種目毎に実技試験と授業内容に関するレポートを作成し、理解度の確認を行う。結果は授業時に解説によりフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書の指定はなし。
必要に応じて、プリント教材を配布します。

【成績評価方法】

実技試験70%　　レポート30%

科目名	ハンドボールⅠ			担当者	笹　倉　清　則	
英文名	Handball Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE104		

【目的とねらい】

ハンドボール競技の指導を「ゲームができるように」という主題のもとで、ゲーム構造を理解し、ゲームを局面に分類し、ゲームで発生する局面に従い、それぞれの局面で必要な技術・戦術を学習し、ゲーム全体を作り上げていく指導方法を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス

【　到達目標　】

ガイダンスでは、授業の進め方や授業進行上4つのグループとして授業を展開することを理解する。また、最終の実技課題と評価について理解する。

【授業時間外学習】

ハンドボールの発生や歴史について学習する。(1.0hr)

第２回　ハンドボールのゲームの局面理解

【　到達目標　】

この授業で中心となる最終目標を「ゲームができる」とし、その為に授業展開がゲームの時間経過に伴う変化（ゲームの局面）にあわせて展開することを理解する。あわせて局面自体に関しても理解する。

【授業時間外学習】

学習指導要領のハンドボールを調べ理解を深める。(1.0hr)

第３回　第1局面「ボール獲得」の理解と技術習得

【　到達目標　】

3回目から9回目まではハンドボールのゲーム局面を6つとして、ゲームの進行に伴う局面に従い、それぞれの局面に必要な技術・戦術を理解する。第1回目は第1局面でボールを獲得する技術・戦術を理解する。

【授業時間外学習】

第1局面の理解とそこで必要な技術・戦術をまとめる。(1.0hr)

第４回　第2局面「ボールを進める」の理解と技術習得

【　到達目標　】

前回授業で理解した「ボール獲得」第1局面から、取ったボールを相手コートに進めるための第2局面について、その構想、戦術、必要な技術を習得し理解をする。

【授業時間外学習】

ボールを運ぶ為の技術・戦術の理解を深める。(1.0hr)

第５回　第3局面「シュートを狙う」の理解と技術習得

【　到達目標　】

前回の授業の「ボールを進める」第2局面から、ゴール前でのシュートを狙う第3局面の構想や戦術を理解し、それに必要な技術を習得し理解する。

【授業時間外学習】

いろいろなシュートについて学習する。(1.0hr)

第６回　第4局面「攻撃を組み立てる」の理解と技術習得

【　到達目標　】

「シュートを狙う」第3局面でシュートまで至らないときに、初めて組織的攻撃としての第4局面の構想や戦術を理解する。そこでフェイントやパスなどの個人戦術を習得し、理解する。

【授業時間外学習】

組織的攻撃に関して学習する。(1.0hr)

第７回　第4局面でのグループ戦術の習得

【　到達目標　】

前回の授業で理解した第4局面を発展させ、個人戦術からグループ戦術の理解とそれに必要な技術を習得する。

【授業時間外学習】

いろいろなグループ戦術、チーム戦術に関して事前に学習する。(1.0hr)

第８回　第4局面でのチーム戦術

【　到達目標　】

組織的攻撃の最終段階としてチーム戦術(攻撃戦術)を理解し、チームとしてどのように考え、戦術を選ぶかを理解し、その戦術をチームとして習得する。

【授業時間外学習】

攻撃戦術のまとめを理解することと、自軍コートへの戻りを事前に理解する。(1.0hr)

第９回　第6局面での「防御」の理解

【　到達目標　】

本来組織的攻撃の第4局面の次は、戻りの局面の第5局面であるが、この授業ではこの局面を除き、組織的防御の第6局面の構想について理解し、組織的防御に必要な技能を習得する。

【授業時間外学習】

速攻に対する戻りから組織的防御への流れを理解する。(1.0hr)

第10回　総合的ミニゲーム①

【　到達目標　】

これまでのすべての局面で理解したことや身につけた技術を、ゲームの場面で状況に応じて発揮できるようにする。

【授業時間外学習】

今日のゲームの中でのチームの戦術、そして個人の評価をし、次回につなげる。(1.0hr)

第11回　総合的ミニゲーム②

【　到達目標　】

前回行った総合的ゲームの反省から、修正を加えたり、より戦術的なゲームを実践できるようにする。

【授業時間外学習】

いろいろな攻撃戦術の変化や、防御戦術の仕方を事前に学ぶ。(1.0hr)

第12回　チームごとの作戦にもとづくゲーム①

【　到達目標　】

12.～14.の授業では4つの班に分かれ、その班のメンバーを考慮して各チームがおのおのの戦術を選択し、相手チームに対応して戦術を変化させる。作戦タイム等でゲームの進め方やルールも理解する。

【授業時間外学習】

今回チームでつかった戦術の反省と次回へ向けての対策を学ぶ。(1.0hr)

第13回　チームごとの作戦にもとづくゲーム②

【　到達目標　】

12.～14.の授業では4つの班に分かれ、その班のメンバーを考慮して各チームがおのおのの戦術を選択し、相手チームに対応して戦術を変化させる。作戦タイム等でゲームの進め方やルールも理解する。

【授業時間外学習】

実技試験のジャンプスロー20ｍの投技術の課題練習をする。(1.0hr)

第14回　チームごとの作戦にもとづくゲーム③

【　到達目標　】

12.～14.の授業では4つの班に分かれ、その班のメンバーを考慮して各チームがおのおのの戦術を選択し、相手チームに対応して戦術を変化させる。作戦タイム等でゲームの進め方やルールも理解する。

【授業時間外学習】

最終ゲームに向けて自分のチームの戦術を学習する。(1.0hr)

第15回　トップレベルの戦術の理解とその応用

【　到達目標　】

現代のトップの映像をみて、それをチームに取り入れたゲームを行い、戦術を工夫する。互いに競い合いながらゲームを行う。

【授業時間外学習】

15回の授業を基にハンドボール競技の理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

学生たちが技術習得する授業であるが、この授業では実際の指導方法論の手順にしたがって進めることを理解する。技術習得だけでなく、それをゲームの場面で対応して発揮できるかが主眼であることを理解する。また、この授業では単位修得の条件として二つの課題のテストがあることを理解する。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

最終的な技術の課題テスト20%、毎回の授業での技能習得や戦術の理解度40%、チームとしての活動の中での役割の理解やゲームでの対応能力40%。

科目名	サッカーⅠ			担当者	鈴　木　健　介	
英文名	Soccer Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE105		

【目的とねらい】

サッカーの基本的な技術を習得することが本授業の目的である。そのために、ボールに触れる機会がサッカーより断然多いフットサルのゲームをサッカーの練習と並行して行っていく。①フットサルの基本技術をドリルし、スキルとして習得できるよう努力する。②チーム構成員同士が勝利を目指し、協力し合う態度を学ぶ。③ゲームを楽しむためには、相手チームの選手やレフェリーを尊重しなければならないという現実を認識し、フェアな態度や他者への思いやり等を学ぶ。

以上のことを目的として本授業を展開する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ボールコントロールとキックのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第２回　ボールコントロールとヘディングのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第３回　ボールコントロールとドリブルのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第４回　コミュニケーションのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)コミュニケーションのタイミングを理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第５回　視野の確保のトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)良いボディシェイプを確保するステップワークを学び、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第６回　攻撃のサポートのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)サポートの角度とタイミング、そして距離を理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第７回　3対1のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)サポートの動きと良い視野を保つことを理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第８回　4対2のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)クサビのパスのタイミングを理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第９回　3人目のプレーヤーを使う攻撃のトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)3人目のプレーヤーを使うタイミング、使われるタイミングを理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第10回　ボールを奪うトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)タックルのタイミングと方法を理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第11回　守備におけるチャレンジとカバーのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)チャレンジとカバーについて理解し、実践できるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第12回　クロスボールからの攻撃パターンのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)クロスボールからシュートまでのパターンを3種類実践し、シュートまでつながるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第13回　チーム毎でのウォームアップとゲーム①
【　到達目標　】
(1)ウォームアップをチーム毎できちんと行い、その後ゲームを行えるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第14回　チーム毎でのウォームアップとゲーム②
【　到達目標　】
(1)ウォームアップをチーム毎できちんと行い、その後ゲームを行えるようにする。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第15回　レクリエーションゲーム
【　到達目標　】
(1)班編成を変え、レクリエーションゲームを行う。
【授業時間外学習】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとすること。

アクセサリー類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。

前回の技術的課題を落とし込んだウォームアップを行い、技術の定着の一助とする。

【教科書・参考書など】

特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。

【成績評価方法】

以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度６０％、②技術点（実技テスト）１０％、③知識点（理論テスト）１０％、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）２０％。

科目名	スキー			担当者	中丸　信吾・森田　陽子	
英文名	Skiing					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
授業形態	実習		科目ナンバー	SBE106		

【目的とねらい】

スキー未経験者や初級者レベルを主な対象として、スキーの基本技術や理論、ルールやマナーを学習し、整地されたゲレンデで安全に楽しく滑降する技術を習得することを目的とする。今後、習得した技術をさらに積み重ね、生涯スポーツの一つとして自然のなかで大いに楽しむことができる基礎作りとなることをねらいとしている。

授業形態は、事前事後指導と、4泊5日の宿泊集中授業で行うので、併せて集団生活についても学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スキー用具の取り扱い方、基本的な動作、操作

【　到達目標　】

(1)スキー用具の取り扱い方法を理解する。
(2)スキー用具の装着方法を理解する。
(3)スキーを装着しての距離感覚を理解する。

第２回　方向変換、歩行、滑走

【　到達目標　】

(1)踏み替えによる方向変換法を理解する。
(2)平地歩行感覚を理解する。
(3)平地滑走感覚を理解する
(4)正しい転び方、立ち方を理解する。

第３回　登行、直滑降、プルーク、制動と停止

【　到達目標　】

(1)直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2)直滑降で滑べる。(3)プルーク時の基本姿勢を理解する。(4)プルークで滑る。(5)直滑降から制動プルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6)プルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7)階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用方法を理解する。(8)開脚登行時のインエッジの使用方法を理解する。(9)階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。

第４回　登行、直滑降、プルーク、制動と停止

【　到達目標　】

(1)直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2)直滑降で滑べる。(3)プルーク時の基本姿勢を理解する。(4)プルークで滑る。(5)直滑降から制動プルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6)プルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7)階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用方法を理解する。(8)開脚登行時のインエッジの使用方法を理解する。(9)階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。

第５回　プルーク、プルークボーゲン

【　到達目標　】

(1)直滑降→プルークの連続押し出しを理解する。
(2)直滑降→プルークの交互押し出しを理解する。
(3)プルークの山まわりで加重配分を理解する。
(4)左右スキーへの荷重移動で浅い連続回転を理解する。
(5)浅い連続回転でプルークボーゲンの初歩で滑る。

第６回　プルークボーゲン

【　到達目標　】(1)滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。
(2)一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。
(3)プルークボーゲンで緩斜面を滑る。
(4)一定のリズムを保って中ターンで滑る。
(5)ショートターンのリズムを理解する。
(6)ショートターンで緩斜面を滑る。

第７回　プルークボーゲン

【　到達目標　】(1)滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。
(2)一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。
(3)プルークボーゲンで緩斜面を滑る。
(4)一定のリズムを保って中ターンで滑る。
(5)ショートターンのリズムを理解する。
(6)ショートターンで緩斜面を滑る。

第８回　プルークボーゲン、シュテムターン

【　到達目標　】

(1)横ずれの少ないプルークボーゲンの操作方法を理解する。
(2)内スキーの引きよせの方法を理解する。
(3)シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。

第９回　プルークボーゲン、シュテムターン

【　到達目標　】

(1)横ずれの少ないプルークボーゲンの操作方法を理解する。
(2)内スキーの引きよせの方法を理解する。
(3)シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。

第10回　シュテムターン、パラレルターン

【　到達目標　】

(1)内スキーの引きよせのタイミングを理解する。
(2)シュテムターンで緩斜面を滑る。
(3)素早い内スキーの引きよせ
(4)一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。

第11回　シュテムターン、パラレルターン

【　到達目標　】

(1)内スキーの引きよせのタイミングを理解する。
(2)シュテムターンで緩斜面を滑る。
(3)素早い内スキーの引きよせ
(4)一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。

第12回　パラレルターン

【　到達目標　】

(1)中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。
(2)中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。

第13回　パラレルターン

【　到達目標　】

(1)中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。
(2)中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。

第14回　総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する）

【　到達目標　】

(1)総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。
(2)総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。

第15回　総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する）

【　到達目標　】

(1)総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。
(2)総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。

【授業時間外学習】

自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。

【学習上の留意点】

事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（新潟参加者￥60,000程度、北海道参加者￥85,000程度)に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、日本女子体育大学の学生として相応しい行動をすることを心がける。宿泊を伴うので、集団生活のあり方を十分理解し、他人に迷惑がかからないように心配りをする。

実習はグループ毎に活動するので、グループの指導者に従い積極的に参加するようにし、リーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。

【成績評価方法】

レポート10%、スキー技術の習熟度80%、集団生活の適応度10%。

科 目 名	スケート			担当者	湯　田　　淳	
英 文 名	Skating					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
授業形態	実習		科目ナンバー	SBE107		

【目的とねらい】

スケートの未経験者及び初級レベルを対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、グループスケーティング等について学習及び実習を行う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス（事前ガイダンス（学内）１）
【　到達目標　】
実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。

第２回　スケートの概要（事前ガイダンス（学内）２）
【　到達目標　】
ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。

第３回　リンクでの安全な行動法、基礎技術（前進滑走）（学外実習１）
【　到達目標　】
氷上への安全な入退場、安全な転倒法、転倒後の立ち上がり法を実践する。前方への歩行、滑走をできるようにする。

第４回　グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習２）
【　到達目標　】
実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。

第５回　講義（学外実習３）
【　到達目標　】
スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。

第６回　基礎技術（前進滑走，後進滑走）（学外実習４）
【　到達目標　】
前進滑走および後方への歩行、滑走をできるようにする。

第７回　基礎技術（カーブ滑走）（学外実習５）
【　到達目標　】
前進滑走から半円上を惰力滑走できるようにする。

第８回　基礎技術（ターン滑走）（学外実習６）
【　到達目標　】
前進滑走から後進滑走、後進滑走から前進滑走へ変換できるようにする。

第９回　応用技術（連続滑走、停止）（学外実習７）
【　到達目標　】
ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。

第10回　グループスケーティング（学外実習８）
【　到達目標　】
2～3人のグループで滑走できるようにする。

第11回　グループミーティング（発表準備）（学外実習９）
【　到達目標　】
編成したグループでの演技発表の内容を作成する。

第12回　応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習１０）
【　到達目標　】
前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続してできるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽にのってできるようにする。

第13回　グループスケーティング、ミニホッケー（導入）（学外実習１１）
【　到達目標　】
実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。

第14回　試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習１２）
【　到達目標　】
実習班ごとでの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケーティングを音楽に合わせて実践する。

第15回　試験、グループによる演技発表（学外実習１３）
【　到達目標　】
試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケーティングを発表する。

【授業時間外学習】

自身の滑走動作改善のための課題を確認し、改善のための方策を検討する。

【学習上の留意点】

学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。参考書としては「アイススケーティングの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。

【成績評価方法】

実技試験の達成度を40%、演技発表の完成度を40%、実習レポートの達成度を20%の割合として評価する。

科目名	スポーツバイオメカニクス			担当者	湯　田　　淳	
英文名	Sport Biomechanics					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択		専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE201		

【目的とねらい】

日常の動作からスポーツにいたる様々な身体運動を、力学的観点から解明する領域がスポーツバイオメカニクスである。本講義では、力学の基礎知識や必要な計測法などについて学び、それに基づいて具体的なからだの動きやスポーツ場面の運動について解説する。なお、本講義のより良い理解のためには、1年次で履修した機能解剖学による身体構造に関する基礎的知識の習得が必須である。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツバイオメカニクス概論（スポーツバイオメカニクスの位置づけ）
【　到達目標　】
(1)スポーツバイオメカニクスとはどのような学問であり、何を学ぶかを理解する。

【授業時間外学習】
スポーツバイオメカニクスに関連する書籍を確認する。(4.0hr)

第２回　スポーツバイオメカニクス概論（スポーツバイオメカニクスの捉え方）
【　到達目標　】
(1)身体運動の分析へのバイオメカニクス的アプローチを把握する。

【授業時間外学習】
他の関連学問との分析方法の違いについて検討する。(4.0hr)

第３回　スポーツバイオメカニクスの活用法（映像の活用法）
【　到達目標　】
(1)定量的および定性的分析についてそれぞれの特徴を理解する。

【授業時間外学習】
各種計測機器の特徴を把握する。(4.0hr)

第４回　スポーツバイオメカニクスの活用法（映像活用の実際）
【　到達目標　】
(1)映像を用いた動作改善法について理解し、バイオメカニクスがスポーツ現場でどのように活用されているかを把握する。

【授業時間外学習】
様々なスポーツにおけるバイオメカニクス的分析の活用事例を把握する。(4.0hr)

第５回　運動の力学（力の作用、ニュートンの運動の法則）
【　到達目標　】
(1)力の要素について理解し、力の作用によってどのような運動が生じるかを説明できる。
(2)ニュートンの運動の法則を理解し、スポーツ活動における運動の説明に活用できる。

【授業時間外学習】
親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。(4.0hr)

第６回　運動の力学（静的なつりあい、求心力、流体力）
【　到達目標　】
(1)回転運動において発生する力について説明できる。
(2)流体力について理解し、空気抵抗について説明できる。

【授業時間外学習】
親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。(4.0hr)

第７回　運動の力学（運動量と力積、運動と力のモーメント）
【　到達目標　】
(1)運動量と力積の関係について説明できる。
(2)運動における力のモーメントの効果について説明できる。

【授業時間外学習】
親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。(4.0hr)

第８回　運動の力学（運動と角運動量、よい動きのバイオメカニクス的原則）
【　到達目標　】
(1)角運動量について理解し、それに影響を及ぼす要因について説明できる。
(2)よい動きのバイオメカニクス的原則について、例を用いて説明できる。

【授業時間外学習】
親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。(4.0hr)

第９回　身体の構造
【　到達目標　】
(1)様々な関節の特徴を動きと関連づけて把握する。
(2)筋の収縮様式を理解し、動きと関連づけて説明できる。

【授業時間外学習】
筋骨格系の構造について把握する。(4.0hr)

第10回　上肢および肩甲帯の運動
【　到達目標　】
(1)上肢の関節（肩、肘、手関節）および肩甲帯における動きを、それに関与する筋の働きとともに理解し、スポーツ現場におけるトレーニングに役立てることができる。

【授業時間外学習】
上肢の関節の運動に関係する筋を把握する。(4.0hr)

第11回　下肢および骨盤帯の運動
【　到達目標　】
(1)下肢の関節（股、膝、足関節）および骨盤帯における動きを、それに関与する筋の働きとともに理解し、スポーツ現場におけるトレーニングに役立てることができる。

【授業時間外学習】
下肢の関節の運動に関係する筋を把握する。(4.0hr)

第12回　運動・動作の力学的解釈
【　到達目標　】
(1)姿勢とモーメントの関係について理解し、説明できる。
(2)力学的データとパフォーマンスとの関係について理解し、スポーツバイオメカニクスにおける研究成果をスポーツ現場に活かす方法を学ぶ。

【授業時間外学習】スポーツ現場において、どのようなスポーツバイオメカニクス的データが収集されているか把握する。(4.0hr)

第13回　スポーツバイオメカニクスにおける計測（動作分析におけるデータ収集法）
【　到達目標　】
(1)動作分析が具体的にどのように行われるかを把握する。
(2)動作分析における様々な座標算出法について理解する。

【授業時間外学習】動作分析のためのデータ収集において、どのような機器が使用されているのかを把握する。(4.0hr)

第14回　スポーツバイオメカニクスにおける計測（動作分析におけるデータ算出法）
【　到達目標　】
(1)身体重心や関節角度などの各種パラメータの算出方法について把握する。

【授業時間外学習】スポーツバイオメカニクスにおいて、どのようなパラメータを算出することができるのかを把握する。(4.0hr)

第15回　スポーツバイオメカニクスとスポーツ活動
【　到達目標　】
(1)講義で取り上げたスポーツバイオメカニクスの学習内容について理解し、自己のスポーツ活動や関連領域における学習内容のより良い理解に役立てることができる。

【授業時間外学習】自身の専門とするスポーツ種目におけるバイオメカニクス的データの活用例を把握する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業はパワーポイントを用いて進められ、毎回の授業において内容に関する資料が配付される。受講者は講義内容における必要な箇所を素早く資料に書き取り、自分用のスポーツバイオメカニクスノートとしてまとめあげる努力が求められる。また、ほぼ毎回、その回の講義内容に関する小課題を実施する。受講者はただ単にノートをとるだけではなく、講義内容についての理解も求められる。小課題の結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。
「スポーツバイオメカニクス20講」　阿江通良・藤井範久・著（朝倉書店）
「目でみる動きの解剖学　新装版」　ロルフ・ヴィルヘード・著、金子公宥・松本迪子・訳（大修館書店）

【成績評価方法】

小課題の達成度を60%、期末試験の点数を40%の割合として評価する（試験は試験期間中に別途実施）。

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助　友　裕　子	
英文名	Hygiene and Public Health					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE202		

【目的とねらい】

我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活を営むためや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　健康と公衆衛生
【　到達目標　】
(1)健康には様々な考え方があることを知る。
(2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。

【授業時間外学習】
公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)

第２回　保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか
【　到達目標　】
(1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。

【授業時間外学習】
政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)

第３回　疫学：その健康情報はどこからくるか
【　到達目標　】
(1)疫学の起源について知る。
(2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。

【授業時間外学習】
喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)

第４回　ヘルスプロモーション
【　到達目標　】
(1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。

【授業時間外学習】
本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)

第５回　世界と日本の健康戦略
【　到達目標　】
(1)世界の健康戦略の流れを知る。
(2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。

【授業時間外学習】
教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び､説明できるようにしておく｡(4.0hr)

第６回　健康の社会的決定要因
【　到達目標　】
(1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。

【授業時間外学習】
現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)

第７回　生活の場と健康
【　到達目標　】
(1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。
(2)WHOのsettingsアプローチを理解する。

【授業時間外学習】
一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)

第８回　がん対策
【　到達目標　】
(1)がんが身近な疾病であることを理解する。
(2)我が国のがん対策の現状を知る。

【授業時間外学習】
がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)

第９回　感染症対策
【　到達目標　】
(1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。
(2)主な感染症について理解する。

【授業時間外学習】
咳エチケットの方法とその理由について考えておく。(4.0hr)

第10回　環境保健
【　到達目標　】
(1)人間と環境のかかわりについて理解する。
(2)環境問題とその対策について知る。

【授業時間外学習】
地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)

第11回　産業保健
【　到達目標　】
(1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。

【授業時間外学習】
働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第12回　メンタルヘルス対策
【　到達目標　】
(1)精神疾患の現状とその対策について知る。

【授業時間外学習】
厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)

第13回　親子保健
【　到達目標　】
(1)我が国の母子保健の水準を知る。
(2)母子保健活動の動向について理解する。

【授業時間外学習】
自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)

第14回　地域保健
【　到達目標　】
(1)地域の様々な保健活動を知る。
(2)健康なまちづくりについて理解する。

【授業時間外学習】
自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)

第15回　災害時の公衆衛生
【　到達目標　】
(1)災害の種類とその備えについて知る。
(2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。

【授業時間外学習】
少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

毎回の講義で、その回のキークエスチョンに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次回の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体共有する。

【実務経験のある教員による授業科目】

行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験を活かし、地域や国民の健康を実現するための対策について講義を行う。

【教科書・参考書など】

『学生のための現代公衆衛生　第7版』　野中浩一編著　南山堂
このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	精神発達			担当者	倉盛美穂子	
英文名	Developmental Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択		専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE203		

【目的とねらい】

本講義では、ヒトが生まれてから死ぬまでの生涯に渡る心理的発達について概観し、各時期に生じる様々な問題についての理解を深めることを目的とする。これらの知見に基づいて、乳幼児や児童、生徒に対するのぞましい教育の在り方について考察することをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　発達とは
【　到達目標　】
(1)発達の定義、子ども観・発達観やその歴史、発達の原理について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第２回　胎児期と母胎環境
【　到達目標　】
(1)胎児期の身体、脳、運動、知覚の発達と、それに対する母胎環境の影響について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第３回　乳幼児期の身体と知覚
【　到達目標　】
(1)乳幼児期の身体と脳と知覚の発達について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第４回　乳幼児期の養育者とのつながり
【　到達目標　】
(1)他者と関係を築くための基盤的能力について理解する。
(2)養育者への愛着とその要因について説明できる。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第５回　乳幼児期の言葉
【　到達目標　】
(1)言語獲得の基礎やそのメカニズムについて理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第６回　乳幼児期の認知
【　到達目標　】
(1)乳幼児期の認知の特徴を説明できる。
(2)認知発達段階について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第７回　乳幼児期の自己
【　到達目標　】
(1)乳幼児期の自己認識や自己抑制の発達について説明できる。
(2)乳幼児期の感情の発達について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第８回　乳幼児期の仲間関係
【　到達目標　】
(1)乳幼児期の仲間関係の特徴について説明できる。
(2)仲間関係に影響する要因について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第９回　乳幼児期の遊び
【　到達目標　】
(1)乳幼児期の遊びの意義について説明できる。
(2)乳幼児期の各種の遊びの発達促進効果について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第10回　初期経験の影響
【　到達目標　】
(1)ヒトの発達における初期経験の影響について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第11回　児童期の認知と学校への適応
【　到達目標　】
(1)児童期の認知について理解する。
(2)学校教育への適応における問題について説明できる。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第12回　青年期の身体と認知
【　到達目標　】
(1)青年期の第2次性徴と性行動について理解する。
(2)青年期の身体の変化と心の変化の関係について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第13回　青年期の自己の発達と社会化
【　到達目標　】
(1)青年期のアイデンティティの確立について理解する。
(2)青年期の対人関係について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第14回　成人期の心理的特徴と発達課題
【　到達目標　】
(1)成人期の身体の変化について理解する。
(2)成人期の社会的問題について理解する。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第15回　老年期の心理的特徴と発達課題
【　到達目標　】
(1)エイジズムについて理解する。
(2)老年期の身体と認知の変化について説明できる。

【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義ではパワーポイントを使用し、教科書を軸として展開する。パワーポイントそのものの資料は配布しないため、受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料（図表のみ）を配布する。毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。また、事後学習として、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。

【教科書・参考書など】

「発達心理学の最先端」　中澤　潤（編）　あいり出版

【成績評価方法】

授業時の提出物の内容を30%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。

科目名	スポーツ医学			担当者	夏　井　裕　明	
英文名	Sports Medicine					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択		専門基礎・必修	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE204		

【目的とねらい】

本講義は臨床スポーツ医学の後編（内科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲ・Ⅳに関する内容を取り扱う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション、健康の概念と医事法規
【　到達目標　】
健康の概念と医事法規について理解する。
【授業時間外学習】
健康運動指導士養成講習会テキスト　上　p 3 - 11　を読む。(4.0hr)

第２回　女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで）
【　到達目標　】
女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 256 - 260　を読む。(4.0hr)

第３回　女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで）
【　到達目標　】
女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 260 - 262　を読む。(4.0hr)

第４回　内科的疾患とスポーツⅠ（循環器の急性疾患）
【　到達目標　】
運動中の突然死とその対策について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 147 - 153、 187 - 198　を読む。(4.0hr)

第５回　内科的疾患とスポーツⅡ（呼吸器・その他の急性疾患）
【　到達目標　】
過換気症候群、運動誘発性喘息、自然気胸、運動誘発性アナフィラキシー、Side Stitchについて理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 163 - 171　を読む。(4.0hr)

第６回　内科的疾患とスポーツⅢ（慢性疾患）
【　到達目標　】
貧血、蛋白尿・血尿、糖尿病、てんかんについて理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 180 - 182、 201 - 202　を読む。(4.0hr)

第７回　感染症とスポーツ
【　到達目標　】
主な感染症とスポーツとの関わり、対策について理解する。
【授業時間外学習】
アスレティックトレーナー専門科目テキスト　4　p 38 - 59　を読む。(4.0hr)

第８回　環境とスポーツⅠ（高温環境）
【　到達目標　】
熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 153 - 157　を読む。(4.0hr)

第９回　環境とスポーツⅡ（低温・低圧・高圧環境）
【　到達目標　】
凍傷と低体温症、急性高山病、潜水事故について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 171 - 174、 221　を読む。(4.0hr)

第10回　メディカルチェックとコンディショニング
【　到達目標　】
メディカルチェックの重要性とコンディショニング、運動中止の判定について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 17 - 27　を読む。(4.0hr)

第11回　皮膚・眼疾患とスポーツ
【　到達目標　】
主な皮膚疾患及び眼疾患について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 223 - 235　を読む。(4.0hr)

第12回　精神とスポーツ
【　到達目標　】
オーバートレーニング症候群、統合失調症、気分障害、摂食障害、神経症、睡眠障害について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 182 - 184　を読む。(4.0hr)

第13回　海外遠征のスポーツ医学
【　到達目標　】
海外遠征の特殊性について理解する。
【授業時間外学習】スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅳ　p 18 - 22、アスレティックトレーナー専門科目テキスト　4　p 100 - 104　を読む。(4.0hr)

第14回　ドーピング・コントロールⅠ（総論）
【　到達目標　】
ドーピングについて、なぜいけないのか、歴史、現状を理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 13 - 17　を読む。(4.0hr)

第15回　ドーピング・コントロールⅡ（各論）
【　到達目標　】
禁止物質、検査の実際について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 13 - 17　を読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本科目は健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科目、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）資格取得のための必修科目である。１年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。健康スポーツ学科は、２年次前期開講の「救急処置法」を履修していることが望ましい。スポーツ科学科は、３年次前期開講の「救急処置法」を履修することが望ましい。

講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。

【実務経験のある教員による授業科目】

医師としての臨床経験を生かし、臨床スポーツ医学の内科系の内容について講義を行う。

【教科書・参考書など】

参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第２版）」、小出清一他編、南江堂
「健康運動指導士養成講習会テキスト上」、公益財団法人　健康・体力づくり事業財団
「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」、公益財団法人　日本スポーツ協会
「アスレティックトレーナー専門科目テキスト　4」、公益財団法人　日本スポーツ協会

【成績評価方法】

試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	体操Ⅱ			担当者	佐藤麻衣子	
英文名	Gymnastic Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE205		

【目的とねらい】

本授業は、体操Ⅰの発展科目とし、同様に、中学校と高等学校の保健体育科教育における「体つくり運動」の「体ほぐし運動」の指導力を習得するために、その適正な実施法を習得することを主目的とし、適宜、指導法についても解説するものである。なお、リズム体操やなわとびについてはより高度な内容とし、また、マスゲームに代え、「体ほぐし」に直結するストレッチ運動を新規に取り扱う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　リズム体操　課題Ⅰ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
運動効果及び5回の授業内容を理解する。また、テンポの速い課題曲のカウントをとることが出来る。

【授業時間外学習】
授業内容をノートに記録する。(1.0hr)

第２回　リズム体操　課題Ⅱ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
グループ編成を行い、音楽を使わず一人8×8カウントの体操を創作する。また、それを正確に実施することが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第３回　リズム体操　課題Ⅲ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
前週の課題と合わせて一人8×16カウントの体操を創作する。また、それを課題曲に合わせ、正確に実施することが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第４回　リズム体操　課題Ⅳ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
課題曲に合わせた一人8×8の体操の動きを止めずに説明できる。
更に、グループ全員が正確な体操を実施することが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第５回　リズム体操　課題Ⅴ「主に律動的な運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
これまでの課題を模範することが出来る。また、それを指導することが出来る。

【授業時間外学習】
1回～4回までのノートを整理する。(1.0hr)

第６回　短なわとび　課題Ⅰ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
運動効果とその理解及び6回の授業内容を理解することが出来る。
また、年齢に応じた用具の必要性を理解することが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第７回　短なわとび　課題Ⅱ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
1回旋1跳躍の技術を習得することが出来る。また、それをリズムに合わせ跳ぶことが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第８回　短なわとび　課題Ⅲ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
2回旋1跳躍の技術を習得することができる。また、それをリズムに合わせ跳ぶことが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第９回　短なわとび　課題Ⅳ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
ＩＮＦ公認初級レベルの技術を習得することができる。また、それを正確に実施することが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第10回　短なわとび　課題Ⅴ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
ＩＮＦ公認中級レベルの技術を習得することができる。また、それを正確に実施することが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第11回　短なわとび　課題Ⅵ「主に体力を高める運動」の教材
【　到達目標　】
これまでの課題を模範することが出来る。また、それを指導することが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第12回　ストレッチ　課題Ⅰ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
運動効果及び4回の授業の内容を理解する。また、ストレッチを実施する筋肉の名称を理解する。

【授業時間外学習】
授業内容をノートに記録する。(1.0hr)

第13回　ストレッチ　課題Ⅱ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
各筋肉に対するストレッチの技術を習得することが出来る。また、それを模範することが出来る。

【授業時間外学習】
授業内容をノートに記録する。(1.0hr)

第14回　ストレッチ　課題Ⅲ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
目的に応じたストレッチをプログラミングをすることが出来る。また、それを指導することが出来る。

【授業時間外学習】
授業で作成した内容をノートに記録する。(1.0hr)

第15回　ストレッチ　課題Ⅳ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材
【　到達目標　】
2人組でのストレッチの技術を習得することが出来る。また、それを指導することが出来る。

【授業時間外学習】
提出するためのノートを整理する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

課題はグループ学習とする。試験の前後にレスポンスカードを配布する。

【教科書・参考書など】

プリント資料を配付する。

【成績評価方法】

リズム体操（実技試験）20%、短なわとび（実技試験）20%、ストレッチ（実技試験）20%、ノート40%で評価する。

科目名	新体操Ⅱ			担当者	橋爪みすず	
英文名	Rhythmic Gymnastics Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE206		

【目的とねらい】

新体操は手具の操作をしながら、徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）を組み合わせることが必須とされている。本授業では、手具と徒手要素を体得し、身体の動きと手具操作の調和を音楽と一緒に実践する。また、音楽のリズムを感じ、流動的な動きの中に表現力や手具技術の習得を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
授業展開とねらい、評価方法、学習上の留意点について理解する。
新体操の歴史と概要を理解する。

【授業時間外学習】
新体操に関する書籍を読み、理解を深める。(1.0hr)

第２回　新体操の特性について
【　到達目標　】
新体操に要求されている徒手要素、手具の特性を理解する。

【授業時間外学習】
徒手難度（ジャンプ・バランス・ローテーション）を調べておく。(1.0hr)

第３回　新体操の基礎運動①
【　到達目標　】
正しい基本姿勢およびジャンプ・バランスを実践し、基礎技術を身につける。

【授業時間外学習】
徒手難度（ジャンプ・バランス）の基礎的特徴について調べておく。(1.0hr)

第４回　新体操の基礎運動②
【　到達目標　】
正しい基本姿勢およびローテーションを実践し、基礎技術を身につける。

【授業時間外学習】
徒手難度（ローテーション）の基礎的特徴について調べておく。(1.0hr)

第５回　ボール：基本操作の実践（一人、二人組で）
【　到達目標　】
突く、転がす、投げるなどの基本操作から、ボールの特性を理解する。
あらゆる操作から発想力を高める。

【授業時間外学習】
ボールの基礎技術について調べておく。(1.0hr)

第６回　ボール：徒手要素と手具操作
【　到達目標　】
身につけた徒手要素（柔軟な動き・バランス・ピボット・ジャンプ）と組み合わせが可能な手具操作を考え、実践できる。

【授業時間外学習】
動きを提案できるように準備する。(1.0hr)

第７回　フープ：音楽との調和（二人組で）
【　到達目標　】
徒手要素と手具操作との組み合わせをフレーズにし、二人組による動きを取り入れながら、音楽のリズムに合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、二人組の基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第８回　フープ：基本操作の実践（一人、二人組で）
【　到達目標　】
回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。
あらゆる操作から発想力を高める。

【授業時間外学習】
フープの基礎技術について調べておく。(1.0hr)

第９回　フープ：徒手要素と手具操作
【　到達目標　】
身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）と組み合わせが可能な手具操作を考え、実践できる。

【授業時間外学習】
動きを提案できるように準備する。(1.0hr)

第10回　フープ：音楽との調和
【　到達目標　】
徒手要素と手具操作の組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第11回　フープ：フレーズの組み立て・実技課題の振り写し
【　到達目標　】
曲調に合ったステップや動きを取り入れながらのフレーズを実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第12回　フープ：実技課題の実践①　(8×4) 自由創作
【　到達目標　】
身につけたフレーズを更につなげ、1分30秒の音楽に合わせ、作品を実践できる。
自由創作（8×4）の内容を考える。

【授業時間外学習】
自由創作の材料を準備する。(1.0hr)

第13回　フープ：実技課題の実践②　自由創作の決定
【　到達目標　】
手具操作と身体の動きが明確になるとともに､音楽のリズムと調和した動きの技術を習得する。
自由創作（8×4）の内容を決定する。

【授業時間外学習】
自由創作の材料を準備する。(1.0hr)

第14回　フープ：実技課題の実践③　学習方法の理解
【　到達目標　】
音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつなぎがスムーズに流れるよう更に実践を重ねる。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第15回　フープ：作品の発表
【　到達目標　】
作品の発表を行う。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、修正すべき点を検討する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

アクセサリー類や時計は、相手や自らの怪我を引き起こす危険性や、手具により破損する可能性があるため、決して身につけない。服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は好ましくない。（パーカー・スウェットは着用しない）
種目毎に実技試験と授業内容に関するレポートを作成し、理解度の確認を行う。結果は授業時に解説によりフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書の指定はなし。
必要に応じて、プリント教材を配布します。

【成績評価方法】

実技試験70%　　レポート30%

科目名	器械運動Ⅱ			担当者	森　井　大　樹	
英文名	Apparatus Exercise Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE207		

【目的とねらい】

器械運動の基礎的な技が習得できているレベルを出発点とし、それらの技の習熟を図るとともに、さらに発展した技の習得ができるようにする。また、それらの技の具体的な練習方法についても理解を深める。

授業で取り扱う種目は、マット運動を中心にそのための補助的練習としてトランポリンも用いる。鉄棒・とび箱・平均台は選択の種目とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　マット運動の基礎技能と練習方法

【　到達目標　】

(1)マット運動の基礎技能と練習方法について再確認する。

【授業時間外学習】

マット運動の基礎技能との繋がりを身体で理解できるよう想起する。(1.0hr)

第２回　マット運動（接転系の技・倒立系の技と練習方法）

【　到達目標　】

(1)前転とその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

【授業時間外学習】

この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。(1.0hr)

第３回　マット運動（接転系の技・倒立系の技と練習方法）

【　到達目標　】

(1)後転とその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

【授業時間外学習】

この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。(1.0hr)

第４回　マット運動（接転系の技・倒立系の技と練習方法）

【　到達目標　】

(1)側転とその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

【授業時間外学習】

この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。(1.0hr)

第５回　マット運動（接転系の技・倒立系の技と練習方法）

【　到達目標　】

(1)いろいろな倒立の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

【授業時間外学習】

この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。(1.0hr)

第６回　マット運動（倒立回転系の技・倒立回転とび系の技と練習方法）

【　到達目標　】

(1)前方倒立回転とその変形技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。
(2)後方倒立回転とその変形技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

【授業時間外学習】

この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。(1.0hr)

第７回　マット運動（倒立回転系の技・倒立回転とび系の技と練習方法）

【　到達目標　】

(1)側方倒立回転とその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。
(2)側方倒立回転とびとその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

【授業時間外学習】

この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。(1.0hr)

第８回　マット運動（倒立回転系の技・倒立回転とび系の技と練習方法）

【　到達目標　】

(1)前方倒立回転とびとその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

【授業時間外学習】

この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。(1.0hr)

第９回～第14回　＜選択種目＞以下のいくつかの技とその練習方法

○マット　（ロンダート・後転とび）

【　到達目標　】

(1)マット：ロンダートの習得を通して、その練習方法を身体で理解する。
(2)マット：後転とびの習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

○トランポリン（いろいろなとび方・回転系の技）

【　到達目標　】

(1)トランポリン：基本的な跳躍の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。
(2)トランポリン：回転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

○鉄棒　（支持回転系の技・懸垂系の技）

【　到達目標　】

(1)鉄棒：支持回転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。
(2)鉄棒：懸垂系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

○とび箱　（反転系の技・回転系の技）

【　到達目標　】

(1)とび箱：反転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。
(2)とび箱：回転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

○平均台　（移動技・回転系の技）

【　到達目標　】

(1)平均台：移動技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。
(2)回転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。

【授業時間外学習】

それぞれの授業において得られた動く感じ（動感）を思い起こしながら（想起）、次回の授業に向けて、どんな感じで動けばその課題が達成できそうなのかを実際に動いているように考える。各(1.0hr)

第15回　課題の達成度と身体知

【　到達目標　】

(1)技の習得に必要な身体知について理解する。
(2)達成できた動きの身体知について理解する。

【授業時間外学習】

授業で身につけた新たな身体知が他の動きかたにも応用できるよう準備する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

課題として取り上げられた技は、スポーツ方法実習で習得した技の発展・変形技である。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらためて動きができるための「道しるべ」を確認することになり、器械運動が苦手な学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。

【教科書・参考書など】

＜参考書＞

「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店）

【成績評価方法】

課題技の達成度　50%、課題技の練習方法の理解度と幇助技術　50%

科目名	陸上競技Ⅱ			担当者	大橋　祐二・中野　美沙	
英文名	Track and Field Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE208		

【目的とねらい】

陸上競技種目の中でも、比較的運動構造が複雑であり、習熟に時間のかかるとされる種目から、走種目として80mハードル、跳種目として走り高跳びを選び出し、それらの実習を通して、技能向上を図るための技術練習や試合状況の中での負荷を経験する。さらに動きの学習における段階的指導内容について理解することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業内容の説明（採点表）
【　到達目標　】
80mハードル、走り高跳びの種目特性を理解する。単位認定の条件となる達成記録及び習熟レベルを確認する。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第２回　ミニハードルによるハードル走
【　到達目標　】
ミニハードルを使用してのハードル走を繰り返し行うことによって、ハードルリズムを身につける。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第３回　各種インターバルによるハードル走
【　到達目標　】
3歩のリズムをよりスムースに行えるように、インターバルの距離およびハードルの高さの変化に適応できるようにする。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第４回　クラウチングからのハードル走
【　到達目標　】
8台のハードルを置き、クラウチングスタートからゴールまでの一連の動きを体験し、80mハードル全体を把握する。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第５回　80mハードル記録測定１
【　到達目標　】
80mハードルの記録測定を行う。達成記録がどのレベルかを把握する。改善の余地がどこにあるのかを確認する。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第６回　欠点の修正１
【　到達目標　】
前回の記録測定で明らかになった改善点を中心に修正練習を行う。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第７回　欠点の修正２
【　到達目標　】
改善点の修正の仕上げとして、80mハードル走の試走を行い、次回の記録測定の準備をする。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第８回　80mハードル記録測定２
【　到達目標　】
80mハードルの記録測定を行う。達成記録がどのレベルかを把握する。改善のための練習効果を確認する。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第９回　走り高跳び：はさみ跳びでの跳躍
【　到達目標　】
走り高跳びの導入に用いる「踏み切り」ドリルを実習する。はさみ跳びによる跳躍によって、強い踏み切りの感覚を確認する。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第10回　背面跳びの踏み切り練習
【　到達目標　】
背面跳びの導入として、マットに背中から着地する方法を練習する。その次にバーに対して背中を向けた状態で踏み切り、背中から着地する感覚を養う。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第11回　背面跳びクリアランス
【　到達目標　】
バークリアランスをうまく行うための踏み切り方、踏み切り時の体勢の作り方などを繰り返し練習する中で、良い方法を見つけ出す。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第12回　短助走からの跳躍
【　到達目標　】
5歩～7歩助走による跳躍を実施する。踏み切り前3歩のリズムの獲得と、踏み切りやすい助走角度を見つけ出す。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第13回　全助走からの跳躍
【　到達目標　】
助走歩数を増やして、自分にあった助走距離を見つけ出す。バーを上げていきながら、次の記録会での目標値を探し出す。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第14回　走り高跳び記録測定１
【　到達目標　】
走り高跳びの記録測定を行う。前回の練習で作った目標値にチャレンジする。失敗跳躍の原因を確認する。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

第15回　走り高跳び記録測定２
【　到達目標　】
2回目の記録測定を行う。前回でわかった失敗跳躍の原因を解決しながら、さらに高い記録にチャレンジする。達成記録がどのレベルかを把握する。改善のための練習効果を確認する。
【授業時間外学習】
授業の該当部分について情報収集をし、教科書・参考書を精読して理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

運動の構成が比較的複雑なので、うまくコントロールできる部分を土台にして、改善すべき部分に集中して学習する。繰り返し練習する中で、「こつ」を見つけ出すよう心がける。また、関連する資料を収集し、それぞれの運動についての理解を深める。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）

【成績評価方法】

各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。

科目名	水泳Ⅱ			担当者	山川　啓介・兵藤　洋樹	
英文名	Swimming Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE209		

【目的とねらい】

4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎおよびバタフライ）、スタートおよびターンを段階的に学習し、技術および泳力を高める。また、応用技術として、4泳法以外の泳法、すなわち横泳ぎ、立ち泳ぎおよび潜行や、水球およびスノーケリング等の基本技術を修得するとともに、学習方法について理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　水泳技術の構造の理解（ストロークメカニクス）
【　到達目標　】
水の特性を学ぶとともに、各種泳法のストロークメカニクスを中心に技術的特性を理解する。

【授業時間外学習】水泳の推進力に関するトレンドの変化について、書籍等を参考に歴史的変遷とともに理解する。(1.0hr)

第２回　水泳競技規則の理解および競技会における審判法
【　到達目標　】
４泳法および個人メドレーにおける泳法(スタートおよびターンなどの周辺技術含む)に加え、水泳競技における規則を理解する。

【授業時間外学習】
競泳競技規則の当該箇所を読み、まとめる。(1.0hr)

第３回　クロール（手足のコンビネーションの練習）
【　到達目標　】
クロールにおけるキック、プルおよびキックとプルのコンビネーションを段階的に修得する。

【授業時間外学習】
書籍やメディアを活用して、クロールの泳技術を再確認する。(1.0hr)

第４回　背泳ぎ（正しい基本姿勢、キックおよびプルの練習）
【　到達目標　】
浮き方および立ち方から、キックおよびプルの練習へと段階的に修得する。

【授業時間外学習】
書籍やメディアを活用して、背泳ぎの泳技術を再確認する。(1.0hr)

第５回　背泳ぎ（手足のコンビネーションの練習）
【　到達目標　】
ドリル練習などを含めて背泳ぎのコンビネーションを段階的に修得する。

【授業時間外学習】
陸上にて、背泳ぎのストローク動作の確認を行う。(1.0hr)

第６回　平泳ぎ（手足のコンビネーションの練習）
【　到達目標　】
平泳ぎにおけるキック、プルおよびキックとプルのタイミングを合わせたコンビネーションを段階的に修得する。

【授業時間外学習】
書籍やメディアを活用して、平泳ぎの泳技術を再確認する。(1.0hr)

第７回　バタフライ（ドルフィンキックの練習）
【　到達目標　】
バタフライにおいて、特にドルフィンキックを中心に修得する。

【授業時間外学習】
書籍やメディアを活用して、バタフライの泳技術を再確認する。(1.0hr)

第８回　バタフライ（手足のコンビネーションの練習）
【　到達目標　】
バタフライにおけるキック、プルおよびコンビネーションを段階的に修得する。

【授業時間外学習】
陸上にて、手足のタイミングに関する動きの練習を反復する。(1.0hr)

第９回　横泳ぎ、立ち泳ぎおよび潜行
【　到達目標　】
横泳ぎ、立ち泳ぎおよび潜行について、段階的に修得する。

【授業時間外学習】
横泳ぎ、立ち泳ぎおよび潜行に関する記事を読み、理解を深める。(1.0hr)

第10回　スタートおよび個人メドレーのトレーニング
【　到達目標　】
水面上からのスタートを段階的に修得する。
個人メドレーの技術的および体力的トレーニングを行う。

【授業時間外学習】
スタート動作に関して、書籍やメディアなどを活用して理解を深める。(1.0hr)

第11回　各種泳法のターン練習および個人メドレーのトレーニング
【　到達目標　】
個人メドレーのタイムを短縮するために、周辺技術を含め、技術的および体力的トレーニングを行う。

【授業時間外学習】
ターン動作に関して、競技会の映像などを活用して理解を深める。(1.0hr)

第12回　水球（基本動作および簡易ゲーム）
【　到達目標　】
水球におけるルール、泳法およびパスなどを基本から段階的に修得する。

【授業時間外学習】
メディアを活用して、水球競技の基礎技能を見学し、理解を深める。(1.0hr)

第13回　スノーケリング
【　到達目標　】
フィン、マスク、スノーケルの使い方に慣れ、スノーケリングの基礎技術を習得する。

【授業時間外学習】
メディアを活用して、水球競技の試合を見学し、理解を深める。(1.0hr)

第14回　各種泳法の確認
【　到達目標　】
4泳法を競技規則に則り、合理的なフォームを完璧に修得する。

【授業時間外学習】オリンピックなどの競技会に関する映像を見学し、理想的なフォームのイメージを具体化する。(1.0hr)

第15回　個人メドレーのタイム計測
【　到達目標　】
水面上からのスタートより100m個人メドレーを泳ぎ、タイムを計測する。

【授業時間外学習】オリンピックなどの競技会に関する映像を見学し、競技種目への理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリー系の着用は不可とする。水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。また、泳力を高めるためのトレーニングも行うため、実習への参加に際して、健康状態に配慮することが必要である。ほぼ毎時間、水泳技能に関する理解をより深めるために、学習者同士による観察・指導を中心としたグループ学習の時間を設ける。各回の学習活動やタイム計測の結果は、その授業終了時にフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「水泳指導教本」　財団法人日本水泳連盟編、大修館書店／「競泳競技規則」　財団法人日本水泳連盟編
「上達する水泳」　柴田義晴著、ナツメ社／「フラットスイム～もっときれいに長く速くクロールが泳げる～」　高橋雄介著、永岡書店

【成績評価方法】

1.泳法試験（70%）、2.100m個人メドレーのタイム（30%）とする。
評価は、上記に加えて受講態度を含め、総合的に判定する。

科目名	バスケットボールⅡ			担当者	佐々木直基・橋本　早予 茂泉　圭治	
英文名	Basketball Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE210		

【目的とねらい】

1年次履修のスポーツ方法実習で習得したバスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を、適切な状況判断のもとグループ・チーム戦術の中で応用させ、より高いレベルでゲームを行うことが目的である。さらに、理解したルールのもと審判を実践することも目的である。2年次履修のスポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系Ａ）、3年次履修のスポーツコーチング演習ⅡおよびⅢでは、本演習で習得したことを適用するため、その基礎作りがねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のねらい・進め方と個人技術の応用
【　到達目標　】
(1)授業のねらいと進め方を理解する。
(2)アウトサイドプレイヤーの１対１を習得する。

【授業時間外学習】
アウトサイドプレイヤーの１対１に関する技術構造について調べる。(1.0hr)

第２回　グループ戦術　アウトサイド同士のプレイ①
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としてパスによるプレイの展開を習得する。

【授業時間外学習】
パスによるプレイの展開の戦術構造について調べる。(1.0hr)

第３回　グループ戦術　アウトサイド同士のプレイ②
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としてドリブルによるプレイの展開を習得する。

【授業時間外学習】
ドリブルによるプレイの展開の戦術構造について調べる。(1.0hr)

第４回　個人技術の応用　インサイドプレイヤーの１対１
【　到達目標　】
(1)個人技術の応用としてインサイドプレイヤーの１対１を習得する。

【授業時間外学習】
インサイドプレイヤーの１対１に関する技術構造について調べる。(1.0hr)

第５回　グループ戦術　アウトサイドとインサイドプレイヤーのプレイ①
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としてオンボールスクリーンのピックプレイとトレイルプレイを習得する。

【授業時間外学習】
ピックプレイとトレイルプレイに関する戦術構造について調べる。(1.0hr)

第６回　グループ戦術　アウトサイドとインサイドプレイヤーのプレイ②
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としてポストにパスを入れてからのプレイの展開を習得する。

【授業時間外学習】
ポストにパスを入れてからのプレイに関する戦術構造について調べる。(1.0hr)

第７回　グループ戦術　アウトナンバー
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としてアウトナンバーの攻撃を習得する。

【授業時間外学習】
アウトナンバーの攻撃に関する戦術構造について調べる。(1.0hr)

第８回　チーム戦術　モーションオフェンス
【　到達目標　】
(1)チーム戦術としてモーションオフェンスの基本原則を理解する。
(2)様々なモーションオフェンスを習得し、実践できる。

【授業時間外学習】
モーションオフェンスに関するチーム戦術構造を調べる。(1.0hr)

第９回　チーム戦術　セットオフェンス
【　到達目標　】
(1)チーム戦術としてセットオフェンスの特徴を理解する。
(2)様々なセットオフェンスを習得し、実践できる。

【授業時間外学習】
セットオフェンスに関するチーム戦術構造について調べる。(1.0hr)

第10回　チーム戦術　マンツーマンディフェンス①
【　到達目標　】
(1)マンツーマンディフェンスの基本原則を理解する。
(2)チーム戦術としてポジショニングとローテーションを習得する。

【授業時間外学習】
マンツーマンディフェンスに関するチーム戦術構造について調べる。(1.0hr)

第11回　チーム戦術　マンツーマンディフェンス②
【　到達目標　】
(1)マンツーマンディフェンスの基本原則を理解する。
(2)チーム戦術としてポストディフェンスとディフェンスリバウンドを習得する。

【授業時間外学習】
マンツーマンディフェンスに関するチーム戦術構造について調べる。(1.0hr)

第12回　チーム戦術　ゾーンディフェンス
【　到達目標　】
(1)ゾーンディフェンスの基本原則を理解する。
(2)様々なゾーンディフェンスを習得し、実践できる。

【授業時間外学習】
ゾーンディフェンスに関するチーム戦術構造について調べる。(1.0hr)

第13回　チーム戦術の総合的検証とゲーム①
【　到達目標　】
(1)本実習で習得したチーム戦術を理解し、実践できる。
(2)ゲームの中で個人技術とグループ・チーム戦術が発揮できる。
(3)ゲームのルールを理解し、審判を行うことができる。
【授業時間外学習】
バスケットボールにおけるゲーム構造について調べる。(1.0hr)

第14回　チーム戦術の総合的検証とゲーム②
【　到達目標　】
(1)本実習で習得したチーム戦術を理解し、実践できる。
(2)ゲームの中で個人技術とグループ・チーム戦術が発揮できる。
(3)ゲームのルールを理解し、審判を行うことができる。
【授業時間外学習】
バスケットボールにおけるゲーム構造について調べる。(1.0hr)

第15回　チーム戦術の総合的検証とゲーム③
【　到達目標　】
(1)本実習で習得したチーム戦術を理解し、実践できる。
(2)ゲームの中で個人技術とグループ・チーム戦術が発揮できる。
(3)ゲームのルールを理解し、審判を行うことができる。
【授業時間外学習】
バスケットボールにおけるゲーム構造について調べる。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習の授業が中心となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリー類は決して身につけない。また、ナンバリング（ゼッケン）を一人ずつ購入し、授業時には必ず着用する。本科目はグループ学習中心の活動となるため、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。

【教科書・参考書など】

参考書
「バスケットボール指導教本改訂版　上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）

【成績評価方法】

授業での到達目標に対する到達度を70%、スキルテストを30%として評価する。

科目名	バレーボールⅡ			担当者	ﾖｰｺ・ｶﾘﾝ・ｾﾞｯﾀｰﾗﾝﾄﾞ 安田　貢	
英文名	Volleyball Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE211		

【目的とねらい】

バレーボールのゲームをおこなう上で必要な基本戦術をより高いレベルまで応用し、様々なバレーボールの戦術を実践できるようにする。また質の高いゲームに要求される多彩な種類の攻撃や各種フォーメーションなどの集団技能としての基本戦術をグループに分かれて演習形式で実践しながら習得していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　バレーボールにおける技術・戦術の考え方
【　到達目標　】
(1)質の高いゲームをおこなうために必要なことを理解する。
(2)戦術を生かすための技術の適用の仕方を理解する。

【授業時間外学習】
レベルの高いゲームをおこなうための技術・戦術の考え方を理解しておく。(1.0hr)

第２回　基礎技能の応用Ⅰ(各種パス・レシーブ技術)
【　到達目標　】
(1)場面に応じたパス技術を身につける。
(2)ボールの質を意識したレシーブができる。

【授業時間外学習】
事前に各局面に応じたレシーブ技術の構造を理解しておく。(1.0hr)

第３回　基礎技能の応用Ⅱ(様々なスパイク技術)
【　到達目標　】
(1)攻撃のエリア、テンポの違う攻撃を理解・実践する。

【授業時間外学習】
事前にゲームで用いる様々なスパイク技術の構造を理解しておく。(1.0hr)

第４回　基礎技能の習得Ⅰ(ブロック技術の構造)
【　到達目標　】
(1)手の出し方、ステップを理解・実践する。

【授業時間外学習】
事前にブロック技術の構造を理解しておく。(1.0hr)

第５回　基礎技能の応用Ⅲ(サーブ)、各ポジションの専門性について
【　到達目標　】
(1)狙ったコースにサーブを安定して打つことができる。
(2)スパイカーの各ポジションの専門性について理解・実践する。

【授業時間外学習】
事前に各種サーブ技術の構造、各ポジションの特徴と役割について理解しておく。(1.0hr)

第６回　基本戦術の応用Ⅰ(3段攻撃)
【　到達目標　】
(1)攻撃のエリア、テンポの違う3段攻撃を実践できる。

【授業時間外学習】
事前に集団技能としての3段攻撃の組み立てを理解しておく。(1.0hr)

第７回　基本戦術の応用Ⅱ(サーブレシーブフォーメーション)
【　到達目標　】
(1)各フォーメーションの特長を理解し、それらをチームで実践できる。

【授業時間外学習】
事前に各種サーブレシーブフォーメーションの特徴を理解しておく。(1.0hr)

第８回　基本戦術の応用Ⅲ(アタックレシーブフォーメーション)
【　到達目標　】
(1)各フォーメーションの特長を理解し、それらをチームで実践できる。

【授業時間外学習】
事前に各種アタックレシーブフォーメーションの特徴を理解しておく。(1.0hr)

第９回　ゲーム実践Ⅰ
【　到達目標　】
(1)W型サーブレシーブフォーメーションでゲームを実践できる。
(2)Man-up型レシーブフォーメーションでゲームを実践できる。

【授業時間外学習】
事前に各フォーメーションでの動き方について理解しておく。(1.0hr)

第10回　ゲーム実践Ⅱ
【　到達目標　】
(1)M型サーブレシーブフォーメーションでゲームを実践できる。
(2)Man-down型レシーブフォーメーションでゲームを実践できる。

【授業時間外学習】
事前に各フォーメーションでの動き方について理解しておく。(1.0hr)

第11回　基本戦術の応用Ⅳ(攻撃システム)
【　到達目標　】
(1)チームでの攻撃の組み立て方を理解・実践する。

【授業時間外学習】
事前に各種攻撃システムの特徴について理解しておく。(1.0hr)

第12回　基本戦術の応用Ⅴ(各戦術の適用)
【　到達目標　】
(1)各戦術について、チームに最適なものを考え、適用できる。

【授業時間外学習】
相手との対応を考慮して適切な戦術の適応について理解しておく。(1.0hr)

第13回　バレーボールにおけるスカウティングについて
【　到達目標　】
(1)個人技術の評価方法を理解し、実践できる。
(2)チーム戦術分析の基礎を理解する。

【授業時間外学習】
各種スカウティングの目的を明らかにすることを理解しておく。(1.0hr)

第14回　ゲーム実践Ⅲ
【　到達目標　】
(1)チーム戦術を遂行し、ゲームを実践できる。

【授業時間外学習】
相手チームとの対応から適切な作戦を立ててゲームをおこなう方法を理解しておく。(1.0hr)

第15回　ゲーム実践Ⅳ
【　到達目標　】
(1)チーム戦術を遂行し、ゲームを実践できる。

【授業時間外学習】
相手チームとの対応から適切な作戦を立ててゲームをおこなう方法を理解しておく。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリー類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。授業でおこなう個人の技能が効率よく身につくように、タブレット端末や映像遅延装置を用いたフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

技能の実技テストを60%、チームでのゲーム実践の達成度を40%として評価する。

科目名	ハンドボールⅡ			担当者	吉　兼　　練	
英文名	Handball Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE212		

【目的とねらい】

スポーツ方法基礎演習で学んだ基礎的な個人技術のバリエーションを増やし、グループによる様々な基本戦術を実践できるようにする。最終的には、チーム戦術として6人での攻撃展開の仕方や防御の仕方を理解した上で、チームごとに作戦や戦術をたて実践できる能力を身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　個人技能の応用と実践　シュートバリエーション①
【　到達目標　】
(1)状況に応じた様々なフォームでシュートすることができる。

【授業時間外学習】
状況に応じた様々なフォームでのシュート技術について確認する。(1.0hr)

第２回　個人技能の応用と実践　シュートバリエーション②
【　到達目標　】
(1)ポジションに応じたシュートが打てる。

【授業時間外学習】
ポジションに応じたシュート技術について確認する。(1.0hr)

第３回　個人技能の応用と実践　パス技術のバリエーション
【　到達目標　】
(1)状況に応じたパス技術を使いわけることができる。

【授業時間外学習】
状況に応じたパス技術について確認する。(1.0hr)

第４回　個人技能の応用と実践　フェイント技術のバリエーション
【　到達目標　】
(1)状況に応じた突破のためのフェイント技術を使い分けることができる。

【授業時間外学習】
状況に応じた突破のためのフェイント技術について確認する。(1.0hr)

第５回　グループ戦術(2人による攻撃方法)
【　到達目標　】
(1)ポストがいない2対2のコンビプレイを身につける。
(2)ポストがいる2対2のコンビプレイを身につける。

【授業時間外学習】
2対2のコンビプレイについて確認する。(1.0hr)

第６回　グループ戦術(3人による攻撃方法)
【　到達目標　】
(1)ポストがいない3対3のコンビプレイを身につける。
(2)ポストがいる3対3のコンビプレイを身につける。

【授業時間外学習】
3対3のコンビプレイについて確認する。(1.0hr)

第７回　グループ戦術(2人による防御方法)
【　到達目標　】
(1)マンツーマンシフトによる防御を理解する。
(2)スイッチシフトによる防御を理解する。

【授業時間外学習】
防御のコンビネーションについて確認する。(1.0hr)

第８回　グループ戦術(3人による防御方法)
【　到達目標　】
(1)マンツーマンシフトとスイッチシフトを使い分けて防御することができる。

【授業時間外学習】
防御のコンビネーションについて確認する。(1.0hr)

第９回　チーム戦術(6人による攻撃～展開からシュートまで)
【　到達目標　】
(1)揺さぶり→きっかけ→突破の一連の流れのある攻撃ができる。

【授業時間外学習】
流れのあるセットオフェンスについて確認する。(1.0hr)

第10回　チーム戦術(6人による防御)
【　到達目標　】
(1)システムに応じた組織的な防御の仕組みが理解できる。

【授業時間外学習】
組織的な防御の仕組みに関する理解を深める。(1.0hr)

第11回　ポジションの役割と理解
【　到達目標　】
(1)攻撃におけるポジションの役割を理解し実践できる。
(2)防御におけるポジションの役割を理解し実践できる。

【授業時間外学習】
攻撃防御それぞれにおけるポジションの役割に関する理解を深める。(1.0hr)

第12回　各チームの戦術とゲーム・評価1
【　到達目標　】
(1)チームごとに立てたゲーム構想の下にゲームを行うことができる。
(2)自他チームに対する適切なゲーム評価ができる。

【授業時間外学習】
ゲームの評価に関する理解を深める。(1.0hr)

第13回　各チームの戦術とゲーム・評価2
【　到達目標　】
(1)チームごとに立てたゲーム構想の下にゲームを行うことができる。
(2)自他チームに対する適切なゲーム評価ができる。

【授業時間外学習】
ゲームの評価に関する理解を深める。(1.0hr)

第14回　各チームの戦術とゲーム・評価3
【　到達目標　】
(1)チームごとに立てたゲーム構想の下にゲームを行うことができる。
(2)自他チームに対する適切なゲーム評価ができる。

【授業時間外学習】
ゲームの評価に関する理解を深める。(1.0hr)

第15回　各チームの戦術とゲーム・評価4
【　到達目標　】
(1)チームごとに立てたゲーム構想の下にゲームを行うことができる。
(2)自他チームに対する適切なゲーム評価ができる。

【授業時間外学習】
ゲームの評価に関する理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習が中心となる上に、身体接触を伴う競技であるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特に、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリー類は決して身につけない。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業ごとの課題の達成度を30%、各技術の習得レベルを30%、ゲームの実践能力を20%、テストの結果を20%の割合として評価する。

科目名	サッカーⅡ			担当者	鈴　木　健　介	
英文名	Soccer Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択			
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE213		

【目的とねらい】

フットサルのトレーニングにより獲得した技術を、より広いスペースの中でそのスペースを活かしながら使用し、サッカーの技術として再構築する。そして、サッカーのゲームを楽しむ。①攻撃にかかわる人数を増加させることにより、結果としてより複雑な動きを経験する。②技術の定着をさらに促進させるため、新たなドリルトレーニングを行う。③ゲームを楽しみながらサッカーの本質を理解する。

以上のことを目的として本授業を展開する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ボールコントロールとキックとヘディングのトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)技術向上のためのドリルトレーニングを実践し、技術レベルを向上させる。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第２回　コミュニケーションのトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)ゲームの中でコミュニケーションがうまくはかれるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第３回　視野を確保しながらボールを受けるトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)ゲーム形式トレーニングの中で視野を確保しながら、ボールを受けることができるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第４回　攻撃のサポートのトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)ゲーム形式トレーニングの中で、良いタイミングで良い位置・良い距離にサポートすることができるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第５回　3人目のプレーヤーを使う攻撃のトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)ゲーム形式トレーニングの中で、3人目のプレーヤーを使う攻撃ができるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第６回　ボールを奪うトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)タッチライン際、ペナルティエリア角付近、それぞれの位置でボールが確実に奪えるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第７回　守備におけるチャレンジとカバーのトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)チャレンジとカバーがゲームの中で実践できるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第８回　ダイヤモンド型フォーメーションによる攻撃のトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)ゲームの中で、ボールを中心にダイヤモンド型フォーメーションを次々に作ることができるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第９回　4対4での守備を想定したシャドートレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)4対4のゲームにおける守備のシャドートレーニングを実践し、動き方を理解できるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第10回　ダイヤモンド型プラスワントップを攻撃の単位とするトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)5名での攻撃の形を繰り返しトレーニングし、ゲームの中で使えるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第11回　攻守の切り替えのトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)攻守の切り替えの早さの重要性を理解し、ゲームの中で実践できるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第12回　クロスボールからの攻撃のパターントレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)クロスボールからの攻撃パターンを4種類トレーニングし、ゲームの中で、実践できるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第13回　クロスボールに対する守備のトレーニングとゲーム

【　到達目標　】

(1)守備の方法を実践し、ゲームの中で行えるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第14回　チーム毎でのウォームアップとゲーム

【　到達目標　】

(1)チーム毎にウォームアップを行い、ゲームが実践できるようにする。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第15回　レクリエーションゲーム

【　到達目標　】

(1)班編成を変え、レクリエーションゲームを行う。

【授業時間外学習】

時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとすること。

アクセサリー類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。

前回の技術的課題を落とし込んだウォームアップを行い、技術の定着の一助とする。

【教科書・参考書など】

特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。

【成績評価方法】

以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度６０％、②技術点（実技テスト）１０％、③知識点（理論テスト）１０％、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）２０％。

科目名	スポーツマネジメント			担当者	芳　地　泰　幸	
英文名	Sport Management					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択			専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE214		

【目的とねらい】

近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日的な状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織と人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツマネジメントの発展
【　到達目標　】
(1)スポーツの様々な捉え方について理解する。
(2)スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。

【授業時間外学習】
経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか、自分なりに整理する。(4.0hr)

第２回　マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化
【　到達目標　】
(1)マネジメントの誕生（科学的管理法）ついて理解する。
(2)スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。

【授業時間外学習】
スポーツのビジネス化の背景について身近な事例を調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツビジネス（企業）の目的と責任
【　到達目標　】
(1)企業の目的について理解する。
(2)マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。

【授業時間外学習】
スポーツ関連企業の経営理念や組織体制など、IR情報を調べる。(4.0hr)

第４回　スポーツマーケティングの意義と役割
【　到達目標　】
(1)マーケティングとセリングの違いを理解する。
(2)マーケティングにおける市場細分化とターゲッティングを理解する。

【授業時間外学習】
スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。(4.0hr)

第５回　マーケティング戦略とスポーツプロダクト
【　到達目標　】
(1)マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。
(2)スポーツプロダクト（有形・無形）の捉え方について理解する。

【授業時間外学習】
ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかをその要因について整理する。(4.0hr)

第６回　スポーツ事業の経営戦略
【　到達目標　】
(1)代表的な環境分析の手法を理解する。
(2)基本的な経営戦略（競争戦略）について理解する。

【授業時間外学習】
成功している企業の経営戦略（競争戦略）について調べる。(4.0hr)

第７回　スポーツ組織のマネジメント
【　到達目標　】
(1)組織とは何かを理解する。
(2)組織成立の要件を理解する。

【授業時間外学習】
組織はどのようなものか、集団や群衆との違いについて整理する。(4.0hr)

第８回　スポーツ組織の人間的（情緒的）側面
【　到達目標　】
(1)経営管理における人間関係論を理解する。
(2)人材をマネジメントする際の情緒的側面の重要性を理解する。

【授業時間外学習】
組織における人間関係や規範（暗黙のルール）の影響について整理する。(4.0hr)

第９回　スポーツ組織のモチベーション・マネジメントⅠ
【　到達目標　】
(1)モチベーションとはなにかについて理解する。
(2)モチベーションの内容論について理解する。

【授業時間外学習】
何が満たされるとやる気になるのか、についてこれまでの経験を基に考えてみる。(4.0hr)

第10回　スポーツ組織のモチベーション・マネジメントⅡ
【　到達目標　】
(1)モチベーションの過程論（プロセス論）について理解する。
(2)身近な組織のモチベーション・マネジメントに向けた効果的な改善策を立案する。

【授業時間外学習】
どのようにモチベーションが生起し、変化するのか、考えてみる。(4.0hr)

第11回　スポーツ組織におけるリーダーシップ
【　到達目標　】
(1)リーダーシップの役割、機能について理解する。
(2)リーダーシップの代表的理論（特性論・行動理論）を理解する。

【授業時間外学習】
優れたリーダーはどのような特性を有しているのかについて整理する。(4.0hr)

第12回　組織変革とリーダーシップ
【　到達目標　】
(1)変革型リーダーシップについて理解する。
(2)組織におけるリーダーシップとマネジメントの違いについて理解する。

【授業時間外学習】
リーダーとマネジャーの違いについて、身近な事例から整理する。(4.0hr)

第13回　チーム作りとチームビルディング
【　到達目標　】
(1)チームビルディングの手法について理解する。
(2)チームワークを育むコミュニケーションについて理解する。

【授業時間外学習】
チームが機能するとはどのような状態か、身近な事例から整理する。(4.0hr)

第14回　スポーツ施設の運営と管理
【　到達目標　】
(1)我が国のスポーツ施設の現状を理解する。
(2)スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。

【授業時間外学習】
身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。(4.0hr)

第15回　スポーツ施設のデザインとユーザビリティ
【　到達目標　】
(1)ユニバーサルデザイン（UD）の視点を理解する。
(2)ユーザビリティを高めるための改善手法を理解する。

【授業時間外学習】
誰もが快適に、安全に利用できる施設や空間の設計・デザイン等について整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを使用して講義をおこなう。また、必要に応じて関連資料やVTR等の補助教材を用い、具体的事例からマネジメントに関する理解を深めていく。受講生は積極的に講義に参加するとともに自主的な予習・復習や情報収集に努めること。特に、講義で学んだ視点や理論、知識を身近な組織（部活動やアルバイト）に当てはめて考える、応用すること。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニッツペーパー（レスポンスカード）を実施し、次回の講義時にフィードバックをおこなう。さらに、時間外での主体的な学びを促すための課題レポートも課し、評価コメントを付して受講生にフィードバックする。

【教科書・参考書など】

教科書は特に定めない。
＜参考書＞「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年。
※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。

【成績評価方法】

課題レポート（講義内での小レポート含む）を40%、定期試験の結果を60%として総合評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	救急処置法			担当者	夏　井　裕　明	
英文名	First Aid					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE301		

【目的とねらい】

本講義は臨床スポーツ医学の後編（外科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回　外傷総論
【　到達目標　】
外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治癒過程について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 29 - 36　を読む。(4.0hr)

第３回　応急処置総論
【　到達目標　】
RICE処置の内容・方法・効果について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 42 - 47　を読む。(4.0hr)

第４回　頭部のスポーツ外傷
【　到達目標　】
意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。
【授業時間外学習】スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 36 - 39、 55 - 58、 157 - 160　を読む。(4.0hr)

第５回　顔面のスポーツ外傷
【　到達目標　】
顔面外傷、鼻出血、歯牙損傷について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 233 - 241　を読む。(4.0hr)

第６回　上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節）
【　到達目標　】
鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 62 - 72　を読む。(4.0hr)

第７回　上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から前腕）
【　到達目標　】
上腕から前腕までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 72 - 83　を読む。(4.0hr)

第８回　上肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（手関節から指）
【　到達目標　】
手関節から指までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 83 - 89　を読む。(4.0hr)

第９回　体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ（頸部から胸部）
【　到達目標　】
頸部から胸部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 58 - 61、 90　を読む。(4.0hr)

第10回　体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ（腰部から骨盤）
【　到達目標　】
腰部のスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 89 - 100　を読む。(4.0hr)

第11回　下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝の外傷）
【　到達目標　】
膝のスポーツ外傷について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 105 - 115　を読む。(4.0hr)

第12回　下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（膝の障害、大腿部）
【　到達目標　】
膝のスポーツ障害と大腿部のスポーツ外傷について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 115 - 123　を読む。(4.0hr)

第13回　下肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（大腿・下腿・足部）
【　到達目標　】
大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 100 - 105、 123 - 139　を読む。(4.0hr)

第14回　心肺蘇生法の理論
【　到達目標　】
心肺蘇生法の理論について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 213 - 220　を読む。(4.0hr)

第15回　心肺蘇生法実習
【　到達目標　】
心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。
【授業時間外学習】
BLSヘルスケアプロバイダー　マニュアル　を読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本科目は選択科目ではあるが、教員免許、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科目資格取得のための必修科目である。１年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。２年次後期開講の「スポーツ医学」も併せて履修することが望ましい。
講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。
第15回の心肺蘇生法実習は夏休みの補講・集中講義期間中に実施する。

【実務経験のある教員による授業科目】

医師としての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。

【教科書・参考書など】

参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第２版）」、小出清一他編、南江堂
「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人　健康・体力づくり事業財団
「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人　日本スポーツ協会

【成績評価方法】

試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	スポーツ史			担当者	都　筑　　真	
英文名	Sport History					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE215		

【目的とねらい】

本講義では、社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解を深めることを目的とする。各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの在り様を理解していくことを通じて、今後のスポーツの在り方を考察していくことをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学習】
参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)

第２回　スポーツ史を学ぶ意義
【　到達目標　】
(1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解する。
(2)スポーツ史を学ぶ意義について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第３回　スポーツのルーツへのまなざし
【　到達目標　】
(1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第４回　各時代の社会におけるスポーツ
【　到達目標　】
(1)スポーツの時代毎の変化と現代のスポーツとの相違点を理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第５回　スポーツ種目の誕生と変容
【　到達目標　】
(1)われわれの身近にあるスポーツ種目がなぜ誕生し、どのように変化してきたのかを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第６回　欧米スポーツの日本への移入
【　到達目標　】
(1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第７回　体操、身体教育、スポーツ教育
【　到達目標　】
(1)古代の体操、近代の身体教育、現代のスポーツ教育に関する理論と歴史的過程を理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第８回　スポーツの技術、戦術、ルールの歴史的変容
【　到達目標　】
(1)スポーツの技術、戦術、ルールがどのように変化してきたのかについて理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第９回　近代の戦争と体育・スポーツ
【　到達目標　】
(1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第10回　オリンピックムーブメントと世界平和
【　到達目標　】
(1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解する。
(2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第11回　日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法
【　到達目標　】
(1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第12回　スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果
【　到達目標　】
(1)スポーツの発展に貢献しているスポーツに関連した「モノ」「場」「サービス」の歴史とスポーツの経済効果について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第13回　女性スポーツの展開と現在
【　到達目標　】
(1)女性にとってスポーツ文化がこれまでどのようなものであったのか、そして現在どのようなものとなっているかを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第14回　スポーツとメディア
【　到達目標　】
(1)スポーツとメディアの歴史的関係やスポーツメディアの特性について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第15回　スポーツと環境問題
【　到達目標　】
(1)スポーツと環境問題の関係を理解する。
(2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。
「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。
『体育・スポーツ史概論』(木村吉次編著、市村出版)と『スポーツの歴史と文化』(新井博／榊原浩晃編著、道和書院)を講義の参考書として利用すること。

【成績評価方法】

講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	野外教育論			担当者	中　丸　信　吾	
英文名	Theory on Outdoor Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE108		

【目的とねらい】

本授業は、野外教育の概念や意義、教育的価値を学ぶことを目的とし、実際の活動を通した学びである体験学習によって行われる野外教育の特性を理解すること、および野外教育における指導者の資質やリスクマネジメントについて理解することをねらいとしている。授業では体験学習について学ぶとともに、国内外の野外教育に関する理論から野外教育の概念や意義、教育的価値、学校教育における自然体験活動の位置づけについて学習する。また、指導者としてのあり方や自己表現・コミュニケーション、対象理解、リスクマネジメントについても学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　野外教育とは

【　到達目標　】

(1)野外教育の概念について理解する。

(2)野外教育の教育的価値について理解する。

【授業時間外学習】

野外教育の概念、定義、教育的価値について調べて整理する。(4.0hr)

第２回　体験学習①　体験から学ぶ

【　到達目標　】

(1)野外教育の基礎となる体験からの学びについて理解する。

(2)自身の体験を振り返り、体験から学ぶことの重要性を理解する。

【授業時間外学習】体験からの学びについて、自身の体験を振り返るとともに、体験から学ぶことの価値を調べる。(4.0hr)

第３回　体験学習②　体験学習法

【　到達目標　】

(1)野外教育の手法の一つである体験学習法について理解する。

(2)自身の体験および実践事例を用いて、体験学習法の理解を深める。

【授業時間外学習】

体験学習法、体験学習サイクル、PDCAサイクルについて調べる。(4.0hr)

第４回　冒険教育と環境教育

【　到達目標　】

(1)野外教育における冒険教育の意義と教育的価値について理解する。

(2)野外教育における環境教育の意義と教育的価値について理解する。

【授業時間外学習】

冒険教育・環境教育について調べる。(4.0hr)

第５回　指導者を考える①　自己表現

【　到達目標　】

(1)指導者の資質としての、自己表現について理解する。

(2)対人コミュニケーションの言語的および非言語的要素について理解する。

【授業時間外学習】

対人コミュニケーションの言語的および非言語的要素について調べる。(4.0hr)

第６回　指導者を考える②　自己開示

【　到達目標　】

(1)対人コミュニケーションのための自己開示について理解する。

(2)対人コミュニケーションのための、他者からのフィードバックについて理解する。

【授業時間外学習】

ジョハリの4つの窓について調べる。(4.0hr)

第７回　指導者を考える③　指導の資格とスキル

【　到達目標　】

(1)指導者のスキルについて理解する。

(2)指導者におけるハードスキル・ソフトスキルの必要性について理解する。

【授業時間外学習】

ハードスキルおよびソフトスキルについて調べる。(4.0hr)

第８回　野外教育の対象①　さまざまな対象

【　到達目標　】

(1)さまざまな対象における野外教育について、実践例を通して理解する。

(2)対象に合わせた指導の必要性について理解する。

【授業時間外学習】

さまざまな対象に行われている、キャンプなどの野外活動について実践例を調べる。(4.0hr)

第９回　野外教育の対象②　対象を理解する

【　到達目標　】

(1)青少年の発育年代と精神的発達について理解する。

(2)対象を理解するための観点について理解する。

【授業時間外学習】

青少年の発育年代と精神的発達について調べる。(4.0hr)

第10回　リスクマネジメント①　リスクマネジメント概論

【　到達目標　】

(1)リスクとハザード、ハインリッヒの法則について理解する。

(2)リスクマネジメントの考え方について理解する。

【授業時間外学習】

リスクとハザード、ハインリッヒの法則について調べる。(4.0hr)

第11回　リスクマネジメント②　指導者として安全を考える

【　到達目標　】

(1)安全の考え方について、安全教育と安全管理を通して理解する。

(2)事故事例を通して、指導者としての安全の観点を理解する。

【授業時間外学習】

KYT、安全教育と安全管理について調べる。(4.0hr)

第12回　リスクマネジメント③　社会におけるリスクマネジメント

【　到達目標　】

(1)リスクマネジメントには社会的信頼の獲得も含まれることを理解する。

(2)自分自身へのリスクマネジメントの考え方について理解する。

【授業時間外学習】

社会的信頼とは何か調べる。自身の加入している保険を調べる。(4.0hr)

第13回　野外教育のプログラム①　自然体験や自然学習

【　到達目標　】

(1)自然体験や自然学習をねらいとしたプログラムについて理解する。

(2)実践事例を通して、プログラムのねらいや指導のポイントを理解する。

【授業時間外学習】

パッケージドプログラムについて調べる。(4.0hr)

第14回　野外教育のプログラム②　人と関わる

【　到達目標　】

(1)人と関わることをねらいとしたプログラムについて理解する。

(2)実践事例を通して、プログラムのねらいや指導のポイントを理解する。

【授業時間外学習】

アイスブレイクおよびASE（Action Socialzation Experience）について調べる。(4.0hr)

第15回　野外教育特別講義

【　到達目標　】

(1)野外教育に関連する分野で活動している講師の講義を通して､野外教育の考え方を深める。

(2)これまでの体験をもとに、自己に置き換えて野外教育を理解する。

【授業時間外学習】

予め提示された内容について調べる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。授業では、学習内容の理解を深めるために、個人ワークやグループワーク、学生による発表などのアクティブラーニングを含めて展開する。授業では、講義内容に関する小レポートや理解度テストを行う。テスト結果は、授業内で解説によるフィードバックを行う。

野外教育の理解を深めるため、野外活動を履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書：『野外教育の理論と実践』自然体験活動研究会編(小森伸一　責任編集)/杏林書院(2011)、『キャンプ指導者入門』日本キャンプ協会

【成績評価方法】

レポート試験（2回実施）60%、小テスト（数回実施）20%、小レポート（毎授業実施）20%

科目名	生涯スポーツ概論			担当者	溝　口　紀　子	
英文名	Lifelong Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE302		

【目的とねらい】

本人の生涯学習活動として、現代社会におけるスポーツの必要性、社会的価値を理解し、新しい公共としての「スポーツ権」が、どのように社会に寄与するかを考える。とりわけ生涯スポーツ社会を形成する指導者としての生涯スポーツの基礎的知識を獲得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス（授業の進め方　スポーツ権） 【　到達目標　】 (1)授業ガイダンス、生涯スポーツ関連用語を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習とは何かをインターネットで調べる。(4.0hr)	**第９回　スポーツとメンタルヘルス** 【　到達目標　】 (1)メンタルヘルスとしての生涯スポーツ活動を理解する。 【授業時間外学習】 メンタルヘルスにおけるスポーツ活動についてインターネットで調べる。(4.0hr)
第２回　生涯スポーツと健康長寿を考える 【　到達目標　】 (1)健康長寿の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 健康長寿とは何かをインターネットで調べる。(4.0hr)	**第10回　格差社会とスポーツ** 【　到達目標　】 (1)地域におけるスポーツ活動を理解する。 (2)新しい公共、社会関係資本としてのスポーツを理解する。 【授業時間外学習】 地域総合型スポーツクラブについてインターネットで調べる。(4.0hr)
第３回　ヘルスプロモーションと健康日本21 【　到達目標　】 (1)現在の「生涯学習」の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 ヘルスプロモーションとは何かをインターネットで調べる。(4.0hr)	**第11回　子どもの身体特性とスポーツ環境** 【　到達目標　】 (1)生涯学習社会におけるコミュニティスポーツを理解する。 【授業時間外学習】 地域総合型スポーツクラブについてインターネットで調べる。(4.0hr)
第４回　生涯スポーツとスポーツイベント・スポーツツーリズム 【　到達目標　】 (1)スポーツツーリズムについて理解する。 【授業時間外学習】 スポーツツーリズムとは何かをインターネットで調べる。(4.0hr)	**第12回　中高年の身体特性とスポーツ環境** 【　到達目標　】 (1)生涯学習社会における総合型地域スポーツクラブを理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。(4.0hr)
第５回　生涯スポーツ政策の歴史 【　到達目標　】 (1)生涯スポーツの歴史的変遷について理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会とは何かをインターネットで調べる。(4.0hr)	**第13回　学生によるプレゼンテーション** 【　到達目標　】 (1)発表について評価する。課題を見つける。 【授業時間外学習】 発表の準備をする(4.0hr)
第６回　女性のスポーツの参加率と環境 【　到達目標　】 (1)女性のスポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 女性スポーツの参加率をインターネットで調べる。(4.0hr)	**第14回　学生によるプレゼンテーション** 【　到達目標　】 (1)発表について評価する。課題を見つける。 【授業時間外学習】 発表の準備をする。(4.0hr)
第７回　障害者スポーツ、アダプテッド・スポーツ 【　到達目標　】 (1)障害者スポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 アダプテッド・スポーツとは何かをインターネットで調べる。(4.0hr)	**第15回　生涯スポーツの展望と課題** 【　到達目標　】 (1)生涯学習思想を述べることができる。 (2)豊かなスポーツライフを述べることができる。 (3)生涯学習社会でのスポーツのあり方を述べることができる。 【授業時間外学習】 第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。(4.0hr)
第８回　スポーツと予防医学 【　到達目標　】 (1)予防医学とスポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 予防医学についてインターネットで調べる。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。

【教科書・参考書など】

特に指定しない。
適宜、印刷物を配布する。

【成績評価方法】

授業における課題達成度(50%)、プレゼンテーション、レポート(50%)で評価する。

科目名	学校保健			担当者	沢田真喜子	
英文名	School Health					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE303		

【目的とねらい】

学校保健安全法に基づく保健教育、保健管理、保健組織活動及び安全教育、安全管理の必要性と現代的課題について理解し、その目的と具体的な取組に関する基礎的知識を身につけることをねらいとする。特に、学校管理下で発生する事件や事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解すること、子どもの現代的健康課題の実情と子どもの健康を取り巻く課題に対応する保健教育及び保健管理の取組について理解することを通して、地域や関連専門機関との連携を基盤とした学校保健安全活動についての理解を深めることを目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　学校保健安全法とその意義

【　到達目標　】

学校保健の意義、改正された学校保健安全法を基に全ての教職員が推進する必要性について理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第1章1節を読み、p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第２回　学校保健行政

【　到達目標　】

学校保健の行政組織と特徴について理解し、学校保健行政の現状と課題について、資料をもとに比較・分析し、組織体制について理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第1章2節を読み、p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第３回　学校保健の組織活動と教職員等の責任

【　到達目標　】

学校保健に関する組織活動の必要性、学級担任、養護教諭、保健主事、校長等管理職の役割と学校医、学校歯科医、学校薬剤師及びその他の専門職の役割について、理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第1章3～5節を読み､p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む｡(4.0hr)

第４回　保健学習と保健指導

【　到達目標　】

実践する力につながる保健の知識の習得について、学習指導要領に基づく保健学習と学校における保健指導の位置づけについて理解する。

【授業時間外学習】テキスト第2～3章を読み、p35・83「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第５回　教育課程に基づく保健指導

【　到達目標　】

教育課程に基づく性に関する指導について、変遷やねらい、指導に当たっての配慮事項、様々な機会に行われる性に関する指導と課題について理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第4章を読み、p91「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第６回　学校安全の意義と管理

【　到達目標　】

学校安全の意義、学校における安全管理・安全教育について、児童生徒の事故及び災害の実態をもとに理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第13章を読み、p235「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第７回　教育課程に基づく安全教育

【　到達目標　】

保健学習及び特別活動には限定されない安全教育について、小学校、中学校の内容をもとに理解し、家庭、地域、関連機関と連携した安全教育の方法について考えることができる。

【授業時間外学習】

テキスト第7章を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第８回　児童生徒の健康状態の把握

【　到達目標　】

健康観察の意義と方法、健康相談及び個別の保健指導の在り方、保健調査と健康診断について理解し、校内連携及び専門職や保護者との連携方法について考えることができる。

【授業時間外学習】

テキスト第8章を読み、p139「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第９回　児童生徒の発育発達

【　到達目標　】

現代の子どもの発育発達の特徴、児童生徒の体力の現状と課題について理解した上で、被災地における幼児、児童生徒の体力・運動能力向上のための取組みについて整理し、学校保健活動に組み込む方法を考えることができる。

【授業時間外学習】

テキスト第7章を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第10回　児童生徒の健康状態の把握

【　到達目標　】

健康診断結果に基づく、児童生徒にみられる疾病・異常、現代的健康課題の特徴について理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第9章1節を読み､p159「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第11回　学校生活管理指導表を活用した対応

【　到達目標　】

学校生活管理指導表について、心疾患、腎臓・糖尿病疾患、アレルギー疾患の特徴を踏まえ、学校生活管理指導表を活用した指導と対応について理解する。

【授業時間外学習】テキスト第9章2～3節を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第12回　児童生徒のメンタルヘルスケア

【　到達目標　】

児童生徒の自殺、いじめ、不登校の実態について各種統計調査結果をもとに理解し、児童生徒の心の問題への対応における基本的な考え方を考えることができる。

【授業時間外学習】テキスト第10章1～3節を読み、p183「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第13回　いじめ防止対策と教職員の責任

【　到達目標　】

いじめ防止対策に関する国の施策、学校長や教職員の責任・役割等について理解し、いじめ自殺等の過去の事例をもとに教職員の責任と役割について考える。

【授業時間外学習】テキスト第10章2～4節を読み、p183「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第14回　特別に配慮を要する児童生徒と特別支援教育

【　到達目標　】

特別支援教育の理念及び現状と課題について理解し、その推進のための体制づくりについて、医療福祉、その他の関連専門機関との連携事例を踏まえ理解する。

【授業時間外学習】テキスト第11章1節を読み、p201「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第15回　特別に配慮を要する児童生徒への健康上の支援

【　到達目標　】

障害のある児童生徒への健康上の支援のあり方について、学校保健安全上の諸課題から考え理解する。

【授業時間外学習】テキスト第11章2節を読み、p201「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

児童生徒の健康と安全を守り、高めることのできる教員としての資質や能力の基盤となるよう、主体的な学習に取り組むことを期待する。具体的には、学校保健や学校安全に関連する法律や指針を参照したり、統計資料をもとに比較し問題点を抽出したりできるようペアワークや課題学習を取り入れ、教科書及び配布資料にもとづき講義内容の要点をパワーポイントで示しながら進めていく。授業時間外学習においては、文部科学省や厚生労働省等のホームページや資料を閲覧し、ニュース等から情報を収集する等の課題意識をもって理解を深めてもらいたい。

【実務経験のある教員による授業科目】

養護教諭および助産師としての実務経験を活かし、学校保健および学校安全に関する教員としての役割や、課題に対応するための実践的指導力および組織的対応力について講義を行う。

【教科書・参考書など】

教科書は、第１回授業前に掲示し、参考書は授業時に適宜紹介する。

【成績評価方法】

授業内容の習得度（10%）、課題レポート（30%）、試験（60%）の加重平均にて総合的に評価する。
試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	精神保健			担当者	角　田　和　也	
英文名	Mental Health of Adolescence					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE304		

【目的とねらい】

昨今、「メンタルヘルス」「心の健康」という言葉を、日常生活の中でよく耳にするようになった。社会全体が個々の精神面の健康状態を以前よりも大切にしていこうとする風潮にあるとともに、不登校やうつによる自殺の増加といった現実的な問題に直面していることも背景にあると考えられる。こうした状況の中で、今日私たちが直面している自身および子どもたちの心の健康の問題について、その実態を学ぶとともに対処方法を検討していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション／「精神保健」とは
【　到達目標　】
(1)「精神保健」の意義を理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　「精神的健康」と現代社会
【　到達目標　】
(1)社会問題にもなっている「心の健康」にかかわる事象について、その実態を理解するとともにその要因について理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　ライフサイクルと精神保健①　出生前期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである出生前期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　ライフサイクルと精神保健②　乳児期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである乳児期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回　ライフサイクルと精神保健③　幼児期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである幼児期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　ライフサイクルと精神保健④　学童期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである学童期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　ライフサイクルと精神保健⑤　思春期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである思春期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　生活環境と精神保健①　家族から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである「家族」の質的変化について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　生活環境と精神保健②　食生活から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである食生活の影響について理解するとともに、望ましい食生活についても理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　生活環境と精神保健③　住環境から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである住居の影響について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　生活環境と精神保健④　空気環境から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである空気環境について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　生活環境と精神保健⑤　睡眠から受ける影響①
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである睡眠の影響について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回　生活環境と精神保健⑥　睡眠から受ける影響②
【　到達目標　】
(1)引き続き、睡眠の影響について理解するとともに、望ましい睡眠のあり方についても理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　発達障がい①
【　到達目標　】
(1)発達障がいの種類やその特徴を理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　発達障がい②
【　到達目標　】
(1)引き続き、発達障がいの特徴を理解するとともに、発達障がい児（者）の心の健康を保持するために必要な支援・援助のあり方について理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学習上の留意点】

①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。
②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。課題レポートの結果は、次回以降の授業の内容に反映させ、授業内容の説明を通じてフィードバックします。
③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。

【教科書・参考書など】

・１回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。
・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。

【成績評価方法】

・提出物の評価……50%　　期末試験の結果……50%
・試験は試験期間中に別途実施します。

科目名	保健科教育法Ⅰ			担当者	助　友　裕　子	
英文名	Teaching Methods in Health Education Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE306		

【目的とねらい】

保健科教育について、その特質を理解するとともに、保健体育科教員としての資質を身につけることが目的である。本科目では、学習指導要領の位置づけや内容、指導上の留意点、学習評価の考え方についての基礎的な知識を身につけることをねらいとする。

学習指導案の作成と模擬授業の実施およびその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付け、授業設計の向上に取り組むことのできる技術の習得をめざす。

【授業内容・到達目標など】

第１回　保健科教育とは（概論）
【　到達目標　】
保健科教育、健康教育の意義と方向性について理解を深める。
【授業時間外学習】
保健体育科（保健分野）ならびに科目保健を教える上で不安な点を整理しておく。(4.0hr)

第２回　現代社会における健康問題および他教科等との関連
【　到達目標　】
現代の健康問題の動向と保健科教育におけるそれらの位置について考察し、発展的な学習内容について探求する。
【授業時間外学習】
中央教育審議会答申を読んでおく。(4.0hr)

第３回　保健の目標と内容
【　到達目標　】
小学校、中学校、高等学校学習指導要領における保健の目標や内容の違いを理解し、全体構造を把握する。
【授業時間外学習】
中・高の学習指導要領解説の保健体育科（保健分野）と科目保健の項を読んでおく。(4.0hr)

第４回　保健の指導計画
【　到達目標　】
指導計画作成の意義、種類、作成上の基本および指導上の留意点について理解するとともに、学習指導案の構成を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案で取り上げる単元の選定、教材研究を行う。(4.0hr)

第５回　保健科教育の実際Ⅰ
【　到達目標　】
知識を活用する学習活動を通じて、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第６回　保健科教育の実際Ⅱ
【　到達目標　】
ブレインストーミングなど具体的な指導方法を習得し、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第７回　保健の学習評価
【　到達目標　】
評価の意義、局面、観点、規準などについて理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第８回　教材研究Ⅰ
【　到達目標　】
保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、教材研究の目的、過程、方法について理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成を進める。(4.0hr)

第９回　教材研究Ⅱ
【　到達目標　】
保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、保健の指導計画に応じた教材研究の工夫について理解を深める。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成を進める。(4.0hr)

第10回　保健科教育のための研究方法
【　到達目標　】
保健科教育における実践研究の動向や発展的な学習内容の事例を知り、現場ニーズに応じた保健科教育の工夫について理解を深める。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第11回　小学校の保健の授業
【　到達目標　】
中学校と高等学校の保健の基礎となる小学校の内容および指導上の留意点について理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第12回　中学校の保健の授業
【　到達目標　】
個人生活における健康・安全に関する内容および指導上の留意点について説明できる。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第13回　高等学校の保健の授業
【　到達目標　】
個人及び社会生活における健康・安全に関する内容及び指導上の留意点について説明できる。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第14回　学習指導案の作成
【　到達目標　】
１時間の学習指導案を作成できるようにする。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第15回　保健の授業研究
【　到達目標　】
模擬授業の様子を観察し、授業技術のポイントを理解するとともに、発展的な学習内容を探求したり授業設計の向上に取り組むことができる。
【授業時間外学習】
授業で記入した「保健の授業研究」を復習し、模擬授業のイメージ形成を図る。(4.0hr)

【学習上の留意点】

おもにパワーポイントや配布資料で要点を示し、詳細は口頭にて説明する。高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。

【実務経験のある教員による授業科目】

行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験のある教員が、保健科教育の具体的な指導方法、授業づくり、評価などについて、学習指導要領に基づき基礎的な知識について講義を行う。

【教科書・参考書など】

森良一編著『保健科教育法』東洋館出版社
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）　中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

原則として、授業中の課題達成度50%と定期試験の結果50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価する。

科目名	保健科教育法Ⅱ			担当者	沢田真喜子	
英文名	Teaching Methods in Health Education Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE307		

【目的とねらい】

保健科教育について、その特質を理解するとともに、保健体育科教員としての資質を身につけることが目的である。本科目は、保健科教育法Ⅰと既修の健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健などによる知識を応用し、ICTや教材研究への効果的な活用、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計、学習指導案の構成を理解する。学習指導案の作成と模擬授業の実施およびその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付け、授業設計の向上に取り組むことのできる技術の習得をめざす。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（模擬授業の手順、授業への心構えなど）
【　到達目標　】
作成した学習指導案をもとに、構成及び生徒の実態に応じた具体的な授業設計について理解を深め、改善できる。

【授業時間外学習】保健科教育法Ⅰで作成した学習指導案を用いて、生徒の学ぶ意欲を高めるような工夫、思考・判断を深めるような工夫についてまとめる。(4.0hr)

第２回　学習指導要領解説と保健の授業研究①
【　到達目標　】
学習指導要領解説と保健の教科書を比較し、学習内容の取り上げられ方の理解を深めるとともに、具体的な授業設計に生かす。

【授業時間外学習】
学習指導要領解説を熟読し、不明な点を明らかにし内容を把握しておく。(4.0hr)

第３回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第４回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第５回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第６回　学習指導要領解説と保健の授業研究②
【　到達目標　】
学習指導要領解説と保健の教科書を比較し、学習内容の系統性と取り上げられ方の理解を深めるとともに、具体的な授業設計に生かす。

【授業時間外学習】学習指導要領解説を熟読し、不明な点を明らかにし、内容の系統性・順序性を把握しておく。(4.0hr)

第７回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第８回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第９回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第10回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第11回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第12回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第13回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第14回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第15回　保健の授業運営のまとめ
【　到達目標　】
自他の模擬授業を振り返り、保健授業における課題、発問、板書計画、情報機器活用等の授業スキルや教師の役割について説明できる。

【授業時間外学習】
模擬授業で得たフィードバックをもとに、学び続ける教員としての役割をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

班ごとに割り当てられた模擬授業の準備・実施を通して保健の授業に必要な技術を習得する。高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。

【実務経験のある教員による授業科目】

養護教諭および助産師としての実務経験を活かし、保健科の授業を担当できる技術の習得を目的とし、既修の科目や知識を応用した模擬授業を実施し、実践的に指導を行う。

【教科書・参考書など】

森良一編著『保健科教育法』東洋館出版社
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）　中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

授業中の課題達成度50%と定期試験の結果50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価する。

科目名	体育科教育法Ⅰ	担当者	高　橋　修　一
英文名	Teaching Methods in Physical Education Ⅰ		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE308		

【目的とねらい】

本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　本講義の目的、学校体育の現状、被教育体験期の体育授業イメージとの照合
【　到達目標　】
(1)本講義の目的を理解し、学習の見通しを立てることができる。
(2)被教育体験の体育授業イメージを想起することができる。
【授業時間外学習】
体育教育法Ⅰ・Ⅱにおける1年間の授業時間外学習の計画を立てる。(4.0hr)

第２回　保健体育科の目標論
【　到達目標　】
(1)体育目標の歴史的変遷、目標構造を理解する。
【授業時間外学習】
体育目標の歴史的変遷、目標構造について学習する。(4.0hr)

第３回　保健体育科の教育課程論(1)：学習指導要領の内容(1)
【　到達目標　】
(1)学習指導要領の性格を理解する。
(2)学習指導要領における運動部活動と体育授業の関連性や位置付けについて理解する。
(3)次期学習指導要領の要点を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導要領の性格について予習・復習する。(4.0hr)

第４回　保健体育科の教育課程論(2)：学習指導要領の内容(2)
【　到達目標　】
(1)中学校学習指導要領の内容構成を理解する。
【授業時間外学習】
中学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。(4.0hr)

第５回　保健体育科の教育課程論(3)：学習指導要領の内容(3)
【　到達目標　】
(1)高等学校学習指導要領の内容構成を理解する。
【授業時間外学習】
高等学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。(4.0hr)

第６回　体育授業の教材・教具論（1）（ICTの活用を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における教材・教具の果たす役割を具体的に説明できる。
(2)体育授業におけるICTの活用の役割について具体的に説明できる。
【授業時間外学習】素材－目標－学習内容－教材―教具の関係性及び、ICTの役割について予習・復習する。(4.0hr)

第７回　体育授業の教材・教具論（2）（ICTの活用を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における効果的な教材や教具について具体例を用いて説明できる。
(2)体育授業におけるICTの活用について、具体例を挙げながら説明できる。
【授業時間外学習】
効果的な教材・教具及び、ICT活用の具体例を挙げておく。(4.0hr)

第８回　体育授業の学習指導方法論(1)（アクティブラーニングの視点を含む）
【　到達目標　】
(1)体育教師の4大教師行動について理解できる。
(2)アクティブラーニングの利点と学習指導方法への応用の仕方について説明できる。
(3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法について理解できる。
【授業時間外学習】
体育教師の4大教師行動、アクティブラーニングについて予習・復習する。(4.0hr)

第９回　体育授業の学習指導方法論(2)（アクティブラーニングの視点を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における学習指導のポイントを理解し、具体的に説明できる。
(2)アクティブラーニングを取り入れた体育授業の学習指導方法について具体的に説明できる。
(3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法の具体例を挙げることができる。
【授業時間外学習】
学習指導のポイント及び、アクティブラーニングを理解し、具体例を挙げておく。(4.0hr)

第10回　体育授業の観察、分析、評価
【　到達目標　】
(1)期間記録、相互作用行動を記録する意義を理解する。
(2)テスト映像で適切に記録することができる。
【授業時間外学習】
体育授業を観察・分析することの意義や視点について予習・復習する。(4.0hr)

第11回　マイクロティーチング（1）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学習】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第12回　マイクロティーチング（2）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学習】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第13回　マイクロティーチング（3）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学習】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第14回　マイクロティーチング（4）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学習】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第15回　マイクロティーチングまとめ
【　到達目標　】
(1)効果的な指導、教材・教具について効果的に反省できる。
【授業時間外学習】マイクロティーチングの経験を踏まえ、改めて良い体育授業の特徴について考察する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要になる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。

【教科書・参考書など】

高橋健夫編著『体育科教育学入門』大修館書店(2010年)
文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房

【成績評価方法】

模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト80%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	体育科教育法Ⅱ			担当者	須　甲　理　生	
英文名	Teaching Methods in Physical Education Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE309		

【目的とねらい】

本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　体育の授業づくり論(1)：単元計画、指導案の作成手順(1)
【　到達目標　】
(1)単元計画及び指導案作成の原理、原則を理解する。

【授業時間外学習】
学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)

第２回　体育の授業づくり論(2)：単元計画、指導案の作成手順(2)
【　到達目標　】
(1)単元計画及び指導案作成の手続きを理解し、説明できる。

【授業時間外学習】
学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)

第３回　体育の授業づくり論(3)：教材づくりの視点
【　到達目標　】
(1)教材づくりの視点を理解し、具体的に説明できる。

【授業時間外学習】学習指導案における授業の明確な目標を設定し、その目標達成のための教材を計画する。(4.0hr)

第４回　体育の授業づくり論(4)：指導と評価の一体化
【　到達目標　】
(1)指導計画への評価の組み込み方を理解する。

【授業時間外学習】
具体的な指導と評価の計画を立てる。(4.0hr)

第５回　体育の授業づくり論(5)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(1)
【　到達目標　】
(1)適切な計画を立てるためにグループ内で積極的に討論できる。

【授業時間外学習】
グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)

第６回　体育の授業づくり論(6)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(2)
【　到達目標　】
(1)グループ内で適切な計画を立てることができる。

【授業時間外学習】
グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)

第７回　模擬授業の反省会 (1)
【　到達目標　】
(1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。

【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第８回　模擬授業の反省会(2)
【　到達目標　】
(1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。

【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第９回　模擬授業の反省会(3)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。

【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第10回　模擬授業の反省会(4)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。

【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第11回　模擬授業の反省会(5)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。

【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第12回　優れた実践に学ぶ(1)：体育授業VTRの視聴と解説(1)
【　到達目標　】
(1)優れた体育授業のVTRから、効果的な指導のポイントをあげることができる。

【授業時間外学習】
模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)

第13回　優れた実践に学ぶ(2)：体育授業VTRの視聴と解説(2)
【　到達目標　】
(1)優れた体育授業のVTRから、効果的な教材・教具について説明できる。

【授業時間外学習】
模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)

第14回　体育授業の存在意義
【　到達目標　】
(1)体育授業の存在意義について説明できる。

【授業時間外学習】
体育授業の存在意義について考察する。(4.0hr)

第15回　スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略からみた体育授業
【　到達目標　】
(1)我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。

【授業時間外学習】
我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要になる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。

【教科書・参考書など】

高橋健夫編著『体育科教育学入門』大修館書店（2010年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房

【成績評価方法】

模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト80%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	ソフトボール			担当者	笹　倉　清　則	
英文名	Softball					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE109		

【目的とねらい】

ベースボール型球技であるソフトボールは投・打・走・捕の運動が含まれるスポーツ種目である。本授業では、ソフトボールのルールおよび基本的な技術、戦術を理解、習得することでゲームを行えるようにする。また生徒への指導を視野に入れ、指導方法や練習方法、安全上の留意点についても身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
本授業の目的や評価の方法、具体的な内容、天候による実施内容の変更など授業に関わる留意点を理解する。またソフトボールのルールについて理解する。

【授業時間外学習】
ソフトボールについてルールや試合映像を事前に学習する。(1.0hr)

第２回　ソフトボールの基本的な技術　投と捕
【　到達目標　】
ソフトボールの基本的な投げ方と安全な捕球の仕方を理解し、習得する。
また、ポジションによる投動作の違いも理解する。

【授業時間外学習】
ソフトボールにおけるキャッチボールについて事前に調べておく。(1.0hr)

第３回　ソフトボールの基本的な技術　打撃
【　到達目標　】
バットの握り方、スイングの仕方について理解し、習得する。
ティーバッティングなどの基本的なドリルを行い、ボールをバットの芯に当てることを習得する。
【授業時間外学習】
ソフトボールの打撃について調べ、イメージを掴んでおく。(1.0hr)

第４回　ソフトボールの守備　打球の捕球
【　到達目標　】
ゴロやフライの捕球の仕方について理解し、習得する。
キャッチボールを行いながら、ゴロやフライの状況を作り出しグラブの使い方を習得する。

【授業時間外学習】ソフトボールではどのような打球の種類があるのかを映像などを通して理解しておく。(1.0hr)

第５回 ソフトボールの守備　連携
【　到達目標　】
内外野の守備位置を理解し、打球を捕球してから送球することを実践し、習得する。
ランナーの有無や打球の種類によってアウトにする方法が選択できるようになる。

【授業時間外学習】ソフトボールにおけるアウトの状況を事前学習し、守備の連携について理解しておく。(1.0hr)

第６回　ソフトボールの攻撃　打順と攻撃の狙い
【　到達目標　】
攻撃における打順の意味を理解し、それぞれの場面における打撃の狙いや走塁について実践を通して理解し、習得する。

【授業時間外学習】
ソフトボールにおける攻撃の戦術について事前に学習し、理解しておく。(1.0hr)

第７回　ゲーム実践①　ミニゲーム
【　到達目標　】
ゲームを通して、攻守の作戦の立案やより良いゲームを行うための課題を理解する。

【授業時間外学習】
ソフトボールのゲームの流れを映像などを通して理解しておく。(1.0hr)

第８回　集団の防御技術　内外野の連携
【　到達目標　】
カバーリングやベースカバーなど守備におけるボールを持たない人の動きを理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学習】
守備位置や連携した送球の状況について事前学習し、理解しておく。(1.0hr)

第９回　戦術的な攻撃　バントや走塁を用いた攻撃
【　到達目標　】
バントやヒットエンドランなどの戦術を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学習】
ソフトボールにおける攻撃の戦術について事前に学習しておく。(1.0hr)

第10回　ゲーム実践②　初級者に合わせたルールでのミニゲーム
【　到達目標　】
投球位置や攻守交代のルールを調整したゲームを行い、初級者でも楽しめるゲームについて理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学習】
初級者の躓くポイントについて事前に想定をしておく。(1.0hr)

第11回　ゲーム実践③　通常のルールでのゲーム（チーム活動）
【　到達目標　】
ゲーム経験を踏まえて、個人やチームの課題を検討、抽出することができるようになる。
その上で、課題を克服する練習方法について考えることができる。

【授業時間外学習】
ゲームにおけるポジションごとの役割について事前に学習しておく。(1.0hr)

第12回　課題に応じた練習　（チーム活動）
【　到達目標　】
前回の試合で出た課題について、個人やチームで練習を行い、試合に向けた準備ができるようになる。

【授業時間外学習】
個人やチームの課題に対する練習方法について検討しておく。(1.0hr)

第13回　ゲーム実践④　通常のルールでのゲーム（チーム活動）
【　到達目標　】
課題に対して行った練習を生かしながら、ゲームを行い、さらに改善点を見つけることができる。

【授業時間外学習】
個人やチームの課題を今一度整理し、より良いゲームができるように準備しておく。(1.0hr)

第14回 ゲーム実践⑤　通常のルールでのゲーム（チーム活動）
【　到達目標　】
課題に対して行った練習を生かしながら、ゲームを行い、さらに改善点を見つけることができる。

【授業時間外学習】
個人やチームの課題を今一度整理し、より良いゲームができるように準備しておく。(1.0hr)

第15回　スキルチェックとまとめ
【　到達目標　】
授業を通して理解、習得した内容について表現することができる。

【授業時間外学習】
授業全体を通して取り組んできた内容について振り返りを行う。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習が中心となるため、適した服装を準備し、アクセサリーなどは身につけず安全に配慮すること。屋外での活動が多いため、体調管理を徹底し日差しや熱中症対策を各自で行うこと。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

技術や戦術的な達成度50%、ルール理解や練習方法の検討について50%の割合で評価を行う。

科目名	柔道			担当者	佐　藤　雄　哉	
英文名	Judo					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	実技		科目ナンバー	SBE110		

【目的とねらい】

スポーツ種目の一つである柔道の基礎技能（受身の仕方、投げ技、固め技など）を習得する。併せて柔道の歴史的発展についての知識も学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（授業展開について）
【　到達目標　】
授業の全体像を把握する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第２回　柔道の基本動作、受身（後受身）、固め技（袈裟固、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第３回　受身（横受身・前回受身）、固め技（袈裟固の逃れ方、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第４回　受身（前回受身）、固め技（崩れ袈裟固め、横四方固、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第５回　投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩しー作りー掛け）、投げ技（膝車）
【　到達目標　】
基本動作を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第６回　投げ技（膝車、小内刈）、固め技（上四方固、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第７回　投げ技（大外刈り、背負投）、固め技（縦四方固、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第８回　投げ技（釣込腰、払腰）、固め技（各種抑え技の逃れ方、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第９回　受身試験
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第10回　投げ技（大腰）、固め技（関節技、乱取）
【　到達目標　】
投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第11回　投げ技（払い腰、約束練習）、固め技（絞め技、乱取）
【　到達目標　】
投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第12回　投げ技（体落とし、約束練習）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅰ
【　到達目標　】
基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第13回　投げ技（連絡技、乱取）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅱ
【　到達目標　】
基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第14回　試験（投げ技、固め技）
【　到達目標　】
正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第15回　簡易な試合
【　到達目標　】
柔道全般を理解する。
【授業時間外学習】
参考書と学習指導要領を用いて指導法の理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。
状況に応じて映像教材や資料を提示し、論理的な技術体系の解説を施しながら柔道に対する理解を深めていく。本講義を理解するためには、感覚的な技術の習得と併せて、論理的な技術体系の理解が重要である。レポートや理解度確認テストを通して明らかとなった課題を解説、フィードバックし、課題の解決に取り組むことが求められる。

【教科書・参考書など】

木村昌彦著『よくわかる柔道受け身のすべて』ベースボールマガジン社、木村昌彦著『いちばんわかりやすい！柔道の教科書』土屋書店、
木村昌彦著『女子のための柔道の教科書』土屋書店、文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）

【成績評価方法】

レポート（30%）と試験（70%）で評価する。

科目名	障害者スポーツ論			担当者	松　原　　豊	
英文名	Theory of Adapted Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門基礎・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE305		

【目的とねらい】

ノーマライゼーションやバリアフリーなどの言葉が社会に定着しつつあり、障害の有無に関わらず全ての人が楽しめるスポーツ環境を整えていくことが重要になってきている。障害者スポーツはリハビリテーションを目的とした活動だけではなく、競技スポーツや生涯スポーツへと拡がり、さらに共生や交流を目的としたインクルーシブ・スポーツのニーズが高まってきている。本講義では、障害について正しく理解し、障害の特性に応じた体育・スポーツの意義や具体的な実践方法に関する知識を習得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　障害理解について
【　到達目標　】
障害についての全般的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回　ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
【　到達目標　】
現代的な課題であるノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味を理解し、具体的なイメージを習得する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第３回　ICFの概念について
【　到達目標　】
WHOのICFの概念を学び､障害のある人たちにとって活動､参加､環境因子の重要性を理解する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第４回　障害者スポーツの歴史（リハビリから競技スポーツへ）
【　到達目標　】
障害者スポーツの歴史について、リハビリテーションから競技スポーツへの発展拡大についての基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第５回　障害者スポーツの現状（パラリンピックを中心に）
【　到達目標　】
障害者スポーツの現状として、パラリンピックについての知識を習得すると共に課題となる事柄について考察する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第６回　Adapted Physical Activitiesの理念と具体例
【　到達目標　】
Adapted Physical Activitiesの理念を学び、具体的な方法に関する知識を習得する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第７回　視覚障害と体育・スポーツ
【　到達目標　】
視覚障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第８回　聴覚障害と体育・スポーツ
【　到達目標　】
聴覚障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第９回　肢体不自由と体育・スポーツ（脳性障害を中心に）
【　到達目標　】
肢体不自由（脳性障害）の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第10回　肢体不自由と体育・スポーツ（筋無力症を中心に）
【　到達目標　】
肢体不自由（筋無力症）の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第11回　知的障害と体育・スポーツ
【　到達目標　】
知的障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。(4.0hr)

第12回　重症心身障害と体育・スポーツ
【　到達目標　】
重症心身障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第13回　発達障害と体育・スポーツ
【　到達目標　】
発達障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第14回　インクルーシブ体育・スポーツ
【　到達目標　】
障害の有無に関わらず共に体育・スポーツを楽しむインクルーシブ体育についての基礎的な知識を習得する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第15回　将来への展望と課題、学習の振り返り
【　到達目標　】
障害者スポーツの将来への展望と課題について考察すると共に、これまでの内容を振り返りながら習得した知識の確認を行う。
【授業時間外学習】
授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義資料としてワークシートを配布し、グループ学習やディスカッションによってキーワードや課題を記入する。授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

参考書：教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学　齊藤まゆみ編著　大修館書店

【成績評価方法】

授業における課題達成度に対する評価（20%）　レポートによる評価（20%）　試験による評価（60%）
試験は試験期間中に別途実施。

科目名	スポーツ社会学			担当者	溝　口　紀　子	
英文名	Introduction to Sociology of Sport					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE306		

【目的とねらい】

スポーツの歴史や文化史を通して、スポーツの社会的役割、文化的意義について考察する。グローバル社会の多様な側面や文化的特徴についてスポーツという切り口から理解を深める。「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」の視点からスポーツがどのように社会や人と関わりを持っているのかを社会学の視点から考察する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス（授業の進め方　スポーツ権）
【　到達目標　】
スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。
【授業時間外学習】
現代社会におけるスポーツの抱える問題について、自分なりに整理し書き出してみる。(4.0hr)

第２回　遊びとスポーツ　－「ホモ・ルーデンス」・「遊びと人間」を読み解く－
【　到達目標　】
スポーツの定義、遊び、eスポーツについて理解する。
【授業時間外学習】
eスポーツについて調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツの近代化と武道の誕生
【　到達目標　】
スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する（小レポートを実施）。
【授業時間外学習】武士道、武道の違いについて、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第４回　スポーツとナショナリズム
【　到達目標　】
スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。
【授業時間外学習】スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第５回　スポーツと体育
【　到達目標　】
スポーツと教育の関係性について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施）。
【授業時間外学習】
自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)

第６回　冷戦とスポーツ五輪とボイコット
【　到達目標　】
スポーツが政治とどのように結びつくのか、冷戦時代を例にボイコットについて取り上げる。
【授業時間外学習】
五輪ボイコットに関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第７回　スポーツと映像文化について
【　到達目標　】
民族の祭典、美の祭典の映画鑑賞、スポーツ文化について取り上げる。
【授業時間外学習】
「民族の祭典、美の祭典」について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第８回　スポーツと事故リスク、安全配慮について
【　到達目標　】
スポーツと事故、安全配慮について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施）。
【授業時間外学習】
自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)

第９回　1964年東京オリンピック
【　到達目標　】
1964年東京五輪の当時の時代背景、スポーツ政策はいかに進められたかを理解する。
【授業時間外学習】
1964年の東京五輪について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第10回　スポーツの文化触変
【　到達目標　】
1964年の東京五輪がその後日本人の生活にどのような影響を及ぼしたかを議論する。
【授業時間外学習】
自分の住む地域の地域スポーツの実態に関して調査する。(4.0hr)

第11回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
女性アスリートのメディア・イメージやパターナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができるようにする（小レポート実施）。
【授業時間外学習】スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。(4.0hr)

第12回　メディアスポーツ
【　到達目標　】
メディアスポーツが文化として成立するための文化的構成要素とその社会的担い手の特徴や変化をめぐる課題について理解する。
【授業時間外学習】
メディアスポーツとは何か、これまでの講義内容からまとめてみる。(4.0hr)

第13回　スポーツと倫理－ドーピングの問題性とスポーツの本質
【　到達目標　】
ドーピング問題とは何かについて理解し、スポーツにおけるドーピング問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。
【授業時間外学習】
パラドーピング、日本選手のドーピング事件を調べる。(4.0hr)

第14回　スポーツと体罰
【　到達目標　】
スポーツと社会的逸脱の関係性について、ドーピング問題、スポーツと暴力等の問題をもとに理解を深めていく。
【授業時間外学習】
体罰の問題に関して、特に関心のある領域に関して小レポートをまとめる。(4.0hr)

第15回　これからの社会とスポーツの使命・可能性
【　到達目標　】
スポーツが担うべきミッションについて各自が理解し、今後の展望について、社会学的観点から独自の議論を展開できるようになる。
【授業時間外学習】
スポーツ社会学のパースペクティブについて理解し、整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

1.個別的な種目を離れて、スポーツの全体を捉えるようにする。
2.テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。
3.現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。
4.静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。
参考図書：「現代スポーツのパースペクティブ」菊幸一他編著（大修館書店）2006 、「性と柔一女子柔道史から問うー」溝口紀子著（河出書房新社）2013、「よくわかるスポーツ文化論」 井上俊・菊幸一編著（ミネルヴァ書房）2012、「日本の柔道　フランスのJUDO」溝口紀子著（高文研）2015

【成績評価方法】

1.試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可）
2.授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40%
3.良好な出席状況は、当然の前提である。

科目名	スポーツ政策論			担当者	溝　口　紀　子	
英文名	Sport Social Policy and Administration					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門基礎・選択		専門・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE307		

【目的とねらい】

「スポーツ基本法」を中心にスポーツの普及や強化といったスポーツ政策について、スポーツに関わる法律や組織、財政等の制度を中心にスポーツが社会的・経済的・歴史的に影響を与える背景、環境について理解する。

スポーツ政策について、概念や仕組みから積み上げるだけではなく、スポーツに関わる最新の事例を取り上げ、意味と課題、解決方法について掘り下げる。スポーツが社会に与える影響、社会的価値についてとどう関わっているのか、またどう関わっていかなければならないかを考えるきっかけを提供したい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツ政策論概説
【　到達目標　】
(1)授業ガイダンス、スポーツ政策関連用語を理解する。
【授業時間外学習】
政策とは何かをインターネットで調べる。(4.0hr)

第２回　日本のスポーツ状況
【　到達目標　】
(1)スポーツをめぐる政策史を理解する。
(2)「政策」からみたスポーツの歴史観を理解する。
【授業時間外学習】
政策とは何かをインターネットで調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツの関連法規
【　到達目標　】
(1)スポーツ基本計画の全体構想と意義を理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ基本計画についてインターネットで調べる。(4.0hr)

第４回　スポーツ基本法とスポーツ基本計画
【　到達目標　】
(1)スポーツ基本計画の下位施策の目標を理解する。
(2)スポーツ基本計画の下位施策の具体的展開を理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ基本計画についてインターネットで調べる。(4.0hr)

第５回　スポーツの政策とその構造
【　到達目標　】
(1)スポーツ基本法を理解する。
(2)「みんなのスポーツ」を理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ基本法についてインターネットで調べる。(4.0hr)

第６回　国内スポーツ政策の実際
【　到達目標　】
(1)スポーツの公共性について理解する。
(2)スポーツによるコミュニティ形成について理解する。
【授業時間外学習】
地域におけるコミュニティ活動についてインターネットで調べる。(4.0hr)

第７回　戦後のスポーツ政と1964の東京五輪
【　到達目標　】
(1)戦後の地方創生とスポーツ施設、まちづくりについて理解する。
【授業時間外学習】
コンセッションついてインターネットで調べる。(4.0hr)

第８回　2020東京オリンピック・パラリンピック以降のスポーツ政策
【　到達目標　】
(1)2020年以降のスポーツ政策について理解する
(2)スポーツ団体の競技力向上政策について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツビジョンについてインターネットで調べる。(4.0hr)

第9回　海外のスポーツ政策概要（フランス）
【　到達目標　】
(1)海外のスポーツ政策について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツフォートゥモローについてインターネットで調べる。(4.0hr)

第10回　女性活躍とスポーツ
【　到達目標　】
(1)女性の取り巻くスポーツ環境について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツのジェンダーバイアスについてインターネットで調べる。(4.0hr)

第１１回　学生によるプレゼンテーション
【　到達目標　】
(1)発表について評価する。課題を見つける。
【授業時間外学習】
発表の準備をする(4.0hr)

第12回　学生によるプレゼンテーション
【　到達目標　】
(1)発表について評価する。課題を見つける。
【授業時間外学習】
発表の準備をする(4.0hr)

第13回　学生によるプレゼンテーション
【　到達目標　】
(1)発表について評価する。課題を見つける。
【授業時間外学習】
発表の準備をする(4.0hr)

第14回　学生によるプレゼンテーション
【　到達目標　】
(1)発表について評価する。課題を見つける。
【授業時間外学習】
発表の準備をする(4.0hr)

第15回　スポーツ政策の展望と課題
【　到達目標　】
(1)我が国のスポーツの将来像を具体的に述べることができる。
(2)我が国のスポーツ法制度・行政制度を述べることができる。
(3)我が国の具体的スポーツ政策を述べることができる。
【授業時間外学習】
第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。
・授業はアクティブラーニング方式で行う（「グループ学習」「ディスカション」「学生によるプレゼンテーション」「レスポンス」等）
・課題のフィードバックはclasse roomを使用して行う。

【教科書・参考書など】

特に指定しない。
適宜、印刷物を配布する。

【成績評価方法】

授業における課題達成度(50%)、企画立案発表(50%)で評価する。

科目名	スポーツ指導者論			担当者	柴　田　雅　貴	
英文名	Theory of Sport Coach					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門基礎・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE308		

【目的とねらい】

現代におけるスポーツ指導者のあり方を論理的に学び、実践で役立てられるようにすることをねらいとする。指導者として、指導の目的・目標とは、指導における成功とは、指導者の価値観とは、を議論しながら考え、自分なりの指導者像を形成していく。また、指導者に必要なリーダーシップとフォロワーシップについて議論しながら考え、選手との双方向なコミュニケーションの取り方を探っていく。そして、理想的な女性の指導者像を導き出し、現代におけるスポーツ指導者のあるべき姿を探っていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　指導者とは
【　到達目標　】
語源からみる「指導者（コーチ）」および「スポーツ」の本来の意味を理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第２回　スポーツとは
【　到達目標　】
語源からみる「スポーツ」の本来の意味を理解し､スポーツ指導者のあるべき姿を探る｡また、日本におけるスポーツ指導者資格について理解する。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第３回　指導の目的・目標について
【　到達目標　】
目的と目標の違いについて理解し、その上で指導する際の優先順位を明確にする必要性を感じとり、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第４回　実際の指導者
【　到達目標　】
日本を代表する実際の指導者のコーチングや指導理念などについて映像で触れ、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。対象は成人選手の日本代表チームを指導する指導者とする。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第５回　幹となる資質を育てる　挑戦と失敗
【　到達目標　】
選手の育成にあたり重要な幹となる資質について理解し､スポーツ指導者のあるべき姿を探る。今回は「挑戦と失敗」について理解する。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第６回　幹となる資質を育てる　主体性
【　到達目標　】
選手の育成にあたり重要な幹となる資質について理解し､スポーツ指導者のあるべき姿を探る。今回は「主体性（自主性）」について理解する。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第７回　幹となる資質を育てる　スポーツマンシップ
【　到達目標　】
選手の育成にあたり重要な幹となる資質について理解しスポーツ指導者のあるべき姿を探る。今回は「スポーツマンシップ」について理解する。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第８回　指導の理念　PATROL
【　到達目標　】
実際に指導する際の理念について「PATROL」を題材に理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第９回　実際の指導者
【　到達目標　】
海外を代表する実際の指導者のコーチングや指導理念などについて映像で触れ、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。対象は子ども達の選手を指導する指導者とする。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第10回　指導者の倫理的価値観
【　到達目標　】
実際に起こった指導者の暴言や暴力による指導、モラルに反した行動について理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第11回　指導者の倫理的価値観
【　到達目標　】
指導者や選手を対象としたアンケート結果をもとに指導者の暴言や暴力による指導の限界、モラルに反した行動について理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第12回　双方向のコミュニケーション
【　到達目標　】
選手と指導者による双方向のコミュニケーションについて理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。

【授業時間外学習】
選手と指導者の具体的な良いコミュニケーション法について調べる。(4.0hr)

第13回　コーチングとティーチング
【　到達目標　】
実際の指導におけるコーチングとティーチングについて理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第14回　実際の指導者
【　到達目標　】
日本を代表する実際の指導者のコーチングや指導理念などについて映像で触れ、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。対象は女子高校生選手を指導する指導者とする。

【授業時間外学習】
自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

第15回　理想とする指導者像
【　到達目標　】
これまでの14回の講義を振り返り、各自が理想とするスポーツ指導者を導き出し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。

【授業時間外学習】
総合的な自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義全般にわたってパワーポイントを用いて行う。ただしパワーポイントの資料は一切配布しない。
そのため、パワーポイントの内容を写すことはもちろん、それだけにとどまらず講義も聴きながらメモをとり、毎授業終了時に授業内容から理解した事柄をまとめ、自分の意見や考えを整理するための小レポートを作成する。結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

必要に応じてプリント教材を配布する。

【成績評価方法】

毎授業時の小レポートの達成度70%、最終レポートの達成度30%で評価する。

科目名	指導サービス論			担当者	芳　地　泰　幸	
英文名	Sport Service					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門基礎・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE309		

【目的とねらい】

経済社会の成熟化とサービス化に伴い、現代ではモノを消費するよりも体験することを重視した「コト消費」が増えている。そこで本講義ではサービス・マネジメントやサービス・マーケティングの諸理論を中心に、健康・スポーツといったサービス財を効果的に提供していくための基本的な理論や技法、考え方について学ぶ。具体的には、フィットネスクラブやスポーツ教室など、スポーツ指導に関わる身近なスポーツサービスについて、対象者（消費者）のニーズを満たすスポーツ・プロダクトを効果的に提供するための基本的な理論や考え方を習得するとともに、具体的な改善案、企画案を立案できるようになることを目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　経済社会の成熟とサービス化

【　到達目標　】

(1)経済社会の成熟とサービス化・ソフト化について理解する。

(2)サービス化社会を促進する環境的要因について理解する。

【授業時間外学習】

サービスとは何か、どのようなことかについて考えてみる。(4.0hr)

第２回　消費者意識の変化とサービスの特質

【　到達目標　】

(1)消費者意識の変化について理解する。

(2)製品の分類とサービス財の特質を理解する。

【授業時間外学習】

取引の対象としての身近なスポーツプロダクトの特質について整理する。(4.0hr)

第３回　サービス・エンカウンター

【　到達目標　】

(1)サービス・エンカウンターとは何かについて理解する。

(2)顧客と従業員の接点、サービス・エンカウンターの管理について理解する。

【授業時間外学習】

日頃の生活の中で、サービスと接する場面について調べる。(4.0hr)

第４回　サービス・マネジメントの基本的な考え方

【　到達目標　】

(1)マーケティングの役割と機能を理解する。

(2)マーケティング・マネジメントの体系を理解する。

【授業時間外学習】

効果的にサービスを提供するために必要な要素を整理する。(4.0hr)

第５回　市場機会の発見に向けた環境分析

【　到達目標　】

(1)環境分析の目的を理解する。

(2)3C分析、SWOT分析を理解する。

【授業時間外学習】

代表的な手法（3C・SWOT分析）を用いて身近な組織の環境分析を実施する。(4.0hr)

第６回　STPマーケティング

【　到達目標　】

(1)セグメンテーションとターゲッティングを理解する。

(2)ポジショニング戦略とポジショニングマップについて理解する。

【授業時間外学習】

身近な企業のターゲッティングについて調べる。(4.0hr)

第７回　マーケティングにおける経営戦略

【　到達目標　】

(1)代表的な経営戦略を理解する。

(2)代表的な事業戦略を理解する。

【授業時間外学習】

身近な企業の経営戦略（競争戦略・事業戦略）について整理する。(4.0hr)

第８回　マーケティング・ミックス

【　到達目標　】

(1)マーケティング・ミックスを理解する。

(2)製品（有形財・無形財）に応じたマーケティング・ミックスを理解する。

【授業時間外学習】

マーケティング・ミックスの視点から身近な企業（製品）の事例を整理する。(4.0hr)

第９回　サービスの捉え方とサービス品質

【　到達目標　】

(1)サービスのとらえ方（拡大製品概念）を理解する。

(2)サービスの品質・評価および、ブランドの影響力について理解する。

【授業時間外学習】

消費者の視点から、製品の購入や質を判断する際の要素を整理してみる。(4.0hr)

第10回　サービスの価格設定

【　到達目標　】

(1)カスタマバリューを理解する。

(2)価格設定に影響を及ぼす要因を理解する。

【授業時間外学習】

身近な製品の価格を調べ、価格設定に影響を及ぼす要因を分析する。(4.0hr)

第11回　プロモーション戦略

【　到達目標　】

(1)プロモーションの役割と消費者行動（購買行動モデル）を理解する。

(2)プロモーション手法とメディア選択を理解する。

【授業時間外学習】

プロモーションの目的（役割）および、使用メディアの長所・短所を整理する。(4.0hr)

第12回　経験価値のマーケティング

【　到達目標　】

(1)経験価値という考え方を理解する。

(2)経験価値の5つの要素について具体的な事例に基づき理解する。

【授業時間外学習】今日の企業活動において経験価値という概念が重要な意義を持つ理由について整理する。(4.0hr)

第13回　サービス・プロフィット・チェーン

【　到達目標　】

(1)サービス・プロフィット・チェーン（SPC）の考え方を理解する。

(2)顧客満足度と顧客ロイヤリティの関係について理解する。

【授業時間外学習】

顧客満足やロイヤリティを高めるために大切なことを整理する。(4.0hr)

第14回　サービス・スタッフのマネジメント

【　到達目標　】

(1)インターナル・マーケティングを理解する。

(2)従業員教育の重要性、従業員満足度と顧客満足との関係について理解する。

【授業時間外学習】

従業員の満足度や、やる気がどのように顧客満足に影響するか整理する。(4.0hr)

第15回　ソーシャル・マーケティング

【　到達目標　】

(1)企業の社会的責任について理解する。

(2)企業の社会貢献活動について理解する。

【授業時間外学習】

身近な企業の社会貢献活動について調べ、その意義と役割について考察する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

基礎科目である「スポーツマネジメント」を踏まえ、より実践的・専門的な視点からスポーツサービスを効果的に提供していくための諸理論や考え方を中心に解説する。履修学生は消費者（利用者）と提供者（企業）の双方の視点からスポーツサービスや企業活動について考えてほしい。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニッツペーパー（レスポンスカード）を実施し、次回の講義時にフィードバックをおこなう。さらに、時間外での主体的な学びを促すための課題レポートも課し、評価コメントを付して受講生にフィードバックする。

【教科書・参考書など】

教科書は特に定めない。

＜参考書＞「サービス・マーケティング 第2版」生産性出版、2010年。「サービス・マーケティング入門」法政大学出版局、2009年。等

※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。

【成績評価方法】

課題レポート（講義内での小レポート含む）を40%、定期試験の結果を60%として総合評価する。なお、試験は試験期間に別途実施する。

科目名	スポーツ法学			担当者	中　村　安　菜	
英文名	Sports Law					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門基礎・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE216		

【目的とねらい】

スポーツ事故をはじめ、スポーツと法律の接する領域は少なくない。特に、学校体育における事故をめぐる法律問題は、その典型的な領域である。この講義では、こうした問題領域についての理解を深めることを中心としつつ、スポーツに関わるその他の法的論点をも取り上げてゆく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツと法律が関わる領域
【　到達目標　】
(1)スポーツと法律が関わるのはどのような場合かについて理解する。その中で、この講義で取り上げる問題領域について理解する。

【授業時間外学習】
スポーツと法律が関連する具体例を考える。(4.0hr)

第２回　法的責任とは何か
【　到達目標　】
(1)民事責任、刑事責任、行政責任の違いについて理解する。
(2)それぞれの責任を問う仕組みの違いについて理解する。

【授業時間外学習】
民事事件と刑事事件とは何かを調べる。(4.0hr)

第３回　刑事責任について
【　到達目標　】
(1)スポーツに関係して刑事責任が問われる場合について理解する。
(2)競技に関してなされた加害行為の法的特殊性について理解する。

【授業時間外学習】
スポーツにおいて刑事責任を負うことになった事例を調べる。(4.0hr)

第４回　民事責任概説
【　到達目標　】
(1)スポーツに関係して民事責任が問われる場合について理解する。
(2)民事責任の種類について理解する。

【授業時間外学習】
スポーツにおいて民事責任を負うことになった事例を調べる。(4.0hr)

第５回　不法行為の要件
【　到達目標　】
(1)不法行為とはどのようなことなのかについて理解する。
(2)不法行為責任が認められるのはどのような場合なのかについて理解する。

【授業時間外学習】
不法行為について規定している条文を調べ、コピーする。(4.0hr)

第６回　不法行為の効果
【　到達目標　】
(1)不法行為責任の法的効果について理解する。
(2)過失相殺等の意味について理解する。

【授業時間外学習】
スポーツ以外の場面で不法行為責任を負う事例を調べ、箇条書きでまとめる。(4.0hr)

第７回　損害賠償責任を負うのは誰か
【　到達目標　】
(1)責任無能力者に対する監督義務者等の責任について理解する。
(2)使用者責任、国・地方公共団体等の責任について理解する。

【授業時間外学習】
公立学校における体育授業中に起きた事故の事例を1つ調べる。(4.0hr)

第８回　施設等が原因となって発生した事故と法律
【　到達目標　】
(1)施設などの欠陥を原因とする事故の責任について理解する。
(2)器具などの製造者に負わせられる責任について理解する。

【授業時間外学習】
器具の故障などが問題となった事件を新聞などで調べる。(4.0hr)

第９回　判例を読む①
【　到達目標　】
(1)スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。
中学校の正課体育の時間に発生した事故における教員の責任

【授業時間外学習】
授業前に判例を熟読する。(4.0hr)

第10回　判例を読む②
【　到達目標　】
(1)スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。
施設内で発生した事故におけるスポーツジムの責任

【授業時間外学習】
授業前に判例を熟読する。(4.0hr)

第11回　判例を読む③
【　到達目標　】
(1)スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。
大会参加者と第三者との間に発生した事故における主催者の責任

【授業時間外学習】
授業前に判例を熟読する。(4.0hr)

第12回　スポーツと体罰
【　到達目標　】
(1)スポーツに関連して発生する体罰の特殊性と求められる対策について理解する。

【授業時間外学習】
体罰を防止するために効果的な手段を考える。(4.0hr)

第13回　スポーツとセクシュアル・ハラスメント
【　到達目標　】
(1)スポーツに関連して発生するセクシュアル・ハラスメントの特殊性と求められる対策について理解する。

【授業時間外学習】
セクシュアル・ハラスメントを防止するために効果的な手段を考える。(4.0hr)

第14回　スポーツをめぐる紛争解決の工夫
【　到達目標　】
(1)スポーツに関して発生する紛争を解決するために設けられている紛争解決機関の現状と課題について理解する。

【授業時間外学習】
日本仲裁スポーツ機構のホームページを授業前に確認し、その活動を理解する。(4.0hr)

第15回　スポーツ指導者の責任と法
【　到達目標　】
(1)この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。

【授業時間外学習】
授業を通して自分が関心をもった事項について、ミニ・レポートにまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみること。

【教科書・参考書など】

開講時に指示する。

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。

科目名	スポーツコーチング論			担当者	吉　田　孝　久	
英文名	Coaching Theory in Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門・必修			
授業形態	講義		科目ナンバー	SMR101		

【目的とねらい】

スポーツコーチング論は、スポーツにおいて運動技能および競技力の向上を図るために、何を、いつから、どのように実施するのかを扱うスポーツの指導方法論である。本講義では、トレーニング活動は計画的に目標とするレベルへと導いていく過程の全体を意味することを理解させると同時に、トレーニングの対象となる内容について概説する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　コーチング論の対象領域：競技力とは 【　到達目標　】 コーチングの対象領域について概要を理解する。競技力について理解を深めるために、実際の試合の映像から競技力の一面を確認する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)	**第９回　コーチングの実際１** 【　到達目標　】 初心者指導におけるコーチングの例に関して、映像を活用して理解を深める。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)
第２回　「何を」「いつから」「どのように」 【　到達目標　】 早期に身につけるべき動きや競技力に直結する体力要素について、映像を活用して理解を深める。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)	**第10回　コーチングの実際２** 【　到達目標　】 上級者（プロサッカー）の例によって、組織的、系統的、計画的なコーチングの実践例を理解する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)
第３回　スポーツ活動経験から：動きの学習と指導１ 【　到達目標　】 動きの習熟過程について、例として上げられた３つの段階をそれぞれ自分の動きの習熟状態に置き換えて理解しようと試みる。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)	**第11回　ジュニアのコーチング** 【　到達目標　】 プロチームの下部組織であるジュニアチームの活動を例にあげ、ジュニア選手育成におけるポイントを把握する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)
第４回　スポーツ活動経験から：動きの学習と指導２ 【　到達目標　】 スポーツ活動の生活化の必要性を多くの例から理解する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)	**第12回　計画的なコーチング１** 【　到達目標　】 トレーニング計画の有用性について、多くの例から把握する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)
第５回　スポーツ活動経験から：動きの学習と指導３ 【　到達目標　】 学習の時期を逸すると学習が困難であるという例をもとに、早期専門化の必要性を理解する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)	**第13回　計画的なコーチング２** 【　到達目標　】 年間トレーニング計画とトレーニングの原理・原則について理解する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)
第６回　「こつ」をつかむ１ 【　到達目標　】 身近な運動学習場面を例にして、「こつ」のつかみ方、「こつ」の示し方について理解する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)	**第14回　コーチングにおける問題点１** 【　到達目標　】 シニアのコーチングにおける問題点について、多角的に検討する。その解決方法について考える。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)
第７回　「こつ」をつかむ２ 【　到達目標　】 映像をもとに、他の分野における「こつ」の示し方について理解を深める。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)	**第15回　コーチングにおける問題点２** 【　到達目標　】 ジュニアのコーチングにおける問題点について、多角的に検討する。また、それらの解決方法について考える。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)
第８回　技術・戦術・体力・メンタルコントロール 【　到達目標　】 自動化のレベルには、習熟度合いによって、あるいは個人によって違いや幅があることを理解する。 【授業時間外学習】授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

・毎回配布するプリントに提示された課題に回答する。次の授業で課題への回答例を示すことによって、授業内容の理解の度合いを自分自身でチェックする。
・過去のスポーツ経験をもとに、自分自身のトレーニング実践について分析・評価することによって、また関連内容に関する映像資料の活用によってコーチングについての理解を深める。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）

【成績評価方法】

理解度を評価するために試験を実施する。その試験の結果100%で評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	スポーツ技術論（スポーツ技術トレーニングを含む）			担当者	小　海　隆　樹	
英文名	Technique in Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・必修			
授業形態	講義		科目ナンバー	SMR201		

【目的とねらい】

本講義では、まず運動技能を構成する中核的因子である技術を、戦術・体力と関連させながら概観する。そして、運動が「できる」ことは、技術（コツ）を身につけることであり、コツの発生にはいくつかの階層（形成位相）があることや動きを「覚える人」と「教える人」にはそれぞれ「身体知」が必要であることを理解する。さらに、トレーニング過程全体の中で、「技術」に目を向けることや技術トレーニングの必要性を確認していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツ技術とは
【　到達目標　】
(1)技術の概念について理解する。
(2)スポーツ技術の概念について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　スポーツ技術の変遷
【　到達目標　】
(1)スポーツ技術の歴史的変遷を理解する。
(2)スポーツ技術の必要性を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　競技力の構造
【　到達目標　】
(1)競技力の構造について理解する。
(2)技術・戦術・体力の関連について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　スポーツ技術と動感身体知
【　到達目標　】
(1)スポーツ技術と動感身体知の関連を理解する。
(2)動感身体知の具体的例証について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　動感身体知の形成位相１
【　到達目標　】
(1)動感身体知の形成位相の概要を理解する。
(2)原志向位相、探索位相、偶発位相について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　動感身体知の形成位相２
【　到達目標　】
(1)形態化位相、自在位相について理解する。
(2)形成位相と動きの獲得について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　技術とコツ
【　到達目標　】
(1)技術とコツの関連について理解する。
(2)コツ身体知の概要について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　技術の習得と創発身体知
【　到達目標　】
(1)技術の習得と創発身体知の関連を理解する。
(2)創発身体知の概要を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　技術の伝承と促発身体知
【　到達目標　】
(1)技術の伝承と促発身体知の関連を理解する。
(2)促発身体知の概要を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　技術トレーニングの前提
【　到達目標　】
(1)技術トレーニングの前提を理解する。
(2)トレーニングの原則を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　初級者の技術トレーニング１
【　到達目標　】
(1)初級者の技術トレーニングの概要を理解する。
(2)初級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する①。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　初級者の技術トレーニング２
【　到達目標　】
(1)初級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する②。
(2)初級者の技術トレーニングと課題を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　中級者の技術トレーニング
【　到達目標　】
(1)中級者の技術トレーニングの概要を理解する。
(2)中級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　上級者の技術トレーニング
【　到達目標　】
(1)上級者の技術トレーニングの概要を理解する。
(2)上級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　トレーニングにおけるスポーツ技術
【　到達目標　】
(1)トレーニング内容の中核がスポーツ技術であることを理解する。
(2)各自の今後の技術トレーニングの展望と課題を明確にする。

【授業時間外学習】
授業から得た知見を実際のトレーニング場面に活かせるよう準備する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成する。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。
＜参考文献＞　「選手とコーチのためのスポーツ技術のトレーニング」M.ｸﾞﾛｯｻｰ/A.ﾉｲﾏｲﾔｰ（大修館書店）
「運動学講義」金子、朝岡編（大修館書店）「身体知の形成　上・下」金子明友（明和出版）　等

【成績評価方法】

毎回の小レポートの達成度　70%　・　最終レポートの達成度　30%

科目名	スポーツ戦術論（スポーツ戦術トレーニングを含む）			担当者	柴　田　雅　貴	
英文名	Tactics in Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・必修			
授業形態	講義		科目ナンバー	SMR202		

【目的とねらい】

戦術、スポーツ戦術の歴史、概念、構造を概説する。そして、スポーツ戦術が具体的な競技場面で実現でき、競技力向上を図れるように、トレーニング方法に関して個人戦術・グループ戦術・チーム戦術に分類して講義をする。さらに戦術トレーニングの動向や最新のトレーニング法及び技術トレーニングや体力トレーニングとの関連性についても講義を行う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス（授業の進め方など）
【　到達目標　】
講義の進め方、聴講上で留意する点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第２回　戦術に関する用語（戦法、戦略）
【　到達目標　】
戦術の語源、スポーツ戦術に関連する用語を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第３回　スポーツ戦術の構造
【　到達目標　】
競技者と指導者及び個人と集団の関係を理解する。
戦術構想、戦術行動、戦術実践の関係を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第４回　戦術の歴史
【　到達目標　】
戦術の歴史を理解する。
孫武「孫子の兵法」、クラウゼビッツ「戦争論」の概略を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第５回　スポーツ戦術の歴史
【　到達目標　】
スポーツにおける戦術の歴史を理解する。
各種目で優れた成果を残した指導者の戦術を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第６回　スポーツ戦術の意義
【　到達目標　】
スポーツ競技における戦術の意義を理解する。
運動技術と戦術行動の関係を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第７回　スポーツの戦術構想と前提条件
【　到達目標　】
戦術構想の内容、方法を理解する。
構想の際の前提条件となる内容を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第８回　スポーツの戦術構想に影響を及ぼすもの
【　到達目標　】
構想の際に影響を及ぼすものとその内容を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第９回　スポーツの戦術構想の注意点
【　到達目標　】
戦術構想の際の忘れてはならない事柄を理解する。
自己の専門とするスポーツでの注意点を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第10回　戦術構想でのスポーツの類型、種目による特性
【　到達目標　】
スポーツ種目ごとの前提条件とその違いを理解する。
自己の専門とするスポーツ種目の戦術構想の特性を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第11回　スポーツ戦術トレーニングの構造
【　到達目標　】
構想、行動、実践のトレーニングの関係を理解する。
直観できる戦術行動と戦略行動のトレーニングの違いを理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第12回　スポーツ戦術行動トレーニングの方法
【　到達目標　】
相手や状況に対応する具体的なトレーニング方法を理解する。
相手の戦術を探り出す、また自己の戦術を隠すトレーニング方法を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第13回　スポーツ戦術行動トレーニングの練習段階、順序
【　到達目標　】
練習の３段階とその内容を理解する。
練習順序（習得、完成、定着）を理解する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第14回　スポーツ戦術行動トレーニングの注意点
【　到達目標　】
戦術行動トレーニングを行う際の一般的注意点を理解する。
自己の専門とする種目での注意点を作成する。

【授業時間外学習】
授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し､次回の授業の準備をする｡(4.0hr)

第15回　スポーツ戦術行動における即興行動
【　到達目標　】
戦術行動トレーニングを省略する即興行動について理解する。

【授業時間外学習】本講義で獲得した知見をもとに競技力向上を狙った実際の戦術トレーニングに活かせるようにする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義全般にわたりパワーポイントを用いて行う。これまでの板書された事柄をノートに記録する高校時代の授業状態を一歩進化させ、パワーポイントの内容はもちろん、講義内容を聞いて記録できることを重視して授業を進めていく。換言すれば「見て書ける」から「聞いて書ける」ようになることである。
毎時間、講義内容に関する小レポートを作成し､理解度の確認を行う。結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。
他の受講者に迷惑を及ぼす行動については厳しく対処する。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない、参考資料を配布する。
参考書「スポーツ戦術入門」ヤーン・ケルン著（大修館書店）

【成績評価方法】

毎回の小レポート達成度60%と2回のまとめレポート達成度40%で評価する。

科目名	スポーツコンディショニング論			担当者	星　川　佳　広	
英文名	Sport Conditioning					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・必修			
授業形態	講義		科目ナンバー	SMR203		

【目的とねらい】

コンディショニング（心身の条件を最適化）は、試合や競技においてよりよいパフォーマンスを披露するために行うものである。より良いコンディショニングは、身体の生理について理解しその仕組みにそって行う必要がある。本講義では、コンディショニングの基礎となる生理学（疲労のメカニズム、自律神経系、内分泌系など）について学習した後、体重管理（栄養）、心理、休養・睡眠、トレーニング計画法、ウォーミングアップなど、コンディションに影響する各事項について理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツにおけるコンディショニング
【　到達目標　】
スポーツにおけるコンディショニングと本講義における学習到達目標について理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。参考書を元に次回の予習をする。(4.0hr)

第２回　コンディショニングの生理①　疲労とストレスの背景
【　到達目標　】
ホメオスタシス、ストレス、疲労の生理、心理について概要を理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。参考書を元に次回の予習をする。(4.0hr)

第３回　コンディショニングの生理②　自律神経系と内分泌系
【　到達目標　】
身体機能の調節を担う自律神経系、内分泌系について理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。参考書を元に次回の予習をする。(4.0hr)

第４回　コンディショニングの生理③　血液と内分泌系
【　到達目標　】
血液・体液と免疫系の作用について理解する。スポーツ選手の内科的問題を理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。参考書を元に次回の予習をする。(4.0hr)

第５回　ディトレーニング、オーバートレーニング
【　到達目標　】
ディトレーニング、オーバートレーニングとそのチェック法（POMS)について理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第６回　ピリオダイゼーションと試合前のコンディショニング
【　到達目標　】
パフォーマンスを最適化するシーズン計画の組み立て方、試合前のテーパリング、栄養戦略について理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第７回　低酸素（高所）環境とトレーニング
【　到達目標　】
高所トレーニングの生理と実施法について理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第８回　暑熱環境と体温調整、水分補給①
【　到達目標　】
体温調節と熱中症について理解を深める。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第９回　暑熱環境と体温調整、水分補給②
【　到達目標　】
暑熱環境への順化について理解し、コンディショニングに活かすことができる。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第10回　ウォーミングアップとクーリングダウン
【　到達目標　】
ウォーミングアップ、クーリングダウンの生理を理解し、コンディショニングに活かすことができる。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第11回　身体組成とウエイトコントロール
【　到達目標　】
身体組成（体脂肪率、除脂肪量）とその生理、栄養対策を理解する。
体重管理法について理解し、コンディショニングに活かすことができる。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第12回　女性特有の事項①
【　到達目標　】
月経周期の生理変化と、トレーニング効果について理解を深める。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第13回　女性特有の事項②
【　到達目標　】
女性で起きやすい障害、コンディショニング上の問題（貧血、女性アスリートの3主徴など）を理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第14回　休養・睡眠①
【　到達目標　】
休養・睡眠、生体リズムの生理を理解する。時差対策について理解する。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

第15回　休養・睡眠②
【　到達目標　】
よりよい休養法、アクティブレストを理解し、コンディショニングに活かすことができる。
【授業時間外学習】
講義内容を資料、ノートを元に復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

図表スライド(配布資料）を用いて講義内容の要点を示し、口頭および板書にて詳細を説明する。ほぼ毎時間、講義内容に関する提出物がある。適宜、理解度テストを行い、授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

配布資料を使用する。以下の参考書を授業に持参したり、授業時間外学習に利用すると理解が深まる。
「スポーツ生理学」冨樫健二編、化学同人

【成績評価方法】

定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)50%、理解度テスト20%、提出物30%で評価する。なお、良好な出席状況は、当然の前提である。

科 目 名	体力トレーニング演習			担当者	吉田　孝久・吉兼　　練	
英 文 名	Seminar in Fitness Training					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR301		

【目的とねらい】

体力は、運動に使うエネルギーを出す能力と、効果的に出したり使ったりする能力に分けられる。本授業では、おもに、最大エネルギーを出す能力（筋力・パワー・持久力）の評価法とトレーニング方法について体得し、目的・目標に応じた体力トレーニングに関するプログラム作成能力および実行能力を養成することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のねらいと進め方 【　到達目標　】 (1)授業のねらいと進め方について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直し、理解を深める。(4.0hr)	**第９回　最大パワーのトレーニング法** 【　到達目標　】 (1)最大パワートレーニングについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直し、理解を深める。(4.0hr)
第２回　体力トレーニングの基礎知識と基本手段 【　到達目標　】 (1)体力トレーニングの基礎知識と基本手段について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直し、理解を深める。(4.0hr)	**第10回　持久力のトレーニング法** 【　到達目標　】 (1)持久力トレーニングについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直し、理解を深める。(4.0hr)
第３回　マシントレーニング 【　到達目標　】 (1)トレーニングマシンの基本的な使い方を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直し、理解を深める。(4.0hr)	**第11回　いろいろなトレーニング法①** 【　到達目標　】 (1)スタビライゼーションなどについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践したトレーニングに関する内容と課題等に関するレポートを作成する。(4.0hr)
第４回　フリーウエイトトレーニング 【　到達目標　】 (1)フリーウエイトトレーニングの基本的な行い方を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直し、理解を深める。(4.0hr)	**第12回　いろいろなトレーニング法②** 【　到達目標　】 (1)プライオメトリックスなどについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践したトレーニングに関する内容と課題等に関するレポートを作成する。(4.0hr)
第５回　最大筋力の評価法 【　到達目標　】 (1)最大筋力の測定評価法を理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直し、理解を深める。(4.0hr)	**第13回　プログラムの作成・実行①** 【　到達目標　】 (1)自己の目的・現状に応じたプログラムを作成・実践する。 【授業時間外学習】 トレーニングメニューを作成し、実施後の課題等をまとめる。(4.0hr)
第６回　最大パワーの評価法 【　到達目標　】 (1)最大パワーの測定評価法を理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践した自身の測定結果をまとめてレポートを作成する。(4.0hr)	**第14回　プログラムの作成・実行②** 【　到達目標　】 (1)自己の目的・現状に応じたプログラムを作成・実践する。 【授業時間外学習】 トレーニングメニューを作成し、実施後の課題等をまとめる。(4.0hr)
第７回　持久力の評価法 【　到達目標　】 (1)持久力の測定評価法を理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践した自身の測定結果をまとめてレポートを作成する。(4.0hr)	**第15回　プログラムの作成・実行③** 【　到達目標　】 (1)自己の目的・現状に応じたプログラムを作成・実践する。 【授業時間外学習】 実施後の課題等をまとめ、レポートを提出する。(4.0hr)
第８回　最大筋力のトレーニング法 【　到達目標　】 (1)最大筋力トレーニングについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践したトレーニングに関する内容と課題等に関するレポートを作成する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

トレーニングに適した服装、室内シューズを用意し、過剰なアクセサリー等は控えること。
安全・効果的にトレーニングできるように体調管理に努めること。
グループおよび個人ごとの学習活動において、記録をつけながらの実技となる。
配布される資料を理解する。また、授業の後半には自分に適したトレーニングプログラムを作成―実行し、その結果をレポートする。

【教科書・参考書など】

配布資料による。

【成績評価方法】

中間課題40%、最終課題60%で評価する。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	石　塚　　浩	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

運動想像力：新しい運動形態の発生や運動組合せに関連した「運動を表象する能力」。運動記憶：運動学習を通して獲得された運動の記憶全体。運動発生の際にどのような関わりを持つか。運動経験：運動体験との差異を明らかにし、運動発生においての運動記憶と関係。運動表象：運動発生における「運動表象→運動遂行→現在値と目標値の比較に関するフィードバック」の機能。こういった基礎概念などをもとに、運動発生の運動投企との関係を浮き彫りにし、実践的に解明する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業内容の概略としてのオリエンテーション
【　到達目標　】
実験的な方法から、運動の分析を行い、運動修正全体に関わる内容を構造的に理解する。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第２回　運動修正に関わる実験設定と実験方法
【　到達目標　】
実験として用いられる方法論の理解と授業内での実験の実施方法について理解する。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第３回　運動修正を含んだ実験の実施
【　到達目標　】
自己自身のオリジナルな動きとモデルとした動きを「真似て」という試技を高速度カメラにより撮影を行う。
【授業時間外学習】
実験設定や実験に関わる諸手続の確認。(4.0hr)

第４回　撮影された映像のコマ／秒と各種分析項目との関係
【　到達目標　】
高速度カメラの撮影条件、また市販のビデオカメラでの撮影条件を理解し、分析にあたっての基礎条件を理解する。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第５回　上体角の定義とその分析方法
【　到達目標　】
バイオメカニクスで用いられる上体角の定義と感覚印象を基本とした上体角との相違から各々の分析作業を行う。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第６回　上体角の分析作業
【　到達目標　】
5.の上体角の分析作業を行う。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第７回　膝関節角度の定義とその分析方法
【　到達目標　】
バイオメカニクスで用いられる膝関節角度の定義と感覚印象を基本とした上体角との相違から各々の分析作業を行う。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第８回　膝関節角度の分析作業
【　到達目標　】
7.の膝関節角度の分析作業を行う。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第９回　股関節角度の定義とその分析方法
【　到達目標　】
バイオメカニクスで用いられる股関節角度の定義と感覚印象を基本とした股関節角度との相違から各々の分析作業を行う。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第10回　股関節角度の分析作業
【　到達目標　】
9.の股関節角度の分析作業を行う。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読。(4.0hr)

第11回　ストライドとピッチの定義とその分析方法
【　到達目標　】
ピッチとストライドの定義と感覚印象を基本とした分析作業を行う。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と参考書の該当箇所の熟読。(4.0hr)

第12回　分析結果による理想モデルとの比較検討
【　到達目標　】
すべての分析作業の結果から得られたデータと理想像となるモデルとの比較を行い差異の検討をする。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と参考書の該当箇所の熟読。(4.0hr)

第13回　運動修正における運動表象、運動投企、運動記憶の意味
【　到達目標　】
運動修正に必要な自己の運動表象および運動投企、さらには運動記憶との関係を理解する。
【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と参考書の該当箇所の熟読。(4.0hr)

第14回　レポート課題の作成作業（１）
【　到達目標　】
パーソナルコンピューターを利用してのレポート作成作業から、表や図の作成方法などを理解する。
【授業時間外学習】
パソコンソフト「エクセル」の操作方法の復習。(4.0hr)

第15回　レポート課題の作成作業（２）
【　到達目標　】
パーソナルコンピューターを利用してのレポート作成作業から、文書作成ならびにパワーポイントの作成方法などを理解する。
【授業時間外学習】
パソコンソフト「パワーポイント」の操作方法の復習。(4.0hr)

【学習上の留意点】

実験と、その分析作業を伴う授業である。分析作業からデータを抽出することが重要であり、さらにそれを元とした運動修正を行うため、これまでの運動経験や運動観察が重要となる。自己の運動を実験対象とするため、そして、その分析作業のため、継続的な授業への出席が求められる。また、レポート作成では、パーソナルコンピューターを最大限に利用し、総合的に情報機器に関わるようにする努力が必要である。

【教科書・参考書など】

参考書：「教師のための運動学」金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）
「マイネル　スポーツ運動学」K．マイネル著、金子明友訳（大修館書店）
「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）

【成績評価方法】

実験結果についての分析作業からレポート作成を行い、その内容を評価する（１００％）。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	北　川　幸　夫	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

運動の達成度を測定し、その結果を評価するスポーツ種目のうち、主に競泳競技を取り上げ、特に体力的要素に関する内外の文献を輪読しながら、体力向上のためのトレーニング法について基本的な考え方を学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読① 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第９回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑧** 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第２回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読② 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第10回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑨** 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第３回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読③ 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第11回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑩** 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第４回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読④ 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第12回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑪** 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第５回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑤ 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第13回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑫** 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第６回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑥ 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第14回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑬** 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第７回　ディスカッション（輪読した内容について討議する）① 【　到達目標　】 輪読した文献内容についてまとめ、討議する。 【授業時間外学習】 競泳のトレーニングに関してディスカッションを行い、理解を深める。(4.0hr)	**第15回　ディスカッション（輪読した内容について討議する）②** 【　到達目標　】 輪読した文献内容についてまとめ、討議する。 【授業時間外学習】 競泳のトレーニングに関してディスカッションを行い、理解を深める。(4.0hr)
第８回　競泳におけるトレーニングに関する外国文献　輪読⑦ 【　到達目標　】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

外国文献の和訳を分担して発表してもらうが、和訳は自分の割り当てられたところのみではなく、全体を行うこと。本講義を理解するためには、講義で扱うトレーニング内容を常に各自のトレーニング経験に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが重要である。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。

【成績評価方法】

原則として筆記テストの結果を100%とする。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	古 泉 佳 代	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

「食べる」ことは、身体をつくることである。食べることに関わる「感覚」を再確認する多くの体験から、「食べる」ことを科学的に理解する。同時に、スポーツ場面における食に関わる様々な文献をまとめ、これまで行われてきた食教育と、今後必要になる食教育を試行錯誤しながら構築することが本演習のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)自分が考える「食べる」を他者と共有できる。
(2)スポーツと食べることの関係に気付くことができる。

【授業時間外学習】
「食べる」ことを考える。(4.0hr)

第２回　五感①視覚
【　到達目標　】
(1)人は目で食べる事に気付き、その仕組みについて理解する。

【授業時間外学習】
日常生活において、運動と「視覚」の関係を意識して食べる。(4.0hr)

第３回　五感②触覚
【　到達目標　】
(1)触覚の役割に気付くことができる。
(2)唇や口腔内の粘膜で感じる触覚について理解する。

【授業時間外学習】
日常生活において、運動と「触覚」の関係を意識して食べる。(4.0hr)

第４回　五感③嗅覚
【　到達目標　】
(1)嗅覚の重要性に気付くことができる。
(2)嗅覚刺激について理解する。

【授業時間外学習】
日常生活において、運動と「臭覚」の関係を意識して食べる。(4.0hr)

第５回　五感④聴覚⑤味覚１
【　到達目標　】
(1)聴覚と食事の関係に気付くことができる。
(2)5つの味覚を理解することができる。

【授業時間外学習】
日常生活において、運動と「聴覚」及び「味覚」の関係を意識して食べる。(4.0hr)

第６回　五感⑥味覚２
【　到達目標　】
(1)5つの基本味の判別ができる。
(2)食品を5つの味覚で表現することができる。

【授業時間外学習】
日常生活において、運動と「味覚」の関係を意識して食べる。(4.0hr)

第７回　五感⑦テイスティング
【　到達目標　】
(1)味覚の変化に気付くことができる。
(2)テイスティング方法を理解し、食品を表現することができる。

【授業時間外学習】
日常生活において、運動と「味わう」ことの関係を意識して食べる。(4.0hr)

第８回　事例研究①
【　到達目標　】
(1)「食べる」事に関する運動場面での疑問をまとめることができる。
(2)先行研究を検索し、疑問を解決することができる。
(3)さらに検討することを明らかにすることができる。
【授業時間外学習】
これまでの授業を振り返りながら、次回の授業準備を進める。(4.0hr)

第９回　事例研究②
【　到達目標　】
(1)実験方法をまとめることができる。
(2)実験の準備をすることができる。

【授業時間外学習】
これまでの授業を振り返りながら、次回の授業準備を進める。(4.0hr)

第10回　事例研究③
【　到達目標　】
(1)実験をすることができる。
(2)結果をまとめることができる。
(3)要点を共有するためのプレゼンテーション技能を高める。
【授業時間外学習】
これまでの授業を振り返りながら、次回の授業準備を進める。(4.0hr)

第11回　事例研究④
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションすることができる。
(2)他者の発表を聞き、意見や感想を述べることができる。

【授業時間外学習】
これまでの授業を振り返りながら、次回の授業準備を進める。(4.0hr)

第12回　事例研究⑤
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションすることができる。
(2)他者の発表を聞き、意見や感想を述べることができる。

【授業時間外学習】
これまでの授業を振り返りながら、次回の授業準備を進める。(4.0hr)

第13回　運動を継続している子どもを対象とした食育①
【　到達目標　】
(1)現代に必要な食育を考えることができる。
(2)食育のめあて、指導のながれを考えることができる。
(3)食育実践のための準備をすることができる。
【授業時間外学習】
食育に関する実践報告を検索し、まとめる。(4.0hr)

第14回　運動を継続している子どもを対象とした食育②
【　到達目標　】
(1)アウトカムとアウトプットを想定した食育を理解することができる。

【授業時間外学習】
これまでの授業を振り返りながら、次回の授業準備を進める。(4.0hr)

第15回　運動を継続している子どもを対象とした食育③
【　到達目標　】
(1)食育実践についてプレゼンテーションすることができる。
(2)他者の発表を聞き、意見や感想を述べることができる。

【授業時間外学習】
「食べる」ことを再認識しながら日常生活を送ることができる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

演習の前半では、五感を利用した味覚教育を体験しながら「食べる」ことを再確認し、その体験で学んだ事をレポートにまとめる。演習の後半では、事例研究から得られた情報を他者へわかりやすく説明する。さらに、現代のスポーツ場面で必要な食教育を考え、実践することで食教育を体験的に学ぶ。ほぼ毎時間、講義内容に関するミニッツペーパーを作成し、理解度の確認を行う。ミニッツペーパーやレポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配布する。
参考書としては、プラトー味覚教育センター/中野美季共著「味覚の学校」、金子佳代子/松島悦子編著者「食生活を考える」などを用いる。

【成績評価方法】

原則として、食品のテイスティングに関するレポートの達成度（40%）、事例研究に関する発表の達成度(30%)、食教育に関するレポートの達成度（30%）をもとに評価を行う。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	小　海　隆　樹	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

スポーツ技術論で扱った内容を詳細に検討することにより、動きの習得と定着に必要な事柄を整理し、発生論的視点からの検討を試みる。そこから、動きを身につけるための具体的方法論についての理解を深める。さらに、その過程で最も重要となる観察力のトレーニングについても理解していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツ技術の構造
【　到達目標　】
(1)スポーツ技術の構造について再確認する。
(2)スポーツ技術に関する具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第２回　スポーツ技術の習得
【　到達目標　】
(1)スポーツ技術の習得に関するさまざまな課題を理解する。
(2)スポーツ技術の習得に関する具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第３回　発生運動学に基づく動きの指導
【　到達目標　】
(1)発生運動学について再確認する。
(2)動きの指導に関する具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第４回　コツとは？
【　到達目標　】
(1)動きのコツについて再確認する。
(2)コツの具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第５回　コツの習得
【　到達目標　】
(1)コツの習得に関するさまざまな課題を理解する。
(2)コツの習得に関する具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第６回　カンとは？
【　到達目標　】
(1)動きのカンについて再確認する。
(2)カンの具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第７回　カンの習得
【　到達目標　】
(1)動きのカンについて再確認する。
(2)カンの具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第８回　コツとカンの反転
【　到達目標　】
(1)コツとカンの反転化現象について理解する。
(2)コツとカンの反転化現象の具体的例証を分析する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第９回　観察とは？
【　到達目標　】
(1)観察の概念について再確認する。
(2)発生運動学的な観察とその具体的例証について再確認する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第10回　観察の実際１
【　到達目標　】
(1)実際の動きの観察から、観察方法を検討する。
(2)日常生活での動きの観察とその具体的例証について理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第11回　観察の実際２
【　到達目標　】
(1)実際の動きの観察から、観察方法を検討する。
(2)スポーツでの動きの観察とその具体的例証について理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第12回　選手と観察能力
【　到達目標　】
(1)選手にとっての観察能力の必要性を理解する。
(2)選手の観察能力の具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第13回　指導者と観察能力
【　到達目標　】
(1)指導者にとっての観察能力の必要性を理解する。
(2)指導者の観察能力の具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第14回　指導者の促発能力
【　到達目標　】
(1)指導者の促発能力の必要性を理解する。
(2)観察、交信、代行の具体的例証を検討し、理解する。

【授業時間外学習】
(2)についてのレポートをまとめる。(4.0hr)

第15回　促発能力の養成方法
【　到達目標　】
(1)促発能力の必要性を理解する。
(2)促発能力の具体的養成方法について理解する。

【授業時間外学習】
授業で得た発生運動学的な知見を動きかたの習得や指導に活かせるよう準備する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

スポーツ技術・身体知・コツ・カン・観察能力などに関して、実際の動きの場面に照らし合わせながら検討していく授業である。多くの例証から、発生運動学的知見が指導現場に有用であることを確認するため、常に「動きの発生」に関する問題意識を持って参加してほしい。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。
＜参考文献＞　「マイネル　スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店）
「わざの伝承」金子明友（明和出版）　「身体知の形成　上・下」金子明友（明和出版）　等

【成績評価方法】

毎回の小レポートの達成度　70%　・　最終レポートの達成度　30%

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	佐々木直基	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

スポーツ、とりわけバスケットボールのコーチに必要となる能力についてのプレゼンテーションとそのディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築することがねらいとなる。プレゼンテーションのテーマについては、John Wooden氏が提唱する「成功のピラミッド」を参考にする。

また、個々のプレゼンテーション能力を高め、ディスカッションの中で論理的な思考力を高める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のねらいと進め方
【　到達目標　】
(1)授業のねらいと進め方について理解する。
【授業時間外学習】
良いプレゼンテーションについて調べる。(4.0hr)

第２回　「成功のピラミッド」についての理解
【　到達目標　】
(1)「成功のピラミッド」について理解する。
【授業時間外学習】
「成功のピラミッド」について理解したことを整理する。(4.0hr)

第３回　プレゼンテーションとディスカッション①
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第４回　プレゼンテーションとディスカッション②
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第５回　プレゼンテーションとディスカッション③
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第６回　プレゼンテーションとディスカッション④
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第７回　プレゼンテーションとディスカッション⑤
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第８回　プレゼンテーションの検証
【　到達目標　】
(1)実際に行ったプレゼンテーションについて分析し、2度目のプレゼンテーションに活かすよう検証する。
【授業時間外学習】
2度目のプレゼンテーションについてシミュレーションしておく。(4.0hr)

第９回　プレゼンテーションとディスカッション⑥
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第10回　プレゼンテーションとディスカッション⑦
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーションとディスカッション⑧
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第12回　プレゼンテーションとディスカッション⑨
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第13回　プレゼンテーションとディスカッション⑩
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。
【授業時間外学習】
行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。(4.0hr)

第14回　プレゼンテーションとディスカッションの検証
【　到達目標　】
(1)実際に行ったプレゼンテーションについて分析・検証する。
(2)受講生相互のディスカッションについて分析・検証する。
【授業時間外学習】
分析・検証したプレゼンテーション・ディスカッションについて整理する。(4.0hr)

第15回　コーチングフィロソフィーの構築
【　到達目標　】
(1)構築したコーチングフィロソフィー全体をレポートとしてまとめる。
【授業時間外学習】
構築したコーチングフィロソフィーを実践する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

演習形式の授業であり、受講者との双方向でのコミュニケーションを重要視すると同時に、受講生による多くのプレゼンテーションと受講生同士で多くのディスカッションをするので、授業内で積極的に発言し、論理的な思考ができるよう努めることが求められる。また、授業中は集中して授業内容を理解するように努める。

【教科書・参考書など】

特に教科書は指定しない。
参考書「Practical Modern Basketball」John R. Wooden (Viacom Company)

【成績評価方法】

平常授業での到達目標に対する到達度を80%、レポート課題を20%として評価する。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	佐々木万丈	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

本演習では、スポーツ選手や体育授業に取り組む学習者の心理や行動に関する研究方法について学習し、質問紙調査法によるデータの収集と統計解析プログラムなどを用いたデータ分析を行い、スポーツ選手や学習者を対象とする心理学的研究法を実地に学ぶことを目的とする。具体的には、１年次に「スポーツ心理学」で履修したスポーツ選手の心理的問題などから検討課題を設定し、その課題解決のための尺度作成や調査を実施し、統計法や結果の解釈に関する理解を深めていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツ心理学の研究デザイン
【　到達目標　】
(1)スポーツ心理学に関わる研究方法の枠組みを理解し、自らが行う調査研究の方法を適正に定めることができる。

【授業時間外学習】
研究の枠組みについて復習課題に取り組むと共に次回内容の予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　心理尺度を理解するための基礎知識と心理尺度作成法
【　到達目標　】
(1)収集データのコーディングの意味と方法について理解し、データを実際にファイル化する。

【授業時間外学習】
練習用データを用いてデータファイルのつくり方を練習する。(4.0hr)

第３回　心理尺度を理解するための基礎知識と心理尺度作成法
【　到達目標　】
(1)独立変数、従属変数、剰余変数について理解し、説明できる。
(2)信頼性、妥当性の概念について理解し、説明できる。

【授業時間外学習】
関心のあるポーツの心理的課題を整理し、それらの先行研究をレビューする。(4.0hr)

第４回　データの分布、正規分布、代表値
【　到達目標　】
(1)度数分布、正規分布の意味や特徴を理解し、説明できる。
(2)分布を説明するための各種代表値の意味を理解し、説明できる。

【授業時間外学習】
練習用データの入力作業を行い、さらにデータの分布状況を確認する。(4.0hr)

第５回　平均、分散、偏差、標準偏差
【　到達目標　】
(1)平均、分散、偏差、標準偏差の意味を理解し、説明できる。

【授業時間外学習】
配布される練習用データファイルの記述統計を求め標本の特徴をまとめる。(4.0hr)

第６回　ｔ検定
【　到達目標　】
(1)ｔ検定の意味、計算の手順、有意性検定手順を理解すると共に実際にデータ分析に用いることができる。

【授業時間外学習】
練習用データファイルを用いてｔ検定の実施手順や考察の仕方を練習する。(4.0hr)

第７回　χ二乗検定
【　到達目標　】
(1)χ二乗検定の意味、計算の手順、有意性検定の手順を理解すると共に実際にデータ分析に用いることができる。

【授業時間外学習】
練習用データファイルを用いてχ二乗検定の実施手順や考察の仕方を練習する。(4.0hr)

第８回　相関分析
【　到達目標　】
(1)相関分析の意味、計算の手順、有意性検定の手順を理解すると共に実際にデータ分析に用いることができる。

【授業時間外学習】
練習用データファイルを用いて相関分析の実施手順や考察の仕方を練習する。(4.0hr)

第９回　調査テーマ、分析方法の決定
【　到達目標　】
(1)心理学的調査のテーマと変数の決定方法や、研究目的に応じた分析方法について理解し、調査方法を設定できる。

【授業時間外学習】
演習で設定した研究テーマ、独立変数、従属変数、調査・分析方法の再確認を行なう。(4.0hr)

第10回　心理尺度の作成と調査準備
【　到達目標　】
(1)設定した研究課題に関わる心理尺度を作成するための資料を収集し、調査項目を設定できる。

【授業時間外学習】
調査項目の吟味を行なうと共に、作成した質問紙を実施しデータを収集する。(4.0hr)

第11回　収集データの整理と入力
【　到達目標　】
(1)調査計画に基づき調査を実施しデータを収集することができる。
(2)データを入力し、コーディングして整理することができる。

【授業時間外学習】
収集・入力したデータの度数分布、記述統計を求め標本の特徴を整理する。(4.0hr)

第12回　統計分析の実施と分析結果の整理(1)
【　到達目標　】
(1)研究計画に基づいて統計分析を行い、分析結果を適正に解釈し、また、整理することができる。

【授業時間外学習】
自らのデータファイルに関して研究テーマに沿った分析を各種試みる。(4.0hr)

第13回　統計分析の実施と分析結果の整理(2)
【　到達目標　】
(1)分析結果をわかりやすく整理し、資料にまとめることができる。

【授業時間外学習】
考察により明らかになったことを発表用のスライドにまとめる。(4.0hr)

第14回　調査・分析結果の発表と討論
【　到達目標　】
(1)調査分析結果を発表し明らかになった事項を他者と討議できる。
(2)残された問題点や検討課題を明確にすることができる。

【授業時間外学習】
発表・討議によって指摘された事柄をふまえ、改めてデータ分析する。(4.0hr)

第15回　心理調査に関わる倫理について
【　到達目標　】(1)アンケート調査実施に関わる倫理的問題を理解し、どのような手続きを経なければならないかを説明できる。(2)スポーツ心理学における心理尺度を用いた研究計画から発表までの流れと、収集したデータの適正な処理と結果発表の仕方を理解し、さらにそれらを実践することができる。
【授業時間外学習】
調査用紙の作成過程、分析・結果・考察を振り返り、今後の調査の課題を整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本演習の前半では、心理尺度による調査研究法の基礎的事項を学ぶため、統計法に関わる例題への取り組み以外は講義形式となる。後半は、グループ別の課題研究である。研究課題は、本学の学生を対象に検討可能な内容とし、オリジナルの調査項目を作成して調査、分析、発表、ディスカッションを行う。また、後半のグループごとの活動については、毎週進捗状況を発表することとし、課題点などがある場合には本授業担当者が演習の時間内に解説する。本演習の学習事項は、全て心理学的研究実践を意義あるものにする上で必須の事項である。受講者は集中して取り組まなければならない。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。
参考書としては、村上宣寛・著「心理尺度の作り方」（北大路書房）、徳永幹雄・著「体育・スポーツの心理尺度」（不昧堂出版）などを用いる。

【成績評価方法】

統計法に関わる領域の作業課題を20%、研究グループとしての研究報告課題を40%、期末の本演習全般を総括するレポート課題を40%とし、以上の３つを総合して評価する。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	笹　倉　清　則	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

チームスポーツでは、指導者はチームの目標達成のために、チーム構想をたて、それに基づきトレーニング計画を設定し、実際にトレーニングを行い大会に臨む。その指導者に必要な基本的な戦術の理解から始まり、ゲームの構想、そしてゲームの構造（局面構造）を理解し、それに応じたトレーニング方法、最後にゲームや技能評価そして体力評価なども理解する。これらの理解のベースとしてハンドボール競技を取り上げ、そこから各自の専門種目を考える。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
ガイダンスにおいてこの授業の内容や目的、進め方に関して理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第２回　専門種目の歴史・発生
【　到達目標　】
いろいろな種目の発生とその背景を調べ発表し、その中で自分の専門種目の発生やその位置づけや価値などを理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第３回　専門種目の普及・発展
【　到達目標　】
各種スポーツの普及や発展状況を理解し、特にヨーロッパ型のスポーツ、アメリカ型のスポーツの特性や普及の仕方を理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第４回　いろいろな観点での球技種目の分類
【　到達目標　】
いろいろな球技をそれぞれの観点で分類し、それらの共通点や相違点を理解する。それによって自分の種目に関して参考とすべき種目を見つけ、共通点を理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第５回　戦術の基本的な考え方
【　到達目標　】
球技に必要な「ゲーム構想」を理解し、そこから戦略、戦術、技術、体力の一般的な位置づけや考え方を理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第６回　専門種目の戦術の考え方
【　到達目標　】
前回の一般論をふまえてそれぞれの専門種目の中で戦術構造をつくって発表し、それぞれの種目の共通点や相違点を理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第７回　ゲームの局面のとらえ方
【　到達目標　】
球技の指導においてもう一つ必要な「ゲーム局面」について、一般的なとらえ方をハンドボールを題材に理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第８回　専門種目のゲームの局面のとらえ方
【　到達目標　】
それぞれの専門種目の「ゲームの局面」のとらえ方を発表し、種目による局面の違い等を理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第９回　専門種目の体力的分析
【　到達目標　】
各種スポーツにおける体力的要因を理解し、それぞれのスポーツでどのような体力を養成すべきかを理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第10回　専門種目の体力的選手評価基準
【　到達目標　】
前回の体力の理解と併せて、具体的に体力や技術の評価としての体力テストやスキルテストを調べ、検討し、共通理解をする。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第11回　ゲームの評価と分析
【　到達目標　】
球技種目にとって大切なゲーム分析について、意味やその結果の現場へのフィードバックの仕方について理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第12回　専門種目のゲーム評価と分析
【　到達目標　】
前回の授業をもとに各種目で行われているゲーム分析の事例を挙げ、どのような意図で行われ、どのような問題があるかを理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第13回　トレーニング計画について
【　到達目標　】
スポーツの戦略に含まれる「年間計画」について、その基本的な考え方を理解する。

【授業時間外学習】
次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。(4.0hr)

第14回　専門種目のトレーニング計画と観点
【　到達目標　】
自分の現在取り組んでいる種目に関する年間計画を作成し、それぞれの時期のあるべきトレーニングに関して理解する。

【授業時間外学習】
これまでの各自のレポート、講義から自分の専門種目のレポートをまとめる。(4.0hr)

第15回　球技全般の学習から専門種目の位置づけ等の理解
【　到達目標　】
球技全般の中で、それぞれの専門種目の位置づけや、発生の背景など、自分の種目に関する見方を、運動学的ないろいろな見方で捉えることをまとめとして理解する。

【授業時間外学習】
今回の講義全体をまとめた上、自分のレポートを含め小論文の作成をする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

この授業では、球技の指導者になるための全般的な知識を習得するために、基本的にはそれぞれの種目に関する毎回の課題を自分で文献から調べ、発表し理解することを目的としている。自分の専門種目も重要だが他の種目、特に自分の種目と似たものや逆に極端に異なったものも理解することにより、今後の自分の研究の方向を見いだすことができるように受講すること。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

毎回のレポートの調査の内容と発表の仕方60%、他種目への理解度20%、本演習全体の理解度と取り組み方20%。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	佐藤麻衣子	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

器械運動を対象に、「指導教材づくり」の観点から指導方法について、分析・考察型の学習を行う。まず受講者が「指導する側」と「指導される側」とに別れ、器械運動の指導を体験し、「指導する側」の反省や「指導される側」の期待などを基に、中学校や高等学校の保健体育科指導を想定した「指導用ビデオ教材」を作成する。もちろん、この分析・考察過程を他のスポーツ種目指導に援用することを期待している。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業内容の確認及び器械運動の特性の理解

【　到達目標　】

授業内容及び15回分の授業の流れを理解する。また、器械運動の種目及び技を資料を基に、その特性を理解し、それを説明することが出来る。

【授業時間外学習】

配付された資料に基づき今後の授業の流れを確認する。(4.0hr)

第２回　各グループで対象とする種目・技を検討する

【　到達目標　】

グループ編成をおこない、対象とする教材、種目及び技を選択する課程において、その特性を理解する。更にその種目及び技の指導法の必要性を説明することが出来る。

【授業時間外学習】

授業内容をノートに記録する。(4.0hr)

第３回　技の習得の為の手順を討議、検討する

【　到達目標　】

決定した技の習得に必要な手順を討議、検討する過程で多くのアドバイスを提示することが出来る。更に、分析する中で特に重視することを検討し明確にすることが出来る。

【授業時間外学習】

授業内容をノートに記録する。(4.0hr)

第４回　10段階の指導法を検討する

【　到達目標　】

前回提示した多くのアドバイスの中から、より必要とされるものを抽出し、初歩から完成までの10段階の指導法を検討する。更にそれらが適切であるかを実施し、確認することが出来る。

【授業時間外学習】

授業内容をノートに記録する。(4.0hr)

第５回　課題をビデオカメラに収録する

【　到達目標　】

前回提示した多くのアドバイスの中から、より必要とされるものを抽出し、初歩から完成までの10段階の指導法を検討する。更にそれらが適切であるかを実施し、確認することが出来る。

【授業時間外学習】

画像をノートに図式化する。(4.0hr)

第６回　課題をビデオカメラに収録する（1段階から3段階）

【　到達目標　】

第1段階から第3段階の課題を作成する過程において、それをビデオカメラに収録し適切であるかを討議、検討する。更に修正が必要であれば再度内容を検討することが出来る。

【授業時間外学習】

画像をノートに図式化する。(4.0hr)

第７回　課題をビデオカメラに収録する（4段階から7段階）

【　到達目標　】

第4段階から第7段階の課題を作成する過程において、それをビデオカメラに収録し適切であるかを討議、検討する。更に修正が必要であれば再度内容を検討することが出来る。

【授業時間外学習】

画像をノートに図式化する。(4.0hr)

第８回　収録した映像をPCへ保存（8段階から10段階）

【　到達目標　】

第8段階から第10段階の課題を作成する課程において、それらをビデオカメラに収録し修正個所があれば内容を検討する。

【授業時間外学習】

画像をノートに図式化する。(4.0hr)

第９回　収録した映像の確認

【　到達目標　】

収録した映像を観察し、討議、検討する過程において修正個所を見出すことが出来る。更に、どのような修正が必要であるかを検討することが出来る。

【授業時間外学習】

授業内容をノートに記録する。(4.0hr)

第10回　修正個所の収録

【　到達目標　】

前週の課題を明確なものとし、修正することが出来る。更にそれをビデオカメラに収録し再度修正個所を見出すことが出来る。

【授業時間外学習】

授業内容をノートに記録する。(4.0hr)

第11回　9～10回の見直し

【　到達目標　】

9～10回を繰り返すことにより、より質の高い内容の教材が完成することを理解出来る。更にその内容をPCに保存し再度修正個所を確認する。

【授業時間外学習】

5回～10回までの内容をノートに整理する。(4.0hr)

第12回　グループごとの確認

【　到達目標　】

11回の課題が修正できた場合、他のグループと互いに教材を確認し、討議を行う過程で、更に修正個所を見出すことが出来る。

【授業時間外学習】

授業内容をノートに記録する。(4.0hr)

第13回　各自による教材の説明

【　到達目標　】

グループごとに互いの教材を確認し、器械運動の特性を再確認することが出来る。

【授業時間外学習】

授業内容をノートに記録する。(4.0hr)

第14回　完成した教材の特徴の評価

【　到達目標　】

制作した教材の中で特に重要な個所を理解出来る。更にその理由について説明出来る。

【授業時間外学習】

これまでのノートの内容を整理する。(4.0hr)

第15回　完成した教材の説明

【　到達目標　】

各自が制作した教材について指導段階の手順及び必要事項を理解し、またそれを説明出来る。

【授業時間外学習】

提出用のノートを完成させる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

課題はグループ学習とし、授業時間ごとにレスポンスカードを配布する。

【教科書・参考書など】

必要に応じて資料を配付する。

【成績評価方法】

作成したビデオ教材の内容（60%）、ノート（40%）で評価する。

科 目 名	スポーツ科学論演習			担当者	都　筑　　真	
英 文 名	Seminar in Sport Sciences					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

本演習では、スポーツ史学やスポーツ社会学が扱うテーマに関連する文献講読と発表を行い、これらを通してスポーツ史学やスポーツ社会学についての理解を深めるとともに、文献から得られた情報を整理して文章化する技術を身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツ史とスポーツ社会学の研究方法
【　到達目標　】
(1)スポーツ史とスポーツ社会学の研究方法について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ史とスポーツ社会学の研究方法を扱った文献を精読する。(4.0hr)

第２回　近代スポーツの成立と展開
【　到達目標　】
(1)近代スポーツの成立と展開について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第３回　近代スポーツの特質
【　到達目標　】
(1)近代スポーツの特質について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第４回　スポーツと帝国主義
【　到達目標　】
(1)近代スポーツの伝播を文化帝国主義や文化ヘゲモニーの視点から理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第５回　近代オリンピックの功罪
【　到達目標　】
(1)近代オリンピックの功罪について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第６回　スポーツとアマチュアリズム
【　到達目標　】
(1)スポーツとアマチュアリズムの歴史的関係について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第７回　スポーツとナショナリズム
【　到達目標　】
(1)スポーツとナショナリズムの歴史的関係について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第８回　スポーツと世界平和
【　到達目標　】
(1)国際親善や世界平和に対するスポーツの貢献について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第９回　越境するスポーツ
【　到達目標　】
(1)西洋スポーツの日本での普及と日本発祥のスポーツの国際化について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第10回　日本の高校野球
【　到達目標　】
(1)日本の高校野球の歴史と功罪について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第11回 日本の企業スポーツ
【　到達目標　】
(1)日本の企業スポーツの歴史と功罪について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第12回　Jリーグ
【　到達目標　】
(1)Jリーグの理想と現実について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第13回　スポーツとメディア
【　到達目標　】
(1)スポーツとメディアの歴史的関係と関係がもたらす功罪について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第14回　日本のスポーツ政策
【　到達目標　】
(1)諸外国のスポーツ政策と比較しながら、日本のスポーツ政策について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

第15回　現代スポーツの課題
【　到達目標　】
(1)これまでに授業で扱った内容を踏まえて、現代スポーツが抱える課題について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容に関連したレポートを作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本演習ではほぼ毎回、授業内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。本演習での文献講読や発表を通して卒業研究に繋がるテーマを見つけてほしい。自分の力で何かを調べ、学ぶことの中に喜びや楽しさを見出してほしい。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

【成績評価方法】

演習時にほぼ毎回課す小レポート（50%）と学期末レポート（50%）で評価する。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	星 川 佳 広	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

トレーニングを効果あるものにするためには、運動やスポーツを科学的に捉える力が求められる。本演習の前半では、スポーツ生理学や体力科学の基本的な測定を行い、トレーニングによる身体の変化を実際に数字として確認する。指導、トレーニングの精度を高めるためには、対象者の特性を把握し、その特性にあわせたトレーニングの個別化や条件付けが必要であり、その諸条件を実際に体験することで理解を深める。また、最近のスポーツ指導においては、分かりやすいデータのフィードバックや資料作成の技量も求められるようになっており、演習の後半ではデータを整理、分析し、発表する方法を学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　体力、トレーニングを科学的に考える
【　到達目標　】
狙ったトレーニング効果を確実に得るために、体力、トレーニングを科学的に考える重要性を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第２回　トレーニングの原則
【　到達目標　】
トレーニング効果を得るための原則(個別性、特異性など）と条件について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第３回　体力測定①
【　到達目標　】
トレーニング前の運動負荷－心拍数関係もしくは角速度－トルク関係を測定する。
【授業時間外学習】
配布資料を参考にトレーニングを行い、記録する。(4.0hr)

第４回　トレーニング①
【　到達目標　】
ある負荷もしくは速度によりトレーニングを実施する。
【授業時間外学習】
配布資料を参考にトレーニングを行い、記録する。(4.0hr)

第５回　体力測定②
【　到達目標　】
トレーニング後の運動負荷－心拍数関係もしくは角速度－トルク関係を測定する。
【授業時間外学習】
配布資料を参考にトレーニングを行い、記録する。(4.0hr)

第６回　トレーニング②
【　到達目標　】
トレーニング①とは異なる負荷もしくは速度により、トレーニングを実施する。
【授業時間外学習】
配布資料を参考にトレーニングを行い、記録する。(4.0hr)

第７回　体力測定③
【　到達目標　】
トレーニング後の運動負荷－心拍数関係もしくは角速度－トルク関係を測定する。
【授業時間外学習】
測定時のデータを整理しておく。(4.0hr)

第８回　Excelによるデータ分析①
【　到達目標　】
測定時のデータをExcelに入力する。ピボットテーブルの使用法を学習する。
【授業時間外学習】
Excelのデータ整理を完全にする。(4.0hr)

第９回　Excelによるデータ分析②
【　到達目標　】
Excelによるデータのまとめ方、平均、標準偏差など基本統計量と関数の使い方を理解する。
【授業時間外学習】
配布資料を元に復習する。(4.0hr)

第10回　Excelによるデータ分析③
【　到達目標　】
Excelによるグラフ作成法を理解する、統計的検定の手法を理解する。
【授業時間外学習】
作成グラフを完全にする。(4.0hr)

第11回 見やすい資料、フィードバック法①
【　到達目標　】
わかりやすい図表の作成ができるようになる。
【授業時間外学習】
作成資料、図表を完全にする。(4.0hr)

第12回　見やすい資料、フィードバック法②
【　到達目標　】
適切なフィードバックができる。
【授業時間外学習】
作成資料、図表を完全にする。(4.0hr)

第13回　先行研究調査
【　到達目標　】
複数の文献を読み込み、先行研究の結果を整理する方法を理解する。剽窃と引用の違いを理解する。文献リストの作成法を理解する。
【授業時間外学習】
配布資料を参考に先行データをまとめてみる。(4.0hr)

第14回　発表資料の作成
【　到達目標　】
パワーポイントにより分かりやすい発表資料を作成できる。
【授業時間外学習】
プレゼンテーションを完全にする。(4.0hr)

第15回　発表会および総括
【　到達目標　】
分かりやすい発表ができる。よりよい発表について議論し、理解する。
【授業時間外学習】
他の人の発表のよい点をまとめ、自分の発表を改善する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本演習は、受講生が自身で実際にやってみて、仲間と議論することでより理解が深まる。したがって、授業への積極的な参加が求められ、またそうしたほうが得るものも大きい。ほぼ毎回、身体組成の測定を行うとともに、授業時間外に各自でトレーニングを実施する場合がある。測定やトレーニングに際しては適切な服装、シューズで参加すること。

【教科書・参考書など】

資料を配布する。

【成績評価方法】

提出物（レポート、予習復習課題など）50%、発表・プレゼンテーション20%、測定、トレーニングへの取り組み、他への協力や質疑への積極的参加など30%で評価する。なお、良好な出席状況は、当然の前提である。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	溝　口　紀　子	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

スポーツによるまちづくりをテーマとして扱う。スポーツは人々の生き甲斐や健康をもたらすとともに、人と人のつながりをうながしたり、コミュニティを作ったりする。地域によってはスポーツが住民の誇りとなっているところもある。本授業は、スポーツを利用してどのようなまちづくりが可能か、あわせて理想的な“まち”の提案ができるよう検討・議論する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス 【　到達目標　】 (1)授業の進め方を理解する。グループ分けを行う。 【授業時間外学習】 地域社会でのスポーツ活動の具体例をインターネットで調べる。(4.0hr)	**第９回　スポーツによるまちづくりの事例研究（４）** 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 【授業時間外学習】 大学スポーツの地域貢献についてインターネットで調べる。(4.0hr)
第２回　スポーツとまちづくりの理論的説明（１） 【　到達目標　】 (1)総合型地域スポーツクラブの社会的役割を理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブの具体的内容をインターネットで調べる。(4.0hr)	**第10回　スポーツによるまちづくりの事例研究（５）** 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 【授業時間外学習】 スポーツとまちづくりについてインターネットで調べる。(4.0hr)
第３回　スポーツとまちづくりの理論的説明（２） 【　到達目標　】 (1)総合型地域スポーツクラブのマネジメントを理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブのマネジメントについてインターネットで調べる。(4.0hr)	**第11回　スポーツによるまちづくりの事例研究（６）** 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 (2)住民ニーズに応える事業を考える。 【授業時間外学習】 スポーツとまちづくりについてインターネットで調べる。(4.0hr)
第４回　スポーツとまちづくりの理論的説明（３） 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 【授業時間外学習】 地域の生活問題について、教育、スポーツ、健康、保健分野等で調べる。(4.0hr)	**第12回　スポーツによるまちづくりの事例研究（７）** 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 (2)住民ニーズに応える事業を考える。 【授業時間外学習】 スポーツとまちづくりについてインターネットで調べる。(4.0hr)
第５回　スポーツとまちづくりの理論的説明（４） 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 【授業時間外学習】 地域のスポーツ政策の取り組みについてインターネットで調べる。(4.0hr)	**第13回　スポーツによるまちづくりの事例研究（８）** 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 (2)住民ニーズに応える事業を考える。 【授業時間外学習】 スポーツとまちづくりについてインターネットで調べる。(4.0hr)
第６回　スポーツによるまちづくりの事例研究（１） 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 【授業時間外学習】 地域のスポーツ政策の取り組みについてインターネットで調べる。(4.0hr)	**第14回　スポーツによるまちづくりの事例研究発表会（１）** 【　到達目標　】 (1)地域の課題、企画立案を発表する。 (2)評価する。 【授業時間外学習】 発表会の準備をする。(4.0hr)
第７回　スポーツによるまちづくりの事例研究（２） 【　到達目標　】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 【授業時間外学習】 地域のスポーツ政策の取り組みについてインターネットで調べる。(4.0hr)	**第15回　スポーツによるまちづくりの事例研究発表会（２）** 【　到達目標　】 (1)地域の課題、企画立案を発表する。 (2)評価する。 【授業時間外学習】 発表会の準備をする。(4.0hr)
第８回　スポーツによるまちづくりの中間発表 【　到達目標　】 中間報告を行う。 【授業時間外学習】 地域のスポーツ政策の取り組みについてインターネットで調べる。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

地域社会において住民と関わりを持つため、アンケート、モニタリングなどを行う場合は常識ある態度、服装、積極的姿勢を期待する。

【教科書・参考書など】

特に指定しない。

【成績評価方法】

授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	湯　澤　芳　貴	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

バレーボールを題材として、国内外のトップレベルの選手やチームがどのような戦術を採用しているのか、またどのような戦術・戦略でゲームに勝利しようとしているのかについてVTR等を用いてスカウティングの技法を身につけ、実際に分析することで明らかにしていく。また新しい戦術やそのトレーニング方法の開発をおこない、それらを実践することにより戦術の成り立ちについて理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　バレーボールにおける技術・戦術・戦略の考え方
【　到達目標　】
(1)技術、戦術、戦略がどのように関連しているか理解する。
【授業時間外学習】
技術・戦術が適切に選択できるようそれぞれを関連づけられるようにする。(4.0hr)

第２回　スカウティングの方法について
【　到達目標　】
(1)バレーボールにおけるスカウティング技法について理解する。
(2)それぞれのスカウティングで明らかにすることを理解する。
【授業時間外学習】
スカウティングで用いる技法について理解を深める。(4.0hr)

第３回　個人技術評価
【　到達目標　】
(1)スパイク・サーブ・サーブレシーブ・ブロックの評価方法を理解する。
(2)JVISの使用方法と評価基準を理解する。
【授業時間外学習】
個人技術評価の計算方法について適切におこなえるようにする。(4.0hr)

第４回　スカウティング実践演習Ⅰ(個人技術評価)
【　到達目標　】
(1)VTRを見ながら個人技術評価をおこなうことができる。
【授業時間外学習】
リアルタイムでの評価ができるように処理能力を高める。(4.0hr)

第５回　チーム戦術分析Ⅰ(フォーメーション分析)
【　到達目標　】
(1)フォーメーション分析の方法について理解する。
【授業時間外学習】
事前にバレーボールで用いられるフォーメーションを理解しておく。(4.0hr)

第６回　チーム戦術分析Ⅱ(攻撃パターン分析)
【　到達目標　】
(1)様々な局面での攻撃パターン分析の方法を理解する。
【授業時間外学習】
事前に各ポジションの攻撃の種類について理解しておく。(4.0hr)

第７回　スカウティング実践演習Ⅱ(フォーメーション分析)
【　到達目標　】
(1)VTRを見ながらフォーメーション分析をおこなうことができる。
【授業時間外学習】
分析したフォーメーションの特徴を述べられるようにする。(4.0hr)

第８回　スカウティング実践演習Ⅲ(攻撃パターン分析)
【　到達目標　】
(1)VTRを見ながら攻撃パターン分析をおこなうことができる。
【授業時間外学習】
分析した攻撃パターンの特徴を述べられるようにする。(4.0hr)

第９回　スカウティング結果の検討、および戦略の立て方
【　到達目標　】
(1)スカウティング結果からチームの特徴を知ることができる。
(2)スカウティング結果からの効果的な戦略の立て方を理解する。
【授業時間外学習】
事前にバレーボールの戦略について理解を深めておく。(4.0hr)

第10回　新たな戦術、およびそのトレーニング法の開発
【　到達目標　】
(1)バレーボール技術を用いての新たな戦術を開発することができる。
(2)その戦術の効果的なトレーニング方法を検討することができる。
【授業時間外学習】
事前にバレーボールの戦術の特徴について理解を深めておく。(4.0hr)

第11回　戦術トレーニング実践演習Ⅰ
【　到達目標　】
(1)開発した新しい戦術についてトレーニング指導を実践できる。
【授業時間外学習】
実践したトレーニング指導を改善、再検討する。(4.0hr)

第12回　戦術トレーニング実践演習Ⅱ
【　到達目標　】
(1)開発した新しい戦術についてトレーニング指導を実践できる。
【授業時間外学習】
実践したトレーニング指導を改善、再検討する。(4.0hr)

第13回　戦術トレーニング実践演習Ⅲ
【　到達目標　】
(1)開発した新しい戦術についてトレーニング指導を実践できる。
【授業時間外学習】
実践したトレーニング指導を改善、再検討する。(4.0hr)

第14回　戦術トレーニング実践演習Ⅳ
【　到達目標　】
(1)開発した新しい戦術についてトレーニング指導を実践できる。
【授業時間外学習】
実践したトレーニング指導を改善、再検討する。(4.0hr)

第15回　戦術トレーニング実践演習の評価と反省
【　到達目標　】
(1)戦術トレーニング実践に関してより良い方法を検討できる。
(2)スポーツを科学的にとらえるということを理解できる。
【授業時間外学習】
事前に戦術トレーニングの評価方法について理解を深めておく。(4.0hr)

【学習上の留意点】

バレーボールを通して、スポーツを実際に「おこなう」ということから、スポーツを客観的に「理解する」ということに主眼を置き、授業を進めていく。そのためバレーボールに関する技術・戦術に関する基礎知識が必要となってくる。バレーボールⅠやバレーボールⅡの授業で身に付けた基礎知識をしっかりと復習しておくようにすること。毎回の授業の最後に振り返りをおこない、授業内容について理解を深める。また授業でおこなう演習は基本的に小グループでディスカッションしながら進めていく。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

授業内での課題達成状況を50%、戦術トレーニング実践を50%として評価する。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	湯　田　　淳	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いた競技力向上に関連する文献をまとめ、競技現場における客観的データの活用法について議論する。また、動作分析におけるデータ収集から分析までの一連の流れを体験し、自身の専門種目における動作改善法について議論する。本演習は2年次に履修したスポーツバイオメカニクスの応用として位置づけられているため、スポーツバイオメカニクスにおける基本的知識の習得が不可欠である。

【授業内容・到達目標など】

第１回　科学論文の捉え方（文献検索法） 【　到達目標　】 (1)様々な学術雑誌に掲載されている科学論文の検索方法を把握する。 【授業時間外学習】 いくつかの論文検索方法を確認し、試してみる。(4.0hr)	**第９回　動作分析の実際（動作分析におけるデータ算出法）** 【　到達目標　】 (1)動作分析におけるデータ処理方法を把握する。 【授業時間外学習】 動画加工ソフトウェアの種類やその機能について把握する。(4.0hr)
第２回　科学論文の捉え方（科学論文の構成） 【　到達目標　】 (1)科学論文とはどのようなものであるかを理解する。 【授業時間外学習】 いくつかの科学論文を入手し、その内容を確認する。(4.0hr)	**第10回　動作改善法の検討1** 【　到達目標　】 (1)自身の専門種目の動作を客観的に捉えることができる。 【授業時間外学習】 自身の専門種目の動作を撮影する。(4.0hr)
第３回　文献研究1 【　到達目標　】 (1)自身の求める内容の科学論文を見つけることができる。 【授業時間外学習】 自身の専門のスポーツ種目において、どのようなことが課題であるかを検討する。(4.0hr)	**第11回　動作改善法の検討2** 【　到達目標　】 (1)自身の専門種目の動作における課題を分析することができる。 【授業時間外学習】 自身の専門種目の競技力向上のための課題を検討する。(4.0hr)
第４回　文献研究2 【　到達目標　】 (1)専門用語などを調べながら、自身の力で科学論文を読み進めることができる。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスの専門用語について理解を深める。(4.0hr)	**第12回　動作改善法の検討3** 【　到達目標　】 (1)様々なスポーツ動作の特徴を客観的に捉えることができる。 【授業時間外学習】自身の専門種目について、競技力向上のためのスポーツバイオメカニクスの活用事例を把握する。(4.0hr)
第５回　文献研究3 【　到達目標　】 (1)要点を簡潔にまとめることができる。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスの分析方法について理解を深める。(4.0hr)	**第13回　動作改善法の検討4** 【　到達目標　】 (1)様々なスポーツ動作の改善法を説明し、議論することができる。 【授業時間外学習】様々なスポーツ種目について、競技力向上のためのスポーツバイオメカニクスの活用事例を把握する。(4.0hr)
第６回　文献研究4 【　到達目標　】 (1)プレゼンテーションの技能を高める。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスから得られた知見の活用法について検討する。(4.0hr)	**第14回　スポーツバイオメカニクス研究法1（分析方法の検討）** 【　到達目標　】 (1)スポーツバイオメカニクスの研究法について理解する。 【授業時間外学習】 科学論文で用いられるスポーツバイオメカニクス的研究手法を把握する。(4.0hr)
第７回　動作分析の実際（動作分析におけるデータ収集法） 【　到達目標　】 (1)動作分析における作業の流れを把握する。 (2)ビデオカメラを用いた撮影法を把握する。 【授業時間外学習】 ビデオカメラの操作方法について、留意点を含めて把握する。(4.0hr)	**第15回　スポーツバイオメカニクス研究法2（研究計画の立案）** 【　到達目標　】 (1)スポーツ現場における課題と研究とを結びつけ、スポーツ現場で自身が抱える様々な問題を科学的に捉える視点を養う。 【授業時間外学習】自身の専門種目において算出可能なスポーツバイオメカニクス的データについて検討する。(4.0hr)
第８回　動作分析の実際（映像加工の実際） 【　到達目標　】 (1)コンピューター上での動画の加工法を把握する。 【授業時間外学習】 動画の仕組みを把握する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

前半では、スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いた競技力向上に関連する文献（各自のテーマに沿ったもの）をA3用紙2枚程度にまとめ、発表する。ここでは、専門的な内容で記述された科学論文を自身の力で読み解き、他の受講生に分りやすく説明することが求められる。後半では、スポーツバイオメカニクスにおける動作分析の流れを実験を通して学び、これを基に自身の専門種目の動作改善法についてまとめ、発表する。いずれも受講生には各種作業に積極的に取り組む姿勢が求められ、より良い理解のためには自分で調べ、学ぶ努力が重要となる。発表の結果は、授業内において解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。

【成績評価方法】

文献および動作改善法の発表課題の達成度を60%、期末の本演習全般を総括するレポート課題の達成度を40%の割合として評価する。

科目名	スポーツ科学論演習			担当者	吉　田　孝　久	
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習		科目ナンバー	SMR401		

【目的とねらい】

トレーニングを合目的でかつ効果的にするには、「現状把握」→「目的の設定」→「方法の選択」というプロセスで計画し、「実施」→「結果の検証」を行なっていくことが必要である。こうしたトレーニングサイクルを行う中で、コントロールテストは「現状把握」と「結果の検証」を確認するのに有効なツールとなっている。この授業では、コントロールテストで用いられるさまざまな体力要素を測定し、それぞれを分析・評価する方法を習得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
授業の目的と進め方を理解する。プレゼンテーションの発表方法を確認する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第２回　各種測定方法の説明
【　到達目標　】
コントロールテストで用いられているもののうち、授業で扱うスプリント、ジャンプ力、持久力、柔軟性、巧緻性を理解する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第３回　スプリント走の測定
【　到達目標　】
スプリント走の実験を行い、タイム測定と映像を撮影する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第４回　スプリント走の分析１
【　到達目標　】
パソコンと映像を用いて、疾走タイムと各区間の平均疾走速度を算出する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第５回　スプリント走の分析２
【　到達目標　】
パソコンと映像を用いて、区間ごとの平均ピッチと平均ストライド等を算出する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第６回　ジャンプ力の測定
【　到達目標　】
マットスイッチ上での各種のジャンプ運動の実験を行う。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第７回　ジャンプ力の分析
【　到達目標　】
マットスイッチ上の接地時間と滞空時間から各種ジャンプでの推定跳躍高を算出する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第８回　持久力の測定
【　到達目標　】
映像とハートレートモニターを用いた持久走のタイム測定を行う。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第９回　持久力の分析
【　到達目標　】
映像とハートレートモニターから区間ごとの速度変化、HRMの変化をまとめる。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第10回　柔軟性・巧緻性の測定
【　到達目標　】
映像と測定機器を用いて、柔軟性と巧緻性の測定を行い、分析方法を習得する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーション用の資料作成１
【　到達目標　】
パワーポイントを使ったプレゼンテーション用の資料を作成し、その方法を習得する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第12回　プレゼンテーション用の資料作成２
【　到達目標　】
パワーポイントを使ったプレゼンテーション用の資料を作成し、その方法を習得する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第13回　プレゼンテーション１
【　到達目標　】
１人15分の発表、質疑応答５分でプレゼンテーションを行い、修正と実行のポイントを確認する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第14回　プレゼンテーション２
【　到達目標　】
１人15分の発表、質疑応答５分でプレゼンテーションを行い、修正と実行のポイントを確認する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第15回　プレゼンテーション３
【　到達目標　】
１人15分の発表、質疑応答５分でプレゼンテーションを行い、修正と実行のポイントを確認する。

【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業では、各自の体力測定を行い、そこでの体力要素を分析しながら測定評価の方法を理解していく。したがって、受講者は被験者としても測定に参加できるように継続してトレーニングを行っていることが望ましい。また、授業ではパーソナル・コンピューターを使って分析を行うため情報機器の習熟度を高めていく必要がある。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）
『スポーツトレーニング理論』村木征人著

【成績評価方法】

各測定実施での提出課題50%、プレゼンテーション50%として評価する。

科目名	トレーニング計画論			担当者	吉　田　孝　久	
英文名	Theory of Training Planning					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SME201		

【目的とねらい】

運動技能の獲得から、より高い達成へと向上させる過程は長期にわたるトレーニング活動が必要である。そのためには確かな理論に裏打ちされたトレーニング計画が有用である。本講義では、ジュニアからシニアに至る長期トレーニング計画、年間トレーニング計画および短期のトレーニング計画立案に必要な内容について検討することによって、トレーニング計画についての理解を深めることを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　トレーニング計画の意義
【　到達目標　】
実生活の体験から計画性が重要であることを理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第２回　トレーニング計画の種類
【　到達目標　】
最新のスポーツ科学のトレンドとして、最大達成を効率的に求めるためには長期のライフサイクルの中で考えることが重要であることを理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第３回　トレーニング評価１
【　到達目標　】
サッカープロチームの一貫指導の資料をもとに、ジュニアからシニア、プロチームへの連携が実践されていること、長期計画のもとにトレーニングが行われていることを理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第４回　トレーニング評価２
【　到達目標　】
プロ選手の厳しいトレーニングの実態（計画的、安定的に実践できるかどうか）について、映像を通して理解を深める。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第５回　スポーツ活動経験から：ジュニアのトレーニング計画
【　到達目標　】
自分自身のトレーニング実戦経験から、トレーニングが計画的に行われていたかどうかを検証し、また、改善の余地がどこにあるのかについて検討する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第６回　スポーツ活動経験から：シニアのトレーニング計画
【　到達目標　】
現在のトレーニング活動を材料にして、トレーニング実践における問題点を抽出し、その改善方法について検討する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第７回　トレーニング計画立案の手順１
【　到達目標　】
現在値の把握のための評価項目及び方法について理解を深める。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第８回　トレーニング計画立案の手順２
【　到達目標　】
目標値の設定の仕方について理解を深める。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第９回　トレーニング計画立案の手順３
【　到達目標　】
年間トレーニング計画立案における期分けについて、いくつかのパターンをもとに理解を深める。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第10回　筋力の養生法
【　到達目標　】
筋力を向上させるトレーニング方法について理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第11回　スピードの養成
【　到達目標　】
スピードを向上させるトレーニング方法について理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第12回　持久力の養生法
【　到達目標　】
持久力を向上させるトレーニング方法について理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第13回　調整力の養生法
【　到達目標　】
調整力を向上させるトレーニング方法について理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第14回　柔軟性の養生法
【　到達目標　】
柔軟性を向上させるトレーニング方法について理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第15回　トレーニング計画立案における問題点２
【　到達目標　】
トレーニング実践の中で、計画立案の時点では把握できない内容を抽出し、それらへの対処方法について検討する。
【授業時間外学習】
授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・毎回配布するプリントに提示された課題に回答する。次の授業で課題への回答例を示すことによって、授業内容の理解の度合いを自分自身でチェックする。
・過去のスポーツ経験をもとに、自分自身のトレーニング実践について分析・評価することによって、トレーニング計画の有用性についての理解を深める。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）、（競技力向上のためのトレーニング戦略）、（ロシア体育・スポーツトレーニングの理論と方法論）

【成績評価方法】

理解度を評価するために試験を実施する。その試験の結果100%で評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系・新体操）			担当者	橋爪みすず	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅰ (Marking Sports・Rhythmic Gymnastics)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME301		

【目的とねらい】

採点競技の競技特性を理解するとともに、新体操における基礎技術を習得する。また、適切な段階的指導と効果的指導について、実践を通して学習すると同時に、動きの理解と観察する力を養う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス

【　到達目標　】

授業展開とねらい、評価方法、学習上の留意点について理解する。
新体操のルールの変遷について理解する。

【授業時間外学習】

新体操のルールの変遷を調べておく。(4.0hr)

第２回　ストレッチ・柔軟・筋力トレーニングの実践および考案

【　到達目標　】

年齢と段階に合わせたストレッチ・柔軟・筋力トレーニングを理解し、指導方法を考案する。

【授業時間外学習】

新体操競技におけるトレーニングの基礎に関する資料を準備する。(4.0hr)

第３回　基礎運動①　徒手要素の習得の仕方と指導方法

【　到達目標　】

望ましい姿勢や正しい基本動作をバーを用いて実践し、徒手要素の習得の仕方と指導方法について考案する。

【授業時間外学習】

指導の場面をシミュレーションし、意見を発表出来るように準備する。(4.0hr)

第４回　基礎運動②　運動観察による改善・指導方法

【　到達目標　】

基本動作を二人組で行い、動きの補助や矯正を実践する。運動観察による改善・指導方法を身につける。

【授業時間外学習】

意見を提案できるように準備する。(4.0hr)

第５回　手具の基本操作①　手具技術を習得するための段階的指導

【　到達目標　】

基本操作からフープの特性を理解し､手具技術を習得するための段階的指導について考案する。

【授業時間外学習】

意見を提案できるように準備する。(4.0hr)

第６回　手具の基本操作②　手具操作の発展を目指した指導内容

【　到達目標　】

音楽のリズムや曲調をとらえ、個・組による動きと手具操作の発展を目指した指導内容を考案する。

【授業時間外学習】

手具操作の特徴をまとめ、指導内容について考えをまとめておく。(4.0hr)

第７回　各班によるフレーズ創り①

【　到達目標　】

団体種目の演技構成に特徴的な「手具交換、連係」を創作し、練習手段や指導方法について探る。

【授業時間外学習】

手具交換、連係を提案できるように準備する。(4.0hr)

第８回　各班によるフレーズ創り②

【　到達目標　】

音楽に合った身体の動きや手具動作を取り入れながら、フレーズ創りを実践し、習得の仕方を学習する。

【授業時間外学習】

動きを提案できるように準備する。(4.0hr)

第９回　指導実践と指導内容の検討①

【　到達目標　】

各班で考えたフレーズ内容を伝達する方法を身につけ、指導上の問題点について検討する。

【授業時間外学習】

学習者に伝達する内容と方法を準備する。(4.0hr)

第10回　指導実践と指導内容の検討②

【　到達目標　】

各班で考えたフレーズ内容を伝達する方法を身につけ、指導上の問題点について検討する。

【授業時間外学習】

学習者に伝達する内容と方法を準備する。(4.0hr)

第11回　技能レベルに応じた団体創作について

【　到達目標　】

伝達されたフレーズ内容を基に、音楽のリズムや曲調をとらえながら作品の組み立てを実践する。技能レベルに応じた創作力を身につける。

【授業時間外学習】

動きを提案できるように準備する。(4.0hr)

第12回　作品構成の見直し

【　到達目標　】

さらに独創性を目指した構成を考案し、ミスにつながりやすい問題点とその対処法について検討する。

【授業時間外学習】

作品構成上の問題点を抽出する。(4.0hr)

第13回　技術トレーニングの仕方について

【　到達目標　】

身体の動きと手具動作が明確になるよう実践を重ね、技術を習得するトレーニング法を身につける。

【授業時間外学習】

習得する為のトレーニング法について意見が出せるように準備する。(4.0hr)

第14回　作品発表

【　到達目標　】

班別に発表し、観察により技能の習得の仕方と、指導方法について再度検証する。

【授業時間外学習】

意見を提案できるように準備する。(4.0hr)

第15回　採点競技系スポーツについて

【　到達目標　】

採点競技系スポーツについて理解する。

【授業時間外学習】

採点競技系スポーツについて調べておく。(4.0hr)

【学習上の留意点】

アクセサリー類や時計は、相手や自らの怪我を引き起こす危険性や、手具により破損する可能性があるため、決して身につけない。服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は好ましくない。（パーカー・スウェットは着用しない）
種目毎に実技試験と授業内容に関するレポートを作成し、理解度の確認を行う。結果は授業時に解説によりフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書の指定はなし。
必要に応じて、プリント教材を配布します。

【成績評価方法】

実技試験70%　　レポート30%

科目名	スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系・器械運動）			担当者	森　井　大　樹	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅰ (Marking Sports・Apparatus Exercise)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME302		

【目的とねらい】

器械運動の指導法を学習するために、学校体育で扱われる器械運動の基礎的な技を取り上げ、それらの粗形態獲得（初めてできる、何とかできる段階）のための指導方法論を学ぶ。そのために、それぞれの技の望ましい指導段階の組み方（練習場面の設定、幇助法、安全性の確保等）や技の観察ポイント（評価ポイント）を明らかにしていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　動きの指導に必要な知識
【　到達目標　】
(1)指導のマネジメント能力の必要性を理解する。
(2)コツの指導の必要性を理解する。

【授業時間外学習】
第1回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第２回　器械運動の練習場面の設定と幇助法
【　到達目標　】
(1)技の指導に必要な場の設定の基本的考え方を理解する。
(2)技の指導に必要な基本的な幇助法について理解する。

【授業時間外学習】
第2回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第３回　学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討①
【　到達目標　】
(1)「倒立」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「倒立」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第3回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第４回　学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討②
【　到達目標　】
(1)「前転」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「前転」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第4回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第５回　学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討③
【　到達目標　】
(1)「後転」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「後転」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第5回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第６回　学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討④
【　到達目標　】
(1)「側方倒立回転」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「側方倒立回転」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第6回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第７回　学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討⑤
【　到達目標　】
(1)「ハンドスプリング」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「ハンドスプリング」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第7回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第８回　マット運動の指導
【　到達目標　】
(1)マット運動の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)マット運動の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第8回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第９回　学生による技の指導（とび箱運動）と指導内容の検討①
【　到達目標　】
(1)「開脚とび」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「開脚とび」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第9回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第10回　学生による技の指導（とび箱運動）と指導内容の検討②
【　到達目標　】
(1)「閉脚とび」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「閉脚とび」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第10回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第11回　学生による技の指導（とび箱運動）と指導内容の検討③
【　到達目標　】
(1)「はねとび」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「はねとび」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第11回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第12回　学生による技の指導（平均台運動）と指導内容の検討
【　到達目標　】
(1)「平均台の基礎技能」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「平均台の基礎技能」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第12回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第13回　学生による技の指導（鉄棒運動）と指導内容の検討
【　到達目標　】
(1)「鉄棒の基礎技能」の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)「鉄棒の基礎技能」の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第13回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第14回　とび箱、平均台、鉄棒運動の指導のまとめ
【　到達目標　】
(1)とび箱、平均台、鉄棒運動の指導場面の設定とその課題を理解する。
(2)とび箱、平均台、鉄棒運動の動感指導に必要な知を理解する。

【授業時間外学習】
第14回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第15回　器械運動の指導
【　到達目標　】
(1)器械運動で行われる技の動感について理解する。
(2)できない人の動感について理解する。
(3)創発分析の必要性とその方法について理解する。
【授業時間外学習】
授業全体を通して得た知見を実際の指導に活かせるよう準備する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

「できる」動きを「どう教えるか」を検討する授業である。「指導者役」となる指導担当については、技の習得に必要な「コツ」に関する知識や教えるための「道しるべ」の設定が必要となるため、十分な準備が要求される。教える動きの中身が「わかって」教えられるようになるために、「学習者役」でも、それぞれの技のコツについて想起しながら授業を受ける必要がある。毎回の授業内容をノートにまとめながら、指導に活かせる自分なりの「指導ノート」を作成する。

【教科書・参考書など】

＜参考書＞
「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店）

【成績評価方法】

授業内容の記録ノート70%　・　指導技術　30%

科目名	スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系・陸上競技）			担当者	石塚　浩・吉田　孝久 大橋　祐二	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅰ (Measuring Sports・Track and Field)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME303		

【目的とねらい】

ここでは個人競技としての陸上競技を取り上げ、陸上競技の基礎的な走・跳・投の技術を習得する。そして初心者の段階から中鍛錬者に至る競技者に対しての技術的な指導、効果的なコーチング法、総合的な陸上競技に必要な体力補強トレーニングの方法を学ぶ。コーチングの面では、初心者から経験の浅い競技者のトレーニング計画の立て方、トレーニング内容・練習内容の組み合わせ構成などについて、実践を通じ、その方法を学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ハードル種目、跳躍種目、投てき種目の技能構造 【　到達目標　】 この授業で取り上げる種目で核となる一連の動きについて理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)	**第９回　基本技能（走り幅跳び）の習得の仕方と指導パターン１** 【　到達目標　】 走り幅跳びの導入に用いる「踏み切り」ドリルを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することで走り幅跳びの動きの特性を把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)
第２回　初心者が身につけるべき基本技能のコーチング 【　到達目標　】 この授業で取り上げる種目の基本技能のコーチングについて理解を深める。同時に初心者対象のコーチングの仕方について理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)	**第10回　基本技能（走り幅跳び）の習得の仕方と指導パターン２** 【　到達目標　】 助走スピードをコントロールした中での踏み切りの習熟レベルをパートナーと確認する（相互コーチング）。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)
第３回　基本技能の発展の方法について 【　到達目標　】 基本技能として身につける過程とそのコーチングについて理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)	**第11回　基本技能（走り幅跳び）の習得の仕方と指導パターン３** 【　到達目標　】 走り幅跳びにおける最大達成を目指した「記録会」を実施し、その時に現れる問題点を抽出し、その改善の仕方についてコーチングを実践する。そこで伝達方法の問題点を確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)
第４回　基本技能（ハードル走）の習得の仕方と指導パターン１ 【　到達目標　】 ハードル走のドリルを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することでハードル走の動きの特性を把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)	**第12回　基本技能（砲丸投げ）の習得の仕方と指導パターン１** 【　到達目標　】 砲丸投げの導入に用いるメディシンボールによるつき出し動作のドリルを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することで砲丸投げの動きの特性を把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)
第５回　基本技能（ハードル走）の習得の仕方と指導パターン２ 【　到達目標　】 3歩のリズムでハードル走を行うために、初心者指導では何に留意すべきかをパートナーとの相互コーチングを通して把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)	**第13回　基本技能（砲丸投げ）の習得の仕方と指導パターン２** 【　到達目標　】 その場つき出し、ステップをつけてのつき出しの習熟レベルをパートナーと確認する（相互コーチング）。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)
第６回　基本技能（ハードル走）の習得の仕方と指導パターン３ 【　到達目標　】 ハードル走の相互コーチングによって、選手と共振しながらのコーチングを実践する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)	**第14回　基本技能（砲丸投げ）の習得の仕方と指導パターン３** 【　到達目標　】 砲丸投げにおける最大達成を目指した「記録会」を実施し、その時に現れる問題点を抽出し、その改善の仕方についてコーチングを実践する。そこで伝達方法の問題点を確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)
第７回　観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達１ 【　到達目標　】 相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)	**第15回　陸上競技初心者のコーチングにおける問題点** 【　到達目標　】 この授業で取り上げた3種目の相互コーチング実習から得られたフィードバック情報をもとに、陸上競技の初心者対象のコーチングについての問題点について検討する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)
第８回　観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達２ 【　到達目標　】 相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

コーチング実習時に提出させる記録表や実習記録として収録したVTRをもとに、自分自身のコーチングについて分析・評価する。
また、関連する資料を収集し、それぞれの運動についての理解を深める。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）、（競技力向上のためのトレーニング戦略）、（コーチングマニュアル）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編）

【成績評価方法】

コーチング実習時に提出した記録表、および実習後に行うコーチング内容・方法についての自己分析記録表を60%、また指導実践におけるできばえを40%として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系・水泳）			担当者	山川　啓介・兵藤　洋樹	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅰ (Measuring Sports・Swimming)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME304		

【目的とねらい】

運動の達成度を測定し、その結果を評価する種目のうち、水泳について取り上げ、運動技能向上のための指導法について、科学的な理論背景を理解し、指導実践の場で検証することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　水の特性と水泳の歴史 【　到達目標　】 水の特性－4つの特性（水圧、浮力、抵抗、水温）を理解する。 水泳競技の成り立ちと歴史概論を理解する。 【授業時間外学習】 水の特性や歴史に関する文献を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第９回　受講生による初心者を対象とした内容のコーチング⑤** 【　到達目標　】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。(4.0hr)
第２回　初心者指導法 【　到達目標　】 水の特性を実際の指導へつなげた指導、特に初心者を対象とした指導法を理解する。 【授業時間外学習】 水泳の初心者指導法に関する文献を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第10回　受講生による初心者を対象とした内容のコーチング⑥** 【　到達目標　】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。(4.0hr)
第３回　各種泳法指導法 【　到達目標　】 クロール、背泳ぎおよび平泳ぎの技術特性および基礎的指導法を理解する。 【授業時間外学習】 各泳法の技術特性や基礎的指導法に関する文献を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第11回　受講生による初心者を対象とした内容のコーチング⑦** 【　到達目標　】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 【授業時間外学習】コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。(4.0hr)
第４回　泳法実習および基礎的泳法指導の実践 【　到達目標　】 クロール、背泳ぎおよび平泳ぎの技術特性を修得する。 泳法に応じた指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 各泳法の指導方法に関する文献を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第12回　救助法に関する理論の理解と基礎実技力の修得** 【　到達目標　】 救助法に関する理論を理解する。 救助法に関する基礎的内容を実践する。 【授業時間外学習】 水難救助法に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第５回　受講生による初心者を対象とした内容のコーチング① 【　到達目標　】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。(4.0hr)	**第13回　着衣泳に関する理論の理解と基礎実技力の修得** 【　到達目標　】 着衣泳に関する理論を理解する。 着衣泳に関する基礎的内容を実践する。 【授業時間外学習】 着衣泳に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第６回　受講生による初心者を対象とした内容のコーチング② 【　到達目標　】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。(4.0hr)	**第14回　水泳の安全管理および安全対策** 【　到達目標　】 プールおよび水辺活動における安全の管理および対策を理解する。 【授業時間外学習】 水泳の安全管理に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第７回　受講生による初心者を対象とした内容のコーチング③ 【　到達目標　】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。(4.0hr)	**第15回　初心者水泳コーチング実習の反省と検討** 【　到達目標　】 これまで行ってきたコーチング実践についてディスカッションをし、各々が改善すべき点を明確に理解する。 【授業時間外学習】コーチング実践に関する自己評価および他者評価により、問題点を抽出してその対策と共に整理する。(4.0hr)
第８回　受講生による初心者を対象とした内容のコーチング④ 【　到達目標　】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

本演習は、水泳の指導者としての第一歩を踏み出す内容であり、科学的理論背景に基づいたコーチングを実践することに加え、指導者としての心構えも含めた内容を修得する。そのため、指導者とはどうあるべきか、を考えた受講態度が求められる。プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリー類の着用は不可とする。ほぼ毎時間、水泳指導に関する理解をより深めるために、学習者同士によるグループ学習の時間を設ける。各回の学習活動および指導実践の内容は、その授業終了時にフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「水泳指導教本」　財団法人日本水泳連盟編、大修館書店
「基礎からの水泳」　柴田義晴著、ナツメ社

【成績評価方法】

1.コーチング実習の計画書（30%）、2.コーチング実習の実践（40%）、3.水泳指導に関する筆記試験(30%)。
評価は、上記をふまえ総合的に判定する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ）			担当者	佐々木直基・橋本　早予 茂泉　圭治	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅰ (Judging Sports・Basketball)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME305		

【目的とねらい】

バスケットボールにおける基礎的な個人技術、基礎的なグループ・チーム戦術の習得を目指すコーチングの理論的背景について理解し、指導実践を通してコーチング法を学習することが目的である。3年次履修のスポーツコーチング演習ⅡおよびⅢでは、本演習で習得したことを応用するため、その基礎作りがねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のねらい・進め方と技術・戦術を習得するためのコーチング
【　到達目標　】
(1)授業のねらいと進め方について理解する。
(2)指導実践の内容を理解し、指導実践の計画を立てる。

【授業時間外学習】
実際に指導する指導計画を立案する。(4.0hr)

第２回　指導実践①　遊びを使った導入法
【　到達目標　】
(1)コーディネーションドリルの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)ボールハンドリングの指導実践を通してコーチング法を習得する。

【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第３回　指導実践②　シュートの指導
【　到達目標　】
(1)オーバーハンドレイアップの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)ワンハンドシュートの指導実践を通してコーチング法を習得する。

【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第４回　指導実践③　シュートの指導
【　到達目標　】
(1)インサイドでのシュートの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)アウトサイドからのシュートの指導実践を通してコーチング法を習得する。

【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第５回　指導実践④　ボールコントロールの指導
【　到達目標　】
(1)ドリブルの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)パスとキャッチの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(3)リバウンドの指導実践を通してコーチング法を習得する。
【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第６回　指導実践⑤　アウトサイドからの１対１の指導
【　到達目標　】
(1)パスを受けるための動きの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)パスを受けてからの動きの指導を通してコーチング法を習得する。
(3)ドリブルとフィニッシュの指導実践を通してコーチング法を習得する。
【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第７回　指導実践⑥　インサイドでの１対１の指導
【　到達目標　】
(1)パスを受けるための動きの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)パスを受けてからの動きの指導を通してコーチング法を習得する。
(3)ハイポストでのプレイの指導実践を通してコーチング法を習得する。
【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第８回　検証
【　到達目標　】
(1)指導実践①～⑥を通して行ったコーチング法について分析し、今後のコーチングに活かせるよう検証する。

【授業時間外学習】
分析・検証したコーチング法について整理する。(4.0hr)

第９回　指導実践⑦　２人によるオフェンスプレイの指導
【　到達目標　】
(1)パスによるプレイの展開の指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)ドリブルによるプレイの展開の指導実践を通してコーチング法を習得する。

【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第10回　指導実践⑧　２人によるオフェンスプレイの指導
【　到達目標　】
(1)オンボールスクリーンの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)ポストにパスを入れてからのプレイの指導実践を通してコーチング法を習得する。

【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第11回　指導実践⑨　３人以上でのオフェンスプレイの指導
【　到達目標　】
(1)ボールサイドでのプレイの指導実践を通してコーチング法を習得する。

【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第12回　指導実践⑩　３人以上でのオフェンスプレイの指導
【　到達目標　】
(1)アウトサイドプレイヤー３人によるプレイの指導実践を通してコーチング法を習得する。

【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第13回　指導実践⑪　マンツーマンディフェンスの指導
【　到達目標　】
(1)チームディフェンスの原則の指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)ドライブへの対応の指導実践を通してコーチング法を習得する。
(3)カッティングへの対応の指導実践を通してコーチング法を習得する。
【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第14回　指導実践⑫　ミニゲームを使った指導
【　到達目標　】
(1)基本の動きを身につけるミニゲームの指導実践を通してコーチング法を習得する。
(2)戦術や連携を身につけるミニゲームの指導実践を通してコーチング法を習得する。

【授業時間外学習】
指導実践で行ったコーチング法について振り返る。(4.0hr)

第15回　総合的検証
【　到達目標　】
(1)指導実践⑦～⑫を通して行ったコーチング法について分析・検証する。
(2)これまでの指導実践を通して行ったコーチング法について総合的に分析し、今後のコーチングに活かせるよう総合的に検証する。
【授業時間外学習】
総合的な検証を踏まえて、本授業で理解・習得したことを整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

実習の授業が中心となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリー類は決して身につけない。また、ナンバリング（ゼッケン）を一人ずつ購入し、授業時には必ず着用する。本演習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、実際の指導実践では、事前の準備が非常に重要であるため、授業時間外学習での努力が必要である。指導実践後には受講者同士による振り返り（ディスカッション）を行うため、積極的な発言が求められる。

【教科書・参考書など】

参考書
「バスケットボール指導教本改訂版　上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）

【成績評価方法】

平常授業での到達目標に対する到達度を70%、指導実践での指導案を30%として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ）			担当者	吉　兼　　練	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅰ (Judging Sports・Handball)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME306		

【目的とねらい】

ハンドボールの各ゲーム局面に応じた指導方法を、ゲーム構想に基づいて考え、グループ毎に提示しトレーニングを実践・評価する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンスと班分け

【　到達目標　】

(1)ハンドボールのゲーム構造を理解する。

(2)技術・戦術トレーニングの原則を理解する。

【授業時間外学習】

ハンドボールのゲーム構造について調べる。(4.0hr)

第２回　個人技能の指導方法について（ジャンプシュートの指導法）

【　到達目標　】

(1)ゲームに必要不可欠な個人技能であるジャンプシュートの指導方法を理解する。

【授業時間外学習】

ゲームに必要不可欠な個人技能であるジャンプシュートの指導方法について調べる。(4.0hr)

第３回　個人技能の指導方法について（位置取り能力の開発）

【　到達目標　】

(1)ハンドボールを行う上で必要不可欠となる位置取り能力の開発方法を理解する。

【授業時間外学習】

ハンドボールを行う上で必要不可欠となる位置取り能力の開発方法について調べる。(4.0hr)

第４回　ゲーム局面に応じた指導方法について（防御局面の指導法①）

【　到達目標　】

(1)防御局面におけるマンツーマン防御の指導方法を理解する。

【授業時間外学習】

防御局面におけるマンツーマン防御の指導方法について調べる。(4.0hr)

第５回　ゲーム局面に応じた指導方法について（防御局面の指導法②）

【　到達目標　】

(1)防御局面におけるゾーン防御の指導方法を理解する。

【授業時間外学習】

防御局面におけるゾーン防御の指導方法について調べる。(4.0hr)

第６回　ゲーム局面に応じた指導方法について（速攻局面の指導法①）

【　到達目標　】

(1)速攻局面における1次速攻の指導方法を理解する。

【授業時間外学習】

速攻局面における1次速攻の指導方法について調べる。(4.0hr)

第７回　ゲーム局面に応じた指導方法について（速攻局面の指導法②）

【　到達目標　】

(1)速攻局面における2次速攻の指導方法を理解する。

【授業時間外学習】

速攻局面における2次速攻の指導方法について調べる。(4.0hr)

第８回　ゲーム局面に応じた指導方法について（攻撃局面の指導法①）

【　到達目標　】

(1)攻撃局面におけるポジション攻撃の指導法を理解する。

【授業時間外学習】

攻撃局面におけるポジション攻撃の指導法について調べる。(4.0hr)

第９回　ゲーム局面に応じた指導方法について（攻撃局面の指導法②）

【　到達目標　】

(1)攻撃局面における移動攻撃の指導法を理解する。

【授業時間外学習】

攻撃局面における移動攻撃の指導法について調べる。(4.0hr)

第10回　ゲーム局面に応じた指導方法について（戻りの局面の指導法①）

【　到達目標　】

(1)戻りの局面における1次速攻に対する防御方法の指導法を理解する。

【授業時間外学習】

戻りの局面における1次速攻に対する防御方法の指導法について調べる。(4.0hr)

第11回　ゲーム局面に応じた指導方法について（戻りの局面の指導法②）

【　到達目標　】

(1)戻りの局面における2次速攻に対する防御方法の指導法を理解する。

【授業時間外学習】

戻りの局面における2次速攻に対する防御方法の指導法について調べる。(4.0hr)

第12回　指導実習①

【　到達目標　】

(1)提示された指導課題に対する指導方法を考案する。

【授業時間外学習】

授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。(4.0hr)

第13回　指導実習②

【　到達目標　】

(1)提示された指導課題に対する指導方法を考案する。

【授業時間外学習】

授業内で指摘を受けた改善点を考慮し指導案を作成する。(4.0hr)

第14回　指導実習③

【　到達目標　】

(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】

グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

第15回　指導実習④

【　到達目標　】

(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】

グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

実習が中心となる上に、身体接触を伴う競技であるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特に、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリー類は決して身につけない。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業ごとの課題の達成度を50%、指導実習の際に考案された指導方法の内容とトレーニング実践の状況を50%の割合として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・ｻｯｶｰ）			担当者	鈴　木　健　介	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅰ (Judging Sports・Soccer)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME307		

【目的とねらい】

スポーツコーチング演習Ⅰの授業のねらいは、サッカーの楽しさを伝えるためのコーチング方法を学ぶことである。

サッカーの楽しさは、自分で判断し、自分の持っている技術を駆使して積極的にプレーすることから生まれてくる。またそのために必要な体力もゲームを楽しむための大切な要素である。

常に楽しさを追求する態度を持つプレーヤーを育成するためのサッカーの基本を学ぶプログラムの実践が、授業の内容となる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　サッカーにおけるコーチングについて 【　到達目標　】 (1)サッカーのコーチングの基本について理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第９回　パスのトレーニング** 【　到達目標　】 (1)パスのトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第２回　コミュニケーションのトレーニング 【　到達目標　】 (1)ボールを用いたコミュニケーションのトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第10回　ヘディングのトレーニング** 【　到達目標　】 (1)ヘディングのトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第３回　ボールフィーリングのトレーニング 【　到達目標　】 (1)様々なボールフィーリングのトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第11回　コーチング法について** 【　到達目標　】 (1)コーチング法の知識を学習し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第４回　ボールコントロールのトレーニング 【　到達目標　】 (1)ボールコントロールのトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第12回　ボールを奪われないためのトレーニング** 【　到達目標　】 (1)ボールを奪われないためのトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第５回　発育発達と一貫指導について 【　到達目標　】 (1)子供の発育と発達についての知識を学習し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第13回　ボールを奪うためのトレーニング** 【　到達目標　】 (1)ボールを奪うためのトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第６回　シュートのトレーニング 【　到達目標　】 (1)足でのシュートトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第14回　様々なスモールサイドゲーム①** 【　到達目標　】 (1)3種類のスモールサイドゲームを実践し、獲得させたい技術の違いを理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第７回　ドリブル突破のトレーニング 【　到達目標　】 (1)ドリブル・ランウィズザボールのトレーニングを実践し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第15回　様々なスモールサイドゲーム②** 【　到達目標　】 (1)3種類のスモールサイドゲームを実践し、獲得させたい技術の違いを理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第８回　メディカルの知識について 【　到達目標　】 (1)サッカーにおけるメディカルの知識を学習し、理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとすること。

アクセサリー類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。前回の技術的課題を落とし込んだウォームアップを行い、技術の定着の一助とする。グループ学習により、互いにコーチングを行い、指導内容の確認とする。

【教科書・参考書など】

特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。

【成績評価方法】

以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度６０％、②技術点（実技テスト）１０％、③知識点（理論テスト）１０％、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）２０％。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ）			担当者	湯澤　芳貴・安田　　貢 ﾖｰｺ・ｶﾘﾝ・ｾﾞｯﾀｰﾗﾝﾄﾞ	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅰ (Judging Sports・Volleyball)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME308		

【目的とねらい】

バレーボールの競技特性を理解し、初心者レベルの競技者への基礎技能の指導・ゲームをスムーズに遂行するための指導に関する基礎的なコーチング理論を明らかにする。またそのコーチング理論を実際に計画を立て、実践することにより、よりよいコーチングの方法を明らかにしていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　基礎技能のコーチング理論Ⅰ(パス技能)
【　到達目標　】
(1)パス技能に関する効果的な指導体系を理解する。

【授業時間外学習】
事前にパス技能の構造を理解しておく。(4.0hr)

第２回　基礎技能のコーチング理論Ⅱ(サーブ・スパイク)
【　到達目標　】
(1)サーブはフローターサーブ・アンダーハンドサーブの指導について理解する。
(2)スパイクは助走・スイングの指導方法について理解する。

【授業時間外学習】
事前にサーブ・スパイク技能の構造を理解しておく。(4.0hr)

第３回　基礎技能のコーチング理論Ⅲ(集団技能・指導上の安全管理)
【　到達目標　】
(1)個人の基礎技能を集団技能へと発展させる指導法を理解する。
(2)バレーボール指導における安全管理について理解する。

【授業時間外学習】
事前にバレーボールで起こりやすい怪我とその予防対策について理解しておく。(4.0hr)

第４回　コーチング実践Ⅰ(オーバーハンドパス)
【　到達目標　】
(1)オーバーハンドパスに関する基礎技能の指導を実践できる。

【授業時間外学習】
オーバーハンドパスの指導方法とその効果を判断できるようにする。(4.0hr)

第５回　コーチング実践Ⅱ(アンダーハンドパス)
【　到達目標　】
(1)アンダーハンドパスに関する基礎技能の指導を実践できる。

【授業時間外学習】
アンダーハンドパスの指導方法とその効果を判断できるようにする。(4.0hr)

第６回　コーチング実践Ⅲ(パス技術の応用)
【　到達目標　】
(1)パス技術の応用に関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
パス技術の応用の指導方法とその効果を判断できるようにする。(4.0hr)

第７回　コーチング実践Ⅳ(サーブ)
【　到達目標　】
(1)サーブに関する基礎技能の指導を実践できる。

【授業時間外学習】
各種サーブの指導方法とその効果を判断できるようにする。(4.0hr)

第８回　コーチング実践Ⅴ(スパイク)
【　到達目標　】
(1)スパイクに関する基礎技能の指導を実践できる。

【授業時間外学習】
スパイク技能の指導方法とその効果を判断できるようにする。(4.0hr)

第９回　コーチング実践Ⅵ(3段攻撃)
【　到達目標　】
(1)集団技能としての3段攻撃に関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
3段攻撃の指導方法とその効果を判断できるようにする。(4.0hr)

第10回　バレーボールゲーム遂行のためのコーチング理論
【　到達目標　】
(1)初心者がゲームをスムーズにおこなうための理論を理解する。
(2)技能レベルに応じたルールの工夫について理解する。

【授業時間外学習】
事前にローテーションの方法等のゲームに必要な決まりを理解しておく。(4.0hr)

第11回　コーチング実践Ⅶ(ゲーム運営・審判法)
【　到達目標　】
(1)ゲームをおこなうための基礎知識に関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
事前に基本的なルールと審判法について理解しておく。(4.0hr)

第12回　コーチング実践Ⅷ(技能レベルに応じたゲーム)
【　到達目標　】
(1)技能レベルに応じたゲームに関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
技能レベルに応じた様々なルールの工夫について適切に判断できるようにする。(4.0hr)

第13回　コーチング実践Ⅸ(正規ルールによるゲーム)
【　到達目標　】
(1)正規ルールによるゲームに関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
ゲーム中におこなうコーチングについて理解を深める。(4.0hr)

第14回　バレーボールの技能評価
【　到達目標　】
(1)初心者対象の技能評価について理解する。

【授業時間外学習】
事前に基本的な技能評価方法について理解しておく。(4.0hr)

第15回　指導上の問題点の研究
【　到達目標　】
(1)コーチング実践で明らかになった問題点の解決法を理解する。
(2)初心者指導におけるポイントを明らかにすることができる。

【授業時間外学習】
初心者指導における適切なコーチングのタイミングを見極める方法を理解しておく。(4.0hr)

【学習上の留意点】

バレーボールの初心者を対象にしたコーチングをおこなうために、基礎知識としてスポーツ方法実習Ｃやスポーツ方法応用演習のバレーボールで身につけた基礎知識をしっかりと理解しておく必要がある。不安なものはしっかりと復習しておくようにすること。また基本的にグループ単位で演習形式でディスカッションしながら活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。毎回の授業の最後に振り返りをおこない、授業内容について理解を深める。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

コーチング理論の理解を20%、指導計画の作成を30%、コーチング実践を50%として評価する。

科目名	運動技能評価法			担当者	小 海 隆 樹	
英文名	Theory of Evaluation in Motor Skill					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SME309		

【目的とねらい】

運動技能は「ある動きができる能力」と解され、スポーツ競技に置き換えると「競技力」となる。競技力を構成する因子は多岐に渡り、その評価にはさまざまな方法がとられている。本講義では、運動技能（競技力）の構造をまず明らかにし、運動技能を発生運動学の知見を用いて評価することがトレーニング過程全体で重要な位置を占めるものであることを理解していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　運動技能の構造
【　到達目標　】
(1)運動技能の構造を理解する。
(2)運動技能とその評価の必要性を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　競技力検査の方法
【　到達目標　】
(1)一般的な競技力検査の方法を理解する。
(2)競技力検査によって得られる結果の有効性と限界を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　数値化するテスト法１
【　到達目標　】
(1)体力テストの内容と方法を理解する。
(2)体力テストの有効性と課題を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　数値化するテスト法２
【　到達目標　】
(1)技能を数値化するテストの内容と方法を理解する。
(2)技能を数値化するテストの有効性と課題を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　発生運動学的な評価とは
【　到達目標　】
(1)発生運動学の概要を理解する。
(2)動感身体知とその評価について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　動きの形成位相と評価
【　到達目標　】
(1)動感身体知の形成位相について確認・理解する。
(2)それぞれの形成位相における技能評価について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　動感創発身体知の構造
【　到達目標　】
(1)動感創発身体知の構造について理解する。
(2)動感創発身体知の具体的例証について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　始原身体知とその評価
【　到達目標　】
(1)始原身体知の概要について理解する。
(2)始原身体知の具体的例証について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　形態化身体知（コツとカン）とその評価
【　到達目標　】
(1)形態化身体知の概要について理解する。
(2)形態化身体知の具体的例証について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　動感促発身体知の構造
【　到達目標　】
(1)動感促発身体知の構造について理解する。
(2)動感促発身体知の具体的例証について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　指導者の観察能力と動きの評価
【　到達目標　】
(1)指導者の観察能力の必要性について理解する。
(2)動感身体知の観察方法と評価について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　指導者の交信能力と動きの評価
【　到達目標　】
(1)指導者の交信能力の必要性について理解する。
(2)動感身体知の交信方法と評価について理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　創発分析と身体知テスト
【　到達目標　】
(1)創発分析の方法と必要性について理解する。
(2)創発分析能力と身体知テストの関係を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　身体知テストと運動技能評価
【　到達目標　】
(1)身体知テストの方法を理解する。
(2)身体知テストと運動技能評価の関係を理解する。

【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　指導者と運動技能評価力
【　到達目標　】
(1)運動技能を評価できる指導者の必要性を理解する。
(2)トレーニング現場における運動技能評価の必要性を理解する。

【授業時間外学習】
授業から得た知見を実際のトレーニング場面に活かせるよう準備する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成する。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。
＜参考文献＞　「マイネル　スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店）
「わざの伝承」金子明友（明和出版）　「身体知の形成　上・下」金子明友（明和出版）　等

【成績評価方法】

毎回の小レポートの達成度　70%　・　最終レポートの達成度　30%

科目名	専門体力トレーニング論			担当者	北　川　幸　夫	
英文名	Theory of Special Physical Conditioning					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SME310		

【目的とねらい】

運動技能・競技力を構成する体力の中で、最も達成力に反映する体力因子を見出し、その因子を強化する効果的な方法について、各スポーツの特性を考慮し、スポーツ種目に要求される各項目測定値から実際のパフォーマンスとの関連について検討し、その要因を探る。

【授業内容・到達目標など】

第１回　体力およびトレーニングの原則 【　到達目標　】 体力の定義やトレーニングの原則について理解する。 【授業時間外学習】 体力やトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第９回　採点競技系の専門体力トレーニング③** 【　到達目標　】 アーティスティックスイミングの専門体力トレーニング法および新体操の専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 アーティスティックスイミングのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第２回　測定競技系の専門体力トレーニング① 【　到達目標　】 陸上競技短距離種目における専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 陸上競技短距離種目のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第10回　採点競技系の専門体力トレーニング④** 【　到達目標　】 新体操の専門体力トレーニング法について理解する。 【授業時間外学習】 新体操のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第３回　測定競技系の専門体力トレーニング② 【　到達目標　】 陸上競技短距離種目における専門体力トレーニング法および陸上競技長距離種目における専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 陸上競技短距離種目・長距離種目のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第11回　判定競技系の専門体力トレーニング①** 【　到達目標　】 バレーボールにおける専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 バレーボールのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第４回　測定競技系の専門体力トレーニング③ 【　到達目標　】 陸上競技長距離種目における専門体力トレーニング法について理解する。 【授業時間外学習】 陸上競技長距離種目のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第12回　判定競技系の専門体力トレーニング②** 【　到達目標　】 バレーボールにおける専門体力トレーニング法およびバスケットボールにおける専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 バレーボール・バスケットボールのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第５回　測定競技系の専門体力トレーニング④ 【　到達目標　】 競泳競技における専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 競泳競技のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第13回　判定競技系の専門体力トレーニング③** 【　到達目標　】 バスケットボールにおける専門体力トレーニング法および柔道の専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 バスケットボールのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第６回　測定競技系の専門体力トレーニング⑤ 【　到達目標　】 競泳競技における専門体力トレーニング法について理解する。 【授業時間外学習】 競泳競技のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第14回　判定競技系の専門体力トレーニング④** 【　到達目標　】 柔道の専門体力トレーニング法について理解する。 【授業時間外学習】 柔道のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)
第７回　採点競技系の専門体力トレーニング① 【　到達目標　】 体操競技における専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 体操競技のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	**第15回　各競技系における専門体力トレーニングの特徴** 【　到達目標　】 各競技系における専門体力トレーニング法について説明できる。 【授業時間外学習】 各競技系における専門体力トレーニング法について復習し、理解を深める。(4.0hr)
第８回　採点競技系の専門体力トレーニング② 【　到達目標　】 体操競技における専門体力トレーニング法について理解する。 アーティスティックスイミングの専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 体操競技・アーティスティックスイミングのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

主として講義が中心であるが、映像の視聴等によって研究・討議を行う。予習・復習を継続し、日常的に自分の専門種目以外の種目における体力トレーニングについて関心を持つこと。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。

【成績評価方法】

原則として筆記テスト(試験は試験期間中に別途実施)の結果を100%とする。

科目名	スポーツリハビリテーション論			担当者	永　野　康　治	
英文名	Sport Rehabilitation					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択		専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SME311		

【目的とねらい】

本講義の目的は、スポーツ外傷・障害の概念や発症要因について理解し、それぞれの病態についての特徴や基本的対応策を学ぶことである。さらにスポーツ外傷・障害からスポーツ復帰に向けてのリハビリテーション(アスレティックリハビリテーション)に関する基礎的な知識と進め方について学習する。本講義を通して、スポーツ現場においてスポーツ外傷・障害の予防や発症した際の処置を行えること、さらに自身や対象者のスポーツ復帰に向けたリハビリテーションを計画できることが本講義のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　アスレティックリハビリテーションに必要な機能解剖学
【　到達目標　】
(1)本講義の学修に必要な機能解剖学知識を同定する。
(2)自身の外傷・障害を振り返り、リハビリテーションの必要性を考える。
【授業時間外学習】
機能解剖学の苦手分野について復習する。(4.0hr)

第２回　アスレティックリハビリテーション概論
【　到達目標　】
(1)アスレティックリハビリテーションの特徴、段階を説明できる。
(2)アスレティックリハビリテーションに関わる職種を挙げられる。
(3)アスレティックリハビリテーションで用いる手法とその内容を挙げられる。
【授業時間外学習】
アスレティックリハビリテーションの考え方を整理する。(4.0hr)

第３回　スポーツ外傷とスポーツ障害
【　到達目標　】
(1)スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを説明できる。
(2)スポーツ外傷とスポーツ障害の疾患を列挙できる。
(3)外傷・障害の環境要因と外傷・障害の発生との関連を述べられる。
【授業時間外学習】
スポーツ外傷とスポーツ障害の違いについて整理する。(4.0hr)

第４回　前十字靭帯損傷の病態および評価
【　到達目標　】
(1)前十字靭帯の役割を挙げられる。
(2)前十字靭帯損傷の特徴を説明できる。
(3)前十字靭帯損傷の危険因子を挙げられる。
【授業時間外学習】
膝関節の機能解剖について復習しておく。(4.0hr)

第５回　前十字靭帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション1
【　到達目標　】(1)前十字靭帯損傷の訓練前期における関節可動域エクササイズを挙げることができる。
(2)各エクササイズの注意点を説明できる。
(3)前十字靭帯損傷の訓練前期における協調性トレーニングを挙げることができる。
【授業時間外学習】
リハビリテーションメニューを整理し実践を行う。(4.0hr)

第６回　前十字靭帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション2
【　到達目標　】
(1)前十字靭帯損傷の訓練後期～復帰期のリハビリ内容について、具体的なエクササイズを挙げることができる。
(2)各エクササイズの注意点を説明できる。
【授業時間外学習】
リハビリテーションメニューを整理し実践を行う。(4.0hr)

第７回　膝関節障害の病態および評価
【　到達目標　】
(1)各膝関節障害の原因を説明できる。
(2)膝関節障害に対するアライメント評価を説明できる。
(3)各タイトネステストの目的筋を挙げることができる。
【授業時間外学習】
膝関節障害に含まれる疾患について整理する。(4.0hr)

第８回　膝関節障害に対するアスレティックリハビリテーション
【　到達目標　】
(1)膝障害のリハビリトレーニングの目的を説明できる。
(2)膝障害の代表的なトレーニングを挙げられる。
(3)膝障害のリハビリトレーニングの注意点を説明できる。
【授業時間外学習】
リハビリテーションメニューを整理し実践を行う。(4.0hr)

第９回　投球障害の病態および評価
【　到達目標　】
(1)肘関節障害・肩関節障害のメカニズムを説明できる。
(2)野球肘に特徴的なフォームを挙げられる。
(3)肩関節障害の評価法を挙げられる。
【授業時間外学習】
肩関節の機能解剖について復習しておく。(4.0hr)

第10回　投球障害に対するアスレティックリハビリテーション
【　到達目標　】
(1)投球障害の状態にあわせたストレッチを挙げることができる。
(2)投球障害に対する筋力トレーニングメニューを挙げることができる。
(3)投球障害に対するフォームの修正方法を説明できる。
【授業時間外学習】
リハビリテーションメニューを整理し実践を行う。(4.0hr)

第11回　足関節捻挫の病態および評価
【　到達目標　】
(1)足関節捻挫の病態を説明できる。
(2)足関節不安定性テストを挙げることができる。
【授業時間外学習】
足関節の機能解剖について復習する。(4.0hr)

第12回　足関節捻挫に対するアスレティックリハビリテーション
【　到達目標　】
(1)足関節捻挫に対するリハビリテーション内容を説明できる。
(2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。
【授業時間外学習】
リハビリテーションメニューを整理し実践を行う。(4.0hr)

第13回　腰痛の病態および評価
【　到達目標　】
(1)腰部疾患の病態を説明できる。
(2)腰痛を4つのパターンに分類できる。
(3)腰痛に対する評価法を挙げられる。
【授業時間外学習】
腰部・体幹の機能解剖について復習しておく。(4.0hr)

第14回　腰痛に対するアスレティックリハビリテーション
【　到達目標　】
(1)体幹深層筋の代表例とトレーニング法を挙げることができる。
(2)各種目毎の腰痛に対するリハビリテーションの方法を説明できる。
【授業時間外学習】
リハビリテーションメニューを整理し実践を行う。(4.0hr)

第15回　最新のアスレティックリハビリテーション
【　到達目標　】
(1)最新のアスレティックリハビリテーションに関する知識を得る。
(2)最新のアスレティックリハビリテーションで用いられる器具を挙げることができる。
【授業時間外学習】
自らのトレーニング等を見直し、改善する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業開始時にその日の内容に関するクイズにWeb上で回答し、集計結果と自身の回答を確認する。授業は配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。その際に使用したプレゼンテーション資料はWeb上に公開するので、復習に用いること。授業の中盤、および終了時に理解度確認テストを行い内容を整理する。また、復習用の課題を7、13回目にし、課題に取り組むことで知識の定着を図る。その際の回答、質問はWeb上から入力し、授業中にフィードバックを行う。

【実務経験のある教員による授業科目】

理学療法士としての実務経験を生かし、スポーツ外傷・障害の概念や発症要因、またそれぞれの病態についての特徴や基本的対応策について講義を行う。

【教科書・参考書など】

参考書：スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド(文光堂)、ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング(文光堂)、走動作のファンクショナルトレーニング(文光堂)、ファンクショナルトレーニング(文光堂)、野球 肩・ひじ・腰の鍛え方・治し方(日本文芸社)、ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション(羊土社)、腰痛のリハビリテーションとリコンディショニング(文光堂)、運動器の徒手検査法(文光堂)

【成績評価方法】

課題　20%
期末試験（試験は試験期間中に別途実施）80%

科目名	スポーツコンディショニング演習Ａ （体力トレーニングの生理学）			担当者	星　川　佳　広	
英文名	Seminar in Sport Conditioning A (Physiology of Fitness Training)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME312		

【目的とねらい】

体力トレーニング、コンディショニングを科学的に捉える力を養うため、講義とともに実際に自らの身体的、生理的なデータを収集・解析する。そのことを通し、より適切なトレーニング、コンディショニングが計画できるようになることが本演習の目的である。具体的には、形態、身体組成や運動中の心拍数、酸素摂取量等の測定とそのデータ解析、解釈を行う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　コンディショニングとは
【　到達目標　】
コンディションとは？　コンディションを測定、評価する方法、影響する要因について概説する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第２回　有酸素性運動中の心拍数と酸素摂取量①
【　到達目標　】
定常運動中の呼吸循環応答を調べ、強度と生体応答の関係性について理解を深める。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第３回　有酸素性運動中の心拍数と酸素摂取量②
【　到達目標　】
漸増負荷運動中の呼吸循環応答を調べ、最大酸素摂取量、無酸素性閾値について理解を深める。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第４回　有酸素性運動中の心拍数と酸素摂取量③
【　到達目標　】
相対強度（%VO2max、%HRmax、%HRR）の考え方に習熟する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。測定データを整理する。(4.0hr)

第５回　測定データの整理と解釈①－運動強度とコンディショニング
【　到達目標　】
測定データをもとにトレーニング効果を得るために必要な運動強度、運動強度別のトレーニング効果について理解を深める。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第６回　メッツとエネルギー消費量①
【　到達目標　】
メッツ、メッツ・時の考え方を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第７回 メッツとエネルギー消費量②
【　到達目標　】
メッツ・時を使った簡易なエネルギー消費量の計算ができる。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第８回　メッツとエネルギー消費量③
【　到達目標　】
走速度ー心拍数関係と、走速度・時間ーエネルギー消費量の関係性を調べ、理解を深める。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。測定データを整理する。(4.0hr)

第９回 測定データの整理と解釈②ー適切なトレーニング量とトレーニング計画
【　到達目標　】
測定データをもとに適切なトレーニング量を理解する。エネルギー消費量を目安にトレーニング計画を立てる。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第10回　形態、身体組成測定とコンディショニング①
【　到達目標　】
ソマトタイピング（体型分類）、身体組成の概念を理解し、自身の特徴を把握する。
測定原理の違いとデータの解釈時の注意事項を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第11回　形態、身体組成測定とコンディショニング②
【　到達目標　】
エネルギー消費量から減量計算し、実際の体重変化との対応性を確認する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第12回　形態、身体組成測定とコンディショニング③
【　到達目標　】
除脂肪量と発揮パワーの関係性を調べ、無酸素性運動における筋量の重要性を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。測定データを整理する。(4.0hr)

第13回　形態、身体組成測定とコンディショニング④
【　到達目標　】
骨密度の計測を行う。骨成長における運動の重要性を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびノートを元に復習する。(4.0hr)

第14回　測定データの整理と解釈③ー体重管理法
【　到達目標　】
コンディショニングに与える体重管理の重要性を理解する。
女性アスリートの3主徴に理解を深める。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびデータを元に復習する。(4.0hr)

第15回　コンディションに作用する要因ー環境負荷
【　到達目標　】
暑熱環境での定常運動中の呼吸循環応答を調べ、暑熱環境のパフォーマンスにおよぼす影響について理解を深める。
【授業時間外学習】
授業内容を配布資料およびデータを元に復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義と実際の測定を組み合わせて授業を展開する。測定はグループにて被検者、検者の役割分担をしながら実施するため、互いに協力しあい、積極的に授業参加することが求められる。また測定を安全に実施するには、手法をよく理解するとともに被検者をよく観察し事故防止に努めなければならず、その注意徹底も本演習の学習範囲となる。測定に際して服装や持ち物を指示する。

【教科書・参考書など】

資料を配布する。

【成績評価方法】

課題レポート(50%)、測定・課題等への取り組み方(30%)、その他の提出物（20%)を基に評価する。

科目名	スポーツコンディショニング演習Ｂ （スポーツ選手の栄養学）			担当者	古　泉　佳　代	
英文名	Seminar in Sport Conditioning B (Nutrition for Athlete)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME313		

【目的とねらい】

これまで学んだ知識を実践を通して身につけることが目的である。栄養状態の評価のために、身体組成を測定するとともに生活活動及び運動中の身体活動量を測定し、栄養素摂取状況を把握する。また、競技特性、目的に適した食事を計画し調理実習を実施することで、競技者及び指導者として、具体的な食事調整法及び実践的な食生活改善法を身につける。選手として日常生活での実践を目指すだけでなく、指導者としてもコンディションを維持するための栄養面からのアプローチ法を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)食事と運動、身体組成の関係を理解することができる。

【授業時間外学習】
五大栄養素について復習する。(4.0hr)

第２回　身体計測①
【　到達目標　】
(1)様々な身体組成の測定方法を知り、実測できる。
(2)各種測定方法の特徴に気付く。

【授業時間外学習】
測定方法の資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　身体計測②
【　到達目標　】
(1)様々な身体組成の測定方法を知り、実測できる。
(2)各種測定方法の特徴に気付く。

【授業時間外学習】
測定方法の資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　体力測定
【　到達目標　】
(1)身体組成に関連する体力測定を実施することができる。

【授業時間外学習】
体力測定の資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　身体組成と体力の関連①
【　到達目標　】
(1)平均値等を利用して身体組成データを分析することができる。

【授業時間外学習】
身体組成の資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　身体組成と体力の関連②
【　到達目標　】
(1)相関係数等を利用して、身体組成と体力との関連を分析することができる。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　栄養素等摂取状況の評価①
【　到達目標　】
(1)市販のお弁当の栄養素を評価できる。
(2)市販のお弁当の特徴に気付き、アスリートの食生活を考察する。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、アスリートにとって最適な昼食を考える。(4.0hr)

第８回　栄養素等摂取状況の評価②
【　到達目標　】
(1)市販の昼食で不足している食品、栄養素に気付き補う方法を考えることができる。
(2)不足しがちな食品、栄養素を補える献立を考えることができる。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、アスリートにとって最適な昼食を考える。(4.0hr)

第９回　栄養素等摂取状況の評価③
【　到達目標　】
(1)献立を調理できる。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、アスリートにとって最適な食事を考える。(4.0hr)

第10回　栄養素等摂取状況の評価④
【　到達目標　】
(1)市販の昼食を利用するときの利点及び欠点を理解することができる。
(2)市販の昼食の欠点を補い、バランスの良い食事を考え、提案することができる。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、アスリートにとって最適な食事を考える。(4.0hr)

第11回　栄養素等摂取状況の評価⑤
【　到達目標　】
(1)各自の食事記録からエネルギー及び栄養素の摂取量を算出できる。
(2)食事摂取基準と比較し、自分自身の食事の栄養バランスを考察できる。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、自分自身の食事の栄養バランスを考える。(4.0hr)

第12回　身体活動量の評価①
【　到達目標　】
(1)安静時の活動量の測定方法を知り、実測及び算出できる。
(2)推定値と比較し、誤差の要因を考察できる。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、身体活動強度及び活動量について復習する。(4.0hr)

第13回　身体活動量の評価②
【　到達目標　】
(1)運動時の活動量を測定し、身体活動強度との関連を考察できる。
(2)各種測定方法の特徴を理解し、測定できる。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、身体活動量を意識して生活することができる。(4.0hr)

第14回　身体活動量の評価③
【　到達目標　】
(1)身体活動強度とエネルギー代謝との関連を理解できる。

【授業時間外学習】
資料を見直しながら、身体活動量を意識して生活することができる。(4.0hr)

第15回　身体活動量の評価④
【　到達目標　】
(1)安静時及び運動時の身体活動量について考察できる。
(2)食事、身体組成、体力、身体活動との関連を理解できる。

【授業時間外学習】
食事、身体組成、身体活動、体力のバランスのとれた生活を実践する方法を考える。(4.0hr)

【学習上の留意点】

測定や調理実習といった体験を重視し、その前後はパワーポイントを用いて講義を実施する。この演習を理解するためには、日常生活から食事や身体活動、身体組成といった自分自身の生活を振り返ることが重要である。ほぼ毎時間、ミニッツペーパーを用いて、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。
参考書　文部科学省科学技術・学術審議会　資源調査分科会　報告「ビジュアルワイド食品成分表　五訂増補日本食品標準成分表」（東京書籍）等

【成績評価方法】

小レポートの達成度60%、最終レポートの達成度40%

科目名	スポーツコンディショニング演習Ｃ （スポーツ選手の心理学）			担当者	佐々木万丈	
英文名	Seminar in Sport Conditioning C (Psychology for Athletes)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME314		

【目的とねらい】

より良いパフォーマンスを発揮するための心理的コンディショニングについて、その理論的背景や方法に関する基礎的知識を学び、体験や実習を通じて実践する力を身に付けることが本演習の目的である。１年次履修のスポーツ心理学で示された選手の心理的課題を、具体的に解決するための理論や方法を実地に学ぶことが本演習のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツと心理的コンディショニング：概論
【　到達目標　】
(1)心理的コンディショニングに関わる内容や用語が説明できる。
(2)心理的コンディショニングの必要性を理解し、説明できる。

【授業時間外学習】
メンタルマネジメント、メンタルトレーニング、メンタルスキルの概念を整理する。(4.0hr)

第２回　心理検査概論、自律訓練法概論および実習１（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)心理検査の目的、利用上の留意点を理解し、説明できる。
(2)自律訓練法（AT）の実施方法を理解し、その手続きに従って実践できる。
(3)腹式呼吸法の実施方法を理解し、その手続きに従って実践できる。
【授業時間外学習】
自律訓練法、腹式呼吸法を1日3回行い、その練習結果をまとめる。(4.0hr)

第３回　心理検査(1)：TSMI、自律訓練法実習２（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)TSMIの目的と実施方法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。
(2)AT第１公式を留意事項に注意しながら実践できる。

【授業時間外学習】
TSMIの結果から自己を分析・考察する。呼吸法とATを練習し練習結果をまとめる。(4.0hr)

第４回　心理検査(2)：DIPCAⅢ、自律訓練法実習３（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)DIPCAⅢの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。
(2)AT第１公式を留意事項に注意しながら実践できる。

【授業時間外学習】
DIPCAⅢの結果から自己を分析・考察する。呼吸法とATを練習し練習結果をまとめる。(4.0hr)

第５回　心理検査(3)：POMS、自律訓練法実習４（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)POMSの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。
(2)AT第１公式を留意事項に注意しながら実践できる。

【授業時間外学習】
POMSの結果から自己を分析・考察する。呼吸法とATを練習し練習結果をまとめる。(4.0hr)

第６回　心理検査(4)：日本版STAI、自律訓練法実習５（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)STAIの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。
(2)自律訓練法第１公式を留意事項に注意しながら実践できる。

【授業時間外学習】
STAIの結果から自己を分析・考察する。呼吸法とATを練習し練習結果をまとめる。(4.0hr)

第７回　心理検査(5)：TEG、自律訓練法実習６（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)TEGの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。
(2)自律訓練法第１公式を留意事項に注意しながら実践できる。

【授業時間外学習】
TEGの結果から自己を分析・考察する。呼吸法とATを練習し練習結果をまとめる。(4.0hr)

第８回　注意集中技法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習７（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)スインによる注意力コントロールスキルを理解し、実践できる。
(2)自律訓練法第２公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。

【授業時間外学習】
漸進的筋弛緩法、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。(4.0hr)

第９回　イメージトレーニング１、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習８（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)イメージトレーニング技法の留意事項を理解し、説明できる。
(2)自律訓練法第２公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。

【授業時間外学習】
一般的イメージ、漸進的筋弛緩法、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。(4.0hr)

第10回　イメージトレーニング２、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習９（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)イメージトレーニング技法の留意事項に従い実践できる。
(2)自律訓練法第２公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。

【授業時間外学習】
最高パフォーマンスのイメージ練習、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。(4.0hr)

第11回　イメージトレーニング３、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習10（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)イメージトレーニング技法の留意事項に従い実践できる。
(2)自律訓練法第２公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。

【授業時間外学習】
最高パフォーマンスのイメージ練習、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。(4.0hr)

第12回　イメージトレーニング４、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習11（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)イメージトレーニング技法の留意事項に従い実践できる。
(2)自律訓練法第２公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。

【授業時間外学習】
パフォーマンス課題のイメージ練習、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。(4.0hr)

第13回　認知技法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習12（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)認知技法を理解し、「誤った12の考え方」を説明できる。
(2)自律訓練法第１公式＋第２公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。

【授業時間外学習】
認知技法の要点をまとめる。呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。(4.0hr)

第14回　目標設定技法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習13（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)目標設定技法を理解し、マンダラチャートを用いて目標を設定することができる。
(2)自律訓練法第１公式＋第２公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。

【授業時間外学習】
マンダラチャートを用いた課題を作成する。呼吸法とATを練習しその結果をまとめる。(4.0hr)

第15回　ペアハンドヒーリング、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習14（含：呼吸法）
【　到達目標　】
(1)ペアハンドヒーリングの方法について理解し実践できる。
(2)自律訓練法第１公式＋第２公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。

【授業時間外学習】ペアハンドヒーリングを身近な人に実践する。呼吸法とATを練習しその結果をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

心理的コンディショニングのための各技法は、それぞれの正しい知識と正しい実施方法を身につけることで効果が期待できる。しかし、効果は一朝一夕に得られるものではなく、継続的な実践が必要である。したがって、本演習ではその週の授業で取り上げた技法を自習課題として課す。受講者は、練習記録を作成し次回の授業において、効果の有無や実践しての疑問点等を、全体に報告する。報告後には全体でディスカッションを行い、さらに個別にフィードバックする。練習記録の提出期限は次回授業の開始時とし、期限を過ぎたものは評価の対象としない。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。
参考書としては日本スポーツ心理学会・編「スポーツメンタルトレーニング教本」（大修館書店）などを使用する。

【成績評価方法】

毎時間のレポートを40%、期末のレポートを60%として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	北　川　幸　夫	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

競泳競技において、各種泳法およびスタート・ターン・ゴールタッチ等における主要な動きを、経済的かつ確実に行えるレベルまで高めるための方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　水泳の力学（水泳の推進理論について）
【　到達目標　】
抗力推進、揚力推進、水の抵抗等について理解する。

【授業時間外学習】
水泳の力学に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第２回　クロールのコーチング
【　到達目標　】
クロールにおける腕の動作、脚の動作、腕と脚のタイミング等についてのコーチング法を理解する。

【授業時間外学習】
クロールの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

第３回　背泳ぎのコーチング
【　到達目標　】
背泳ぎにおける腕の動作、脚の動作、腕と脚のタイミング等についてのコーチング法を理解する。

【授業時間外学習】
背泳ぎの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

第４回　平泳ぎのコーチング
【　到達目標　】
平泳ぎにおける腕の動作、脚の動作、腕と脚のタイミング等についてのコーチング法を理解する。

【授業時間外学習】
平泳ぎの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

第５回　バタフライのコーチング
【　到達目標　】
バタフライにおける腕の動作、脚の動作、腕と脚のタイミング等についてのコーチング法を理解する。

【授業時間外学習】
バタフライの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

第６回　スタートのコーチング
【　到達目標　】
スタート動作についてのコーチング法を理解する。

【授業時間外学習】
スタートの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

第７回　ターン・ゴールタッチのコーチング
【　到達目標　】
ターン・タッチに関するレース中の映像を通してターン・タッチのコーチング法について理解する。

【授業時間外学習】
ターン・ゴールタッチの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

第８回　コーチング法の実践①
【　到達目標　】
事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。

【授業時間外学習】
コーチング実践内容の評価および反省を整理する。(4.0hr)

第９回　コーチング法の実践②
【　到達目標　】
事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。
選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。

【授業時間外学習】
コーチング実践内容の評価および反省を整理する。(4.0hr)

第10回　コーチング法の実践③
【　到達目標　】
事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。
選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。

【授業時間外学習】
コーチング実践内容の評価および反省を整理する。(4.0hr)

第11回　コーチング法の実践④
【　到達目標　】
事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。
選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。

【授業時間外学習】
コーチング実践内容の評価および反省を整理する。(4.0hr)

第12回　コーチング法の実践⑤
【　到達目標　】
事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。
選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。

【授業時間外学習】
コーチング実践内容の評価および反省を整理する。(4.0hr)

第13回　コーチング法の実践⑥
【　到達目標　】
事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。
選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。

【授業時間外学習】
コーチング実践内容の評価および反省を整理する。(4.0hr)

第14回　コーチング法の実践⑦
【　到達目標　】
事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。
選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。

【授業時間外学習】
コーチング実践内容の評価および反省を整理する。(4.0hr)

第15回　競泳コーチング実習の反省と検討
【　到達目標　】
これまで行ってきたコーチング実践についてディスカッションをし、各々が改善すべき点を明確に理解する。

【授業時間外学習】コーチング実践に関する自己評価および他者評価により、問題点を抽出してその対策と共に整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続し、日常的に競泳種目の泳法について関心を持つこと。また、コーチングにおける示範や言葉がけ等に関する効果的な方法について理解しておくこと。プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリー類の着用は不可とする。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。

【成績評価方法】

1.コーチング実習の計画書（30%）、2.コーチング実習の実践（40%）、3.水泳指導に関する筆記試験（30%）。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	佐々木直基	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

バスケットボールにおけるコーチングの実際や問題点、さらにはコーチング全般にわたるコーチングの本質について理解することが目的である。教室での活動が中心となるが、本演習で実際のコーチング場面と関連させながら理解し、習得したコーチングに関する事柄を実践に活かすようにすることがねらいである。2年次履修のスポーツコーチング演習Ⅰで習得したコーチング法をさらに専門的に深めることもねらいとなる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のねらいと進め方
【　到達目標　】
(1)授業のねらいと進め方を理解する。
(2)バスケットボールの歴史を理解し、説明できる。

【授業時間外学習】
バスケットボール競技の歴史、特性について調べる。(4.0hr)

第２回　バスケットボール競技の構造とコーチングに必要な知識
【　到達目標　】
(1)バスケットボール競技を構成する要素を理解する。
(2)バスケットボールをコーチングする際に必要な知識を得る。

【授業時間外学習】自らの経験を振り返り、構成要素のうち、何を中心に学び、プレイしてきたのかを考える。(4.0hr)

第３回　指導の実際
【　到達目標　】
(1)何を指導するべきかを理解する。
(2)どのような順序で指導するべきかを理解する。

【授業時間外学習】講義の内容とこれまで受けてきた指導を合わせ、自らが指導する際のイメージをつくる。(4.0hr)

第４回　バスケットボールの技術戦術① リバウンド
【　到達目標　】
(1)リバウンドの重要性を理解、再認識する。
(2)リバウンドのコーチング法を探る。

【授業時間外学習】
リバウンドの位置づけについて考え、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第５回　バスケットボールの技術戦術② ディフェンス
【　到達目標　】
(1)ディフェンスにおける基礎知識の理解とコーチング法の習得。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第６回　バスケットボールの技術戦術③ オフェンス
【　到達目標　】
(1)個人オフェンスにおける基礎知識の理解とコーチング法の習得。
(2)最新の技術について学び、実践できるようになる。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第７回　バスケットボールのチーム戦術① オフェンス
【　到達目標　】
(1)NBAや世界選手権といったトップレベルを参考にしながら戦術を知る。
(2)オフェンスのチーム戦術についてのコーチング法を検討する。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第８回　バスケットボールのチーム戦術② ディフェンス
【　到達目標　】
(1)NBAや世界選手権といったトップレベルを参考にしながら戦術を知る。
(2)ディフェンスのチーム戦術についてのコーチング法を検討する。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第９回　スカウティング、戦術決定と試合への準備
【　到達目標　】
(1)相手チームに対する情報収集の仕方を習得する。
(2)スカウティングした内容をもとに戦術を決定する方法を習得する。
(3)試合への準備期間のコーチング法を習得する。
【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第10回　ゲーム中のコーチング
【　到達目標　】
(1)選手起用についての基本的な考え方を理解する。
(2)タイムアウトの活用方法について理解する。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第11回　特別な選手の育成①大型選手
【　到達目標　】
(1)大型選手をコーチングする際の留意点を知る。
(2)大型選手の育成方法を習得する。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第12回　特別な選手の育成②ゲームメーカー
【　到達目標　】
(1)バスケットボールにおけるゲームメーカーの役割を知る。
(2)ゲームメーカーの育成方法を習得する。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第13回　アンダーカテゴリーの指導
【　到達目標　】
(1)アンダーカテゴリーの選手育成の基本的知識を得る。
(2)世界の選手育成について知識を得る。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第14回　ゲームプラン
【　到達目標　】
(1)バスケットボールの試合におけるペース配分についての基本的知識を得る。
(2)チームの特徴や相手チームに応じたゲームプランを計画することができる。

【授業時間外学習】
授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)

第15回　総合的検証
【　到達目標　】
(1)これまでの講義、指導実践を通して得たコーチング法について総合的に分析し、今後のコーチング法について総合的に検証する。

【授業時間外学習】
総合的に検証したことを踏まえて、本演習で理解・習得したことを整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

演習形式が中心の授業でありグループ学習の場面も多いため、ただ参加するのではなく積極的にグループの中で活動しさらにはリーダーシップを取って授業を受けること。また、バスケットボールコートにおける実習を含む実際の指導実践では、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。事前の準備が非常に重要であるため、授業時以外での努力が必要である。なお、毎回の授業で振り返り小レポートを作成し、その内容は次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

特に教科書は指定しない。
「バスケットボールの指導教本」日本バスケットボール協会編（大修館書店）

【成績評価方法】

平常授業での到達目標に対する到達度を30%、課題レポートを70%として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	佐藤麻衣子	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

器械運動のコーチング法について、分析・考察型の学習を行う。まず、自身の技能について、ビデオ画像からその特徴（長所と短所）を認識する。次に、短所に着目し、改善のための練習方法やアドバイス（助言、言語教示など）の仕方を考察する。さらに、受講生同士で、その分析・考察の結果を報告して意見交換などを行うことで、器械運動のコーチング法のバリエーションを増やしていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業内容の確認 【　到達目標　】 授業内容の確認及び15回分の授業の流れを理解する。また、器械運動における技術習得の為の基礎となる運動内容を理解することが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に基づき今後の授業の流れを確認する。(4.0hr)	**第９回　馬跳びにおける技術の理解** 【　到達目標　】 跳び箱運動の基礎として、馬跳びを題材に跳び箱と馬跳びの技術の違いを明確に説明することが出来る。また馬跳びの段階を上げることでより跳び箱の技術に近づくことを理解出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に沿って授業内容を復習する。(4.0hr)
第２回　注意点及び個人差の理解 【　到達目標　】 器械運動の技術習得に必要な基礎となる運動を実施し、効果・注意点を理解する。また、このとき生じる個人差を把握することが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に沿って授業内容を復習する。(4.0hr)	**第10回　跳び箱運動に対する恐怖心について** 【　到達目標　】 跳び箱を題材とした場合に生じる、恐怖心の個人差と具体的な内容を理解することが出来る。また、改善策を講じることが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に沿って授業内容を復習する。(4.0hr)
第３回　マット運動の倒立姿勢の理解 【　到達目標　】 マット運動の倒立を題材に、立位と逆位の感覚について、自身の感覚と他者の感覚との違いを明確にすることが出来る。また、それぞれの修正個所を指摘することが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に沿って授業内容を復習する。(4.0hr)	**第11回　ビデオカメラの映像から改善点を探る** 【　到達目標　】 前週の課題をビデオカメラで撮影し自身でその修正個所を見出すことが出来る。また、自身と他者との技術の違いを考察し、理解することが出来る。 【授業時間外学習】 撮影した画像をノートに図式化する。(4.0hr)
第４回　倒立の実施をビデオカメラの映像を用いて考察する 【　到達目標　】 3回の課題をビデオカメラで撮影し、自身でその修正個所を見出すことが出来る。更に前週の課題である修正の有無を確認することが出来る。 【授業時間外学習】 撮影した画像をノートに図式化する。(4.0hr)	**第12回　助言、言語教示での改善点の伝達** 【　到達目標　】 前週得られた動作の特徴を基に助言、言語教示などによる改善策を見出すことが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。(4.0hr)
第５回　得られた動作の特徴の改善策を見出す 【　到達目標　】 前週で得られた動作の特徴を基に、助言、言語教示などによる改善策を見出すことが出来る。更に、得手不得手な対象に対する助言を講じることが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。(4.0hr)	**第13回　器械運動に対する苦手意識の対策** 【　到達目標　】 これまでに得られた考察及び結果を基に、器械運動の苦手意識のある対象に対してもう一度見直し、更なる改善策を見出すことが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。(4.0hr)
第６回　5回から得られた改善策を実際の動作に反映させる 【　到達目標　】 これまでに得られた改善策を実際の動作に反映することが出来る。 また、必要であれば更に新たな改善策を加えることが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。(4.0hr)	**第14回　実在した怪我の症例に対する理解** 【　到達目標　】 器械運動の授業でこれまでに実在した怪我の症例について、提示された事例の原因および防止策を討議し見出すことが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。(4.0hr)
第７回　6回に同じ 【　到達目標　】 6回に同じ。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。(4.0hr)	**第15回　指導者の立場としての必要な判断** 【　到達目標　】 スポーツ指導者という立場になったことを想定し、生徒または選手に怪我が生じた場合の指導について、討議し適切な指導について理解することが出来る。 【授業時間外学習】 提出するためのノートを完成させる。(4.0hr)
第８回　他者への説明・補助について 【　到達目標　】 これまでの過程を理解し、他者に説明することが出来る。また、個人差に応じた的確なアドバイスが出来る。更にこの課題の補助の技術を習得する。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

課題はグループ学習とする．授業時間ごとにレスポンスカードを配布する．

【教科書・参考書など】

必要に応じて資料を配付する。

【成績評価方法】

レポート（ノート）内容100%で評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	佐　藤　雄　哉	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

初心者から初級者レベルを想定して、柔道の基本的な技能である投げ技、固め技、技の連絡変化を身につける方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証する。

技能の習熟度を理解し、その習熟課程を学習者および指導者の両方の立場で体験・実践することによってコーチング方法を身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
授業の全体像を把握する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第２回　柔道の特性と歴史的背景の理解
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第３回　技術の習熟レベルの確認
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第４回　受け身の指導法Ⅰ（後ろ受け身、横受け身）、固め技の指導法Ⅰ（袈裟固）
【　到達目標　】
基本動作と受け身の運動構造を理解し、正確な動作を習得する。また、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第５回　受け身の指導法Ⅱ（前回り受け身）、固め技の指導法Ⅱ（横四方固、上四方固、乱取）
【　到達目標　】
基本動作と受け身の運動構造を理解し、正確な動作を習得する。また、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第６回　受け身の指導法Ⅲ(前回り受け身)、固め技の指導法Ⅲ(抑え技の返し方、乱取)
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第７回　投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩し－作り－掛け）、投げ技の指導法Ⅰ（膝車）、固め技（乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第８回　投げ技の指導法Ⅱ（小内刈、大内刈、大外刈）、固め技（乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第９回　投げ技の指導法Ⅲ（背負投、一本背負投、体落）、固め技の指導法Ⅳ（縦四方固、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第10回　投げ技の指導法Ⅳ（釣込腰、払腰、大腰）、固め技の指導法Ⅴ（連絡技、乱取）
【　到達目標　】
投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第11回　受身試験
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
相対的動作からの安全な受身の実施ができる。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第12回　投げ技の指導法Ⅴ（連絡技）、固め技の指導法Ⅵ（関節技、乱取）
【　到達目標　】
基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第13回　審判法、簡易試合
【　到達目標　】
柔道のルールに関する知識を理解する。
相手の動きに応じた攻防ができる。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第14回　試験（投げ技、固め技）
【　到達目標　】
正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

第15回　簡易な試合
【　到達目標　】
柔道全般を理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。
状況に応じて映像教材や資料を提示し、論理的な技術体系の解説を施しながら柔道に対する理解を深めていく。本講義を理解するためには、感覚的な技術の習得と併せて、論理的な技術体系の理解が重要である。レポートや理解度確認テストを通して明らかとなった課題を解説、フィードバックし、課題の解決に取り組むことが求められる。

【教科書・参考書など】

「よくわかる柔道受け身のすべて」木村　昌彦　著（ベースボールマガジン社）
「いちばんわかりやすい！柔道の教科書」木村　昌彦　著　（土屋書店）
「女子のための柔道の教科書」木村　昌彦　著　（土屋書店）

【成績評価方法】

レポート（３０％）と試験（７０％）で評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	鈴　木　健　介	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

スポーツコーチング演習Ⅱの授業のねらいは、サッカーの楽しさを体現するための要素である①プレーを実践するための要素(技術の獲得)、②判断のための要素、③戦う姿勢、体力などサッカーの基本を、小学校高学年程度の年齢のプレーヤーにコーチングするための方法を学ぶことである。

サッカーのこの育成プログラムの実践が授業の内容になる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ボールフィーリングⅠ 【　到達目標　】 (1)ボールを使ったウォームアップを実践し、説明できる。 (2)ボールジャグリングを実践し、説明できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第９回　ゴールを奪うための突破の方法** 【　到達目標　】 (1)①シュートに直結する壁パス。②ダイアゴナルランからのパスを受ける。③ターンからシュートする。以上3種類の技術を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第２回　ボールフィーリングⅡ 【　到達目標　】 (1)キックとヘディングのトレーニングを実践し、説明できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第10回　コーチング法Ⅱ** 【　到達目標　】 (1)コーチングの方法を3種類学び、それらの長所と短所を理解する。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第３回　ゴールを目指すためのパス 【　到達目標　】 (1)シュートに直結するパスのタイミング、方向、強さを理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第11回　ボールを二人で協力して奪う** 【　到達目標　】 (1)チャレンジ&カバー、はさみ込みディフェンスを理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第４回　ゴールを目指すためのボールコントロール 【　到達目標　】 (1)シュートに直結するボールコントロールを理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第12回　ゴールキーパーのトレーニング** 【　到達目標　】 (1)基本的なゴールキーパーのトレーニングを学び、説明できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第５回　ボールを失わないためのトレーニング 【　到達目標　】 (1)ボールを奪われない体の使い方、ボールの位置を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第13回　ルール解説** 【　到達目標　】 (1)基本的なサッカーのルールを理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第６回　技術・戦術理論 【　到達目標　】 (1)基本的な技術、戦術理論を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第14回　指導者の役割** 【　到達目標　】 (1)指導者の役割を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第７回　コーチング法Ⅰ 【　到達目標　】 (1)ゲーム分析とトレーニングのプランニングができる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	**第15回　審判法** 【　到達目標　】 (1)基本的な審判法を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)
第８回　ゴールを奪うシュート 【　到達目標　】 (1)シュートの質とタイミングを理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとすること。

アクセサリー類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。

前回の技術的課題を落とし込んだウォームアップを行い、技術の定着の一助とする。グループ学習により、互いにコーチングを行い、指導内容の確認とする。

【教科書・参考書など】

特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。

【成績評価方法】

以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度６０％、②技術点（実技テスト）１０％、③知識点（理論テスト）１０％、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）２０％。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	橋爪みすず	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

新体操の歴史的背景を探り、オリンピック毎に改正されてきた競技規則を把握し、実際の採点規則を学習するとともに、ルール以外の動きに関する表現力についても問題意識をもちながら、競技特性を知る。ルールに基づき演技を構成する力をつける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のオリエンテーション
【　到達目標　】
採点競技として重要な採点規則を理解し、実践力の基礎を学ぶ事を理解する。
【授業時間外学習】
新体操の歴史について参考文献を読み、理解を深める。(4.0hr)

第２回　採点規則の総則１
【　到達目標　】
競技会と運営と公式大会のあり方について理解する。
【授業時間外学習】
国内で行われる競技会について調べておく。(4.0hr)

第３回　採点規則の総則２
【　到達目標　】
審判団の構成と国際トーナメントについて知る。
【授業時間外学習】
国内競技会と国際大会の違いを調べておく。(4.0hr)

第４回　採点規則　難度要素について（個人競技）１
【　到達目標　】
個人競技の難度の配分と減点について理解する。
【授業時間外学習】
競技規則を事前に読んでおく。(4.0hr)

第５回　採点規則　難度要素について（個人競技）２
【　到達目標　】
手具の基礎技術グループと基礎ではない技術グループについて理解する。
【授業時間外学習】
競技規則を各自の様式で図式化しておく。(4.0hr)

第６回　採点規則　Rと手具の難度（AD）について
【　到達目標　】
手具操作の危険性を伴った動きの評価について理解する。
【授業時間外学習】
映像を入手し、Rと手具の難度（AD）の例を用意する。(4.0hr)

第７回　採点規則　難度要素について（団体競技）
【　到達目標　】
団体競技の難度の配分と構成、交換難度について知る。
【授業時間外学習】
競技規則を事前に読んでおく。(4.0hr)

第８回　採点規則　連係について（団体競技）
【　到達目標　】
選手間の連係による価値と評価について理解する。
【授業時間外学習】
映像を入手し、連係の例を用意する。(4.0hr)

第９回　実施の評価について（個人競技）動きの表現との関係
【　到達目標　】
表現力の評価とは何かを一流選手の映像から学ぶ。
【授業時間外学習】
表現力について各自の考えをまとめておく。(4.0hr)

第10回　実施の評価について（団体競技）
【　到達目標　】
ミスによる減点とその評価、選手の動きのミスと手具の落下によるミスの減点を理解する。
【授業時間外学習】
ミスのある演技の映像を入手し、見た感想をまとめておく。(4.0hr)

第11回　ジュニア個人競技について
【　到達目標　】
ジュニアの個人競技の難度の配分と減点について理解する。
【授業時間外学習】
ジュニアルールの意味を考え、各自の考えをまとめておく。(4.0hr)

第12回　ジュニア団体競技について
【　到達目標　】
ジュニアの団体競技の難度の配分と構成、交換難度について知る。
【授業時間外学習】
ジュニア団体難度について競技規則を読んでおく。(4.0hr)

第13回　採点方法について
【　到達目標　】
個人BDは高い価値を難度から評価、R,ADは時系列で評価。団体は、全ての難度を時系列で評価することについて学ぶ。
【授業時間外学習】
BDの価値を覚えてくる。(4.0hr)

第14回　審判実務の方法について（DVDを観察しての実践）
【　到達目標　】
競技会においてDVDを見て採点の学習を行う。
【授業時間外学習】
各自で演技を書き起こしてくる。(4.0hr)

第15回　映像を観察し実際に採点してみる
【　到達目標　】
採点規則を学び実際に採点を実践する。
【授業時間外学習】
映像で採点練習をした申告書を持ち寄る。(4.0hr)

【学習上の留意点】

採点規則を学び、審判資格を取得できる（3種・2種）知識と実践力を身に着けられるようにする。毎回の授業で採点規則とエラータ（日本体操協会提供資料）を必要とするので準備しておくこと。パワーポイントを用いて毎時間、競技規則をわかりやすく解説する。また、日本体操協会で行われているルール講習会の資料を用い、映像を見て審判実務を学ぶ。国内共通のルールをできるだけ具体的に覚え、習得できるようにする。

【教科書・参考書など】

「新体操採点規則集」（日本体操協会作成）

【成績評価方法】

授業における課題達成度50%、授業内試験50%で評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	湯　澤　芳　貴	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

バレーボールにおけるコーチングについて、初心者レベルの競技者を中級者レベルへ引き上げるための指導体系を明らかにし、その理論を理解しながら指導の場で実践する。特に個人の基礎技能を応用させたものの指導と集団でおこなう技術・戦術を中心にして、質の高いバレーボールゲームをおこなうためのコーチングについて学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　中級者に対するコーチング理論
【　到達目標　】
(1)バレーボール技能の初心者と中級者の違いを理解する。
(2)中級者に求められる技能について理解する。

【授業時間外学習】
バレーボールの初心者、中級者の技能レベルを具体的に判断できるようにする。(4.0hr)

第２回　基礎技能の応用についてのコーチング理論Ⅰ(各種レシーブ技術)
【　到達目標　】
(1)場面に応じたレシーブ技術の指導について理解する。
(2)ボールの質を意識したレシーブ技術の指導について理解する。

【授業時間外学習】
事前にレシーブ技術の種類とその局面について理解しておく。(4.0hr)

第３回　基礎技能の応用についてのコーチング理論Ⅱ(トス・スパイク技術)
【　到達目標　】
(1)様々な攻撃に関するトス・スパイクの指導について理解する。

【授業時間外学習】
事前に応用的なスパイク技能について理解しておく。(4.0hr)

第４回　基礎技能の応用についてのコーチング理論Ⅲ(サーブ・ブロック)
【　到達目標　】
(1)ジャンプ系サーブの指導について理解する。
(2)ブロック技術の指導について理解する。

【授業時間外学習】
事前にジャンプ系サーブとブロック技能について、その構造を理解しておく。(4.0hr)

第５回　集団技能・戦術に関するコーチング理論Ⅰ(サーブレシーブフォーメーション)
【　到達目標　】
(1)各フォーメーションの特長の指導について理解する。

【授業時間外学習】
事前に各種サーブレシーブフォーメーションの特徴を理解しておく。(4.0hr)

第６回　集団技能・戦術に関するコーチング理論Ⅱ(アタックレシーブフォーメーション)
【　到達目標　】
(1)各フォーメーションの特長の指導について理解する。

【授業時間外学習】
事前に各種アタックレシーブフォーメーションの特徴を理解しておく。(4.0hr)

第７回　集団技能・戦術に関するコーチング理論Ⅲ(オフェンスシステム)
【　到達目標　】
(1)チームとしてのオフェンスシステムの指導について理解する。

【授業時間外学習】
事前にオフェンスシステムについて理解しておく。(4.0hr)

第８回　集団技能・戦術に関するコーチング理論Ⅳ(ディフェンスシステム)
【　到達目標　】
(1)チームとしてのディフェンスシステムの指導について理解する。

【授業時間外学習】
事前にブロックを含めたディフェンスシステムについて理解しておく。(4.0hr)

第９回　コーチング実践Ⅰ(レシーブ技術)
【　到達目標　】
(1)レシーブ技術に関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
レシーブ技術の指導に関して中級者レベルに応じた指導内容を理解しておく。(4.0hr)

第10回　コーチング実践Ⅱ(トス・スパイク技術)
【　到達目標　】
(1)様々なトスに関する指導を実践できる。
(2)応用的なスパイク技術に関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
トス・スパイク技術の指導に関して中級者レベルに応じた指導内容を理解しておく。(4.0hr)

第11回　コーチング実践Ⅲ(サーブ・ブロック)
【　到達目標　】
(1)応用的なサーブに関する指導を実践できる。
(2)ブロックに関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】サーブ・ブロック技術の指導に関して中級者レベルに応じた指導内容を理解しておく。(4.0hr)

第12回　コーチング実践Ⅳ(フォーメーション)
【　到達目標　】
(1)サーブレシーブフォーメーションに関する指導を実践できる。
(2)アタックレシーブフォーメーションに関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
レベルを高めるための各種フォーメーションについての指導内容を理解しておく。(4.0hr)

第13回　コーチング実践Ⅴ(オフェンスシステム)
【　到達目標　】
(1)オフェンスシステムに関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
レベルを高めるためのオフェンスシステムについての指導内容を理解しておく。(4.0hr)

第14回　コーチング実践Ⅵ(ディフェンスシステム)
【　到達目標　】
(1)ディフェンスシステムに関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
レベルを高めるためのディフェンスシステムについての指導内容を理解しておく。(4.0hr)

第15回　指導上の問題点の研究
【　到達目標　】
(1)コーチング実践で明らかになった問題点の解決法を理解する。
(2)中級者指導におけるポイントを明らかにすることができる。

【授業時間外学習】
中級者指導における適切なコーチングのタイミングと課題を理解しておく。(4.0hr)

【学習上の留意点】

バレーボールの中級者を対象にしたコーチングが授業の焦点であるので、そのための基礎知識と基礎技能が求められる。受講に際しては、不安な知識や技術についてはしっかりと復習して身につけておくこと。また基本的にグループ単位で演習形式でディスカッションしながら活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。毎回の授業の最後に振り返りをおこない、授業内容について理解を深める。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

コーチング理論の理解を20%、指導計画の作成を30%、コーチング実践を50%として評価する。

科 目 名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	吉　兼　　練	
英 文 名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

スポーツコーチング演習Ⅰで習得した、ハンドボールの局面構造にもとづく指導方法をもとに、対象に応じた指導方法の違いを理解し、指導することができる能力を身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンスと班分け
【　到達目標　】
(1)ゲーム構想の共通理解をはかり、一貫指導の在り方を理解する。

【授業時間外学習】
ゲーム構想の共通理解をはかり、一貫指導の在り方の理解を深める。(4.0hr)

第２回　子供のハンドボール指導方法の考案(個人技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に小学生に必要な個人技能の指導方法を考案する。

【授業時間外学習】
授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。(4.0hr)

第３回　子供のハンドボール指導方法の実践と評価(個人技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】
グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

第４回　子供のハンドボール指導方法の考案(集団技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に小学生に必要な集団技能の指導方法を考案する。

【授業時間外学習】
授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。(4.0hr)

第５回　子供のハンドボール指導方法の実践と評価(集団技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】
グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

第６回　中学生のハンドボール指導方法の考案(個人技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に中学生に必要な個人技能の指導方法を考案する。

【授業時間外学習】
授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。(4.0hr)

第７回　中学生のハンドボール指導方法の実践と評価(個人技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】
グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

第８回　中学生のハンドボール指導方法の考案(集団技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に中学生に必要な集団技能の指導方法を考案する。

【授業時間外学習】
授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。(4.0hr)

第９回　中学生のハンドボール指導方法の実践と評価(集団技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】
グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

第10回　高校生のハンドボール指導方法の考案(個人技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に高校生に必要な個人技能の指導方法を考案する。

【授業時間外学習】
授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。(4.0hr)

第11回　高校生のハンドボール指導方法の実践と評価(個人技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】
グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

第12回　高校生のハンドボール指導方法の考案(集団技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に高校生に必要な集団技能の指導方法を考案する。

【授業時間外学習】
授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。(4.0hr)

第13回　高校生のハンドボール指導方法の実践と評価(集団技能に関して)
【　到達目標　】
(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】
グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

第14回　ゲーム構想に応じた攻撃もしくは防御戦術獲得のための指導方法の考案
【　到達目標　】
(1)グループ毎にゲーム構想を明確にし、攻撃・防御いずれかの戦術獲得のための指導方法を考案する。

【授業時間外学習】
授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。(4.0hr)

第15回　ゲーム構想に応じた攻撃もしくは防御戦術獲得のための指導方法の実践と評価
【　到達目標　】
(1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。

【授業時間外学習】
グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

実習が中心となる上に、身体接触を伴う競技であるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特に、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリー類は決して身につけない。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業ごとの課題の達成度を50%、考案された指導方法の内容とトレーニング実践の状況を50%の割合として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅱ			担当者	吉　田　孝　久	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME315		

【目的とねらい】

陸上競技の指導現場では、目標像の動きと現在の達成レベルとの違いを明らかにし、それをもとに目標像へ近づけるための修正過程が求められる。こうしたことは技術種目と呼ばれるフィールド種目に特に求められるが、それにはこれまで行ったことがない種目（円盤投、やり投、棒高跳等）に取り組むことが有効である。この授業では、こうした種目への取り組みを通じて、陸上競技のさまざまな運動を理解するとともに、コーチングに必要となる自己観察と他者観察といった観察力を習得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　陸上競技（フィールド）種目の競技力の構造
【　到達目標　】
この授業で取り上げる陸上競技種目の特性および各種目の競技力の構造を理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第２回　基本技能（円盤投）の習得の仕方と指導パターン１
【　到達目標　】
円盤の基本的な持ち方、投げ方とともに安全な実施方法を理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第３回　基本技能（円盤投）の習得の仕方と指導パターン２
【　到達目標　】
スタンディングからの投てきを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することで円盤投の動きの特性を把握する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第４回　基本技能（円盤投）の習得の仕方と指導パターン３
【　到達目標　】
ターンを伴う投てきを実習すると同時に、パートナーとの相互コーチングによって動きの良し悪しについて把握する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第５回　観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達
【　到達目標　】
相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第６回　基本技能（棒高跳）の習得の仕方と指導パターン１
【　到達目標　】
ポールの持ち方、ポール歩行から踏切りまでのポールワークを実習する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第７回　基本技能（棒高跳）の習得の仕方と指導パターン２
【　到達目標　】
ポール歩行からポール持ったランニング（助走）を実習する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第８回　基本技能（棒高跳）の習得の仕方と指導パターン３
【　到達目標　】
マットへの着地方法、ボックスへの踏切りを実習すると同時に、パートナーとの相互コーチングによって動きの良し悪しについて把握する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第９回　基本技能（棒高跳）の習得の仕方と指導パターン４
【　到達目標　】
ボックス走路を使った跳躍を実習すると同時に、自分の動きを自己観察することで棒高跳の動きの特性を理解する。また、パートナーとの相互コーチングによって動きの良し悪しについて把握する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第10回　観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達
【　到達目標　】
相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第11回　基本技能（やり投）の習得の仕方と指導パターン１
【　到達目標　】
安全面の配慮、やりの握り方、投げ方を理解する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第12回　基本技能（やり投）の習得の仕方と指導パターン２
【　到達目標　】
やり投の導入で用いるドリルやジャベリック、やりを使った投てきを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することでやり投の動きの特性を把握する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第13回　基本技能（やり投）の習得の仕方と指導パターン３
【　到達目標　】
クロスステップとそれを行いながらの投てきを実習すると同時に、パートナーとの相互コーチングによって動きの良し悪しについて把握する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第14回　観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達
【　到達目標　】
相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第15回　陸上競技のコーチングにおける問題点
【　到達目標　】
この授業で取り上げた3種目の相互コーチング実習から得られたフィードバック情報をもとに、陸上競技の初級・中級者を対象としたコーチングについての問題点について検討する。
【授業時間外学習】
授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・自分の動きについての自己観察、他者の動きについての他者観察によって動きを分析・評価することを心がける。
・コーチング実習時に提出させる記録表や実習記録として収録したVTRをもとに、自分自身のコーチングについて分析・評価する。
・また、関連する資料を収集し、それぞれの運動についての理解を深める。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）、（競技力向上のためのトレーニング戦略）、（コーチングマニュアル）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 レベルアップの陸上競技 上級編）

【成績評価方法】

コーチング実習時に提出した記録表、および実習後に行うコーチング内容・方法についての自己分析記録表を60%、また指導実践におけるできばえを40%として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅲ			担当者	北　川　幸　夫	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME316		

【目的とねらい】

競泳競技における各種泳法およびスタート・ターン・ゴールタッチ等の主要な動きを、最高精協調のレベルまで高めるための方法について検証することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　トレーニングの原則
【　到達目標　】
適応の原則、漸増負荷の原則等について理解する。
【授業時間外学習】
トレーニングの原則に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第２回　水泳のトレーニング（有酸素性トレーニング①）
【　到達目標　】
水泳パフォーマンスと持久力の関係について理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第３回　水泳のトレーニング（有酸素性トレーニング②）
【　到達目標　】
水泳における持久力を高めるためのトレーニング内容について理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第４回　水泳のトレーニング（無酸素性トレーニング①）
【　到達目標　】
水泳パフォーマンスとスピードやスピード持久力の関係について理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第５回　水泳のトレーニング（無酸素性トレーニング②）
【　到達目標　】
水泳におけるスピードやスピード持久力を高めるためのトレーニング内容について理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第６回　水泳のトレーニング（一般的トレーニング）
【　到達目標　】
水泳で行われる一般的トレーニング内容について理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第７回　水泳のトレーニング（陸上トレーニング）
【　到達目標　】
競泳競技のための陸上トレーニング内容について理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第８回　水泳における競技力検査法
【　到達目標　】
血中乳酸カーブテスト等の水泳における競技力検査法について理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第９回　水泳のトレーニング計画①
【　到達目標　】
年間トレーニング計画の立て方を理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニング計画に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第10回　水泳のトレーニング計画②
【　到達目標　】
週間トレーニング計画の立て方を理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニング計画に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第11回　水泳のトレーニング計画③
【　到達目標　】
調整期間におけるトレーニング計画の立て方を理解する。
【授業時間外学習】
水泳のトレーニング計画に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第12回　水泳における心理学
【　到達目標　】
目標設定の仕方やメンタルトレーニング等について理解する。
【授業時間外学習】
心理学に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第13回　水泳における栄養学
【　到達目標　】
水泳選手に必要な栄養摂取の方法について理解する。
【授業時間外学習】
栄養学に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第14回　水泳における戦術
【　到達目標　】
水泳レースにおけるペース配分等について理解する。
【授業時間外学習】
スポーツ戦術に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第15回　水泳の競技規則
【　到達目標　】
競泳競技規則や競技の運営方法について理解する。
【授業時間外学習】
競泳競技規則に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

この授業を通し、競泳選手に対する水中トレーニングや陸上トレーニングを合わせたトレーニング内容の作成やトレーニング計画の立て方等が出来るように日頃から復習を行うこと。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。

【成績評価方法】

原則として筆記テストの結果を100%とする。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅲ			担当者	小　海　隆　樹	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME316		

【目的とねらい】

体操競技における技や演技に関して、競技会の中のどんな厳しい状況でも自在に対応できる、最高精協調のレベルに高めるための方法について理解することを目的とする。そのために、トップレベル選手の実際のトレーニング方法やトレーニングに関する体操競技の指導書を検討していく。その中で、指導者として必要な事柄や、競技結果に重要な役割を担う審判員の条件についても概観していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　体操競技のトレーニング
【　到達目標　】
(1)体操競技の特性について理解する。
(2)体操競技のトレーニング全般を大まかに理解する。

【授業時間外学習】
第1回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第２回　跳馬のトレーニング
【　到達目標　】
(1)跳馬の種目特性を理解する。
(2)跳馬に必要なトレーニング内容を理解する。

【授業時間外学習】
第2回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第３回　段違い平行棒のトレーニング
【　到達目標　】
(1)段違い平行棒の種目特性を理解する。
(2)段違い平行棒に必要なトレーニング内容を理解する。

【授業時間外学習】
第3回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第４回　平均台のトレーニング
【　到達目標　】
(1)平均台の種目特性を理解する。
(2)平均台に必要なトレーニング内容を理解する。

【授業時間外学習】
第4回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第５回　ゆかのトレーニング
【　到達目標　】
(1)ゆかの種目特性を理解する。
(2)ゆかに必要なトレーニング内容を理解する。

【授業時間外学習】
第5回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第６回　補助トレーニング
【　到達目標　】
(1)補助トレーニングの必要性を理解する。
(2)補助トレーニングの具体的内容と効果を理解する。

【授業時間外学習】
第6回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第７回　トップ選手のトレーニングの実際
【　到達目標　】
(1)トップ選手のトレーニング内容を理解する。
(2)トップ選手と各自のトレーニング内容を比較検討する。

【授業時間外学習】
第7回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第８回　トレーニングの課題
【　到達目標　】
(1)すべてのトレーニングにおける課題設定の重要性を理解する。
(2)各自のトレーニング課題を明確にする。

【授業時間外学習】
第8回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第９回　指導者に必要な知識
【　到達目標　】
(1)動きの指導者の能力を検討する。
(2)体操競技の指導者の能力を検討する。

【授業時間外学習】
第9回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第10回　指導者の観察能力
【　到達目標　】
(1)指導者としての技の観察能力の必要性を理解する。
(2)具体的な観察方法について理解する。

【授業時間外学習】
第10回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第11回　指導者の幇助能力
【　到達目標　】
(1)指導者としての幇助能力の必要性を理解する。
(2)具体的な幇助方法について理解する。

【授業時間外学習】
第11回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第12回　採点規則の構造
【　到達目標　】
(1)採点規則の史的変遷について理解する。
(2)採点規則の構造について理解する。

【授業時間外学習】
第12回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第13回　審判員の条件
【　到達目標　】
(1)審判員とは何かを理解する。
(2)他の競技の審判員との違いを理解する。

【授業時間外学習】
第13回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第14回　審判員に求められる能力
【　到達目標　】
(1)審判員としてのルール解釈の必要性について理解する。
(2)審判員としての観察能力・採点能力について理解する。

【授業時間外学習】
第14回目の授業内容に関してノートにまとめる。(4.0hr)

第15回　体操競技の選手および指導者の能力
【　到達目標　】
(1)選手として必要な能力を理解する。
(2)指導者として必要な能力を理解する。

【授業時間外学習】
授業でまとめ上げた「体操競技ノート」を今後の指導に活かせるよう準備する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

体操競技の指導者となるための知識や考え方を学ぶため、常に指導現場の問題点や課題を頭に思い描けることが必要である。そして、各回での授業内容と学生自身のおかれた立場（選手、指導者、審判員など）とを比較検討することで、授業内容が理解できるようになる。毎回の授業内容をノートにまとめながら、体操競技がわかる「体操競技ノート」を作成する。

【教科書・参考書など】

＜参考書＞　「体操競技のコーチング」金子明友（大修館書店）
「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店）

【成績評価方法】

毎回の小レポートの達成度　70%　・　最終レポートの達成度　30%

科目名	スポーツコーチング演習Ⅲ			担当者	佐々木直基	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME316		

【目的とねらい】

バスケットボール競技について、本質的特性を学習した上で指導の理論的背景について理解し、コート上での実習や指導実践を通してチーム作りに必要なコーチング法を学習することが目的である。2年次履修のスポーツコーチング演習Ⅰおよび3年次履修のスポーツコーチング演習Ⅱで習得したコーチング法を、さらに専門的に深めることもねらいとなる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のねらいと進め方 【　到達目標　】 (1)授業のねらいと進め方を理解する。 【授業時間外学習】 バスケットボール競技の特性について調べる。(4.0hr)	**第９回　チーム作り⑤ 計画の見直し** 【　到達目標　】 (1)相手チームに対する情報収集の仕方を習得する。 (2)スカウティングした内容をもとに戦術を決定する方法を習得する。 (3)試合への準備期間のコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)
第２回　バスケットボール競技のゲーム 【　到達目標　】 (1)実際のゲームを通してバスケットボールを構成する要素を理解する。 (2)バスケットボールをコーチングする際に必要な知識を得る。 【授業時間外学習】自らの経験を振り返り、構成要素のうち、何を中心に学び、プレイしてきたのかを考える。(4.0hr)	**第10回　チーム作り⑥ 計画された内容の練習とミニゲーム** 【　到達目標　】 (1)計画された練習を実施することができる。 (2)実施した練習やミニゲームからコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 実施する練習内容を考案し、実施後は今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)
第３回　指導の実際とチーム作りの計画 【　到達目標　】 (1)何を指導するべきかを理解する。 (2)どのような順序で指導するべきかを理解し、計画する。 【授業時間外学習】講義の内容とこれまで受けてきた指導を合わせ、自らが指導する際のイメージをつくる。(4.0hr)	**第11回　チーム作り⑦ 計画された内容の練習とミニゲーム** 【　到達目標　】 (1)計画された練習を実施することができる。 (2)実施した練習やミニゲームからコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 実施する練習内容を考案し、実施後は今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)
第４回　チーム作り① 計画された内容の練習とミニゲーム 【　到達目標　】 (1)計画された練習を実施することができる。 (2)実施した練習やミニゲームからコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 実施する練習内容を考案し、実施後は今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)	**第12回　チーム作り⑧ 計画された内容の練習とミニゲーム** 【　到達目標　】 (1)計画された練習を実施することができる。 (2)実施した練習やミニゲームからコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 実施する練習内容を考案し、実施後は今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)
第５回　チーム作り② 計画された内容の練習とミニゲーム 【　到達目標　】 (1)計画された練習を実施することができる。 (2)実施した練習やミニゲームからコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 実施する練習内容を考案し、実施後は今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)	**第13回　チーム作り⑨ 計画された内容の練習とミニゲーム** 【　到達目標　】 (1)計画された練習を実施することができる。 (2)実施した練習やミニゲームからコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 実施する練習内容を考案し、実施後は今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)
第６回　チーム作り③ 計画された内容の練習とミニゲーム 【　到達目標　】 (1)計画された練習を実施することができる。 (2)実施した練習やミニゲームからコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 実施する練習内容を考案し、実施後は今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)	**第14回　ゲーム実践②** 【　到達目標　】 (1)ゲームを通して、実施してきた内容の問題点や今後の課題、コーチング法を検討する。 (2)ゲーム運営に必要な知識を得る。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)
第７回　チーム作り④ 計画された内容の練習とミニゲーム 【　到達目標　】 (1)計画された練習を実施することができる。 (2)実施した練習やミニゲームからコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 実施する練習内容を考案し、実施後は今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)	**第15回　総合的検証** 【　到達目標　】 (1)これまでの講義、指導実践を通して得たコーチング法について総合的に分析し、今後のコーチング法について総合的に検証する。 【授業時間外学習】 総合的に検証したことを踏まえて、本演習で理解・習得したことを整理する。(4.0hr)
第８回　ゲーム実践① 【　到達目標　】 (1)ゲームを通して、実施してきた内容の問題点や今後の課題、コーチング法を検討する。 (2)ゲーム運営に必要な知識を得る。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

バスケットボールコートにおける実習を含むため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリー類は決して身につけない。また、ナンバリング（ゼッケン）を一人ずつ購入し、授業時には必ず着用する。またグループ学習の場面も多いため、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受けること。また、実際の指導実践では、事前の準備が非常に重要であるため、授業時以外での努力が必要である。なお、毎回の授業で振り返り小レポートを作成し、必要に応じてその内容は次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

特に教科書は指定しない。
「バスケットボールの指導教本」日本バスケットボール協会編（大修館書店）

【成績評価方法】

平常授業での到達目標に対する到達度を30%、課題レポートを70%として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅲ			担当者	笹　倉　清　則	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME316		

【目的とねらい】

ハンドボール競技を中心として、競技力を決定する大きな要素である戦術について、具体的に1980年代から現在に至るまでの世界選手権大会の中で、トップレベルの指導者がどのようなゲーム観を持ってチームを作り、戦術を考案し、戦ってきているかを、映像をみて分析し、そこから戦術の変遷とその重要性を理解する。そこで指導者としての基礎的なものを身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス

【　到達目標　】

球技のコーチに必要な「ゲーム構想」とそれに基づく戦術、そして技術の変遷を世界のハンドボールの発展を題材に、世界の指導者がどのように戦術を先取りし実践しているかを理解する。

【授業時間外学習】

1970年代のハンドボールを取り巻く環境やルールについてレポート作成する。(4.0hr)

第２回　1980年代序盤の戦術

【　到達目標　】

1980年代序盤半に11人制ハンドボールの影響を受けた1970年代のハンドボールから、ポジションプレイが発生した過程の攻撃戦術の変化と防禦戦術の変化を理解する。

【授業時間外学習】

1980年代のハンドボールを取り巻く環境やルールについてレポート作成する。(4.0hr)

第３回　1980年代中盤の戦術

【　到達目標　】

1980年代序盤から中盤にかけての防禦戦術の変化とそれに伴う攻撃戦術の変化を理解する。また世界を先取りする指導者の構想と具体的戦術についても理解する。

【授業時間外学習】1970年代から80年代への戦術変化の学習を基に、80年代後半のハンドボールの戦術変化を考察する。(4.0hr)

第４回　1980年代終盤の戦術

【　到達目標　】

1980年代終盤の戦術の、特に大きく変化した防禦戦術の各指導者の考え方やそれに対する攻撃戦術の発生過程を理解する。

【授業時間外学習】1980年代の終盤のハンドボールとこれまでの傾向を基に、90年代初めの戦術変化を考察する。(4.0hr)

第５回　1990年代序盤の戦術

【　到達目標　】

1990年代序盤にみられた積極的防禦が、どのように崩され、そして新たな防禦戦術の考え方と新戦術が発生したかについて理解する。

【授業時間外学習】

これまでの講義から1980年代の戦術変化を考察する。(4.0hr)

第６回　1990年代中盤の戦術

【　到達目標　】

1990年代中盤からみられる各指導者の防禦に対するコンセプトやそれに応じた防禦戦術のそれぞれの特色を理解する。

【授業時間外学習】

これまでの戦術変化を基に1990年代終盤の戦術変化を考察する。(4.0hr)

第７回　1990年代終盤の戦術

【　到達目標　】

1990年代終盤にこれまでの防禦中心のハンドボールから攻撃中心へと変化した攻撃戦術の発生とそのコンセプトを理解する。また攻撃戦術の新たなコンセプトについても理解する。

【授業時間外学習】一般的に言われる、ハンドボール戦術の1サイクルである60年代から90年代までをまとめる。(4.0hr)

第８回　1990年代の日本の戦術

【　到達目標　】

90年代後半に熊本で行われた男子の世界選手権大会を題材に、日本が世界と戦うにあたり外国人指導者によりどのようにその戦術に変化がみられたかを理解する。

【授業時間外学習】

新たなサイクルとなる2000年代はじめのハンドボールの戦術を考察する。(4.0hr)

第９回　2000年代序盤の戦術

【　到達目標　】

2000年代序盤に攻撃戦術を変化させるルール変更があり、それによって、各国の指導者がより攻撃に重点をおいた結果、色々な局面で大きな変化がみられた。その変化とコンセプトを理解する。

【授業時間外学習】

2000年代中盤の戦術変化の考察をする。(4.0hr)

第10回　2000年代中盤の戦術

【　到達目標　】

2000年代中盤の攻撃戦術の変化とコンセプトの理解、及び各国々で構想された防禦戦術の傾向やコンセプトを理解する。

【授業時間外学習】

2000年代中盤からそれ以降のハンドボールの戦術を考察する。(4.0hr)

第11回　現在のハンドボールの戦術

【　到達目標　】

現在の最新のハンドボールの攻撃・防禦戦術の傾向を理解し、あわせて今後の世界の進む方向性を予測する。

【授業時間外学習】これまでのハンドボールの戦術変遷を基に、ハンドボールの指導者の考え方をまとめる。(4.0hr)

第12回　ハンドボールの戦術変遷と指導者の考え方

【　到達目標　】

これまでの授業の中で重要視してきた指導者のゲーム構想が、戦術を変えて世界を変化させ、それがまた新たな指導者によって破られてきた変遷を理解すると同時に、指導者の重要性を再確認する。

【授業時間外学習】

ゲーム構想と戦術、そして実際のトレーニングの構造を理解し、まとめる。(4.0hr)

第13回　日本のハンドボールの戦術の変遷

【　到達目標　】

世界の戦術の変遷と比較しながら日本の戦術の変遷を観て、日本の指導者の戦術というものに対する理解を把握する。

【授業時間外学習】日本のハンドボールを振り返り、世界に向かう指導者としての構想、戦術の考案をする。(4.0hr)

第14回　日本と世界のハンドボールの戦術比較

【　到達目標　】

これまでの世界の戦術と日本の戦術の変遷を比較し、日本の目指すべき方向について考え、今後の世界の中での日本のハンドボールを理解する。

【授業時間外学習】

講義や各受講者の意見から、本授業での1つの指導者論を考察する。(4.0hr)

第15回　この講義の主題である指導者の考える「ゲーム構想」の重要性を再確認する。

【　到達目標　】

1970年代から現在までのハンドボールの戦術変遷とそれに関わる指導者の考え方、いわゆる「ゲーム構想」を基に指導者の重要性を理解する。また、戦術の発展がそのまま指導の発展段階と繋がることを理解する。

【授業時間外学習】指導者の知識としての戦術変遷の学習の必要性､ｹﾞｰﾑ構想から具体的な戦術やﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを考案する重要性､指導段階(ｽﾃｯﾌﾟ)に関してﾚﾎﾟｰﾄを作成し､理解する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

ハンドボール経験者が受講学生に多くいるが、その学生は現在のハンドボールから遡るのでなくハンドボール発生からこれまでを時間の経過と同時進行で捉えることが重要となる。そのなかでコーチング演習としての仕上げとして、指導者の考え方がいかに試合に反映し結果を生み出すかを理解する。また、ハンドボール経験以外の学生は他種目の戦術の変遷から自分の種目に置き換えて考えることが大切である。また、指導者の考え方はどの種目も同様であるため、コーチング演習の仕上げとして捉えることが重要である。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

毎回の授業の中での映像を観ての分析報告が30%、全員に渡している記録用紙の記載の仕方やまとめ方30%、最終的なまとめのレポート評価40%。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅲ			担当者	橋爪みすず	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME316		

【目的とねらい】

新体操の競技規則の概要を理解すると共に、競技会レベルの作品の構成法や、実際の演技の審判法を大会のVTRによって学習する。具体的に、班別に団体演技の創作を行い、申告書がなくても判り易い演技及び選手のレベルや、目標を考慮した演技を完成させる。審判の実践力を身に付けるために、創作し発表された演技を採点する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のオリエンテーション 【　到達目標　】 指導者になることを前提に、自己の意識と指導法、創作法を学習する事を理解する。特に団体体操についての採点規則を再度詳しく理解する。 【授業時間外学習】 団体の競技規則を確認し理解を深めておく。(4.0hr)	**第９回　具体的演技の創作（班学習）１** 【　到達目標　】 前半で学習した内容を体育館で創作の実践を行う。各班で使用する手具を決める。 【授業時間外学習】 手具の特性を調べておく。(4.0hr)
第２回　採点法についてスポーツコーチング演習Ⅱで学習したものを復習する 【　到達目標　】 体操についての採点規則を再度詳しく理解する。 【授業時間外学習】 構成と実施の採点規則を復習しておく。(4.0hr)	**第10回　具体的演技の創作（班学習）２** 【　到達目標　】 各班で使用する音楽を用意し、具体的に振り付けを行う。 【授業時間外学習】 音楽のテーマ性を規則に従って理解し、音楽の候補を準備する。(4.0hr)
第３回　団体演技の難度の構成と作品創りについて 【　到達目標　】 団体体操は、5名の選手による集団の作品であり組合せが主になる。その内容を理解する。 【授業時間外学習】 様々な団体の演技を映像で見ておく。(4.0hr)	**第11回　具体的演技の創作（班学習）３** 【　到達目標　】 交換の数、連係の数を整理する。 【授業時間外学習】 映像を見て、交換と連係の組み合わせを学んでおく。(4.0hr)
第４回　団体演技の連係の創り方と独創性について 【　到達目標　】 5人での組合せの中で人と人、手具と人等の連係をその組合せから独創性を見出す。 【授業時間外学習】 複数の演技を比較し、独創性の違いについて考えておく。(4.0hr)	**第12回　具体的演技の創作（班学習）４** 【　到達目標　】 演技を最後まで振り付け、ミスのない演技になる様、実践を重ねる。 【授業時間外学習】 ミスをなくすための方法を考えておく。(4.0hr)
第５回　団体演技の手具交換の方法と難度の数え方 【　到達目標　】 団体体操の一番の特徴である交換の方法を理解する。 【授業時間外学習】 いくつかの交換の方法を考えておく。(4.0hr)	**第13回　発表と評価** 【　到達目標　】 班別に発表、互いに採点する。 【授業時間外学習】 競技会の規則に則って行うよう、規則を確認しておく。(4.0hr)
第６回　団体演技の難度の評価について 【　到達目標　】 交換難度と徒手難度のカウントについて詳しく理解する。 【授業時間外学習】 競技規則を読み理解を深めておく。(4.0hr)	**第14回　演技内容の提出** 【　到達目標　】 演技内容がわかるように時系列で記載したものを提出する。 【授業時間外学習】 手書きで図も含めて演技内容を記載したものを提出する。(4.0hr)
第７回　DVDによる演技の分析（交換難度） 【　到達目標　】 映像から交換難度を分析し点数化できる。 【授業時間外学習】 団体競技の映像を見て、交換を書き出して確認しておく。(4.0hr)	**第15回　創作演技発表** 【　到達目標　】 団体体操2分30秒の演技を班毎に創作し発表する。申告書なしで採点をする。 【授業時間外学習】 客観的評価に必要な知識を確認し、採点練習をしておく。(4.0hr)
第８回　DVDによる演技の分析（徒手難度） 【　到達目標　】 映像から徒手難度を分析し点数化できる。 【授業時間外学習】 団体競技の映像を見て、徒手難度を書き出し、確認しておく。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

採点規則熟知と演技創作の実践の両方を学習し、中学校・高校・スポーツクラブで正しい指導が出来る所までこぎつける。各授業は深く関連しており、一回一回が積み重ねとなるため、授業欠席は著しく進歩を妨げるので休まない事。授業はパワーポイントを用い、競技規則の理解と演技構成の手法を学ぶために、国内のルール講習会で使用した映像研修資料を具体的に解説する。

【教科書・参考書など】

「新体操教本」「採点規則集」（日本体操協会作成）

【成績評価方法】

授業における課題達成度70%、実技試験30%で評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅲ			担当者	湯　澤　芳　貴	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME316		

【目的とねらい】

バレーボールにおけるコーチングについて、中級者レベル以上に必要となってくるゲーム中の主要な戦術、各ポジションの専門的な役割、ボールの動きに関して自由自在に対応できるようにする能力、ゲームの様々な場面での状況判断能力を高めるための指導体系を明らかにし、その理論を理解しながら指導の場で実践する。また、バレーボールに効果的なウォーミングアップ方法やトレーニング方法についても学ぶ。

【授業内容・到達目標など】

第１回　トップレベルに対するコーチング理論
【　到達目標　】
(1)トップレベルに必要な戦術・戦略の発展について理解する。
(2)様々な場面での状況判断能力を高める方法を理解する。

【授業時間外学習】
トップレベルで用いられる戦術・戦略について理解しておく。(4.0hr)

第２回　各ポジションの専門的な役割
【　到達目標　】
(1)ポジションの専門的な役割・プレーの分業について理解する。

【授業時間外学習】
事前にバレーボールの各ポジションの役割について理解しておく。(4.0hr)

第３回　各レシーブ局面・ゲームの様々な場面での状況判断
【　到達目標　】
(1)レシーブにおける状況判断について理解・実践できる。
(2)ゲーム中のチームとしての動きを理解・実践できる。

【授業時間外学習】
ゲーム中の様々な状況判断のポイントについて理解しておく。(4.0hr)

第４回　バレーボールに効果的なウォーミングアップ・トレーニング
【　到達目標　】
(1)動きに即し、障害予防を考慮したウォーミングアップ法を理解する。
(2)スピード・パワーを意識したトレーニング法を理解する。

【授業時間外学習】
事前にバレーボール特有の動きや体の使い方等について理解しておく。(4.0hr)

第５回　コーチング実践Ⅰ(バレーボールに効果的なウォーミングアップ)
【　到達目標　】
(1)効果的なウォーミングアップ法に関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
ウォーミングアップの理論とその目的について理解しておく。(4.0hr)

第６回　コーチング実践Ⅱ(サイドアタッカー・リベロに対するコーチング)
【　到達目標　】
(1)サイドアタッカーの役割を考慮した指導を実践できる。
(2)レシーブの中心となるリベロの役割を考慮した指導を実践できる。

【授業時間外学習】
事前にサイドアタッカー・リベロのポジション特性について理解しておく。(4.0hr)

第７回　コーチング実践Ⅲ(ｾﾝﾀｰﾌﾟﾚｲﾔｰ・ｾｯﾀｰに対するｺｰﾁﾝｸﾞ)
【　到達目標　】
(1)速攻・ブロックの中心となるセンタープレイヤーの指導を実践できる。
(2)チームのつなぎの中心となるセッターの指導を実践できる。

【授業時間外学習】
事前にセンタープレイヤー・セッターのポジション特性について理解しておく。(4.0hr)

第８回　コーチング実践Ⅳ(各レシーブ局面での状況判断)
【　到達目標　】
(1)各レシーブ局面の状況判断を意識した指導を実践できる。

【授業時間外学習】
フォーメーションや相手攻撃に応じた状況判断を理解しておく。(4.0hr)

第９回　コーチング演習Ⅴ(ゲームの様々な場面での状況判断)
【　到達目標　】
(1)ゲーム中の状況判断に関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
チームとして味方選手と協調し、それぞれに対応する動きを理解しておく。(4.0hr)

第10回　コーチング理論Ⅵ(バレーボールに効果的なトレーニング)
【　到達目標　】
(1)効果的なトレーニングに関する指導を実践できる。

【授業時間外学習】
バレーボールの競技特性から効果的なトレーニング理論について理解しておく。(4.0hr)

第11回　指導上の問題点の研究
【　到達目標　】
(1)コーチング実践で明らかになった問題点の解決法を理解する。
(2)トップレベルの指導でのポイントを明らかにすることができる。

【授業時間外学習】
トップレベルの指導での適切なコーチングのタイミングと課題を理解しておく。(4.0hr)

第12回　ゲーム中のコーチング(タイムアウト・メンバーチェンジ)
【　到達目標　】
(1)ゲーム中のベンチワーク(タイムアウト・メンバーチェンジ)について理解する。

【授業時間外学習】
ベンチワークの適切なタイミングと目的について理解しておく。(4.0hr)

第13回　勝利のためのコーチング理論Ⅰ(連続ポイント)
【　到達目標　】
(1)連続ポイントに必要な技術・戦術を理解する。
(2)データを取りながらそれらを検証することができる。

【授業時間外学習】
勝利を獲得するために必要な連続ポイントについて理解しておく。(4.0hr)

第14回　勝利のためのコーチング理論Ⅱ(攻撃組み立て)
【　到達目標　】
(1)勝利に必要な攻撃組み立て能力と攻撃決定能力について理解する。
(2)データを取りながらそれらを検証することができる。

【授業時間外学習】
勝利を獲得するために必要な攻撃組み立てについて理解しておく。(4.0hr)

第15回　勝利のためのコーチング理論Ⅲ(相手への対応)
【　到達目標　】
(1)相手を考慮した戦略の組み立てができる。
(2)相手の戦術・戦略を分析し、それに対応することができる。

【授業時間外学習】
勝利を獲得するために必要な相手への対応について理解しておく。(4.0hr)

【学習上の留意点】

バレーボールのトップレベルを対象にしたコーチングが授業の焦点であるので、そのための基礎知識と基礎技能が求められる。受講に際しては、不安な知識や技術についてはしっかりと復習して身につけておくこと。また基本的にグループ単位で演習形式でディスカッションしながら活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。毎回の授業の最後に振り返りをおこない、授業内容について理解を深める。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

コーチング理論の理解を20%、指導計画の作成を30%、コーチング実践を50%として評価する。

科目名	スポーツコーチング演習Ⅲ			担当者	吉　田　孝　久	
英文名	Seminar in Sport Coaching Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME316		

【目的とねらい】

陸上競技の中上級者を対象に、各種目における主要な動きを精協調から最高精協調のレベルまで高めるための方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証することを目的とする。特に、試合準備と試合における最高達成を目指す上で、準備すべき内容について、習熟レベルごとに検討する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　陸上競技の競技力の構造

【　到達目標　】

陸上競技の特性および各種目の競技力の構造を理解する。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第２回　運動観察による「改善点」の見抜き

【　到達目標　】

ある種目の基本的動きを実習する中で、他者の動きを観察してそこから改善点を抽出する。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第３回　コーチングのためのプログラム作成１

【　到達目標　】

ある動きの問題点を改善するための年間トレーニング計画を立案する。その計画立案に際しての基本コンセプトについて発表する。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第４回　コーチングのためのプログラム作成２

【　到達目標　】

前回の年間トレーニング計画をもとに、準備期を前半・後半に分け、それぞれのプログラムを立案する。一人のプログラムを参考に意見交換を行う。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第５回　パートナーとの相互コーチング実習

【　到達目標　】

コーチ役、選手役を決め、実習の中で相互のコーチングを行う。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第６回　グループ対象のコーチング実習１

【　到達目標　】

中学生陸上部のハードル選手、走幅跳を対象とした講習会を想定し、そこでのコーチング実習を行う。コーチ役、選手役ともにコーチングに関する感想・意見を記録し、最後に意見交換を行う。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第７回　グループ対象のコーチング実習２

【　到達目標　】

中学生陸上部のハードル選手、走幅跳を対象とした講習会を想定し、そこでのコーチング実習を行う。コーチ役、選手役ともにコーチングに関する感想・意見を記録し、最後に意見交換を行う。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第８回　試合において成功を収めるための条件群について

【　到達目標　】

受講生の経験をもとに試合準備・試合での失敗例・成功例をあげ、そこから問題点の抽出を試みる。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第９回　陸上競技の試合練習の方法

【　到達目標　】

目標試合で最大達成を得るための練習の組み立て方について理解を深める。その中でも、試合練習を中心に取り上げ、意見交換をする。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第10回　試合準備期の練習と試合期の練習内容

【　到達目標　】

目標試合で最大達成を得るための練習の組み立て方について理解を深める。その中でも、ピーキングの作り方を取り上げ、意見交換をする。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第11回　トップ選手の動きからのヒントについて

【　到達目標　】

トップ選手が高いパフォーマンスを可能にしている「動き」の特徴をピックアップして、その動きの形成過程や練習の仕方についてアプローチを試みる。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第12回　修正内容を選手へ伝達する方法

【　到達目標　】

相互コーチングの際に記録した記録表とVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第13回　試合・記録会における失敗因子の分析とその対処方法

【　到達目標　】

関東インターカレッジ、日本インターカレッジの試合展開（試合成績、VTRなど）をもとに、試合における失敗因子を抽出する。それらの対処法について意見交換を行う。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第14回　トレーニングでのおかしやすい問題点とその対処法

【　到達目標　】

過去のトレーニング実践を振り返り、繰り返しおかす失敗を抽出する。それらの原因を明らかにし、その対処法について意見交換を行う。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

第15回　陸上競技のコーチングに関する展望

【　到達目標　】

国内外の陸上競技の動向に関する情報をもとに、競技力向上についてその傾向を展望する。

【授業時間外学習】

授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・自分の動きについての自己観察、他者の動きについての他者観察によって動きを分析・評価することを心がける。
・レベルの高い動きを見抜く力の養成とその動きを獲得するための練習内容を探し出すことを目指す。
・また、関連する資料を収集し、それぞれの運動についての理解を深める。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）、（競技力向上のためのトレーニング戦略）、（コーチングマニュアル）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 レベルアップの陸上競技 上級編）

【成績評価方法】

コーチング実習時に提出した記録表、および実習後に行うコーチング内容・方法についての自己分析記録表を60%、また指導実践におけるできばえを40%として評価する。

科目名	テーピング・マッサージ			担当者	白木　仁・福田　崇 森　慎太郎・藁科　侑希	
英文名	Taping and Massage					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME317		

【目的とねらい】

スポーツ選手のコンディショニングの一方法としてのテーピング・スポーツマッサージの理論と実習を通してスポーツ障害の管理方法を習得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　テーピングの理論

【　到達目標　】

テーピングに関する歴史的背景、運動学的根拠、効果などについて理解する。

【授業時間外学習】

授業内容をテキストを用いて復習する。(4.0hr)

第２回　テーピング実技（足関節、アンダーラップ）

【　到達目標　】

テーピングの基礎的技術としての足関節のアンダーラップを皺無く巻ける。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第３回　テーピング実技（足関節、テーピング）

【　到達目標　】

テーピングの基礎的技術としての足関節内反捻挫予防用のテーピングを皺無く巻ける。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第４回　テーピング実技（膝関節、アンダーラップ、テーピング）

【　到達目標　】

テーピングの技術として膝関節内反捻挫予防用のアンダーラップ及びテーピングが巻ける。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第５回　テーピング実技（肉離れ、テーピング）

【　到達目標　】

テーピングの技術として大腿部の肉離れ予防用のテーピングが巻ける。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第６回　テーピング実技（足底、テーピング）

【　到達目標　】

テーピングの技術として足底のアーチ用のテーピングが巻ける。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第７回　テーピング実技（踵、テーピング）

【　到達目標　】

テーピングの技術として踵損傷予防用のテーピングが巻ける。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第８回　スポーツマッサージの理論

【　到達目標　】

スポーツマッサージに関する歴史的背景、生理学的根拠、手技、効果などについて理解する。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第９回　スポーツマッサージ実技（足底）

【　到達目標　】

スポーツマッサージの技術として足底部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法など）ができる。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第10回　スポーツマッサージ実技（下腿）

【　到達目標　】

スポーツマッサージの技術として下腿部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法、振せん法など）ができる。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第11回　スポーツマッサージ実技（膝・大腿前面）

【　到達目標　】

スポーツマッサージの技術として膝・大腿前面のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法など）ができる。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第12回　スポーツマッサージ実技（大腿後面・臀部）

【　到達目標　】

スポーツマッサージの技術として大腿後面・臀部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法など）ができる。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第13回　スポーツマッサージ実技（腰・背部）

【　到達目標　】

スポーツマッサージの技術として腰・背部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法、伸展法など）ができる。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第14回　スポーツマッサージ実技（上肢・肩・頚部）

【　到達目標　】

スポーツマッサージの技術として上肢・肩・頚部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法など）ができる。

【授業時間外学習】

授業内容を復習する。(4.0hr)

第15回　テーピング・スポーツマッサージの実施上の諸注意

【　到達目標　】

スポーツ選手のコンディショニングの方法としてのテーピング・スポーツマッサージを包括的に理解する。

【授業時間外学習】

第1回～第14回までの授業内容を復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

二人のペアを作り学習する。そのために、学生同士で、助言や指導を行いながら学習効果をあげるようにする。テーピング・スポーツマッサージは肌に直接触れることを基本とするので、清潔に心がけることと、授業に適切な服装（短パン、Tシャツなど）を着用すること、さらに、バスタオル、テーピング用のはさみを各自用意すること。

なお、授業は４日間の集中講義で行う。全て出席することが大前提である。

【教科書・参考書など】

授業用のテキストを用いる。「すぐにできるスポーツマッサージ」白木仁著（成美堂出版）

【成績評価方法】

テーピング実技試験結果を50%、スポーツマッサージ実技試験結果30%、スポーツマッサージに関する口頭試問結果20%として評価する。

科目名	ダンス・メソッド			担当者	宮　本　乙　女	
英文名	Dance Teaching Method					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME202		

【目的とねらい】

学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション、フォークダンス①②

【　到達目標　】

授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。
取り組みやすい外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】

配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr)

第２回　リズムのダンスによる導入・題材①

【　到達目標　】

授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。
導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。

【授業時間外学習】

配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr)

第３回　創作ダンス・題材②

【　到達目標　】

ダンスとの出逢いの授業。ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。
ひと流れを意識させる示範を検討する。

【授業時間外学習】

配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr)

第４回　創作ダンス・題材③

【　到達目標　】

対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。
極限を引き出す示範の方法を検討する。

【授業時間外学習】

配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr)

第５回　創作ダンス・題材④

【　到達目標　】

群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。
太鼓の使い方を実習する。

【授業時間外学習】

配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr)

第６回　創作ダンス・題材⑤

【　到達目標　】

身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な発表会の指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】

配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr)

第７回　作品の鑑賞と現代的なリズムのダンス・題材⑥

【　到達目標　】

リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】

配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr)

第８回　現代的なリズムのダンス・題材⑦　フォークダンス③

【　到達目標　】

リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。
少し難しいステップのあるフォークダンスと、指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】

配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr)

第９回　即興を生かしたイメージから広げるダンス・題材⑧

【　到達目標　】

人と関わり、お互いの力を生かしあいながら、即興的に踊る体験と、簡単なクラス作品作りの指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】

指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(4.0hr)

第10回　リズムウォームアップ

【　到達目標　】

いろいろなリズムによる音楽を使って、ウォームアップの指導法を学ぶ。
指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。

【授業時間外学習】

指導ＤＶＤを視聴する。指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(4.0hr)

第11回　創作ダンス・題材⑨

【　到達目標　】

絵画のイメージをきっかけとした作品作りを体験する。
グループ創作をクラス作品に構成する方法を学ぶ。
指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。

【授業時間外学習】

指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。(4.0hr)

第12回　グループ作品作りに対する指導方法を学ぶ。指導法実習の準備活動

【　到達目標　】

簡単なデッサンからグループ創作をするときの教師の指導法を学ぶ。
自分で選んだ題材の指導について、太鼓のたたき方や声のかけ方を検討する。
指導法実習のシミュレーションを行う。

【授業時間外学習】

指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。(4.0hr)

第13回　指導法実習①

【　到達目標　】

作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。

【授業時間外学習】

教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(4.0hr)

第14回　指導法実習②

【　到達目標　】

作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。

【授業時間外学習】

教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(4.0hr)

第15回　ダンス学習の評価のポイント

【　到達目標　】

これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを確認し、理解する。

【授業時間外学習】

これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。(4.0hr)

【学習上の留意点】

ダンスは中学校では全領域必修となっている。保健体育教員免許取得希望者・教員志望者はぜひ受講してほしい。中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなどさまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。授業は実技が中心である。ティームティーチング方式によるグループ学習を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、指導法を実践的に身につける。指導者としての心構えを持って受講すること。Ａ４版のノートを使用するので持参すること。

【教科書・参考書など】

教科書として「明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。

【成績評価方法】

授業中の発言内容、活動内容40% 、課題達成度・指導法実習等40%、知識理解(学習カード・ミニレポートなど)20%の割合で評価する。

科目名	比較スポーツ論			担当者	北川　幸夫・小海　隆樹 湯澤　芳貴	
英文名	Comparative Theory of Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SME318		

【目的とねらい】

競技スポーツをそのスポーツの特性に応じ、測定競技（陸上競技、競泳など）、判定競技（球技、格技など）、採点競技（体操競技、新体操など）に分類し、それぞれのスポーツ特性や、運動技能の構造や戦術などを学び、幅広くスポーツを理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　測定競技系種目とその歴史的変遷
【　到達目標　】
測定競技系に分類されるスポーツ種目を確認し、それぞれの種目の歴史的変遷について理解できる。

【授業時間外学習】
測定競技系の歴史的変遷に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第２回　測定競技系種目の特性と競技力の構造
【　到達目標　】
測定競技系種目の特性を理解し、その競技力を技術・戦術・体力それぞれの因子から特徴づけることができる。

【授業時間外学習】
測定競技系の技術・戦術・体力に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第３回　測定競技系種目の競技力を規定する要因
【　到達目標　】
競技規則の改正によるさまざまな変化（施設・設備・器具等）が競技力の向上にも影響を及ぼすことを理解する。

【授業時間外学習】
測定競技系の施設・設備・器具等に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第４回　測定競技系種目のトレーニングの実際
【　到達目標　】
実際のトレーニング内容・方法を知ることで、測定競技系種目の望ましいトレーニングのあり方について理解する。

【授業時間外学習】
測定競技系のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第５回　測定競技系スポーツの今後の発展
【　到達目標　】
勝敗の決定が「測定」となる種目が、将来的にどのような方向に発展していくべきかについて理解する。

【授業時間外学習】
測定競技系の将来性に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

第６回　判定競技系種目とその歴史的変遷
【　到達目標　】
判定競技系に分類されるスポーツ種目を確認し、それぞれの種目の歴史的変遷について理解できる。

【授業時間外学習】
判定競技系の歴史的変遷に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第７回　判定競技系種目の特性と競技力の構造
【　到達目標　】
判定競技系種目の特性を理解し、その競技力を技術・戦術・体力それぞれの因子から特徴づけることができる。

【授業時間外学習】
判定競技系の技術・戦術・体力に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第８回　判定競技系種目の競技力を規定する要因
【　到達目標　】
競技規則の改正によるさまざまな変化（施設・設備・器具等）が競技力の向上にも影響を及ぼすことを理解する。

【授業時間外学習】
判定競技系の施設・設備・器具等に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第９回　判定競技系種目のトレーニングの実際
【　到達目標　】
実際のトレーニング内容・方法を知ることで、判定競技系種目の望ましいトレーニングのあり方について理解する。

【授業時間外学習】
判定競技系のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第10回　判定競技系スポーツの今後の発展
【　到達目標　】
勝敗の決定が「判定」となる種目が、将来的にどのような方向に発展していくべきかについて理解する。

【授業時間外学習】
判定競技系の将来性に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

第11回　採点競技系種目とその歴史的変遷
【　到達目標　】
採点競技系に分類されるスポーツ種目を確認し、それぞれの種目の歴史的変遷について理解できる。

【授業時間外学習】
採点競技系の歴史的変遷に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第12回　採点競技系種目の特性と競技力の構造
【　到達目標　】
採点競技系種目の特性を理解し、その競技力を技術・戦術・体力それぞれの因子から特徴づけることができる。

【授業時間外学習】
採点競技系の技術・戦術・体力に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第13回　採点競技系種目の競技力を規定する要因
【　到達目標　】
競技規則の改正によるさまざまな変化（施設・設備・器具等）が競技力の向上にも影響を及ぼすことを理解する。

【授業時間外学習】
採点競技系の施設・設備・器具等に関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第14回　採点競技系種目のトレーニングの実際
【　到達目標　】
実際のトレーニング内容・方法を知ることで、採点競技系種目の望ましいトレーニングのあり方について理解する。

【授業時間外学習】
採点競技系のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。(4.0hr)

第15回　採点競技系スポーツの今後の発展
【　到達目標　】
勝敗の決定が「採点」となる種目が、将来的にどのような方向に発展していくべきかについて理解する。

【授業時間外学習】
採点競技系の将来性に関して、メディア等を活用して理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

３人の教員によるオムニバス形式の授業である。各５回の授業でまとめのレポートを課題とする。
測定競技を北川、判定競技を湯澤、採点競技を小海が担当する。授業の順番は状況により入れ替わる場合がある。
講義は資料やパワーポイントによって進める。内容によっては板書を行い、説明を聞くだけに終わらず、仲間との話し合いで自己のスポーツ経験を再認識させ、非経験スポーツへの興味関心を促す。授業中スポーツについて多くの質問をするので日頃からニュースなどに興味を持っておくこと。

【教科書・参考書など】

資料を配布する。

【成績評価方法】

レポート100%で評価する。

科目名	障害者スポーツコーチング論			担当者	中　森　邦　男	
英文名	Sport Coaching for Persons with an Impairment					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SME319		

【目的とねらい】

学生が障がいそのものの理解、障がい者スポーツの概要、健常者スポーツとの違い、地域スポーツの現状を学ぶ。特に障がい者スポーツと健常者との違いを明確にし、健常者のスポーツ理論を基本に持ち、どのように応用し、かかわっていくのかを理解する。また、数日間の障がい者のスポーツの実技を通し、その応用方法を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　障がいについて① 【　到達目標　】 アンケート、自己紹介、ビデオ鑑賞により、障がい者スポーツのイメージを得る。 【授業時間外学習】 障がいの理解を深めるため、各自で調べる。(4.0hr)	**第９回　シッティングバレーボール（実技）③** 【　到達目標　】 ゲームを通し、健常者が一緒にできる障がい者スポーツを経験する。 【授業時間外学習】 障がい者スポーツの規則についての理解を深めるため、各自で調べる。(4.0hr)
第２回　障がいについて② 【　到達目標　】 スポーツの位置づけ、目的、効果、パラリンピックの価値を理解する。 【授業時間外学習】 障がい者にとっての運動の重要性について、各自で調べる。(4.0hr)	**第10回　シッティングバレーボール（実技）④** 【　到達目標　】 ゲームを通し、健常者が一緒にできる障がい者スポーツを経験する。 【授業時間外学習】 障がい者スポーツの規則についての理解を深めるため、各自で調べる。(4.0hr)
第３回　障がい者に対する指導法（概論） 【　到達目標　】 個々の障がいに対する留意事項や健常者との違いなどを理解する。 【授業時間外学習】 障がい者にとってのスポーツの効果について、各自で調べる。(4.0hr)	**第11回　障がい者に対する指導法（切断者・脳性まひ者）** 【　到達目標　】 両上肢切断者及び脳性まひ者のビデオ鑑賞により、問題点を理解する。 【授業時間外学習】 両上肢切断者についての理解を深めるため、各自で調べる。(4.0hr)
第４回　障がい者スポーツの歴史・現状（国際） 【　到達目標　】 国際の障がい者スポーツの成り立ちと現状について理解する。 【授業時間外学習】 国際の障がい者スポーツの成り立ちについて、各自で調べる。(4.0hr)	**第12回　障がい者に対する指導法（視覚障がい者）** 【　到達目標　】 全盲者のビデオ鑑賞により、問題点を理解する。 口話による体験、視覚障がい者の介護を経験する。 【授業時間外学習】 脳性まひ者についての理解を深めるため、各自で調べる。(4.0hr)
第５回　障がい者スポーツの歴史・現状（国内） 【　到達目標　】 国内の障がい者スポーツの成り立ちと現状について理解する。 【授業時間外学習】 国内の障がい者スポーツの成り立ちについて、各自で調べる。(4.0hr)	**第13回　障がい者に対する指導法（水泳）** 【　到達目標　】 障がい者に対する水泳指導法について、考え方、導入、留意点などを学ぶ。 【授業時間外学習】 視覚障がい者についての理解を深めるため、各自で調べる。(4.0hr)
第６回　障がい者スポーツの歴史・現状（パラリンピック） 【　到達目標　】 パラリンピックの現状と東京2020パラリンピック大会の現状を学ぶ。 【授業時間外学習】 パラリンピック、東京2020パラリンピックの現状について、各自で調べる。(4.0hr)	**第14回　スポーツ基本法と障がい者スポーツ** 【　到達目標　】 政府の障がい者に対するスポーツ施策を考察する。 【授業時間外学習】 障がい者の水泳指導法についての理解を深めるため、各自で調べる。(4.0hr)
第７回　シッティングバレーボール（実技）① 【　到達目標　】 障がい者、健常者を問わず参加できるスポーツとしてシッティングバレーボール体験を通し、障がい者スポーツの考え方を経験する。 【授業時間外学習】 シッティングバレーボールについての理解を深めるため、各自で調べる。(4.0hr)	**第15回　東京パラリンピックについて** 【　到達目標　】 東京パラリンピックの見どころ、パラリンピックの価値を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ基本計画と障がい者スポーツについて、各自で調べる。(4.0hr)
第８回　シッティングバレーボール（実技）② 【　到達目標　】 シッティングバレーボールの体験と合わせて、柔軟体操などの工夫を経験し、障がいにあった指導を理解する。 【授業時間外学習】 柔軟体操などの工夫をする。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

講義はパワーポイントを用いて要点を指摘し、資料に基づき説明を加える。障がい者スポーツのイメージが少ないことを予想し、障がい者と健常者が一緒に参加できる、シッティングバレーボールの実技により、障がい者スポーツを体験し、規則や動きなど健常者との違いや考え方を理解する。最終的には、学生が将来障がい者のスポーツ指導に直面したときの、対応方法を理解できればと考える。最終日には東京パラリンピックの見どころを紹介し、その価値、レガシーなどを考える。

【実務経験のある教員による授業科目】

障害者スポーツおよびパラリンピックに関する公的機関における実務経験のある教員が、障害者スポーツの概要、健常者との違い、地域スポーツの現状、競技活動の指導法等について講義する。

【教科書・参考書など】

必要としない。資料はコピーにより配布する。

【成績評価方法】

試験は試験期間中に別途実施。
試験の結果を100%として評価する。

科目名	スポーツ運動分析法			担当者	笹 倉 清 則	
英文名	Sport Movement Analysis					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門・選択			
授業形態	講義		科目ナンバー	SME320		

【目的とねらい】

指導対象となるスポーツ運動（その運動形態や運動達成力）を知るためには各種の分析方法が用いられるが、分析する対象とねらいに応じて最適な分析方法を選択することが重要である。スポーツ運動分析の分析方法には量的な方法と質的な方法があり、量的な方法が定量分析、質的な方法が構造分析（定性分析）である。この授業では、定量分析は主としてバイオメカニクス的分析法について、構造分析は主としてモルフォロギー的分析について講義、演習を行う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス

【　到達目標　】

運動に関わるものにとって、対象となる運動を分析することの重要性と、分析から実践の場へフィードバックすることの必要性を理解する。

【授業時間外学習】

これまでのスポーツ運動学の授業などを復習し、運動修正を理解する。(4.0hr)

第２回　運動観察と運動分析

【　到達目標　】

運動分析法の代表的な方法には､バイオメカニクス的な分析方法とモルフォロギー的な分析方法があり､それぞれの違いと観点や問題点を理解する。

【授業時間外学習】

自分の専門種目における､バイオメカニクス的分析と運動学的な分析の事例を調べる。(4.0hr)

第３回　実際の指導現場と運動分析の係わり

【　到達目標　】

運動指導者にとって必要な「見抜く」ための方法と、運動分析の必要性について理解する。

【授業時間外学習】

各自の専門種目におけるトップアスリートの分析例を調べる。(4.0hr)

第４回　トップレベルと運動分析の現状

【　到達目標　】

トップレベルのアスリートのサポートとして、運動分析の現状を野球、陸上、水泳競技などを例に説明し、その重要性を理解する。

【授業時間外学習】

過去の運動分析に関する研究について調べる。(4.0hr)

第５回　運動分析の研究事例

【　到達目標　】

運動分析の研究例を説明し、その方法を理解する。

【授業時間外学習】運動分析の必要性と具体例を、トップアスリート、研究、学校体育のそれぞれに関してまとめる。(4.0hr)

第６回　バイオメカニクス的運動分析法

【　到達目標　】

全員同一の連続写真を利用し、初心者の動作と未熟練者の動作分析をバイオメカニクス的な手法で分析し、その問題点を見抜き、そこから未熟練者への練習課題を導き出す手順と考え方を理解する。

【授業時間外学習】

分析の仕方を理解し、課題である写真分析を仕上げ次回までにレポートを作成する。(4.0hr)

第７回　バイオメカニクス的運動実践

【　到達目標　】

各自が独自の観点で分析し、結論を導き出す。次に各班でそれぞれの発表を行い、意見交換をして班としての一つの結論を導きだす。さらに、それぞれの立場からの観点を確認し、共通点・相違点から班の共通理解としての結論を出す。

【授業時間外学習】

今回の授業で班ごとに話し合った内容を踏まえ、自分の分析の観点の修正を行う。(4.0hr)

第８回　バイオメカニクス的運動分析成果発表（班ごと）

【　到達目標　】

前回までに出た結論を各班の代表者が発表し､全員の共通理解を出す。他の班の考え方や自分たちとの相違点を質問等により理解し合う。

【授業時間外学習】

共通の課題に対する各班の観点や分析方法の違いを理解し、分析方法を見直す。(4.0hr)

第９回　班毎の運動分析課題と実験計画

【　到達目標　】

グループで話し合いを行い、自分達が分析したい課題を見いだし、実験計画を立案する。

【授業時間外学習】

いろいろな観点での分析の仕方を理解し、一つの指導までの課程を理解する。(4.0hr)

第10回　班毎の実験撮影

【　到達目標　】

実際に実験を行い、連続写真を撮影する。

【授業時間外学習】

自分たちの分析に関して、撮影前に仮説を立て実験時の観察視点をつくる。(4.0hr)

第11回　班毎の実験結果と分析

【　到達目標　】

撮影した連続写真をグループで役割分担して分析し､問題点修正までの一連の手順を確認する。

【授業時間外学習】

各班で話し合った分析に関して､役割分担を決めた内容を分析しレポートを作成する。(4.0hr)

第12回　班毎のまとめと発表

【　到達目標　】

分析結果を基に、バイオメカニクス的な分析から運動指導現場への指導方法を導き出す過程を実践し、発表する。

【授業時間外学習】各班の発表を含め、いろいろな観点を理解し、それを各班、各個人の分析方法へ還元させ考察する。(4.0hr)

第13回　球技のゲーム分析について

【　到達目標　】

チームスポーツでは､個々の運動を分析する運動分析と､ゲームを一つの対象として捉えたときのゲーム分析がある。そのゲーム分析の観点や結果をどう指導現場にフィードバックするかを理解する。

【授業時間外学習】チームスポーツでの分析に関して、本時の授業を基に各種目での分析について考察する。(4.0hr)

第14回　ゲーム分析の仕方とゲームへのフィードバック

【　到達目標　】

運動分析のまとめとして、バイオメカニクス的分析と運動学的な分析、そしてそのどちらも同様に指導現場で有効なものであることをまとめ、理解する。

【授業時間外学習】

これまでの授業を基に、改めて運動観察の必要性を運動指導の観点からまとめる。(4.0hr)

第15回　指導者に必要な運動観察の位置づけを再確認

【　到達目標　】

運動を教育実習や部活動で指導する指導者として必要な運動観察、そこからの見抜き、そして運動修正へというプロセスを理解し、あるべき指導者の像を理解する。

【授業時間外学習】今後の各自の運動指導や教育実習を前提として、指導者に必要な観察能力必要な分析方をまとめ理解する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

基本的に講義形式であるが、実際に運動分析をグループとして行う内容を含むため、積極的に自分の専門種目の立場からグループとしての活動や討議に参加することが自分の知識となる。最終的にいくつかの運動の分析を実施するが、他のグループの実験も自分の知識として有効であるため、他の分析にも興味を持ち討議することが重要となる。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業中に2回のレポート課題を提出することになる。それぞれ30％で2つで60%、そして各班でまとめた内容とプレゼンの内容の評価30%、毎回の授業での取り組み10％。

科 目 名	スポーツ・舞踊活動特別実習			担当者	北川　幸夫・佐藤麻衣子	
英 文 名	Specially Sport Methods in Club Activities					
単 位 数	3	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1～3		専門・選択			
授業形態	実習		科目ナンバー	SME321		

【目的とねらい】

大学において、実技授業のみならず、入学後から継続して実施している部活動を通して更に深く専門的にスポーツ活動を続け、他の授業で修得した知識を活かしながら優れた実績を残す。

【授業内容】

1，1年次4月：ガイダンスを受ける事によってスポーツ・舞踊活動特別実習の内容を理解する。

2，1年次における「活動状況」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「戦績」として競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。

3，2年次における「活動状況」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「戦績」として競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。

4，3年次における「活動状況」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「戦績」として競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「4年次に向けての目標および計画」として、これまで3年間のスポーツ活動を踏まえて、またその目標を達成するための計画についてまとめる。

【到達目標】

1，1年次における「戦績」をまとめる事によって、1年次の自分の実績を把握する。「活動状況」と併せてまとめる事によって、1年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。

2，2年次における「戦績」をまとめる事によって、2年次の自分の実績を把握する。「活動状況」と併せてまとめる事によって、2年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。

3，3年次における「戦績」をまとめる事によって、3年次の自分の実績を把握する。「活動状況」と併せてまとめる事によって、3年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。

4，3年次における「4年次に向けての目標および計画」を立てる事によって､これまで3年間のスポーツ活動を踏まえて、卒業するまでの明確な目標を把握する事ができる。

【授業時間外学習】

毎回の活動を練習ノート等に記録する事により、反省すべき点や今後活かせる点を明確にする。特に課題解決については関連する書籍等を積極的に活用し、より有効なスポーツ活動を実施できるようにする。

【学習上の留意点】

大学でスポーツ活動を実施する学生が、さらにそのスポーツ活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、スポーツ活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は1年ごとに実施したスポーツ活動の内容について報告書を提出する。

【教科書・参考書など】

各競技種目に関する専門書や指導書など

科 目 名	卒業研究			担当者		
英 文 名	Graduation Thesis					
単 位 数	6	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3～4		専門・選択			
授業形態	演習		科目ナンバー	SME401		

【目的とねらい】

スポーツ科学専攻において展開されるカリキュラムの中から、一つの専門の領域や分野（研究室）を選択し、各自の興味や関心にふさわしいテーマについて卒業論文として完成させる。３年次からの２年間にわたる活動を通してスポーツ科学の理解をさらに深めるとともに、研究方法にふれながら、スポーツ科学を展開する専門的な能力を高める。また、具体的な研究手法の実践、自分の考えや研究結果のプレゼンテーション（発表）、研究室での仲間との相互学習などの機会を活用して専門性を高めていく。

【授業内容】

具体的な内容や方法は、各研究室の特色に応じて展開するが、以下のような内容・手順を基本とする。

1.基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解
2.研究テーマと基本的な研究計画の設定
3.研究方法及び具体的な手法の確立
4.研究活動の展開（実験、調査、資料収集、分析など）
5.結果の考察のまとめ
6.論文の作成
7.研究成果の報告、発表

【到達目標】

具体的な到達目標は、各研究室の特色に応じて設定するが、以下のような目標設定を基本とする。
1.基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解
　研究分野に則したそれぞれの項目を理解する。
2.研究テーマと基本的な研究計画の設定
　それぞれの興味ある研究テーマを決め、その研究計画を立案する。
3.研究方法及び具体的な手法の確立
　研究テーマに合った研究方法を決定する。
4.研究活動の展開（実験、調査、資料収集、分析など）
　研究に必要な実験、調査等から研究資料を収集する。
5.結果の考察のまとめ
　研究結果を明確にし、それについての考察を行う。
6.論文の作成
　論文の書式に合った文章を作成する。
7.研究成果の報告、発表
　研究成果をパワーポイントなどを用いてわかり易く発表する。

【授業時間外学習】

各担当教員の指示による。

【学習上の留意点】

各担当教員の指示による。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示による。

科目名	教職論			担当者	青　木　純　一	
英文名	Study of Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE101・DTE101・HTE101		

【目的とねらい】

教職論は、教職課程履修者がその仕事・職業の特質について理解を深めることが第１の課題である。その上で、履修学生一人ひとりが、教員免許取得を目指すかどうかを判断する機会を提供することも、課題としている。教師の主たる仕事である、授業や生徒指導等の理解を深めるとともに、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性の意義と養成および採用制度について理解を深める。教職に関わる近年の改革動向と課題を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教師という仕事
【　到達目標　】
オリエンテーション。教師の仕事の特徴を理解し、本科目履修の意思を確認する。
【授業時間外学習】
最近の教職がおかれている状況について学ぶ。(4.0hr)

第２回　「私が出会った教師」を思い出す
【　到達目標　】
履修学生自身がこれまでに出会った教師について振り返り、教職免許取得にあたっての出発点とする。
【授業時間外学習】
過去に出会った教師についてそれぞれの個性や特徴を振り返る。(4.0hr)

第３回　授業をつくる
【　到達目標　】
教師が果たす仕事のうち、多くの比重を占めている授業実践について考察し、理解する。
【授業時間外学習】
授業づくりをする際の留意点について学ぶ。(4.0hr)

第４回　特別活動と生徒指導
【　到達目標　】
授業実践だけでなく、特別活動や生徒指導も教師の仕事として重要であることを理解する。
【授業時間外学習】
特別活動や生徒指導における留意点について学ぶ。(4.0hr)

第５回　校務分掌や学校組織
【　到達目標　】
学校の業務は校務分掌など組織全体を考えて円滑に運営することで大切である。また、スクールカウンセラーや学校司書といった外部スタッフとの連携・協力が今後ますます必要になることを理解する。
【授業時間外学習】
学校における校務分掌の在り方や運営する際の留意点について学ぶ。(4.0hr)

第６回　同僚性と教師文化
【　到達目標　】
同じ職場で働く同僚との協力によって、学校運営が円滑となり、児童生徒のよりよい成長が促されることを理解する。
【授業時間外学習】
学校という組織において教師の同僚性がいかに大切か、事例をもとに学ぶ。(4.0hr)

第７回　教員養成制度―教職に就くまで
【　到達目標　】
「専門職」としての教師を養成する制度である教員養成制度、とりわけ大学における教員養成のシステムを理解する。
【授業時間外学習】
養成、採用、研修を一体化した教育養成制度の在り方について学ぶ。(4.0hr)

第８回　教師の資格と任用、採用試験の動向―教職に就くとき
【　到達目標　】
免許制度と実際の学校に任用される採用試験制度を理解する。また、近年の採用試験の動向を理解する。
【授業時間外学習】
最近の教育採用の実態と特徴について学ぶ。(4.0hr)

第９回　教師の研修―教職に就いてから
【　到達目標　】
教師は教職に就いた後も様々な研修を受ける機会が保障されており、専門性を高めることが期待されていることを理解する。
【授業時間外学習】
教員にとって重要な研修について、法的根拠や制度の背景について学ぶ。(4.0hr)

第10回　教師の仕事とジェンダー
【　到達目標　】
学校は女性にとって働きやすい職場だといわれるが、その学校においても、性別役割分業が存在していることを理解する。
【授業時間外学習】とくに女性教員に焦点を当て、最近の教員の実態や問題点をジェンダーの視点から学ぶ。(4.0hr)

第11回　教師の身分と服務
【　到達目標　】
教師が職務上有している種々の権利や責任について、およびそれらを適切に行使することが必要であることを理解する。
【授業時間外学習】
教員の身分や服務について、実態を法律と絡めて学ぶ。(4.0hr)

第12回　教師像の探求
【　到達目標　】
時代とともに数多くの理想的教師像がつくられてきたことを、具体的な例とともに理解する。
【授業時間外学習】
明治以降の学校や社会がどのような「教師像」を求めていたかを学ぶ。(4.0hr)

第13回　教育改革・学校改革の動向と教師の役割（１）
【　到達目標　】
近年の教育改革・学校改革の動向についての理解を深め、新たに期待される教師の在り方について関心を持つ。
【授業時間外学習】
戦後の教育改革について、とくに教員政策を中心に学ぶ。(4.0hr)

第14回　教育改革・学校改革の動向と教師の役割（２）
【　到達目標　】
前回の続き。
【授業時間外学習】
とくに21世紀に入ってからの教育改革について、教員政策を中心に学ぶ。(4.0hr)

第15回　現代の教職をめぐる課題
【　到達目標　】
これまでの授業をもとに、各自現代の教職をめぐる課題を整理し、自らがめざす教師像をまとめる。
【授業時間外学習】
今日の教員に求められている資質・能力とはなにかについて学ぶ。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本科目を履修することは、学生諸君が「教わる側」から「教える側」へと、立場を移す作業を始めることを意味する。その意味の重さを自覚し、単に出席するにとどまらず、積極的な授業参加を心がけること。また、この授業をきっかけにして、新聞やテレビなどから、教育に関する情報を手に入れる習慣を身につけてほしい。

【教科書・参考書など】

教科書：授業の初回に指示する。
参考書：適宜授業で指示する。

【成績評価方法】

小レポート（30%）および試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教育原論(教育課程を含む)			担当者	小堀　哲郎・瀬川　　大	
英文名	Theory of Education (Theory of Curriculum)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE201・DTE201・HTE201		

【目的とねらい】

教育の基本的概念や理念、教育に関する歴史や思想、教育課程の意義や編成原理、カリキュラムマネジメント等を学ぶ科目である。教育の歴史や思想の中で、教育の概念や理念がどのように変化、発展してきたのかを考察し、現代の教育課題を理解する。また、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に即してカリキュラム・マネジメントを行うことの意義も理解できるようにする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教育の基本的概念　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

教育の基本的概念や理念、教育の目的などについて理解する。

【授業時間外学習】

教育の基本的概念についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第２回　教育の歴史　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

教育の歴史について、古代から現代までの構造的な理解を進める。

【授業時間外学習】

教育の歴史についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第３回　教育の思想―ヨーロッパ　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

ヨーロッパの代表的な教育思想を学び、教育の思想と実際の教育や学校とのかかわりについて理解する。

【授業時間外学習】

ヨーロッパの代表的な教育思想家の著作を読む。(4.0hr)

第４回　教育の思想―日本古代から近世　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

日本の古代から近世までの教育思想について学ぶ。日本の教育の独自の歴史、思想文化的な背景を理解する。

【授業時間外学習】

近世までの日本の教育思想についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第５回　学校の形成　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

学校の成立過程について、古代から近世までを範囲として理解し、日本と諸外国の違いについて学ぶ。

【授業時間外学習】

学校の成立過程について理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第６回　近代教育制度の成立と展開　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

近代の教育制度、学校制度の成立と現代にいたる教育と学校の変遷について理解する。

【授業時間外学習】

近代教育制度、学校制度について理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第７回　地域社会と学校　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

地域社会と学校、家族と学校とのかかわりについて、歴史的経緯を踏まえて理解する。

【授業時間外学習】

地域社会や家族と学校とのかかわりについて理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第８回　現代社会における教育の課題　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

社会の変化に伴う教育のあり方の歴史的変遷について理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉える。

【授業時間外学習】

現代社会における教育の課題について、新聞等を読み多角的に理解する。(4.0hr)

第９回　教育課程の編成原理　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

教育課程の編成原理にはいくつかある。ここでは、それらのうち代表的なものとして、「経験中心主義」と「学問中心主義」について理解する。

【授業時間外学習】

「経験中心主義」と「学問中心主義」についての文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第10回　教育課程編成と学習指導要領　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

学校教育の教育課程における学習指導要領の役割を理解し、その構造を説明できる。

【授業時間外学習】学校教育の教育課程における学習指導要領の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第11回　学習指導要領の変遷　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

学習指導要領の改訂の変遷および改訂内容並びにその社会的背景を理解している。

【授業時間外学習】

学習指導要領の改訂の変遷に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第12回　学力問題　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

近年の教育課程改革をもたらした「学力問題」について、その概要と本質を理解し、説明できる。

【授業時間外学習】

「学力問題」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第13回　教科横断的なカリキュラム編成　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。

【授業時間外学習】

教科横断的なカリキュラム編成に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第14回　新学習指導要領と「主体的・対話的で深い学び」　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

今回行われた学習指導要領の改訂の中で、とりわけ重要視されている「主体的・対話的で深い学び」について、その内容と長期的な指導計画に組み入れる必要性について、理解する。

【授業時間外学習】

アクティブ・ラーニングに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第15回　カリキュラムをどう評価するか　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

教育課程を実践するに際しては評価が伴うこと、およびそのレベルや方法に様々な種類があることを理解し、説明できる。カリキュラム・マネジメントについても理解する。

【授業時間外学習】

教育評価、カリキュラム・マネジメントに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本科目によって、教育に関する基本原理や学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。また、講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。

【教科書・参考書など】

・教科書：授業の初回に指示する。
・参考書：文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価方法】

グループ討論、発表、小レポートなど（30%）、試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教育心理学			担当者	三　好　昭　子	
英文名	Educational Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE202・DTE202・HTE202		

【目的とねらい】

本講義は、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）に関する心理学を学習することを目的とする。教育の現場では、授業を行うだけでなく、子どもたちが示す様々な問題に対処していくことが望まれる。しっかりとした体系をもつ理論を学ぶことで、それらの問題の背景を正しく理解し、心理学に基づいた適切な対処法を考えることができるようになる。そのための基盤作りが本講義のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教育とは何か
【　到達目標　】
(1)教育心理学の考え方を理解する。
【授業時間外学習】
教育心理学の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第２回　認知発達
【　到達目標　】
(1)認知発達について理解する。
【授業時間外学習】
認知発達の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第３回　対人関係の発達
【　到達目標　】
(1)友人関係の特徴や変化について理解する。
(2)恋愛関係の現状や特徴について理解する。
【授業時間外学習】
青年期の対人関係についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第４回　青年期におけるアイデンティティ発達
【　到達目標　】
(1)エリクソンの発達理論について理解する。
(2)青年期におけるアイデンティティ発達について理解する。
【授業時間外学習】
青年期におけるアイデンティティ発達に関する課題を行う。(4.0hr)

第５回　学習のメカニズム
【　到達目標　】
(1)古典的条件づけについて理解する。
(2)オペラント条件づけ・観察学習について理解する。
【授業時間外学習】
学習理論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第６回　内発的動機・外発的動機
【　到達目標　】
(1)基本的な動機について理解する。
(2)内発的動機・外発的動機について理解する。
【授業時間外学習】
動機に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　動機づけの理論
【　到達目標　】
(1)動機づけの理論について理解する。
【授業時間外学習】
動機づけの理論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第８回　学習動機
【　到達目標　】
(1)学習動機について理解する。
(2)意欲を高める方法について理解する。
【授業時間外学習】
学習動機の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第９回　記憶の仕組み
【　到達目標　】
(1)記憶のメカニズムについて理解する。
【授業時間外学習】
記憶の仕組みに関する課題を行う。(4.0hr)

第10回　知識・スキルを獲得する
【　到達目標　】
(1)記憶や知識の種類やその性質について理解する。
【授業時間外学習】
知識・スキルの獲得に関する課題を行う。(4.0hr)

第11回　個に応じた教育
【　到達目標　】
(1)認知やパーソナリティにおける個人差を理解し，個人差に応じた教授技法について理解する。
【授業時間外学習】
個に応じた教育の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第12回　授業
【　到達目標　】
(1)授業の位置づけの変化について理解する。
(2)教えて考えさせる授業について理解する。
【授業時間外学習】
授業についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第13回　教育評価
【　到達目標　】
(1)評価の目的・基準について理解する。
(2)学力・知能・性格を測定するための方法について理解する。
(3)性格検査の結果をもとに自己分析する。
【授業時間外学習】
教育評価の理解と性格検査による自己分析に関する課題を行う。(4.0hr)

第14回　発達障害
【　到達目標　】
(1)発達障害の分類、認知の偏りについて理解する。
(2)障害特性の理解と支援について理解する。
【授業時間外学習】
発達障害の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第15回　適応支援
【　到達目標　】
(1)適応という概念について理解する。
(2)自尊感情を育む。
【授業時間外学習】
適応支援の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。教育評価の回では性格テストを実施し、自己分析をする。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書：市川 伸一・著『学習と教育の心理学 増補版（現代心理学入門３）』岩波書店(2011年)、髙坂康雅・池田幸恭・三好昭子・編著『レクチャー 青年心理学−学んでほしい・教えてほしい青年心理学の15のテーマ』風間書房

【成績評価方法】

毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。

科目名	道徳教育の理論と方法			担当者	瀬　川　　大	
英文名	Moral Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE301・DTE301・HTE301		

【目的とねらい】

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　はじめに―道徳とは何か
【　到達目標　】
道徳ということばが持つ意味や、他の類似概念との違いなどを、自分なりに理解し、説明することができる。

【授業時間外学習】
「道徳」や類似概念に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回　自らの道徳教育経験を振り返る
【　到達目標　】
学校教育における道徳教育の役割、目的、カリキュラム、教育の実践例を理解する。それらをもとに、自分自身が受けてきた道徳教育を意味づけることができる。

【授業時間外学習】
学校教育における道徳教育の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第３回　思春期①―その発達課題
【　到達目標　】
中学校、高等学校の生徒は思春期を生きていることを理解し、特有の発達課題を考えることができる。

【授業時間外学習】
思春期における発達課題に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第４回　思春期②―仲間集団
【　到達目標　】
思春期における成長には仲間集団の存在が必要であることを理解する。また集団の特徴をとらえることができる。

【授業時間外学習】
思春期における仲間集団に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第５回　学校教育活動全体を通じた道徳教育
【　到達目標　】
学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。特に本学は体育大学であることから、保健体育科や部活動における道徳教育について自分なりに説明できる。
【授業時間外学習】学校における教育活動全体を通じた道徳教育に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第６回　道徳教育の歴史
【　到達目標　】
道徳教育の目的と内容の歴史的な変化をたどり、現代の道徳教育の目的と課題を総合的に理解する。

【授業時間外学習】
道徳教育の歴史に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第７回　「特別の教科　道徳」の誕生
【　到達目標　】
小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、「特別の教科　道徳」が誕生するにあたり、その特徴と、従来の「道徳の時間」との相違点について説明できる。

【授業時間外学習】
「特別の教科　道徳」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第８回　道徳教育の領域①―主として自分自身に関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を、4つの視点から理解する。本時では「A.主として自分自身に関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について説明できる。

【授業時間外学習】「A.主として自分自身に関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第９回　道徳教育の領域②―主として人との関わりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「B.主として人との関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学習】「B.主として人との関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第10回　道徳教育の領域③―主として集団や社会とのかかわりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「C.主として集団や社会との関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学習】「C.主として集団や社会との関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第11回　道徳教育の領域④―主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学習】「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第12回　学習指導案の作成
【　到達目標　】
授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。
高等学校教育をより深く学ぶ学生は、高等学校における道徳教育を構想することができる。

【授業時間外学習】
道徳科の学習指導案作成に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第13回　道徳科の学習評価
【　到達目標　】
道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。

【授業時間外学習】道徳科の学習評価に関連する文献を図書館等で探して読む。教育実習における道徳指導に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第14回　模擬授業と振り返り―読み物教材を用いた授業
【　到達目標　】
読み物資料を用いた模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。

【授業時間外学習】
読み物教材を用いた道徳科の授業実践に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第15回　多様な教材と指導方法
【　到達目標　】
道徳科には多様な教材や指導方法があることを理解し、それらの特徴を踏まえた授業設計を行うことができる。特に、「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業を設計することができる。
【授業時間外学習】
道徳科の教材や指導方法に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

各回のテーマに沿いながら学習を深め、同時に講義全体で学校における道徳教育のあり方を理解することを目標とする。授業時間内だけではなく、日頃から新聞、テレビのニュースなどから社会、学校のなかの道徳や道徳教育の様子、中高校生の生き方など、幅広くとらえるようにしたい。単なるタテマエではない道徳教育のあり方を考えていってほしい。

【教科書・参考書など】

文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（最新版）

【成績評価方法】

小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教育の方法と技術			担当者	須　甲　理　生	
英文名	Methodology of Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE203・DTE203・HTE203		

【目的とねらい】

本講義では、新学習指導要領で求められる資質・能力を子供たちに習得させていくために必要な、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。具体的には、まず、教育の方法として、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開方法、学習成果を確実に上げるための基礎的条件と内容的条件、目標に準拠した評価や指導と評価の一体化等に関する学習評価について理解していく。次に、教育の技術として、授業中の子供たちに対する相互作用行動（言葉がけ）、学習指導案の作成方法について理解していく。最後に、情報機器を効果的に活用した授業の展開方法についても具体的な授業実践例を踏まえながら理解していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　新学習指導要領で求められる資質・能力と保健体育科における見方・考え方
【　到達目標　】
教育方法の基礎的理論と実践について理解すると共に、新学習指導要領で求められる資質・能力の各要素と要素間の関係性について保健体育科という教科の特性の視点から理解する。また、保健体育科における見方・考え方について説明できるようにする。
【授業時間外学習】新学習指導要領解説における教科の目標とその解説を読んで、現行要領の違い等をまとめる。(4.0hr)

第２回　主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実現（1）
【　到達目標　】
主体的・対話的で深い学びとは何か、また、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開方法について、具体的な授業研究の成果や授業映像から理解する。
【授業時間外学習】
主体的・対話的で深い学びを取り入れた体育あるいは保健授業の具体例を作成する。(4.0hr)

第３回　主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実現（2）
【　到達目標　】
課題として作成してきた主体的・対話的で深い学びを取り入れた体育あるいは保健授業の具体例をもとに、グループで討論し、主体的・対話的で深い学びを授業に取り入れる際の原理・原則を見付けることができるようにする。
【授業時間外学習】
主体的・対話的で深い学びを取り入れた体育あるいは保健授業の具体例を再構成する。(4.0hr)

第４回　授業の基礎的条件と内容的条件
【　到達目標　】
教育方法の基礎的理論である授業の基礎的条件（学習規律の確立等）と内容的条件（目標・内容・教材、教具・方法の一貫性等）について、説明できるようにする。また、学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解する。
【授業時間外学習】
基礎的条件と内容的条件について記載された資料（論文）を読んでまとめる。(4.0hr)

第５回　体育授業と学級経営の関係性
【　到達目標　】
体育授業の基礎的条件に関わっては、学級経営と密接に関連していることを具体例を挙げながら説明できるようにする。
【授業時間外学習】
体育授業と学級経営の教育方法の関連性に関する論文を読み、小レポートを作成する。(4.0hr)

第６回 学習評価の基礎的な考え方
【　到達目標　】
目標に準拠した評価、指導と評価の一体化、観点別学習状況の評価の考え方について説明できるようにする。
【授業時間外学習】
学習評価に関する小レポートを作成する。(4.0hr)

第７回 授業における教師の効果的な相互作用行動（1）
【　到達目標　】
主体的・対話的で深い学びを実現するための教師の効果的な相互作用行動について理解する。
【授業時間外学習】
相互作用行動について記載された資料（論文）を読んでまとめる。(4.0hr)

第８回　授業における教師の効果的な相互作用行動（2）
【　到達目標　】
教師による発問、肯定的な言葉がけ、矯正的な言葉がけ、励まし等の在り方について、授業場面を想定して、具体例を挙げながら説明できるようにする。また、基礎的な板書の技術を身に付ける。
【授業時間外学習】
授業場面の具体例を用いた相互作用に関する小レポートを作成する。(4.0hr)

第９回　学習指導案の作成方法（1）
【　到達目標　】
学習指導案例を基に、目標・内容、教材・教具、学習形態等の一貫性を有する授業の設計方法について理解する。
【授業時間外学習】学習指導案例を基に、目標・内容、教材・教具、学習形態等の一貫性についてまとめる。(4.0hr)

第10回　学習指導案の作成方法（2）
【　到達目標　】
学習指導案例を基に、評価規準及び基準の設定方法、評価計画の作成方法について理解する。
【授業時間外学習】学習指導案例を基に、評価規準及び基準の設定方法、評価計画の作成方法についてまとめる。(4.0hr)

第11回　学習指導案の作成方法（3）
【　到達目標　】
子供たちにおける思考力・判断力・表現力等の習得を促す学習カードやワークシートの作成方法について理解する。また、思考力・判断力・表現力等の学習評価に関する基礎的な考え方を理解する。
【授業時間外学習】
具体的な授業を想定して、学習カードやワークシートを作成する。(4.0hr)

第12回　情報機器を効果的に活用した授業の展開方法（1）
【　到達目標　】
教師による子供たちへの課題提示場面での情報機器の効果的な活用方法について説明できるようにする。
【授業時間外学習】
課題提示場面での情報機器の効果的な活用方法について小レポートを作成する。(4.0hr)

第13回　情報機器を効果的に活用した授業の展開方法（2）
【　到達目標　】
子ども達の対話的な学びの場面における情報機器の効果的な活用方法について説明できるようにする。
【授業時間外学習】対話的な学びの場面における情報機器の効果的な活用方法について小レポートを作成する。(4.0hr)

第14回 情報機器を効果的に活用した授業の展開方法（3）
【　到達目標　】
情報機器を活用した授業の展開方法について、具体例を挙げながら説明できるようにする。
【授業時間外学習】
情報機器を活用した授業の展開方法について、具体例を作成する。(4.0hr)

第15回　保健体育教師が授業から学び続けるということ
【　到達目標　】
保健体育教師は、授業の設計・実施・評価（省察）の一連のサイクルの中で、子ども達の反応や学習成果から学び、不断に授業の力量を形成し続けることが必要であること、また、教師として学び続けるための方法について理解する。
【授業時間外学習】
保健体育教師が学び続けることの意義、そのための方法についてレポートを作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教育実習において、学校現場の生徒に大きな影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要になる。学習指導案やレポート等の課題、テストにも積極的に取り組むことが大切である。

【教科書・参考書など】

・文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編』（2018年）東山書房
・文部科学省『教育の情報化に関する手引き』（2010年）
・文部科学省『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』（2019年）東山書房

【成績評価方法】

毎授業後に課す小レポート等の課題（50%）、試験（50%）

科目名	特別支援教育入門			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Introduction to Special Support Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE204・DTE204・HTE204		

【目的とねらい】

特別支援教育の入門編として、様々な障害のある子どもとともに、障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもも含め、特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための基礎的知識や支援方法を理解することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回 特別支援教育を支える理念
【　到達目標　】
(1)障害の概念、特別支援教育の歴史的変遷について理解する。
(2)自立、地域社会への参加、インクルージョンなどの理念について理解する。
(3)合理的配慮の考え方について理解する。
【授業時間外学習】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第２回　視覚・聴覚・言語障害のある子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)「国際生活機能分類」による障害の捉え方を説明できる。
(2)視覚・聴覚・言語障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第３回　知的障害のある子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)知的障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第４回　肢体不自由、重症心身障害、病弱、医療的ケア児の理解と支援
【　到達目標　】
(1)肢体不自由・重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(3)病弱、医療的ケア児について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第５回　発達障害（LD、ADHD、ASD）のある子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)LD-学習障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)ADHD-注意欠陥多動性障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(3)ASD-自閉症スペクトラム障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第６回　発達障害（DCD）、運動の苦手な子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)DCD-発達性協調運動障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)運動の苦手な子どもの発達を支援するための理論と実際を理解する。
【授業時間外学習】
授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)

第７回　LGBT、母国語の違い等の理解と支援
【　到達目標　】
(1)LGBTについて理解し、支援の在り方を説明できる。
(2)母国語の違い等、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上について理解し、対応のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)

第８回　貧困、虐待、DV、社会的養護等の理解と支援
【　到達目標　】
(1)貧困、虐待、DV、社会的養護等により、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上の困難について理解し、対応のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第９回 特別支援教育に関する教育課程、個別の指導計画・支援計画
【　到達目標　】
(1)特別支援教育に関する教育課程について理解する。
(2)特別支援教育課程に基づいた、個別の指導計画・支援計画の作成について理解する。
(3)「通級による指導」「自立活動」について理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第10回 教員間の連携・協働
【　到達目標　】
(1)クラス内の人的配置、学校内の連携体制を理解する。
(2)情報の共有と守秘義務について理解する。
(3)特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第11回　家庭への理解と支援
【　到達目標　】
(1)障害のある子どもを育てる家庭への子育て支援について理解する。
(2)ライフステージに応じた親やきょうだいへの支援について理解する。
(3)保護者間の交流や支え合いの意義とその支援について理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第12回 地域における自治体・関係機関の連携・協働
【　到達目標　】
(1)障害児支援の制度政策について理解する。
(2)特別支援学校、教育委員会、医療機関等の連携・協働について理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第13回　特別の支援を必要とする子どもの現状と課題（１）保健・医療
【　到達目標　】
(1)保健をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
(2)医療をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第14回　特別の支援を必要とする子どもの現状と課題（２）福祉・教育
【　到達目標　】
(1)福祉をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
(2)教育をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第15回　特別の支援を必要とする子どもの現状と課題（３）地域
【　到達目標　】
(1)地域における支援の場の広がりとつながりを理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

実際に特別支援学校・特別支援学級の児童とかかわる機会を持ちながら学習し、理論と実際を結び付けて理解を深めていくことを勧める。貧困や虐待問題等、社会の動向にも目を向け、家族や関係機関、地域社会の人々との連携の進め方など幅広い視点を学習し、自らが主体的に子どもの育ちの支援にかかわることを想定しながら取り組んでほしい。

【教科書・参考書など】

教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。
参考書：文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価方法】

各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。
期末に試験を行う。

科目名	教育社会学			担当者	小　堀　哲　郎	
英文名	Sociology of Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE302・DTE302・HTE302		

【目的とねらい】

教育や学校に関する事項について社会学的な視点で学ぶ科目である。現代社会の状況の変化がもたらす学校教育への影響ならびに、現代の子どもたちの生活の変化に伴って生じる指導上の課題を理解する。また、日本のみならず諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することに加え、近年重要性を増している、学校と地域との連携に関する意義や方法を理解し、学校管理下で生じる事件や事故等に対応するために学校安全に関する基礎的知識を身につけることも目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　学校を取り巻く状況の変化
【　到達目標　】
グローバル化・情報化・少子化などの社会の変化に伴う学校のありかたについて理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第２回　ライフコース
【　到達目標　】
急速に変化をしている日本人のライフコースにおける教育の意味や役割について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第３回　少子社会の家族と子ども
【　到達目標　】
少子社会における家族と子どものありようについて、虐待等を事例に理解を深める。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第４回　子どもの人間関係
【　到達目標　】
子どもたちの人間関係の変化について、仲間意識や友だちづくりの点から理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第５回　子どもの学力と体力
【　到達目標　】
子どもの学力と体力がどのように変化してきているかを理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第６回　学力と意欲の階層差
【　到達目標　】
格差社会との関連で、学力と意欲の階層差について提起されている問題点を理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第７回　　いじめ・不登校
【　到達目標　】
教育社会学の主要テーマである「いじめ」と「不登校」について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第８回　資格社会と就職
【　到達目標　】
日本における学校卒業後の就職の状況について、歴史的経緯をふまえて理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第９回　インターネット社会と若者
【　到達目標　】
インターネットの普及による社会変動をどう捉えていくのかを若者を中心に理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第10回　学習指導要領改訂の理念
【　到達目標　】
「主体的・対話的で深い学び」を中心に、新しい学習指導要領の理念を理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第11回　学び続ける教師
【　到達目標　】
教員に要求される役割と専門的資質・能力について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第12回　諸外国の教育事情と教育改革
【　到達目標　】
アメリカ・イギリス・韓国・フィンランドなどの諸外国の教育事情について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第13回　学校と地域の連携
【　到達目標　】
地域との連携による学校教育活動の意義を具体的に理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第14回　開かれた学校づくりへの課題
【　到達目標　】
学校と地域の連携や協働による「開かれた学校づくり」の経緯を踏まえ、今後の課題を理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第15回　学校安全への対応
【　到達目標　】
学校管理下で起こる事件や事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業は主として教員による講義形式とするが、毎回の授業終了時に500字程度の「授業内レポート」を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

試験は「試験期間中に別途実施する」。
授業内レポート（40%）、定期試験（60%）。

科目名	教育相談			担当者	角　田　和　也	
英文名	Educational Counseling					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE303・DTE303・HTE303		

【目的とねらい】

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。

本授業では、特に生徒を中心とした子ども発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション／教育相談とは何？
【　到達目標　】
(1)自分の理解している「教育相談」とは何かを説明できる。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　教育相談の実際
【　到達目標　】
(1) 教育相談の実際について、正しい認識をもつことができる。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　学校における教育相談の意義
【　到達目標　】
(1)教員を目指す学生が教育相談を学ぶ意義を理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　教育相談の基本的事項①　実践のための基本的な理論・概念①
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践に必要な、臨床心理学（カウンセリング）の基本理論・概念を理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回 教育相談の基本的事項②　実践のための基本的な理論・概念②
【　到達目標　】
(1)前回の授業内容を踏まえ、教育相談で実践されている臨床心理学（カウンセリング）の理論・概念について理解を深める。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　教育相談の基本的事項③　カウンセリングマインドの必要性
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　生徒理解の方法①　「きく」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。
(2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　生徒理解の方法②　「きく」ことについて②
【　到達目標　】
(1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　生徒理解の方法③　「話す」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。
(2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　生徒理解の方法④　「話す」ことについて②
【　到達目標　】
(1)不快に思われない話し方について理解を深める。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　生徒理解の方法⑤　「みる」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。
(2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　生徒理解の方法⑥　「みる」ことについて②
【　到達目標　】
(1)みられている側の気持ちを理解する。
(2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回　教育相談の展開①　「私」が教育相談を行うために
【　到達目標　】
(1)テーマに沿って､実際に教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　教育相談の展開②　連携の必要性について
【　到達目標　】
(1)実際に教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　教育相談の展開③　組織的な取り組みの必要性について
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学習上の留意点】

①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。
②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。
③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。

【教科書・参考書など】

・１回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。
・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらも参考にしてください。
・参考書：文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価方法】

・提出物の評価……50%　　期末試験の結果……50%
・試験は試験期間中に別途実施します。

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			担当者	稲　井　達　也	
英文名	Special Activities & Integrated Learning					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE304・DTE304・HTE304		

【目的とねらい】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に位置づけられている特別活動について理解し、中学校・高等学校の学級担任として、この指導ができる知識と能力を培い、望ましい指導のあり方を研究するとともに、特別活動の存在意義について考える。また、総合的な学習の時間の意義や狙いについて理解するとともに、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すとともに、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するためのカリキュラム編成、指導計画の作成、具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けるため、具体的な実践事例を通して検討する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　特別活動のカリキュラム、中学校と高等学校の特別活動の目標、指導と評価、地域との連携

【　到達目標　】教育課程の中での特別活動の位置付けについて知る。

また、中学校特別活動の目標について、特別活動における「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点から理解するとともに、評価について理解する。また、「地域に開かれた教育課程の実現」の観点から特別活動を考える。

【授業時間外学習】

学習指導要領解説編を通読し、全体の構成を把握する。(4.0hr)

第２回　特別活動と各教科等の関連性、学級活動・ホームルーム活動　1.目標と内容

【　到達目標　】

特別活動と各教科等との関連性について知る。また、担任教員の役割について理解するとともに、実例を通して、中学校における学級活動、高等学校におけるホームルーム活動について理解する。

【授業時間外学習】

ホームルーム活動の実例について検討する。(4.0hr)

第３回　学級活動・ホームルーム活動 2.年間指導計画と学級担任の指導

【　到達目標　】

学級活動、ホームルーム活動の年間指導計画を理解し、実際に学級担任の指導について、模擬授業を通して体験的に理解する。

【授業時間外学習】

ホームルーム活動の年間指導計画の作成について整理する。(4.0hr)

第４回　学級活動・ホームルーム活動 3.学級活動・ホームルーム担任の実務

【　到達目標　】

学級・ホームルーム担任の実務について理解するとともに、担任の立場に立って、実例を検討し、より良い学級づくり、望ましい集団形成について考える。

【授業時間外学習】

学級・ホームルーム担任の1年間の実務について一覧表に整理する。(4.0hr)

第５回　生徒会活動の目標と内容

【　到達目標　】

生徒会指導の目標と内容について理解するとともに、生徒会担当者の立場に立って、実例を検討し、集団における合意形成などについて具体的に理解する。

【授業時間外学習】

生徒会指導の実例について検討する。(4.0hr)

第６回　学校行事の目標と内容、儀式的行事、文化的行事

【　到達目標　】

学校行事の目標と内容について理解するとともに、儀式的行事、文化的行事の指導について検討する。また、文化祭指導の実例を検討し、集団における合意形成などについて具体的に理解する。

【授業時間外学習】

文化祭の指導計画を立案する。(4.0hr)

第７回　学校行事　健康安全・体育的行事

【　到達目標　】

健康安全・体育的指導について理解するとともに、運動会・体育祭指導の実例を検討し、集団における合意形成などについて具体的に理解する。

【授業時間外学習】

体育祭の指導計画を立案する。(4.0hr)

第８回　学校行事　旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事

【　到達目標　】

旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事について理解するとともに、修学旅行、合宿の実例について検討し、望ましい集団形成について考える。また、修学旅行の指導計画を立案する。

【授業時間外学習】

修学旅行の指導用プリントを作る。(4.0hr)

第９回　総合的な学習の時間の目標と内容、各教科等との関連、「主体的・対話的で深い学び」の過程

【　到達目標　】

総合的な学習の時間の目標と内容について理解するとともに、各教科等との関連性を踏まえたカリキュラム編成等の留意点や高等学校の総合的な学習の時間の方向性について検討する。また、総合的な学習の時間における「主体的・対話的で深い学び」の過程について考える。

【授業時間外学習】

出身校等の総合的な学習の時間のカリキュラムについて調べる。(4.0hr)

第10回　総合的な学習の時間の意義と課題　総合的な学習の時間のカリキュラム編成、指導と評価

【　到達目標　】

総合的な学習の時間の意義と実施する上での課題などについて理解するとともに、総合的な学習の時間のカリキュラム編成、指導と評価について知る。

【授業時間外学習】

総合的な学習の時間の意義と実施上の課題についてまとめる。(4.0hr)

第11回　総合的な学習の時間のカリキュラム研究1 キャリア教育の観点

【　到達目標　】

総合的な学習の時間のカリキュラムのうち、進路指導に焦点を当てた、中学校、高等学校の特色あるカリキュラムの実践事例を検討する。

【授業時間外学習】検討した総合的な学習の時間のキャリア教育の観点でのカリキュラムについてまとめる。(4.0hr)

第12回　総合的な学習の時間のカリキュラム研究2 探究的な学習の観点

【　到達目標　】

総合的な学習の時間のカリキュラムのうち、探究的な学習に焦点を当てた高等学校の特色あるカリキュラムの実践事例を検討する。

【授業時間外学習】検討した総合的な学習の時間の探究的な学習の観点でのカリキュラムについてまとめる。(4.0hr)

第13回　総合的な学習の時間の環境整備　学校図書館の整備と活用

【　到達目標　】

総合的な学習の時間を推進する上で、環境整備について理解するとともに、学校図書館を活用した特色ある実践事例について検討する。

【授業時間外学習】

総合的な学習の時間における学校図書館の活用についてまとめる。(4.0hr)

第14回　総合的な学習の時間と社会に開かれた教育課程の実現

【　到達目標　】

総合的な学習の時間における「社会に開かれた教育課程」の在り方について理解するとともに、高校における「社会に開かれた教育課程の実現」を目指した特色ある実践事例を検討する。

【授業時間外学習】

道徳と、総合的な学習の時間の内容、目標について確認する。(4.0hr)

第15回　総合的な学習の時間とグローバル教育

【　到達目標　】

グローバル教育の観点から総合的な学習の時間について理解するとともに、高校の総合的な学習の時間におけるグローバル教育の視点に立った特色ある実践事例について検討する。

【授業時間外学習】

改めて学習指導要領解説編を読み、課題にそって自分の理解をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

特別活動が学校教育に果たす役割は大きい。授業では、学習指導要領の理解はもとより、学校の即戦力となるよう、教師としての教育実践力を身につける。これまで出会った中学校・高等学校時代の先生やクラスメートとのやり取りを振り返りながら、「学校の先生」になるためのイメージを膨らませ、受け身の授業にならないように積極的な学習に努めること。学習指導要領の解説書をよく読み込むことと、具体的な教員の業務などのシミュレーションや、学生同士のディスカッション、実例、実践事例の検討(ケース・スタディー)等の学習に積極的に参加することを通して、実践的な指導力を身につけていってもらいたい。

【教科書・参考書など】

文部科学省『中学校学習指導要領解説特別活動編』（最新版）、文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』(最新版)を毎時間持参する。

【成績評価方法】

毎時間のミニレポート・各種提出課題40%、定期試験60%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	生徒指導法(進路指導を含む)			担当者	三　好　昭　子	
英文名	Guidance Services in School (Career Counseling)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE305・DTE305・HTE305		

【目的とねらい】

生徒指導・進路指導は学習指導とともに教育の二大支柱の一つであり、学習指導に劣らず重要なものである。特に、いじめ、不登校、非行などの問題の改善・克服は生徒指導・進路指導上の重要な課題であり、児童生徒の将来、すなわち生き方やキャリア形成につながっていく。本講義は、生徒指導・進路指導の目的や方法、意義などの基本的な内容を理解した上で、今日的課題の特徴やそれに対する対応についての理解を深めることを目的とする。生徒指導・進路指導は幅が広くかつ高い専門性を必要とするため、教職についてからも継続的に自己研鑽を積むことが必要である。そのための基盤作りをすることが本講義のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　生徒指導の目的と必要性（意義）
【　到達目標　】
(1)生徒指導の目的とその必要性（意義）について理解する。
(2)教育課程における生徒指導の位置付けを理解する。
(3)各教科や特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解する。
【授業時間外学習】
生徒指導の目的と必要性（意義）についての理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第２回　学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組
【　到達目標　】
(1)学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解する。
(2)学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組を通してのアイデンティティ形成について理解する。
【授業時間外学習】学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組についての理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第３回　基本的信頼感の発達
【　到達目標　】
(1)基本的信頼感の発達について理解する。
(2)愛の本質的特徴である無条件性と相互性について理解する。
(3)愛の対極について理解する。
【授業時間外学習】
基本的信頼感の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第４回　自律性の発達
【　到達目標　】
(1)自律性の発達について理解する。
(2)基礎的な生活習慣の確立のための日々の生徒指導の在り方を理解する。
【授業時間外学習】
自律性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第５回　主導性の発達
【　到達目標　】
(1)主導性の発達と役割実験について理解する。
(2)規範意識醸成のための日々の生徒指導の在り方を理解する。
【授業時間外学習】
主導性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第６回　否定的アイデンティティ「どうせ私は～」の心理
【　到達目標　】
(1)否定的アイデンティティについて理解する。
(2)児童生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。
【授業時間外学習】
否定的アイデンティティの理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　生産性の発達と進路への自覚
【　到達目標　】
(1)生産性と劣等感について理解する。
(2)自己効力感について理解する。
【授業時間外学習】
生産性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第８回　集団指導・個別指導
【　到達目標　】
(1)集団指導について理解する。
(2)個別指導について理解する。
(3)生徒指導体制と教育相談体制について理解する。
【授業時間外学習】
集団指導と個別指導について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第９回　専門家や関係機関との連携
【　到達目標　】
(1)生徒指導における校内の連携について理解する。
(2)生徒指導における外部機関との連携について理解する。
(3)生徒指導における専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。
【授業時間外学習】
専門家や関係機関との連携について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第10回　非行・性非行・暴力行為
【　到達目標　】
(1)喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導について理解する。
(2)非行・性非行・暴力行為の背景について理解する。
(3)非行・性非行・暴力行為への対応の基本について理解する。
【授業時間外学習】
非行・性非行・暴力行為について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第11回　いじめ（インターネット含む）・不登校
【　到達目標　】
(1)いじめ（インターネット含む）の実態、要因について理解する。
(2)いじめ防止対策推進法について理解する。
(3)不登校の実態・要因、およびその対応について理解する。
【授業時間外学習】
いじめ（インターネット含む）・不登校について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第12回　生徒指導に関する法令
【　到達目標　】
(1)校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。
(2)児童虐待への対応を理解する。
【授業時間外学習】
生徒指導に関する法令や児童虐待について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第13回　進路指導・キャリア教育の意義と原理
【　到達目標　】
(1)教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解する。
(2)学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。
(3)進路指導における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解する。
【授業時間外学習】
進路指導・キャリア教育の意義と原理について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第14回　全体に対する進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法
【　到達目標　】
(1)職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
(2)ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解する。
【授業時間外学習】全体に対する進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第15回　個別の進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法
【　到達目標　】
(1)生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。
(2)キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。
【授業時間外学習】個別の進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながら、メモを取り、自分なりのノートを作成する。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、生徒指導に関する様々な問題について自分の考えをまとめていくことが必要である。課題の内容は期末テストとも対応しているので、しっかり復習すること。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書：日本青年心理学会企画『君の悩みに答えよう：青年心理学者と考える10代・20代のための生きるヒント』福村出版
文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）、文部科学省『生徒指導提要』(最新版)

【成績評価方法】

毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。

科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	須甲　理生・小堀　哲郎・高橋　修一 宮本　乙女・助友　裕子・瀬川　　大 沢田真喜子・山下敬緯子・髙野美和子	
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	演習		科目ナンバー	STE401・DTE401・HTE401		

【目的とねらい】

この科目は、教職課程の総仕上げとして、教育実習経験を踏まえて、学生による発表やグループ討論によって、学生ひとり一人が自己の学修課題を見つけ、課題解決のための学修を積極的に進めていく。そのため教育実習を踏まえた課題の発表は、中学校・高等学校の体育実技の授業を分けて検討する。また、保健分野及び学級活動を含む特別活動との関わりで、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。演習全体として、保健体育の教科の指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教職課程学修の振り返りと自己の課題確認
【　到達目標　】
授業開始までの夏季休業期間中に、教育実習を振り返り、課題レポートを提出する。
【授業時間外学習】
教育実習を振り返り、課題レポートを作成する。(4.0hr)

第２回　保健体育科教員の使命と責任（講義）
【　到達目標　】
今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について、再確認する。
【授業時間外学習】今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。(4.0hr)

第３回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）①
【　到達目標　】
中学校保健体育科（体育分野）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）
【授業時間外学習】
中学校保健体育科（体育分野）の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)

第４回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）②
【　到達目標　】
高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）
【授業時間外学習】
高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)

第５回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③
【　到達目標　】
中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）
【授業時間外学習】中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)

第６回　保健体育科教員に求められる教科の指導力①
【　到達目標　】
第３～４回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。
【授業時間外学習】
指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。(4.0hr)

第７回　保健体育科教員に求められる教科の指導力②
【　到達目標　】
第５回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。
【授業時間外学習】
指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。(4.0hr)

第８回　教科外における生徒指導について　「学校生活改善プロジェクト」の実践①
【　到達目標　】
あらかじめ考えてきた活動内容を持ち寄りプロジェクトを決定し、具体的な対策を検討。実際に現場に出て観察、聞き取り、巡回などを行った後、本日の活動をまとめ、次回までに取り組んでくる内容を決定する。
【授業時間外学習】
各自プロジェクト内容を考案してくる。(4.0hr)

第９回　教科外における生徒指導について　「学校生活改善プロジェクト」の実践②
【　到達目標　】
プロジェクト活動の続きを行い、報告書を完成させ、グループ間で発表を行う。
【授業時間外学習】
プロジェクトを継続して行い、問題点等を記録しておく。(4.0hr)

第10回　特別活動・部活動から学んだこと
【　到達目標　】
事例に基づきグループ討論を行う。
【授業時間外学習】
グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。(4.0hr)

第11回　自己の学修課題の確認と研究活動
【　到達目標　】
第３回～10回の発表・討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実技能力の課題の補完に向けて各自研究活動を進める。
【授業時間外学習】
これまでに学んできたことを生かして、新たな指導案を作成する。(4.0hr)

第12回　教員として求められる社会性・対人関係能力は何か（講話）
【　到達目標　】
現職教員を招き、現場の実情について講話を聞くことにより、教職現場で求められている教員としての能力を把握し、これから何をすべきかを明確にする。
【授業時間外学習】
教員として求められる社会性・対人関係能力について理解を深める。(4.0hr)

第13回　教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題（講話）
【　到達目標　】
現職教員を招き、教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深め、教育現場で果たすべき義務と責任を果たすための心構えを養い、さらにはライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについての準備をする。
【授業時間外学習】教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。(4.0hr)

第14回　各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価
【　到達目標　】
第11回における研究活動およびその後の授業時間外学習の成果を発表相互に発表しあい、討論を行う。
【授業時間外学習】
各自の研究活動の成果発表から学んだことを整理する。(4.0hr)

第15回　魅力ある教員をめざして―まとめレポートの作成と意見交換―
【　到達目標　】
教員としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。
【授業時間外学習】
教員としての資質能力（実技・知識・教職の適性）について理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

夏季休業期間中に、６月に行った教育実習を振り返り、各自の実習中の課題等についてレポートを提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。なお、教職実践演習は、グループでのディスカッション、ポスター作成、事例研究等のアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業スタイルで進められる。そのため、受講生には、主体的に学修に取り組む態度が求められる。また、授業の中、あるいは、課題として作成される学習指導案、ポスター、事例研究のディスカッション内容等については、担当教員から適宜フィードバックされる。

【教科書・参考書など】

テキスト：「教職実践演習テキスト」（学内作成予定）、学習指導要領、「体育教育学入門」（大修館）、「体育実技書」
参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実践研究」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習時に作成する教科指導案、「教育実習の手引き」「教育実習ノート」等

【成績評価方法】

各種レポート等の提出状況と完成度等を総合的に評価する。（履修カルテ：10%、第２回から第10回までの授業内提出物：40%、自己の学修課題の確認と研究活動により作成した指導案：30%、「魅力ある教員をめざして」に関するまとめレポート：20%）
なお、良好な出席状況は、当然の前提である。

科目名	教育実習（事前・事後指導を含む）			担当者	髙橋　修一・山下敬緯子 湯澤　芳貴・須甲　理生 瀬川　　大	
英文名	Teaching Practice					
単位数	5	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	実習		科目ナンバー	STE402・DTE402・HTE402		

【目的とねらい】

「教育実習」は、大学内で行う「事前･事後指導」（1単位）と実習校で行う「実習校実習」（4単位）からなる。「事前・事後指導」は2年次後期から始まり、講義、外部講師による講話、上級生からの報告とディスカッション、模擬授業等の他、教育実習に関する諸事項と、介護等体験に関する事前指導も含めて展開する。これらのことを通して、教員として必要な実践的力量を向上させていくことを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教員養成と免許法について、授業日程、介護等体験について（2年次） 【　到達目標　】 (1)説明を聞いて理解し、4年次の自分の姿をイメージする。 (2)学び続ける教員像について理解できる。 【授業時間外学習】 自身の目指すべき教員像について考察する。	**第９回　授業研究5（模擬授業の実践3）** 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第２回　本学の教員養成の特色、口頭内諾の進め方（2年次） 【　到達目標　】 (1)本学の教員養成の特色と口頭内諾の進め方を理解する。 【授業時間外学習】 本学の教員養成の特色について復習する。	**第10回　授業研究6（模擬授業の実践4）** 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第３回　保健体育教師の使命、内諾手続きについて 【　到達目標　】 (1)保健体育教師の使命について理解する。 (2)正式な内諾手続きについて理解する。 【授業時間外学習】学び続ける教員像や授業で勝負できる教員像の視点から改めて理想の教師像について考察する。	**第11回　授業研究7（模擬授業の実践5）** 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第４回　4年生の教育実習体験報告 【　到達目標　】 (1)4年生の報告から、自己の課題を明確にする。 【授業時間外学習】 自己の課題を明確にし、教育実習のイメージを深める。	**第12回　外部講師による講話（中学校教員）** 【　到達目標　】 (1)中学校での教育実習の進め方や中学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)中学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)中学校における道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第５回　授業研究1(模擬授業の意義と進め方について) 【　到達目標　】 (1)模擬授業の意義と進め方について理解する。 (2)アクティブラーニングやICTを取り入れた授業計画や実践について理解する。 (3)特別の支援を必要とする生徒の理解を踏まえた授業計画や実践について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。	**第13回　外部講師による講話（高等学校教員）** 【　到達目標　】 (1)高等学校での教育実習の進め方や高等学校保健体育教員としての在り方を理解する。 (2)高等学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)高等学校における総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第６回　授業研究2（体育授業におけるマネジメント技術の習得） 【　到達目標　】 (1)体育授業の基礎的条件となるマネジメント技術について、実技を通して理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。	**第14回　教育実習直前の諸注意** 【　到達目標　】 (1)教育実習期間中（3週間）の過ごし方、事務処理、報告方法等を理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第７回　授業研究3（模擬授業の実践1） 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。	**《教育実習校実習　3週間》**
第８回　授業研究4（模擬授業の実践2） 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。	**第15回　教育実習の報告会** 【　到達目標　】 (1)教育実習で学んだことをレポートにまとめ、報告する。 【授業時間外学習】 教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。

【学習上の留意点】

教育実習校実習は4年次であるが、この授業は2年次後期から始まり、教育実習事後指導までの長期間に亘る。この間の欠席は一切許されない。教職に就くことを目指す者として、真剣な態度で望んで欲しい。なお、本授業の第6回～11回については、模擬授業設計・実施・省察のサイクルをグループで行っていく。教育実習において主体的・対話的で深い学びを実現するための手続きについて、受講生自ら対話的な学びを通して学んでいくため、積極的な態度で授業に臨むこと。また、グループで作成する学習指導案や個人で作成する模擬授業の振り返りシートについては、提出後、担当教員からフィードバックされる。

【教科書・参考書など】

「教育実習の手引き」

【成績評価方法】

「事前・事後指導」の成績と教育実習校からの評価を総合して単位を認定する。